enterbrain MOOK

榊原DSE代表を直撃! PRIDE買収騒動の真相!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

kamipro Special

PRIDE.33 THE SECOND COMING ラスベガス大会 徹底詳報号

2007 SPRING 740yen



敗れし王者はどこへいく!?

五味隆典 W・シウバ 敗戦の衝撃!!

PRIDE初のアフリカ出身戦士が衝撃デビュー!!

ソクジュ

五味、ヴァンダレイの敗戦は大津波の前兆!?

PRIEDはアメリカに飲み込まれるのか?

格闘ジャングルに新・野獣、出現!!

大膨張するMMAバブル! 地球的規模の戦況分布図!!

驚ガクのオクタゴン完全制圧計画!!

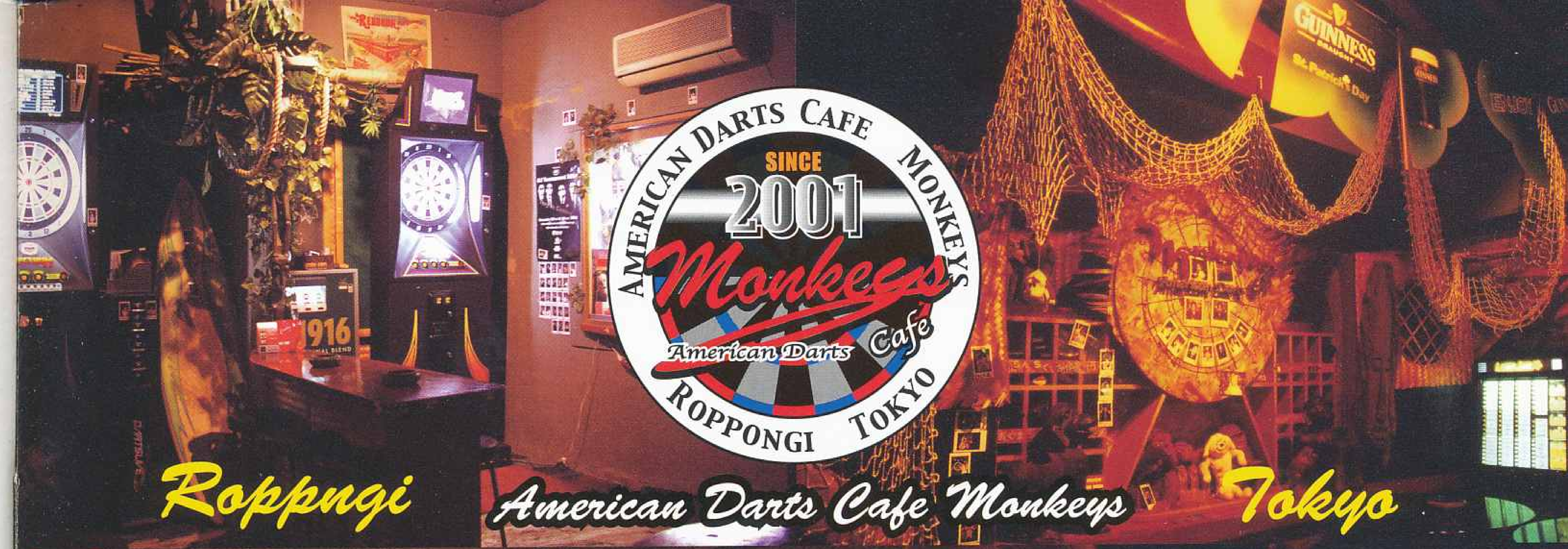
ミルコ・クロコップ

CIAのスパイ(?)がUFC人気を大分析!!

デーブ・スペクター

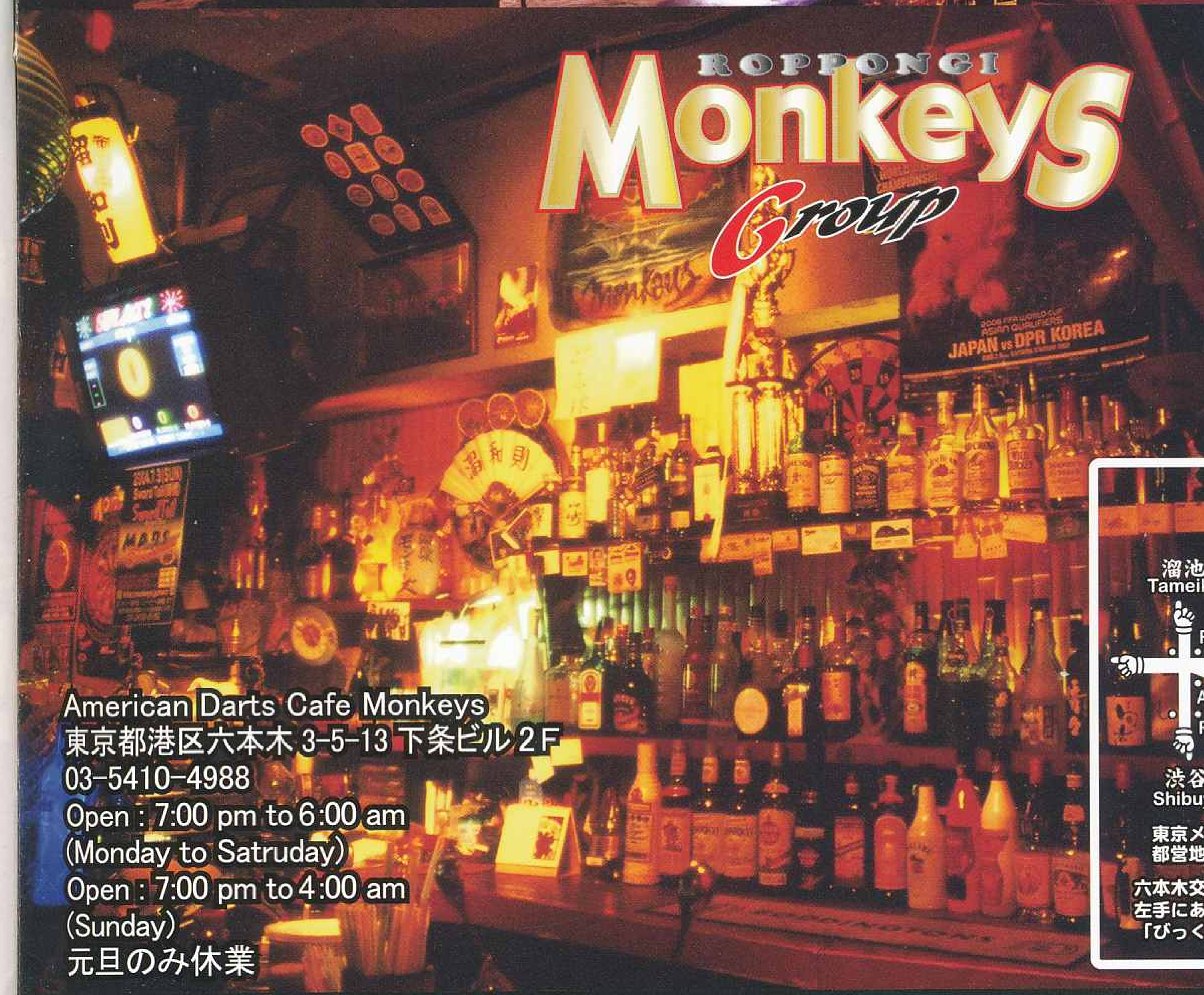
ヒョードルが迷い込んだ"禁断の楽園"に独占潜入!!

ボードッグ in コスタリカ



ROPPONGI Monkeys Group

今ではすっかりブームとなったソフトダーツ。そのブームに大きく関わったのが六本木、そしてこのモンキーズなのです。オーナーの溜（たまり）氏は15年もこんなお店を続けております。そして1998年には何と日本人初のソフトダーツ・ラスベガス大会優勝といった偉業を達成したのではありますが、何よりも大切なのは大勢で仲良く楽しめることなのです。



American Darts Cafe Monkeys
東京都港区六本木 3-5-13 下条ビル 2F
03-5410-4988
Open : 7:00 pm to 6:00 am
(Monday to Satruday)
Open : 7:00 pm to 4:00 am
(Sunday)
元旦のみ休業



URL http://monkeys.jp/



姉妹店その1（同ビル1階）
炭焼き・奄美料理 居酒屋
「たまり場」03-5474-5101
その居心地の良い空間と酒の肴は格別！奄美出身のオーナーが直接仕入れる黒糖焼酎も40種程度を常備。自称「和風スポーツバー」とあって店内にはダーツの逸品やスポーツ中継も行われている。
6:00 pm 〜 7:00 am



姉妹店その2（同ビル地下1階）
ステージカラオケ & ダーツ
「唄えっ !Mon チッ家」03-3401-1095
今では定番となったカラオケ。大勢の前で唄って盛り上がれるお店が意外と減ってきたと思いませんか？そんな時代にモンキーズが新たな空間をこの六本木にプロデュース。プロ並みの機材の中で唄うカラオケは気持ちがいい事間違いなし！各種パーティーにも使えるお店です。
9:00 pm 〜 9:00 am 日曜定休

Tamari Darts Design LAB.
Tamari Original Darts

MARS Tournament & Rating Systems

MONKEYS FACTORY
Apparel & Original Goods

有限会社 たまり（飲食店経営）
有限会社 モンキーズ
(ダーツマシンリース / オリジナルダーツ作成販売 / 雑誌 MARS Tournament & Rating System / アパレル関連 オリジナルグッズ / LION BEER 販売 / イベント運営)
東京都港区六本木 4-5-13 岩渕ビル 1F
TEL. 03-3478-5260 FAX. 03-5785-4244



ダーツをするならこの一杯！

LION
Monkeys Brand BEER

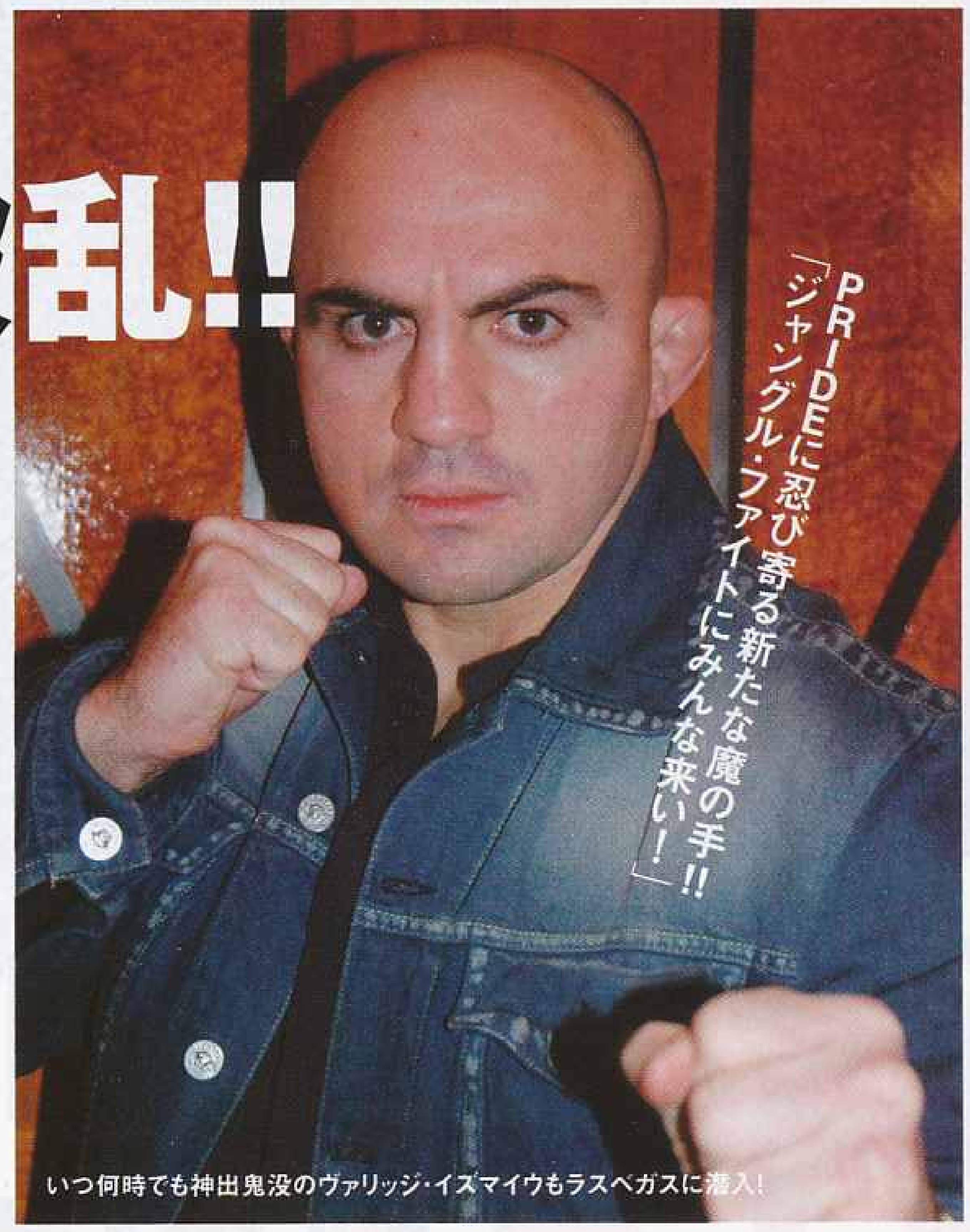
深い味わいの黒「STOUT」
さらっと飲みやすい「LAGER」
当店お勧めのビールです！
各店舗にて好評販売中！

原産国：スリランカ 輸入元:SHAKTHI Corp. 販売：(有)モンキーズ

ライオンビール取り扱い店募集中！詳しくは（有）モンキーズまで。

CONTENTS

2.24 PRIDE.33 "THE SECOND COMING"
ラスベガスの大波乱!!



いつ何時でも神出鬼没のヴァリッジ・イズマイウもラスベガスに潜入!

PRIDE

004 ラスベガスの夜に何が起こったか?
五味隆典、シウバ敗北の衝撃!!

008 這い上がる勇者の誇りを見よ!!
ヴァンダレイ・シウバ

010 前人未到の二階級制覇! PRIDEに"新鉄人"誕生!
ダン・ヘンダーソン

012 格闘ジャングルから新・野獣、出現!!
ソクジュ

015 ラスベガス大会をズバリ総括! あたたたたーっ!!
ジョシュ・バーネット

019 "あの"ハリウッドセレブも大興奮!
ラスベガス・ロイヤルランブル レポート

020 PRIDE"買収の噂"の真相とは――!?
榊原信行DSE代表

022 本誌編集部員が米西海岸を飛び回る!
『PRIDE.33』ラスベガス大会 旅日記

025 アメリカ上陸の道のりをフラッシュバック!
検証!! PRIDEアメリカ進出

030 米MMAシーンの御意見番がUFC幻想に鉄槌!?
フランク・トリッグ

034 CIAのスパイ(?)がUFC人気を大分析!!
デーブ・スペクター

Special Report

024 バカサバイバー青木真也がもう止まらない!!
2.17 修斗パシフィコ横浜大会

067 谷津嘉章が山本KIDに一言もの申~す!!
1.28 レスリング全日本選手権

070 長南彩子(旧姓=臼杵彩子)の独占告白!!
2.16 DEEP後楽園大会

090 世紀の大発明・永久電機も誕生日!?
2.20 アントニオ猪木誕生パーティ

bodog

041 世界完全独占! 恐るべき実態を総16ページ特集!
"禁断の楽園"ボードッグ

048「kamiproスペシャル探検隊」が執念の追跡!
カルビン・エアーは実在した!!

050 ボードッグの頭脳に"楽園の未来"を直撃!
ミゲル・イトゥラテ ボードッグ・マッチメイカー

053 ボードッグ参戦が、ついに正式発表!?
ヒョードルよ、どこへいく!?

054 ボードッグ・ズンドコ遠征談
鬼木貴典 MARS審判員

056 ヒマでモテない『kamipro』読者に捧ぐ!
ボードッグ・ガールズ大集結!

HUSTLE

057 公開処刑目前!? 狂虎戦が決定ッ!!
RGは死ぬか?

060 これぞ芸人魂!? 昭和を代表する悪役レスラー
タイガー・ジェット・シン伝説

062 タイガー・ジェット・シンは横山やすしである!?
竹本幹男

UFC

074 ミルコに続き、ファブリシオもUFCへ!
追跡! チーム・クロコップ

076 ライトヘビー級王者、階級を越えてミルコを挑発!
チャック・リデル

080 リデル戦実現! ミルコより先にブレイク必至!?
クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン

082 アントン最後の愛弟子がUFC快勝ダー!!
LYOTO

086 アメリカで"ヌルヌル事件"は起こるのか!?
キース・カイザー ネバダ州アスレチック・コミッション代表

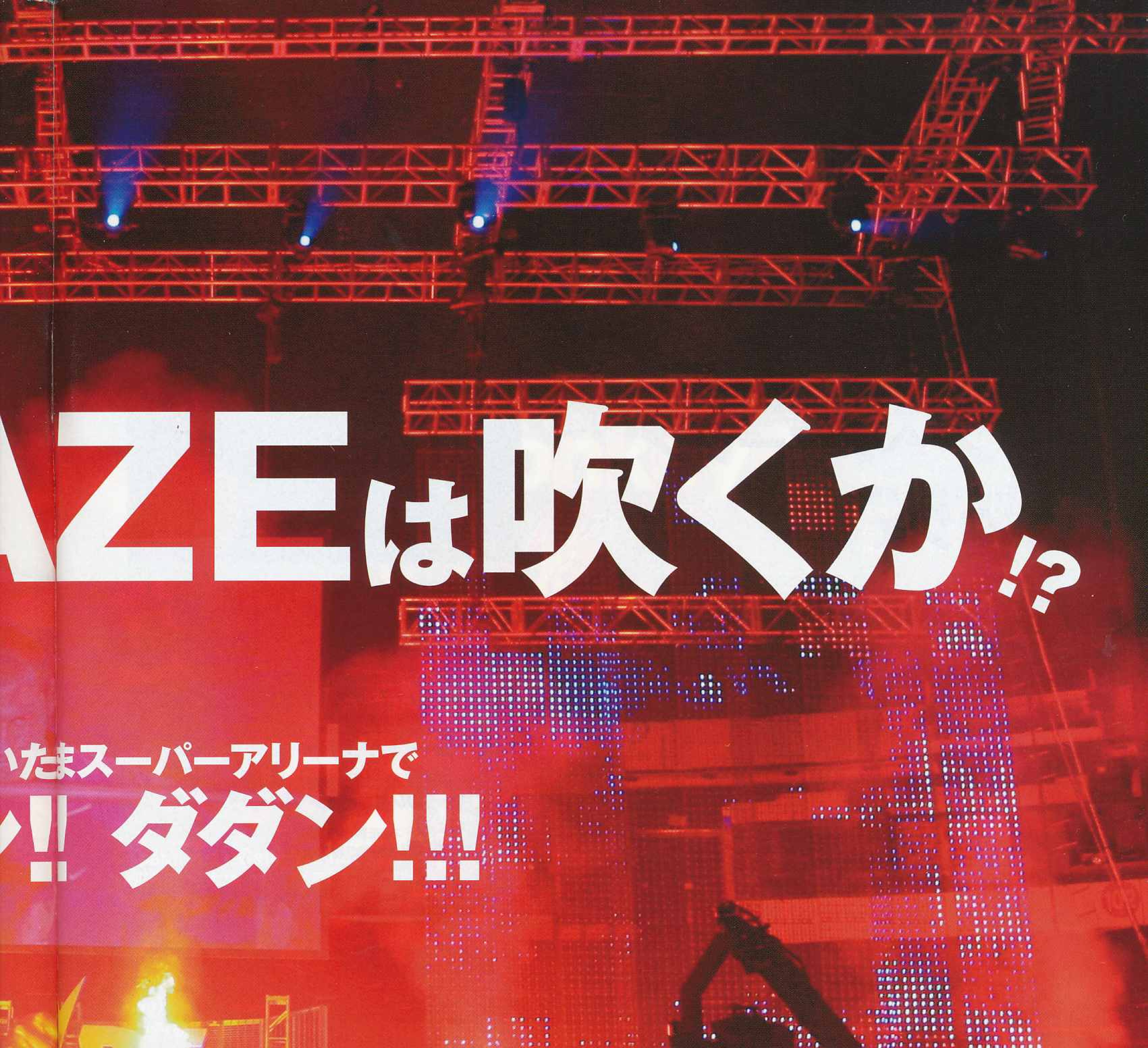
088 ミルコ参戦後のUFCヘビー級戦線の現状とは?
USAcool宅急便 出張版

Presents

094 kamipro Special PRESENTS

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2007 SPRING

表紙写真/乾晋也



AZEは吹くか!?

いたまスーパーアリーナで

ン!! ダダン!!!

五味隆典、ヴァンダレイ・シウバが敗れる大波乱が起きた2・24『PRIDE』ラスベガス大会は、昨年10月のアメリカ初進出大会を超える、恐るべき大爆発を見せつけた。

前大会は現地マスコミをして「UFCのショーがかすんで見える」と言わしめたクオリティだったが、そのとき以上の底力を発揮したことで、現地の評価はウナギ登りだという。

昨年の〝フジテレビ・ショック〟以降、さまざまな危機が『PRIDE』を襲ってきたが、リング上はいつ何時でも、〝純度100パーセントのPRIDE〟が浮き上がっていた。今大会の前後には、〝PRIDE買収騒動〟に関する報道がリング外を支配していたが、リング内はいつもどおりの『PRIDE』だった。

何事にも惑わされない芯の強さがファイターたちに、それを支える強固な信念がリングに埋め込まれている。リング外の不安や混乱が、逆に『PRIDE』の理念を際だたせたという見方もできるかもしれない。

しかし、不安や混乱の大津波は、まだまだ『PRIDE』に押し寄せようとしている。『PRIDE』を脅かすUFC、ボードッグの世界征服作戦は日に日に活発になっており、いよいよMMAバブル戦争が佳境を迎える運命の3、4、5月！

とくに最激戦月間となる4月は、



大津波を押し返す

KAMIKAZ

4.8 PRIDE.34 さいたま

ダン！ ダン!!

UFCはミルコ・クロコップをエースに大英帝国侵略へ。ボードッグは皇帝ヒョードルを強奪して、ロシアで不気味に大興行を打つ。

そして、『PRIDE』は——4月8日、さいたまスーパーアリーナで『PRIDE・34』を開催するが、現時点では4万人以上収容可能なスタジアムバージョンを使用するという計画があるという。『男祭り』やGPなどのビッグイベント以外では使用してこなかったスタジアムバージョンで!?実現すればナンバーシリーズでは初の試みになるが……。

さらに興味深いことに、アメリカPPV向けのサブタイトルは、なんと「KAMIKAZE」!! 元寇（＝強大な外敵）を追い払い、日本を救ったという神風伝説になぞらえているのか。それとも……!?

『PRIDE』と逆境という組み合わせは、いまに始まったことではない。髙田延彦の敗北から幕が開いたこの舞台は、いつだって逆境の連続だった。それに真っ向から立ち向かうことで『PRIDE』は『PRIDE』たる所以を示してきた。

大津波が猛然と押し寄せてくる今後——『PRIDE』は、はたして『PRIDE』でいられるのか?

「KAMIKAZE」とネーミングした真意とともに、我々は運命の3、4、5月！ をしかと見届けるしかない。



飲み込まれてしまうのか？

揺るぎなき二つの象徴が“アメリカ”に敗れた意味とは

『PRIDE』が誇る二大王者が“アメリカ”に襲われた——。“世界進出”の旗を掲げてラスベガスへ乗り込んだライト級王者・五味隆典、そしてミドル級“絶対王者”ヴァンダレイ・シウバ、ともに衝撃の敗戦となった『PRIDE.33』。この両者の敗戦、しかも“アメリカ”に敗れたという構図は『PRIDE』にとっていったい何を意味しているのか。大波乱の裏側を読め！

文／橋本宗洋　撮影／山口比佐夫、乾晋也　構成／松下ミワ



PRIDE二大王者、ラスベガスの夜に散る――!!

PRIDEはアメリカに飲み



結果論にすぎないと言われたらそれまでなのだが、ヴァンダレイ・シウバも五味隆典もこの日はどこかが違っていた。何かが狂っていた。そうとしか言いようがない。

二人にとって、『PRIDE・33』はアメリカ進出をはたす重要な大会。モチベーションは決して低くなかったはずだ。ただ五味にとっては、そのモチベーションこそが仇となったのかもしれない。筆者がニック・ディアスと闘う五味の姿を見ながら思ったのは〝圧勝、完勝を狙いすぎてるんじゃないか〟ということだった。

1ラウンド開始早々、タックルを決めた五味は一撃KOの意思を込めたパウンドを何発も放っていった。スタンドの攻防でも、右フックでダウンを奪う。UFCの常連だったディアスを1ラウンドでKOし、アメリカの観客に自分の名前を刷り込ませる。ただ勝つだけでなく、そこまで五味は考えていたんじゃないか。

だが、そのためにペースを自分自身で乱してしまったようにも見える。パンチは明らかに大振り。左右のスイッチングも見られない。局面に応じて構えを変えつつ、絶えず圧力をかけて相手の逃げ道を塞ぎ、その上で倒すのが五味の本来の持ち味なのだが、この日は止まったままパンチを振り回すだけなのだ。それどころかディアスに前進を許し、後手に回ってしまう場面さえあった。その結果が、1ラウンド終盤からのガス欠ではなかったか。この日の五味は、〝喧嘩番長〟というパブリック・イメージに自ら絡め取られてしまったように見えた。

シウバをめぐる状況も、日本での試合とは違いがあった。入場時の歓声は、シウバにもダン・ヘンダーソンにも分け隔て





[PRIDEミドル級タイトルマッチ]
○ダン・ヘンダーソン vs ヴァンダレイ・シウバ×
〈挑戦者〉 〈王者〉
（3R 2分08秒 KO）

PRIDEミドル級“絶対王者”、ついに陥落！　シウバにとっては、その盤石の強さを“アメリカ”に見せつけるべく迎えたタイトルマッチだったが、絶好の機会をものにしたのは2階級制覇を目論むダンヘンだった。終始、決して集中力を切らさないダンヘンは、あのシウバと打撃で真っ向勝負。手を休めることなく打撃を放ち、なんとバックブローを見せる場面も！　KOに沈んだシウバは無念にも、初めてミドル級のベルトを手放すこととなった。

二大王者の敗戦はアメリカが舞台だったことでさらに複雑さを増した

なく降り注いだ。だが現地取材班によれば、タイトルマッチのセレモニーである国歌吹奏のあとで雰囲気が一変したという。〝シウバ〟コールもあったものの、観客の大多数は明らかにダンヘンのあと押しを始めたのだ。試合中、何度も起こった〝USA〟コール。1ラウンド、シウバが上になった際にはブーイングが発生したが、2ラウンドにダンヘンがテイクダウンすると、一転して大歓声が送られる。

シウバが上のときは完全に密着、逆にダンヘンが上になった攻防ではわずかずつでもパンチを放っていたから、観客はそれを見極めていたのかもしれない。だがそれ以上に感じたのは、アメリカ人ファンの〝感情の揺り戻し〟のようなものだ。昨年10月の〝初上陸〟では、ファンは初めてライブ観戦する『PRIDE』を丸ごと楽しもう＝アメリカ人だろうがそうでなかろうが、『PRIDE』らしい試合をするファイターに声援を送ろうという姿勢が感じられた。だが2度目ともなればお祭りムードではいられない。ましてタイトルマッチである。〝ホームタウン・ヒーロー〟であるダンへンを応援したくなるのが自然な心境というものだろう。

ルールの違いも、やはり影響したのではないか。シウバは五味と同様、1ラウンド10分間を有効に使って相手を仕留めるタイプ。1ラウンド5分のネバダ州ルールでは、さあこれからというときにインターバルが入ってしまう。2ラウンドにはタックルをがぶる場面があったのだが、ここで4点ポジションのヒザが使えていれば、その後の展開も変わったはずだ。そういう状況の中で、シウバは敗れたのである。DSE榊原信行代表によれば、シウバは試合直前に40度の高熱で倒れ、最終的なコンディション調整がままならない状態でリングに上がったともいう。

だがこれは〝リングには魔物が棲んでいる〟だとか、そういった類の話ではない。いつもとは違う戦術で闘ってしまったこと、観客が味方についてくれなかったこと、戦前のコンディショニング。そういった諸々をすべて含めたうえで格闘技は結果がすべてであり、その日、そのときに強かったほうがリングで勝ち名乗りを受けるものなのだ。五味とシウバには間違いなく異変が起こっていた。だが、そのことはディアスとダンヘンの栄光になんの翳りももたらさない。

むしろこの2試合は〝五味とシウバが負けた〟試合である以上に〝ディアスと

この大会は"REBORN世代"にとっての『PRIDE・1』だった

ダンヘンが勝った"試合だった。猛攻にさらされながらあくまでも攻めの姿勢を貫き、ついにフットチョークを極めたディアス。一瞬たりとも集中力を絶やさず、バックブローという秘策まで用意し、シウバと真正面から殴り合ってKOをものにしたダンヘン。両者の闘志と技術は見事というほかない。とりわけ、シウバのフック系パンチに対してインサイドからストレート系パンチをカウンターしたところなど、ダンヘンの徹底的な研究の成果と執念を感じさせられた。

『PRIDE・33』は、シウバ、五味といった看板選手がその強さをアメリカでも見せつけるための、極端にいえば"顔見せ"興行だと思われていた。前大会でエメリヤーエンコ・ヒョードルやマウリシオ・ショーグンが実力をアピールしたように、今度は五味やシウバがアメリカのファンにその存在、ひいては『PRIDE』のレベルの高さを印象づけるための大会だと。

だが、試合が終わってみて、我々はあらためて気づかされたのだ。『PRIDE』では格づけなどなんの意味もなさず、幻想は常に打ち砕かれるためにあることを。リング上で展開されるのは"強い者が勝つ"という圧倒的現実であり、『PRIDE』において戦前の思惑ほど虚しいものはない。その意味で、『PRIDE・33』は、これ以上ないほどに"PRIDEらしさ"にあふれた大会だったと言える。

もちろん、だからといって「これでよかったんだ」とは言いきれないのも確か。UFCをはじめとするアメリカMMA巨大資本に押され、買収が（DSEサイドは否定するものの）公然とささやかれているのが『PRIDE』の現状だ。リング外が揺れに揺れ、不安定ないまだからこそリングの中だけは安定していてほしかった、人気と実績のある選手の豪快な勝利に溜飲を下げたかった。そういう思いは拭いがたい。まして大会が行なわれたのはアメリカである。『PRIDE』を長く見続けてきた者にとっては圧倒的現実＝PRIDEらしさであっても、アメリカのファンにとっては"アメリカの選手が勝ってよかった。ダンヘン最高！"的なノリで受け止められているんじゃないか。そんな疑念さえ（よけいなお世話かもしれないが）抱いてしまうのだ。

PPVを編集部で見終わったあと、大会についてジャン斉藤とかなり長い時間、話し合った。だが、話しても話しても結論は出ない。単純なハッピーエンドではもちろんない、といって悲劇のカタルシスとも違う、言いようのない、得体の知れない大会のあと味。それが『PRIDE』の醍醐味ではあるのだが、舞台が海の向こうのアメリカだったことで事態の複雑さはさらに増していった。「どうなの？」、「どうなんでしょうねぇ」。「……」、「……」。

ただ一つ言えるのは、この大会は"REBORN"以降のファンにとっての『PRIDE・1』だったんじゃないかということだ。プロレスラーとして"最強"を謳っていた髙田延彦がヒクソン・グレイシーに完敗を喫したところから、『PRIDE』の歴史は始まっている。そしてプロレスラーやK―1ファイターなど他ジャンルの選手を（悪い表現だが）生け贄にし、その幻想を破壊することで、『PRIDE』は前に進んできたのだ。

ここ数年で『PRIDE』のファンになった、いわば"REBORN世代"にとっては、シウバや五味こそ幻想のよりどころ。その二人が海の向こうで敗れたという事実は、オールドファンにとってのヒクソンvs髙田戦と同じようなショックを感じさせるものだったはずだ。

榊原代表は「今年の『PRIDE』のテーマは変化と挑戦です」と言った。一方の軸足を日本に、もう一方はアメリカに置きながら、『PRIDE』は確実に変化していく。いま、『PRIDE』がやっているのは"地上波があった頃に戻る"ではなく"新しい市場を獲得する"ための闘いだ。かつてのプロレスラーやK―1ファイターがそうであったように、『PRIDE』が変化し、さらに前に進むための"生け贄"がシウバや五味だったのだと考えたら、残酷すぎるだろうか――。







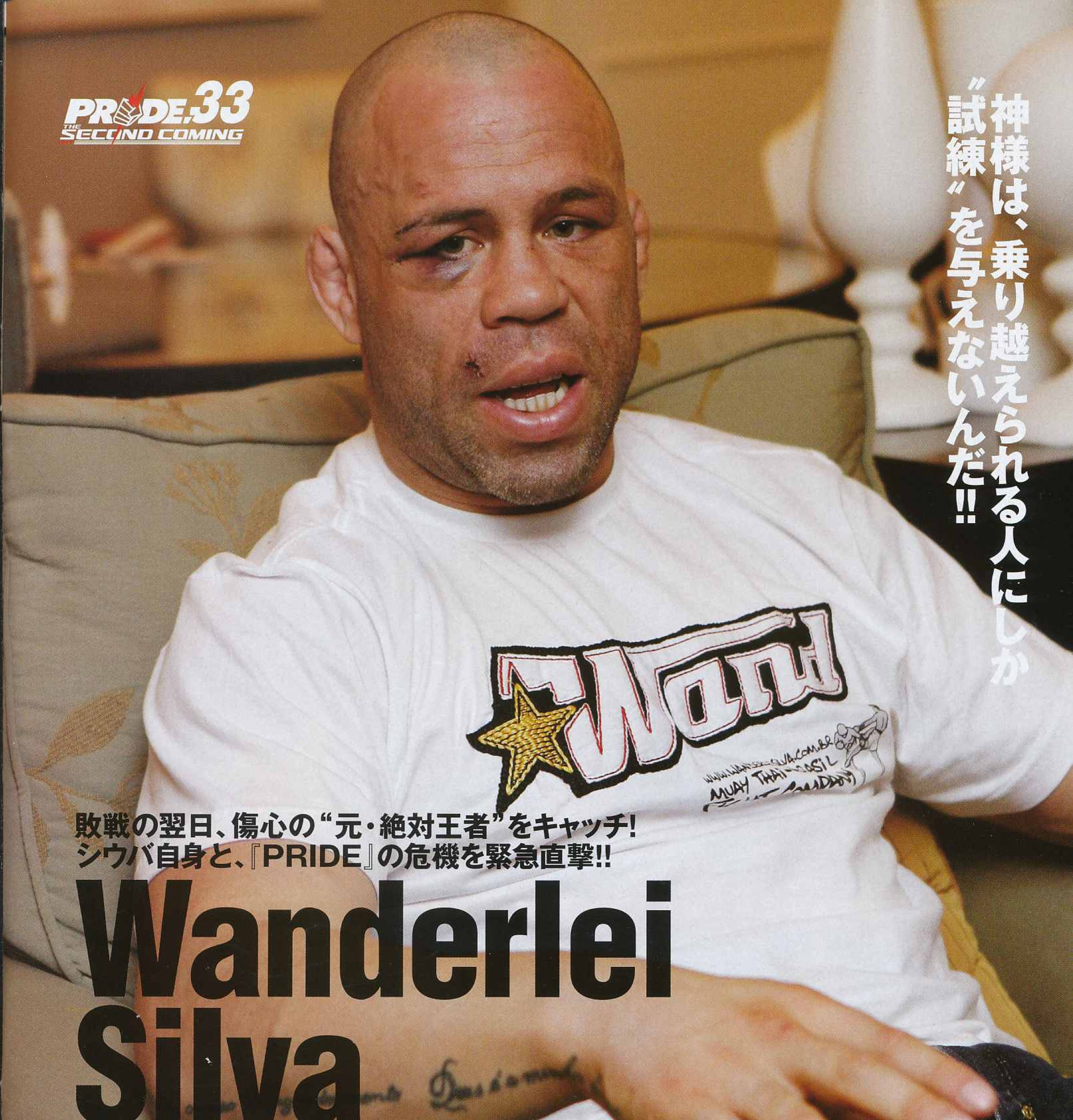


○ニック・ディアス vs 五味隆典×
（2R 1分46秒 トライアングルチョーク）

"喧嘩番長"、ラスベガス上陸！　アメリカのファンに強烈なインパクトを残すべく、リングに参上した五味隆典。序盤、五味は会心の右フックでディアスをぐらつかせるが、リーチの長いディアスの連打に中盤以降は大苦戦。カウンター狙いか、五味はガードを下げ相手のパンチを受けながら打撃を繰り出す場面もあったが、KOには至らず。結果的に、五味の敗戦が色濃く残るラスベガス進出となった。

PRIDE.33 THE SECOND COMING

神様は、乗り越えられる人にしか“試練”を与えないんだ!!



敗戦の翌日、傷心の“元・絶対王者”をキャッチ! シウバ自身と、『PRIDE』の危機を緊急直撃!!

Wanderlei Silva

聞き手／稲垣收、坂井ノブ　撮影／乾晋也　構成／真下義之

絶対政権、ついに陥落! 約5年間キープした“虎の子”のミドル級王座をダンヘンに明け渡したシウバ。だが、じつは試合前夜に40度近い高熱を出し、扁桃腺を腫らして、病院で深夜まで点滴を打つという、満身創痍の状態だったのだ。

だが、今回はシウバのアメリカ初登場となる大事な大会であり、メインイベントを務める重責もあって、弱音を吐かず、出場を強行! 果敢に試合を闘い抜いた。結果的には壮絶なKO劇で敗戦を喫したものの、その勇姿には榊原代表も「ヴァンダレイにはホントに頭が下がる」と大感激!

そんな衝撃的な敗戦の翌日にも関わらず、なんとシウバは本誌のインタビューを快諾してくれた。王座奪回に向け、早くも気持ちを切り替えたシウバの心の声を聞け!

——シウバ選手、昨晩は残念な結果になりましたけど、じつは試合前に体調を崩されていたそうですね。なんと、40度の高熱を出していたそうで。

シウバ　ああ、そうなんだ（元気なく）。ウィルスにやられたと思うんだけど……のども腫れてるし、まだ熱があるんだよ。気候が夏のブラジルから、冬のラスベガスに来たから、急激な温度変化にやられちゃったんじゃないかな。

——ラスベガスは砂漠の町ですから、空気も凄く乾燥してますからね。

シウバ　うん。だから次回からはもっと早く現地入りして準備をしなくちゃいけないよな。

——具合が悪いなら、試合をキャンセルする選択もあったはずですよね。

シウバ　いや、そういうわけにはいかない。俺の試合は大事なメインイベントだし、俺は自分の体調について、言い訳はしたくないんだよ。まぁ、あの試合ではヘンダーソンが俺に確実にいいパンチを決めたこと。それが最大の勝因だ

ろうね。

――5年間も保持していたPRIDEミドル級ベルトを手放した、そのショックは相当のものだと思いますが……。

シウバ　確かに昨日は凄く落ち込んだよ。でも、これは自分にとってリスタートだとすっかり頭を切り替えたから。今度は新しいチャンピオンのあとを追いかけていく。ただそれだけだよ。

――いくら強い選手でも、人間である以上、気持ちの波がある。でも、シウバ選手は、いつ何時でもまったくモチベーションが落ちることがないように見えます。その秘訣ってなんでしょう？

シウバ　まずは神への信仰心。これは凄く大きいよ。それからファミリーが俺のことを支えてくれるということ。それにチームが支えてくれているということ。もちろん俺は闘うことが大好きだから、一生懸命この仕事をするし、仕事への愛情だってある。なによりファンの声援が俺のあと押しをしてくれるんだ。やっぱり、ファンの存在が俺にとってのインスピレーションの源泉なんだよ。彼らのために仕事をしてるわけだから。ファンがいなければ、俺たちなんて〝無職〟状態じゃないか？

――ファンがいなければ、〝無職〟！（笑）。シウバ選手はモチベーションが途切れたことはないんですか？

シウバ　ないね。今回も、体調以外はすべて計画どおり運べていた。プロフェッショナルな姿勢で試合に臨めたと思う。まぁ、ラッキーとまでは言わないが、ヘンダーソンのあのパンチ一発が勝敗を決定してしまったんだな。これまで築いたものがたった一発の拳で崩されるとは、我ながら恐ろしい職業に就いたと身震いするよ（苦笑）。

――今回のシウバ選手の敗因として考えられるのが、ネバダ州ルールですね。日本と違ってタイトルマッチは5分5ラウンド方式。シウバ選手の得意技である踏みつけ攻撃ができないし、グラウンド状態の頭部へのヒザ蹴りもできない。こういったルールも敗戦の原因として考えられますか？

シウバ　確かにそれは大きいだろう。相手がグラウンドのときに蹴れないというのは俺にとっては厄介なハンディだ。それに1ラウンドがもう少し長くて、グラウンドで選手を蹴れていれば、かなり優位だった。だから、この再戦を日本でやれるのなら、かなり高い確立で勝てると思うよ。

――長年やってきたルールと違うルールで闘うのは難しいんでしょうね。

シウバ　難しいというか、持っている武器を取り上げられたような気分なのさ。まあ、上からの打撃が制限されている以上、相手がグラウンドにいるときは柔術で攻めたり、グラウンドを磨いていくことになると思う。そうすれば、アメリカでもいずれ常勝のヴァンダレイ・シウバが戻ってくるだろう。

――じゃあ、今後はどんな設計図を頭に描いていますか？

シウバ　これから先のキャリアがどういう流れになるかは、『PRIDE』が決めることだから、なんとも言えないね。復帰戦に関しては、まだ「こうしたい」というプランはないけど、いつでも誰とでも闘うというのは俺のスタイルだから、曲げるつもりはないし、それができなくなったら、それは俺が引退するときだろうね。いまの自分が言えることは「何もかもゼロからやり直していく」ということだけだよ。

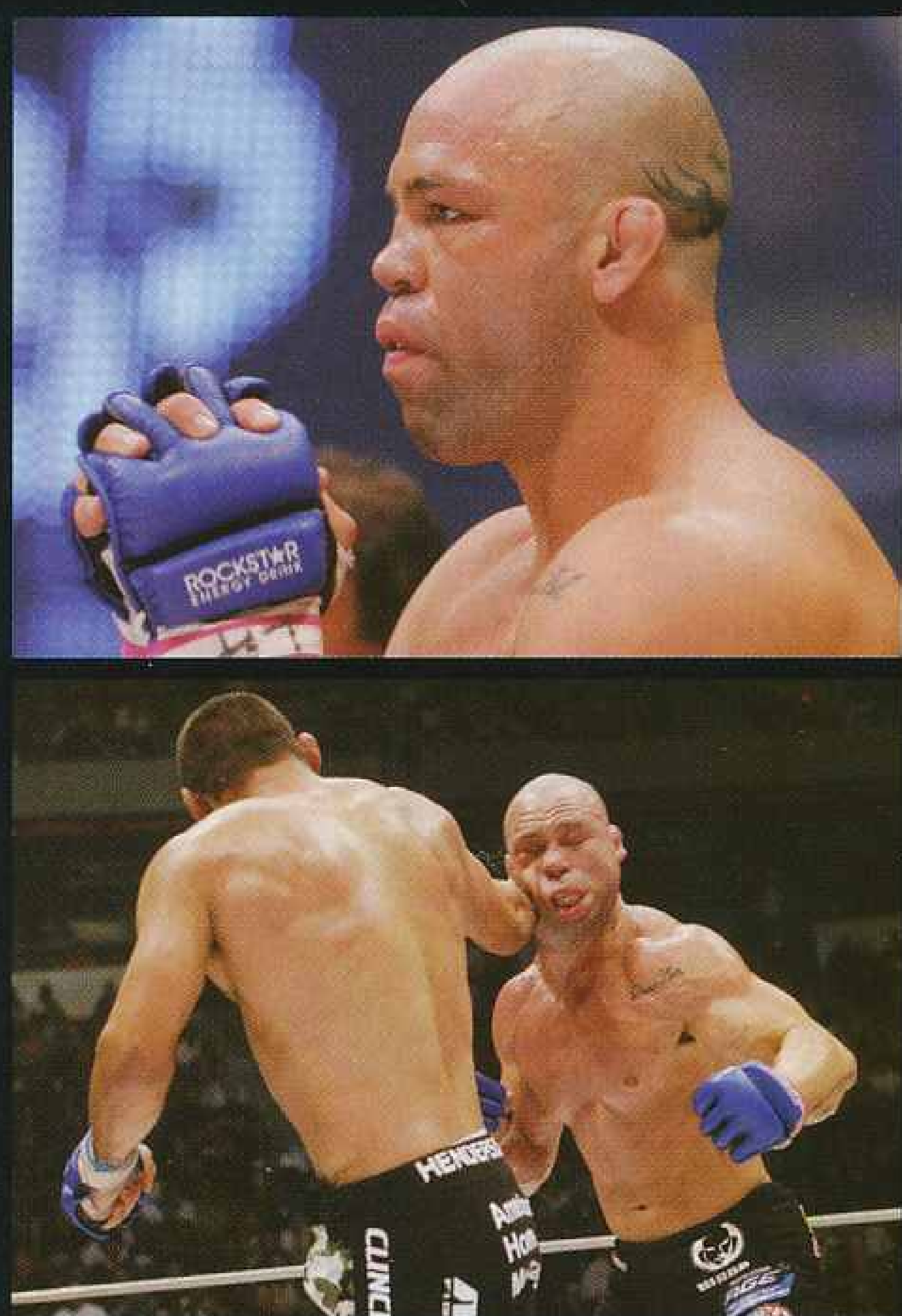
――ゼロからというのは……それこそ『PRIDE』でデビューした頃のように、第1試合からやり直すようなことも考えたりしていますか？

シウバ　まったくかまわないよ！　ベルトを失なったいまの俺にとっては、どんな試合であろうが、何番目の試合であろうが『PRIDE』がカードを組むなら、それに従うだけだよ。

――以前も、ゼロからのスタートをしたことってありますか？

シウバ　それこそ、『PRIDE』でデビューした頃だよ。だからもう一度、タイトルへの挑戦権を得るためには、何試合かやらなきゃいけないだろうし、『PRIDE』のキャリアをゼロからやり直すという気持ちだね。

『PRIDE』を買いたい人がいるのは、おかしくはない。俺だって、お金があれば買いたいくらいだよ（笑）



『PRIDE.33』のvsダン・ヘンダーソン戦。3Rに顔面がゆがむ強烈なバックブローを食らい、最後は左フックで撃沈……。衝撃の敗戦の翌日会見でシウバは「再戦はノンタイトルでいい。そのあとベルトを奪う」とリベンジ2連戦を要求！　このたくましさこそがシウバの真骨頂だ。

――しかし、敗戦からたった一晩でなぜそこまで気持ちを切り替えられたんでしょうか？

シウバ　俺は凄くポジティブなんだよ。よく言うじゃないか。「神様は、試練というものを乗り越えられる人にしか与えない」って。すべてを試練や勉強の場と考えて、同じ過ちはもう繰り返さない。常に自分を改善していく。敗北で弱くなっていくというのは弱者の特徴だけど、俺は違うし、必ずカムバックするつもりだよ。

――ところで、『PRIDE』が買収されるんじゃないか？という噂がいろんなところに出ていて、一部では危機的な状況もささやかれてます。そういうときに『PRIDE』の象徴であるシウバさんが試合に敗れてしまった。『PRIDE』にもシウバ選手にも、いっぺんに試練が来ている状況なんですが、この試練をどうお考えになりますか？

シウバ　う～ん。そういう噂は確かに耳にするけど、『PRIDE』がそんなに危機的な状況にあるとは思わないな。昨日も会場は満員だったし、イベントとしては大成功だったじゃないか？　今日も道すがら、いろいろな人から「PPVを観たよ！」とたくさん声をかけられたしね。まぁ、『PRIDE』を買いたいという人がいるのはおかしくないし、俺だってお金があれば『PRIDE』を買いたいくらいだよ！（笑）。

――ハハハハ！

シウバ　だってこんなに素晴らしいプロモーションだし、大会の演出も素晴らしい。ファイターとしては最高の舞台だろう？　だから、『PRIDE』に何かしらの障害がいま、目の前にあるなら、俺と同じように榊原社長もそれを乗り越えると思う。間違いなく俺も彼も、我々こそが世界最高でありベストなんだ！　ということをもう一度、証明するだけだよ。

――榊原代表は、昨日の会見で「『PRIDE』を不滅なものにする」と言ってましたし、その場で「シウバも王座に返り咲くだろう」と言ってましたね。

シウバ　『PRIDE』はほかのMMA競技と比べても、比べものにならないぐらい大きなイベントだし、いま危機的状況にあっても必ず乗り越えていくだろう。そういう意味で、プロモーターとしての榊原社長は、俺には鑑になる人だし、彼がこれから困難を乗り越えていけるのと同じように、俺もチャンピオンに返り咲けると信じてるんだ。

――最後にファンにこれだけは言いたい！　ということはありますか？

シウバ　そうだね。いつも応援してくれて日本のファンには、本当に感謝しているんだ。今回は負けちゃったけど、これで落胆してるわけじゃない。いままで以上に練習するし、日本にも近いうちに戻って、素晴らしいファイトを見せるつもりさ。だから、いままでどおり、俺のことを応援してほしい。

――わかりました。今日はどうもありがとうございました。

シウバ　ドーモ、アリガト（日本語で）。

【07年2月25日／米国ネバダ州ラスベガス、シーザースパレスにて収録】

●Wanderlei Silva■1976年7月3日、ブラジル・クリチーバ出身。初代PRIDEミドル級王者であり、『PRIDE GP2003ミドル級トーナメント』優勝を誇る、PRIDEの象徴的存在。昨年は階級差を越えて、『PRIDE無差別級GP』に参加しミルコ・クロコップ、藤田和之らヘビー級勢とも激闘を展開。『PRIDE・32』ラスベガス大会で約5年間保持したミドル級王座をダン・ヘンダーソンに明け渡す。182センチ、92・9キロ。



Dan Henderson

二度の五輪出場後、UFC リングス、PRIDE二階級を制覇！ 6度目のピークを迎えた ちょい不良アイアンマン

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　通訳／稲垣収

前人未踏の二冠達成！ PRIDEに〝新鉄人〟誕生!!

〝絶対王者〟とまで称されたヴァンダレイ・シウバを鮮やかなKOで沈め、見事ミドル級王座を獲得、保持するウェルター級王座と合わせて『PRIDE』初となる二冠王となったダン・ヘンダーソン。

その10年におよぶMMAキャリアを振り返ると、97年にプロデビューとなった『ブラジル・オープン・トーナメント』でいきなり優勝。翌98年にはUFCに参戦し、ミドル級トーナメントを制覇。さらに00年に初来日してリングスKOKトーナメントに出場すると、ホドリゴ・ノゲイラやレナート・ババルら強豪を打ち破って初代王者に輝いている。

これだけでも素晴らしい経歴だが、総合転向前には92年のバルセロナ五輪、96年のアトランタ五輪にグレコローマン・レスリング米国代表として連続出場をはたしているダンヘン。

五輪出場から『PRIDE』二階級制覇までじつに15年。普通の感覚なら、その間、幾度となく頂点に立つ過程で闘うことをやめてもおかしくはない。いまだトップの座に君臨し続ける鉄人は何を思うのか？　激勝の翌日、ダン！　ダン!!　ダダン!!!　と迫ってみた。

――『PRIDE』初の二階級制覇おめでとうございます！

ダン　ありがとう。素晴らしい気分だよ。長年厳しいトレーニングを続けてきた成果がやっと出たんだからね。

――入場から非常にいい表情をしていましたね。

ダン　凄くいい練習ができて、コンディションもよかったから、なんの心配もなかった。だから自信を持って試合に挑めたんだ。

――逆にシウバが自信なさそうに見えたんですが、それは感じましたか？

ダン　最初はいつものシウバだったけど、自分がテイクダウンしたあと、1ラウンドの3分が経過したぐらいから、彼は弱気になっていったような気がする。そこから彼のトラブルが始まったんだ。

——シウバは試合前日に高熱を出していたようなんですけど、彼の変調は感じましたか？

ダン　それは感じなかったね。彼のパンチはいつもと同じように強烈で弱々しさは一切感じなかったよ。まぁ熱がなかったとしてもKOは避けられなかったと思うよ（ニヤリ）。

——たしかに、あのパンチは強烈でしたね。フィニッシュブローは左フックでしたけど、試合中に右の拳をケガしたらしいですね？

ダン　そうなんだ。どのタイミングなのかはわからないんだけど、1ラウンド中に右の人差し指を骨折してしまった。おかげで、自分は右だけでなく、左のパンチも強いことがようやく証明できたよ（笑）。

——もう右だけの男ではないということですね（笑）。4点ポジションでの頭部へのヒザ蹴りなしのネバダルールでしたけど、そのルールが自分に優位に働いたと思いますか？

ダン　関係ないね。ボクは日本のPRIDEルールのほうが好きだから。ただ、自分はプロのファイターだから、どんなルールでも力を発揮できるようにしているだけさ。防衛戦を通常のPRIDEルールで行なうことにも、なんの問題もないよ。

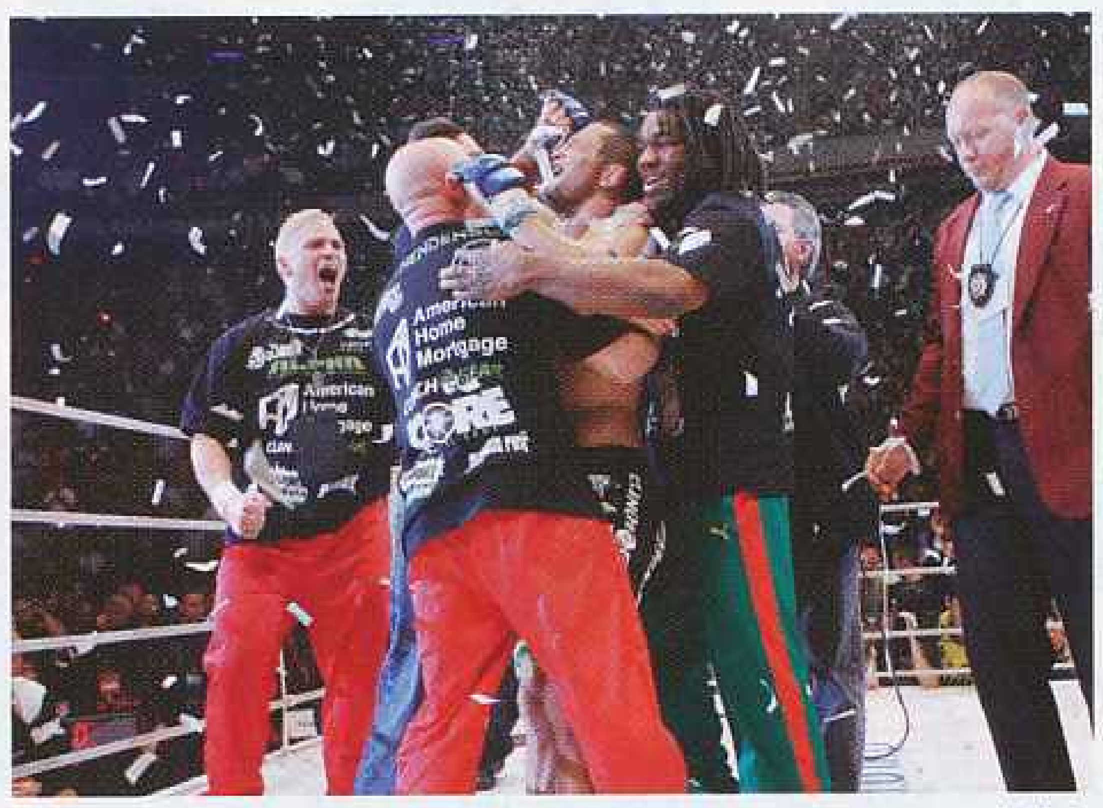
——では、次期挑戦者としてマウリシオ・ショーグンの名前が挙がっていますが、日本のルールでも彼のチャレンジを受けるつもりはありますか？

ダン　もちろん誰の挑戦でも受ける。俺はショーグンもシウバもリスペクトしているし、彼らを挑戦者に迎えられるなら光栄だね。

——前王者シウバは、UFC王者チャック・リデルとの対戦をアピールしていましたけど、ダン選手はUFC王者との対戦に興味はありますか？

ダン　俺はこの世界のトップの選手とどんどん闘っていきたいから、チャックとやるのも悪くない。『PRIDE』とUFCのタイトル統一戦のようなビッグファイトになったら、ファイトマネーも凄いことになりそうだしね（笑）。チャックは素晴らしいファイターだから、彼と闘える日が来るのを楽しみにしているよ。ただ、まずはこの手のケガを治してからになるけど。

アフリカのジャングルで野生動物と間違えてソクジュをハンティングしそうになったんだ（笑）

地元のファン、チームメイトの声援を受け、戦前に語っていた作戦とは異なり、意外にも真っ向から殴り合いにいったダンヘン。シウバのフックをかいくぐり、パンチでKO！　試合後はソクジュもリングインし、チーム・クエスト総勢で新王者を祝福。

——ダン選手と同じ階級でいうとUFCではライトヘビー級にチャック・リデルが、ミドル級ではアンデウソン・シウバが王座に君臨していますが、彼らをどう評価していますか？

ダン　チャック・リデルはオールラウンドのファイターで、この階級では世界でもトップクラスの一人だと思う。でも、アンデウソンは打撃は強いけど、グラウンドの強さはまだ証明していないよね。そして実際、その寝技で『PRIDE』でも何度か負けている。だからUFCチャンピオンではあるけれども、実力的には世界でせいぜい5番目ぐらいじゃないかな。

——上に4人もいますか（笑）。

ダン　もっといるかもしれないけど（笑）。少なくとも自分とマット・リンドランド、それからパウロ・フィリオ、デニス・カーンといった『PRIDE』のトップファイターのほうが上であることは確かだよ。

——ミドル級ではダン選手に勝ったこともあるホジェリオ・ノゲイラが秒殺KO負けするという、衝撃的な事件が起こりましたよね。

ダン　凄かったね。ボクの獲物をソクジュに先に獲られてしまったよ（笑）。でも、俺は一緒に練習して彼の実力とポテンシャルがわかっていたから、ホジェリオに勝てると思ってたよ。さすがにあんな短い時間で、しかもKOで勝つとは思ってなかったけど（笑）。

——ソクジュはダン選手がスカウトしてきたんですよね？

ダン　うん、そうなんだ。ナカムラ（中村和裕）と闘う前に、柔道家のスパーリング・パートナーを探しているときにスカウトしたんだ。彼は本当に練習が好きで、一生懸命やるし、才能もあるから、そういった選手を見つけられたことは、自分にとっても嬉しいことだね。

——どこで見つけてきたんですか？　まさかジャングルの中で？（笑）。

ダン　そうそう。俺がアフリカにハンティングの旅に出かけたときに、野生動物と間違えて仕留めそうになったのがソクジュなんだよ（笑）。

——ソクジュをハンティングしそうになりましたか！（笑）。

ダン　というのは冗談だけど（笑）。知人に紹介してもらって、ウチのジムで練習するようになったんだよ。最初は週2〜3回ぐらいだったけど、ここ9カ月ぐらいはフルタイムでやっているので、急激に強くなっていったんだ。4月には日本でも試合するから、応援してあげてほしいな。

——彼は日本でもメチャクチャ人気が出ると思いますよ。ダン選手自身は、これから二階級王者として、2本のベルトを防衛していかねばならないわけですけど、ウェートの調整はかなりキツいんじゃないですか？

ダン　いや、体重調整はそれほど難しい問題じゃない。確かに2本のベルトを防衛していくのは、並大抵のことじゃないけど、誰にもできることではないからこそ、このエキサイティングな状況を楽しみたいと思う。

——では、ミドル級とウェルター級の挑戦者として一番ふさわしい選手は、それぞれ誰だと思いますか？

ダン　そうだなぁ、まずウェルター級はミサキ（三崎和雄）の挑戦を受けるつもりだったけど、昨日の試合を観てその気持ちはなくなった（笑）。

——なくなりましたか（笑）。

ダン　ミサキじゃないとすると、フィリオかデニス・カーンになるだろうね。とくにパウロは実際にミサキを倒しているから、彼が一番手かな。ミドル級では一度負けているホジェリオ・ノゲイラと闘いたいと思っていたけど、ソクジュが倒してくれたから、もういいかな、と（笑）。そうなると、ショーグン、ヒカルド・アローナ。この二人の強敵のどちらかがチャレンジャーとしてふさわしいんじゃないかな。あともう一人挙げるとすれば、それはチャックだ。

——チャックは、かつてのチームメイトであるランディ・クートゥアーを二度倒していますが、リベンジしたいという気持ちもあったりするんですか？

ダン　そういうわけじゃないんだ。これは昨日の試合の前から言っていたことなんだけど、『PRIDE』のチャンピオンとUFCのチャンピオンの統一戦が実現したら、MMA業界自体がいま以上に盛り上がると思うんだ。だから、シウバがチャンピオンの頃は、シウバvsチャックをやってほしいと思ってたんだけど、俺が勝ったからには、その役目を俺がはたさないとね。それがチャンピオンとしての務めというものさ。

——それはぜひ観たいですね。では、その日を楽しみにしています。

【07年2月25日／米国ネバダ州ラスベガス、シーザースパレスにて収録】

Dan Henderson■1970年8月24日、米国カリフォルニア州出身。グレコローマン・レスリングで二度オリンピックに出場したスーパーアスリート。05年12月にウェルター級GPを制覇し、同級王座に就いた。今年2月、シウバからミドル級のベルトを奪い『PRIDE』初の二冠王となる。180センチ、82・9キロ。

「ホジェリオは確かに強いが、キリンよりは弱いだろう！」
「MMAは負けても殺されないが、ジャングルで負けたら食べられちゃうんだよ!!」

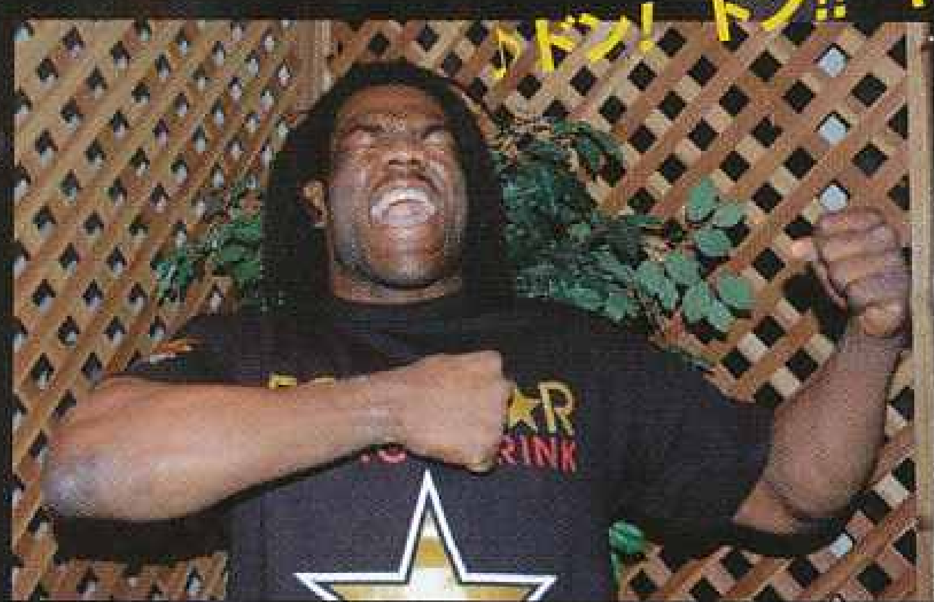
本誌108号のロングインタビュー（の一部）では、衝撃発言の連発でマット界を騒然とさせたソクジュ。カメルーン出身のこの男は、とても23歳とは思えないルックスの持ち主であり（本人は童顔と主張）、ジャングルでライオンやキリンと闘うことで驚異的な身体能力を身につけたという（あくまで本人談）。そして柔道では17歳で全米オープンを制したカメルーン五輪代表候補。なんと、あの幻の金メダリスト、篠原信一に勝ったこともあるというのだ!!（経歴詐称の疑いあり）。詳しい経歴は本誌108号を参照していただきたいが、『PRIDE』デビュー戦となったホジェリオ戦では、大方の予想を覆して大勝利!! ボクシングではブラジル五輪代表候補のホジェリオを打撃でKOするとは……。「おもしろいヤツだけど、勝てるわけがない」。あれだけ大々的にソクジュをフィーチャーしておきながら、まさか勝つとは思わなかった本誌取材班は、会場でうろつくソクジェを大慌てで捕獲！『PRIDE』に野生の時代到来を告げる野獣の雄叫びと、ウサンくささを味わえ!!

――いやぁ、ソクジュさん！ 先ほどは素晴らしい勝利でしたね！ もうビックリ仰天ですよ！

ソクジュ ありがど!! 一緒にトレーニングしてきたチーム・クエストのみんなも喜んでくれたし、オラ幸せモンだぁ。

――あれ？ 前回のインタビューより、だいぶ言葉がナマってるようですけど……。いったいどうされたんですか？

ソクジュ いんや、あんま細かいことは気にすんなぁ。人間は日々、変わるもんだろ？ おめえさんたちにも、編集の都

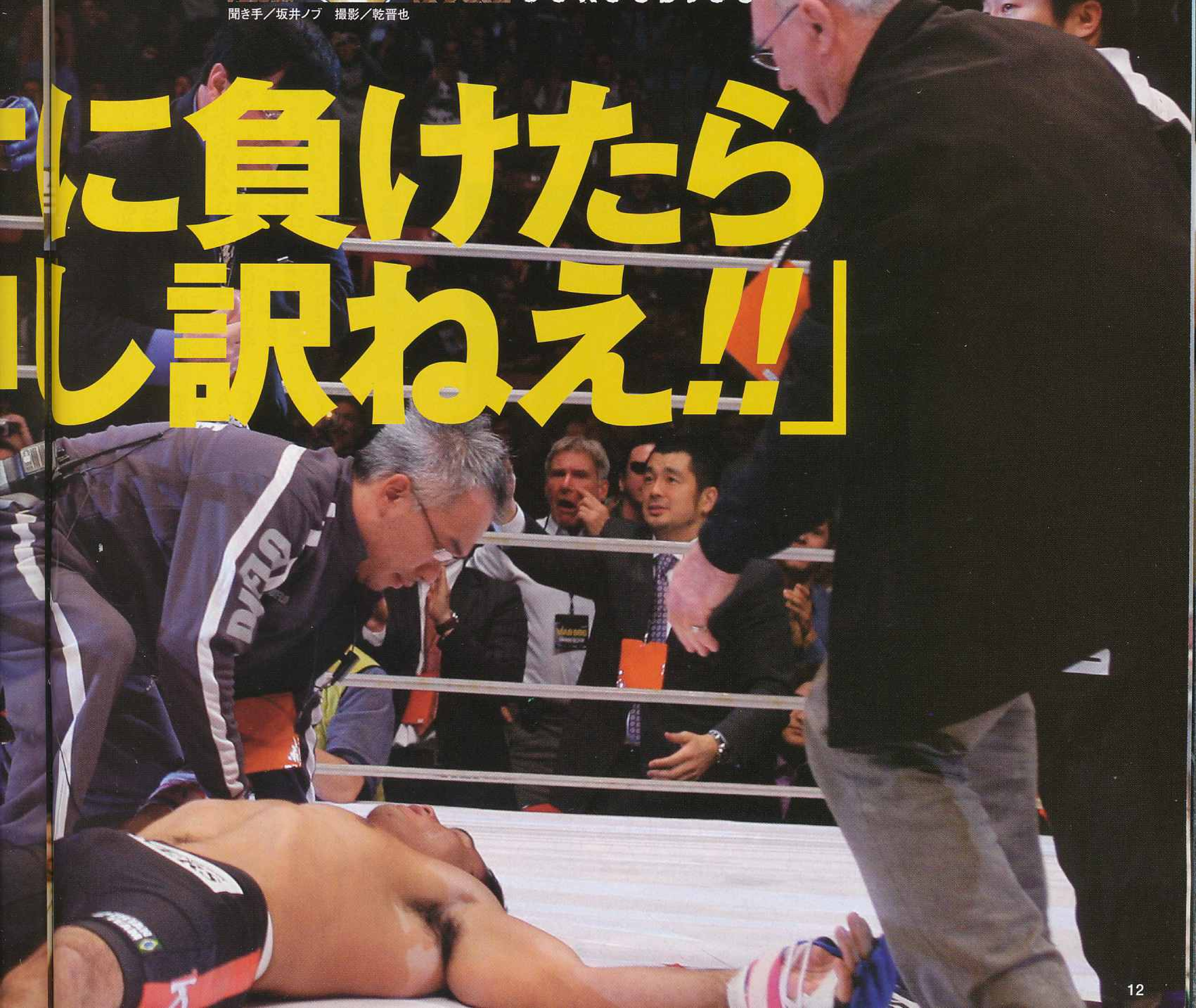



PRIDE初のアフリカ出身ファイター

ソクジュ
SOKOUDJOU

聞き手／坂井ノブ　撮影／乾晋也

に負けたら
し訳ねえ!!」





PRIDEのジャングル大帝、ド衝撃デビュー!!!!

「ホジェリオは
キリンに申し

PRIDE.33 THE SECOND COMING

［PRIDE.33 "THE SEDCOND COMING"］

○ソクジュ vs アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ×
（1R 23秒 KO）

ボクシングの名手、ホジェリオに対して、内股のローを連打!! 豪快な右ハイをホジェリオが前に出てかわしたところを左フック!! アゴに炸裂し、崩れ落ちるホジェリオ!! 写真を見ていただければわかるが、髙田本部長、ハリソン・フォードもビックリの結末だ!

ジャングルの猛獣たちと死闘をしてきた経験が活きた!!

合というものがあるど思うしな。

——はあ。まあ、確かに人間は変わっていくものですけど。

ソクジュ　その証拠にさ、今日の試合に勝ったこどで、オラはラスベガス一の人気者になったろぉ?

——ラスベガス一の人気者かどうかはともかく（笑）、あのショーグンでさえKOできなかったホジェリオを秒殺したことで、ソクジュさんの名前は格闘技界に轟きましたね。

ソクジュ　どうせな、みんなオラが負けると思っていただろうけどなぁ。でも、オラはアンタたちに言ってただろ? ホジェリオはキリンより弱いってな!

——もう日本のファンはそのフレーズに話題騒然なんですよ! キリンがどれくらい強いのかは知りませんけど（笑）。

ソクジュ　まあ、ホジェリオに負けだら、〝ジャングルの王様〟として、キリンに申し訳ねえや。ガハハハ!!

——キリンもホッとしてることでしょう（笑）。試合はあっという間でしたが、そもそも、ソクジュさんはどういうゲームプランを立てていたんですか?

ソクジュ　じつはな、ホジェリオのアリスター・オーフレイム戦のビデオを観で、弱点を発見してたんだよ。

——ほう。ホジェリオのどんな弱点を見つけたんですか?

ソクジュ　ズバリ、キッグに弱いってことだ!! だから、蹴りで隙を作って、その隙を攻撃するというシンプルな戦略を立てていたんだよぉ。いやあ、見事にハマったなっ!

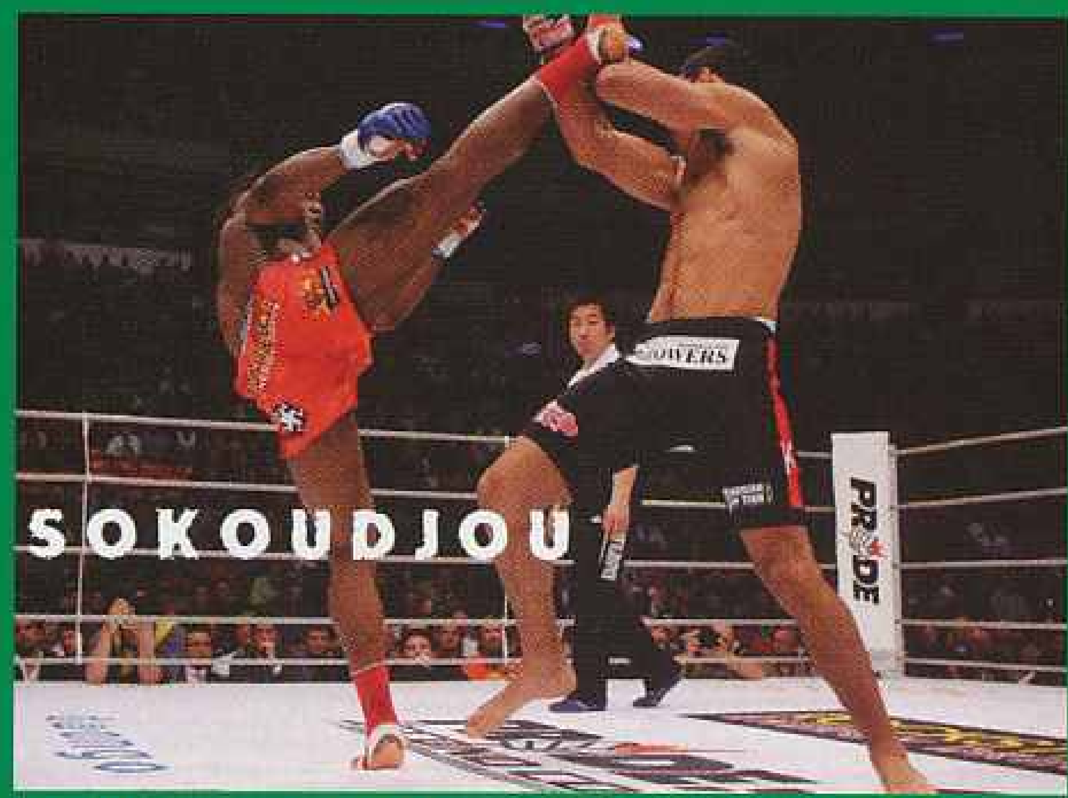
——さすがジャングルを生き抜いてきただけはありますね。ところで、これだけ大勢の前で試合をするのは初めてだったと思いますが、緊張はしませんでしたか?

ソクジュ　ぜ～んぜん! オラは柔道の国際大会に出ていたから、大観衆の前での試合には慣れているんだ。

——まったくプレッシャーは感じなかったわけですね。

ソクジュ　まったくねぇ! それに人間相手の闘いは簡単、簡単。だって人間の手は2本しかねえだろぉ? でも、ジャングルの猛獣だちときたらよぉ、4本の足を武器にして襲ってくるがらな。これは、おっかねえぞぉ!!

——ダハハハ! ジャングルの猛獣と比べたら人間なんかたいしたことない、と。



見てみぃ、迫力満点のハイキック!!　恵まれた身体能力と、トレーニングの賜物。決してイロモノではないのだ。たぶん。

ソクジュ　ああ、ライオンっこと比べればな。なんなら、いまオラの本当の強さを見せでやろうか?

——いいえ、けっこうです（笑）。ホジェリオ戦で充分にわかりましたから。

ソクジュ　だろぉ? 言っとくどな、ホジェリオは決して弱い選手じゃねえし、試合に勝つ術を多く持っているおっかねえ選手さ。でも、オラはやったった!! なぜなら、ライオンやキリンとか野生動物と、毎日生きるか、死ぬかの闘いをしてきた経験があったがらだ。

——はあ。そんなにジャングルの生活は過酷なんですか?

ソクジュ　（ギロリとニラんで）こんだけくっちゃべっても、ま～～だ、わからんのか。まんずなんべんも言ってるとおり、ジャングルでは油断していると、ライオンやキリンに食われちまうんだぞ! そんなごとも知らねえのかよぉ?

——というか、キリンは草食だと思うんですけど（笑）。ウソつかないでください よ!

ソクジュ　ほ～ん。だったらな、オマエをジャングルへさらっていくぞ!!

——いえいえ、けっこうです（笑）。あと、ソクジュさんが柔道家の篠原信一を倒したというプロフィールについて、詳しく聞きたいんですよ。

ソクジュ　なんで?

——（おもいきり小声で）日本のファンのあいだでは、経歴詐称なんじゃないかって……。

ソクジュ　は～ん? もっど大きな声でしゃべろって!!

——え～っと、多くの日本のファンがそのエピソードに大きな興味を持ってるんですよ（笑）。

ソクジュ　そっか。あれはな、2002年か2003年のことだったぁ。オラがシノハラを倒したのは、カリフォルニアのエキシビションマッチの話だったよ。

——え? 公式戦のエピソードじゃなかったんですか?

ソクジュ　……う～んどな、それはよくわからないなぁ。

——……はあ。謎は深まるばかりだなあ。

ソクジュ　まあ、オラの当時の目標はオリンピックだったから、それ以外の試合がどういうものかまでは覚えでねぇ。

——そうですか……。で、いまの目標はなんですか?

ソクジュ　う～ん。とりあえず、次の目標は、早くシャワーを浴びて、テレビでナウイ番組を観ながら、ギャルにバカウケのパスタでも食べるごとかなあ。

——ずいぶん都会的な生活ですね。というか、ボクが聞きたいのは、次の試合についてなんですけど。

ソクジュ　アフリカン・ジョークだってばよ。まあ、オラはファイターだから、『PRIDE』が試合を組んでくれたら誰とでも闘うさ。ヴァンダレイ・シウバでもいいし、ノゲイラのアニキでもかまわんよ。

——ヘビー級でやるつもりもあると?

ソクジュ　オラは普段の体重でも100キロないぐらいだから、できれば93キロ級がいいけどな。でも、トップファイターのホジェリオと闘って楽チンだった。ヘビー級でもいけるかもな。

——ジャングル生まれでこそないのですが、日本にも自然と融合するファイターが存在しているんです。

ソクジュ　ミノワマンだろぉ? アイツのことは知っているぞ。

——おお! 知ってましたか!! ぜひ日本で行なわれる4月の『PRIDE』で対戦してほしいですね。

ソクジュ　オラは誰とでも闘うよ。誰がいくら強かろうが、キリンよりは弱いからな! （キッパシ）。

——いやあ、早くソクジュさんの日本デビュー戦が観たいですねえ。

ソクジュ　オラもそれが夢なんだ! コードーカン（講道館）に行ぎたいからなあ。

——ああ、ソクジュさんの長年の夢なんですよね。講道館に行くのは。

ソクジュ　んだ。柔道家のオラからすれば、あすこは心の故郷だから。コードーカンはオキナワにあんだろ?

——前回も言いましたが東京です。最後に、この勝利を誰に伝えたいですか?

ソクジュ　チーム・クエストのみんなには感謝したいよぉ。

——カメルーンのご両親には?

ソクジュ　いんや、オッカアには、こんな危険なことやってるなんて、とても言えねえんだよ。

——お母さんには頭が上がらないですか?

ソクジュ　家族で一番、強いのはオッカアだからッ!

——元軍人のお父さんでもかなわないんですか! でも、いずれお母さんにも伝わってしまうと思いますよ。

ソクジュ　大丈夫だぁ! あすこは本当にジャングルの田舎だし。テレビもねぇ、ラジオもねぇ、車もまったく走ってねぇ! だから、『PRIDE』なんか観れるわけねえ。

——では一生知らない可能性も……。

ソクジュ　いんや、将来的には、カメルーンで『PRIDE』をど～んと、やるつもりだがら! （鼻息荒く）。

——『PRIDE』初のアフリカ大会!! リアル・ジャングルファイトはぜひ実現してほしいですね（笑）。

ソクジュ　そんどきは、オラの家に招待してやっからよぉ。ほんなら、ダンヘンの応援しなくちゃならねえがら。あばよ!!

——ああ、ソクジュさん。そっちは会場の外ですよ。ソクジュさ～ん!

［07年2月24日（現地時間）／ホジェリオ戦直後のトーマス&マックセンターにて捕獲］



Sokoudjou■1984年4月16日、カメルーン共和国出身。“アフリカン・アサシン”の異名を誇る、PRIDE初のアフリカ出身のファイター。写真は大会後に美女に囲まれているもの。チームクエスト・アフリカ支部所属。182cm、93kg。



「ソクジュの試合？ あれは“宇宙のタイミング”だね」

大波乱のPRIDE.33 “THE SECOND COMING”を

ズバリ解説！ ジョシュ・バーネットがあたたたたーっ!!

二大王者がそろって敗れるという、とんでもない大会となった『PRIDE.33』。
その全試合を、なんとリングサイドの実況席で観戦していた、ご存知ジョシュ・バーネットに、ズバリ斬っていただいた!
王者敗戦の理由、そして気になる“あの男”の可能性を、ジョシュが「あたたたたーっ!」と熱弁!!

聞き手／稲垣收　撮影／乾晋也　構成／松下ミワ

――ジョシュさん！　2・24『PRIDE・33』では、アメリカ向けのPPVのテレビ解説を務められたということで、今回は〝解説者〟として、お話をうかがいたいと思います！

ジョシュ　OK。今日はボクが日本でのTKやタカダサンの代わりだね。

――そういうことです（笑）。で、今回はまさに「鳥肌立った！」って感じのもの凄い試合の連続でしたが、ジョシュさんの目から見ていかがでしたか？

ジョシュ　いやぁ、ホントに凄いサプライズ続出の大会だったね！　ヴァンダレイ・シウバがダン・ヘンダーソンにKOされたのもそうだし、ゴミ（五味隆典）がニック・ディアスに負けたのもそうだし、それにソクジュ！　彼も凄かった!!　あんな結末は、誰も予想してなかっただろう？

――ソクジュ本人も予想してなかったそうです（笑）。

ジョシュ　そうだろうね（笑）。

――ソクジュの話はあとでたっぷりうかがうとして、今回シウバや、五味、ホジェリオといったトップファイターが、あんなふうに完敗してしまった原因はいったいなんだったと思いますか？

ジョシュ　ホジェリオの試合に関して言えば、あれは「ホジェリオはこうすれば避けられただろう」というような種類のものじゃないね。「宇宙のタイミング」とでも言うしかない出来事だと思う。

――「宇宙のタイミング」ですか（笑）。

ジョシュ　普段、決して出会うはずのない二つの隕石が、なんらかの理由で、たまたまぶつかってしまったようなものさ。

――言ってみれば、交通事故のようなものだということですか？

ジョシュ　そのとおり！　実際、テレビ

の解説でもボクは、「交通事故みたいだ」と言ったんだよ。ただ、ゴミの試合は違う。ニック・ディアスはとてもタフなファイターだ。でも、それだけじゃなくゴミは練習をまったくしていなかったんじゃないかな？ 途中ですっかりスタミナが切れていたしね。ディアスのことを格下だと思って、ナメきっていたんだろう。今日の勝利はディアスにとって、まったく完璧な勝利だった。最初はゴミが優勢だったけど、途中で逆転され、完璧に叩きのめされてしまっていたからね。

――確かに五味選手がここまでひどい負け方をしたのは初めてですよね。去年マーカス・アウレリオに負けたときは、本人いわく「寝技の練習をまったくしていなくて」サブミッションで一本負けしましたが……。

ジョシュ　そうだね。今回はパンチの打ち合いでも圧倒され、寝技でもやられてしまったわけだからねぇ……。そこが不思議な点なんだ。いつものゴミとは違う。だけど、『PRIDE』を代表するトップ選手の一人であるゴミが、あんな試合ぶりを見せるなんて、ボクにはどうにも理解できないんだ。だってゴミがもっと素晴らしい選手だってことは、ボクらみんなが知っていることだろう？

――なぜだか、いつもの五味選手とはまったく違いましたよね。

ジョシュ　うーん……彼は「ベストな状態で試合に臨む」ということを、それほど重要だとは思ってないのかなぁ。なんと言っていいか、わからないな。だって今回の敗戦は、彼のモーチベーション不足による部分が大きいと思うからね。ゴミは大晦日にイシダ（石田光洋）に素晴らしい勝ち方をしたばかりだし、あれが本来のゴミの姿だと、ボクは思うんだ。まあ、ああいう最高の勝ち方をしたばかりなだけに、すぐにまた次の試合に向けて気持ちを高めていくのが難しかったのかもしれないけどね。今回の負けはメンタルな部分が大きいと思うよ。



PRIDEを代表するトップ選手の五味が あんな試合をするなんて理解できないよ

――では、ダンとシウバの試合はどうでしょう？

ジョシュ　なぜかはわからないけど、今日のシウバも、ゴミと同じく、いつもの彼ではなかったような気がする（翌日の会見でシウバが試合前日に40度の高熱があったことが発覚）。ダンはとても強い選手だ。だからダンのような選手と闘うには、ベスト・コンディションで臨まなくてはならない。だがシウバはいつもの彼でなかった。理由はわからないけどね。そのせいで、ああいう結果になったのか、そうでなく、シウバが本調子であっても負けたのか、それは微妙なところだけど……。まあいずれにせよ、今夜はダンの夜だった、ということだけはハッキリ言えるよね。

――技術的側面から見ると、シウバのパンチはほとんどフック系ですが、ダンはストレートが得意ですよね。まっすぐ最短距離をいくストレートのほうが、フックより先にヒットします。今回のダンのフィニッシュブローは左フックでしたが、それまでのフックとストレートという、得意とするパンチの違いが勝敗を分けたとは考えられますか？

PRIDE.33 "THE SECOND COMING" 試合レビュー！



○ジェームス・リー vs トラビス・ビュー×
（1R 39秒 フロントチョーク）

『PRIDE』初参戦となったアメリカ人対決で、なんとリーが秒殺一本！ 開始ゴング直後、リーの右フックでトラビスがバランスを崩すと、そこから首を取ってフロントチョーク!! リーにとっては大興奮の『PRIDE』デビューとなった。



○フランク・トリッグ vs 三崎和雄×
（3R 判定3-0）

『PRIDE.8』以来、ひさびさの登場となったトリッグが昨年ウェルター級GP王者に輝いた三崎を圧倒！ 試合後、三崎は「次、皆さんの前で試合するときに僕を評価していただきたい！」と熱弁したが、現地の記者はこれに失笑。頑張れ、三崎！



○ヨアキム・ハンセン vs ジェイソン・アイルランド×
（3R 2分33秒 アームバー）

昨年『男祭り』青木真也戦でまさかの1ラウンド一本負けを喫した"北欧の処刑人"が、ラスベガスで復活！ ジェイソンにテイクダウンで倒されたハンセンだったが、その後、三角絞め→腕十字の鮮やかな連続技で見事に一本勝利！

ジョシュ　それも確かにあるね。シウバがタムラ（田村潔司）と闘ったとき、彼はタムラのストレートをヘッドスリップして、そのあとフックを打ち返した。今回の試合でシウバは、ダンのストレートをヘッドスリップでかわしたけど、そこにダンが返しの左フックを入れたんだ。あのタイミングはパーフェクトだった。

――それにシウバは桜庭（和志）選手や吉田（秀彦）選手とやったときもパンチを食らっていますよね。桜庭選手や吉田選手はストライカーではありませんが、シウバはパンチをもらいやすいスタイルなんでしょうか？

ジョシュ　うん。シウバのスタイルだと、相手にも打たれやすいんだ。タムラ戦でもKOされかかっていたし、ガイ・メッツァー戦や、今回のダン戦もそう。シウバはいろんな選手に打たれてグラつき、あわやKOされるかというピンチに陥りながらも踏みとどまって、そこからグンと強さを発揮して逆転してきた。だけど今回のシウバには、それができなかったんだ。今回は、とてもヘビーなパンチを完璧なスポットにもらってしまって、そこから挽回するのは不可能だった。

――シウバも途中、ダンに何発かいいパンチを入れてましたけどね。

ジョシュ　1ラウンドの終わりとかに、いいフックを入れてたよね。だけど2ラウンドには、もうそういう展開をつくることはできなかった。アグレッシブさはあったけど、集中力を欠いていたようだ。

――確かに、シウバにいつもほどのどう猛さは感じませんでしたね。

ジョシュ　うん、そうだね。

――これまでなら入場時からリングに入って相手を睨みつけるときまでの形相は、まるで悪魔のようでしたけど、今回はそういう感じもなかったですね。

ジョシュ　そうだね。抑えた感じというか、平静な感じというのとも違うけど、何か魂に火がついていない気がしたよ。

――リングでダンと睨み合うときになって、ようやく少しギラギラ感が出てきたかなぁ、くらいの感じで。

ジョシュ　そのときですら、いつもほどじゃなかったよね。でもまた近い将来、また本来のシウバの怖さを取り戻してカムバックしてくると思うけど。彼がインタビューを受ければ、何がおかしかったのか、どうしていつもと違ったのかも、わかるだろうけどね。

――では、3人の強豪の敗因を分析し終えたところで、いよいよホジェリオをKOしたソクジュについてお願いします！

ジョシュ　あれはもうワァーオ!! と言うしかないね。凄く鮮烈な『PRIDE』デビューだった。彼は素晴らしいアスリートだし、カッコよかったし、彼にとって今夜は最高の一夜だろうね。

――師匠のダンもシウバからタイトルを奪いましたしね。

ジョシュ　そのとおりだ。いま頃、みんなハードロック・ホテルのクラブで祝勝会をやってるだろう。ボクも早く行きたいんだよ（笑）。

――すみません、もうすぐインタビューを終わらせますんで（笑）。素晴らしいデビューを飾った

シウバはアグレッシブさはあったけど、どこか集中力を欠いていたようだったね





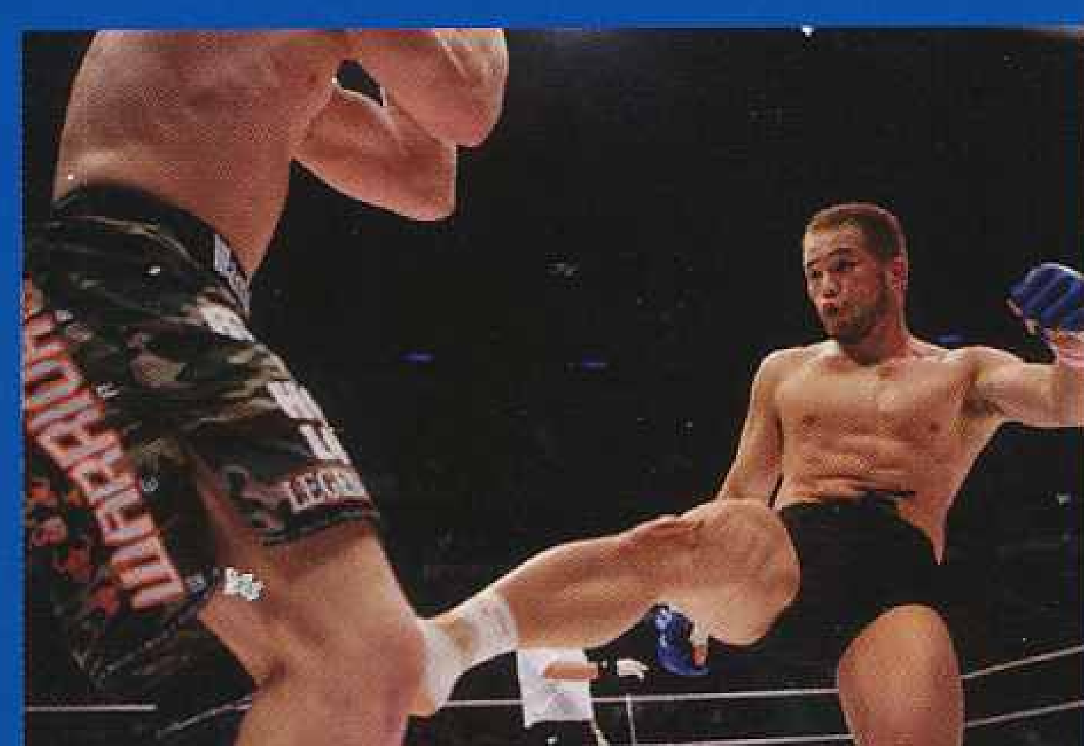
○マウリシオ・ショーグン vs アリスター・オーフレイム×
（1R 3分27秒 TKO）

2005年ミドル級GP以来、2度目の対戦となる両者。序盤、動きの鈍いショーグンをアリスターがヒザで攻めるが、一旦アリスターが下になると、スタンドポジションからタメにタメたショーグンのパウンドがアリスターの顔面に直撃！　ショーグンはこの一撃で勝負を決めた。



○セルゲイ・ハリトーノフ vs マイク・ルソー×
（1R 3分46秒 アームバー）

“ロシア軍人vsアメリカ現役警察官”の図式に現地のファンはヒートアップ！　ルソーもその勢いに乗ってパウンドを放つが、下から腕を取ったハリトーノフが一気に十字へ。この日は“殺し”がなかったのか、動きの鈍いハリだったが、なんとかチャンスをものにした。



○桜井“マッハ”速人 vs マック・ダンジグ×
（2R 4分01秒 KO）

試合前「マッハを尊敬している」とコメントしていたダンジグが、そのマッハに何もさせてもらえずに無念の敗戦。逆にマッハは会心の右フックをジャストミートさせ、アメリカのファンの前で見事その強さをアピールした。ちなみに、今回のギャンブルの勝敗の行方はいかに!?

ソクジュは、今後どうなっていくと思いますか？

ジョシュ　うーん……今日は本当に凄かったけど、今日みたいな勝ち方がこれからもできるかどうかは、正直わからないね。でも、ミドル級であんな凄い勝ち方をする選手が出てきたことは、『ＰＲＩＤＥ』の全選手に、強烈な刺激を与えたと思うよ。

——『ＰＲＩＤＥ』にひさびさに現われた超新星ですよね。今日、試合直後にソクジュにインタビューしたんですが、「ホジェリオは強い選手だけど、オレがジャングルで闘ってきたキリンほど強くはないからな」なんて言ってましたよ（笑）。

ジョシュ　ワッハハハハ!!　キリンと闘ったことあるの!?

——あくまで本人の自己申告ですけど（笑）。それでボクが「あなたのスピードはもの凄かったですね」と言うと、「ああ。ジャングルではスピードが命だ。ノロノロしてると、ライオンやキリンに食われちまうからな！」なんて言うんですよ。

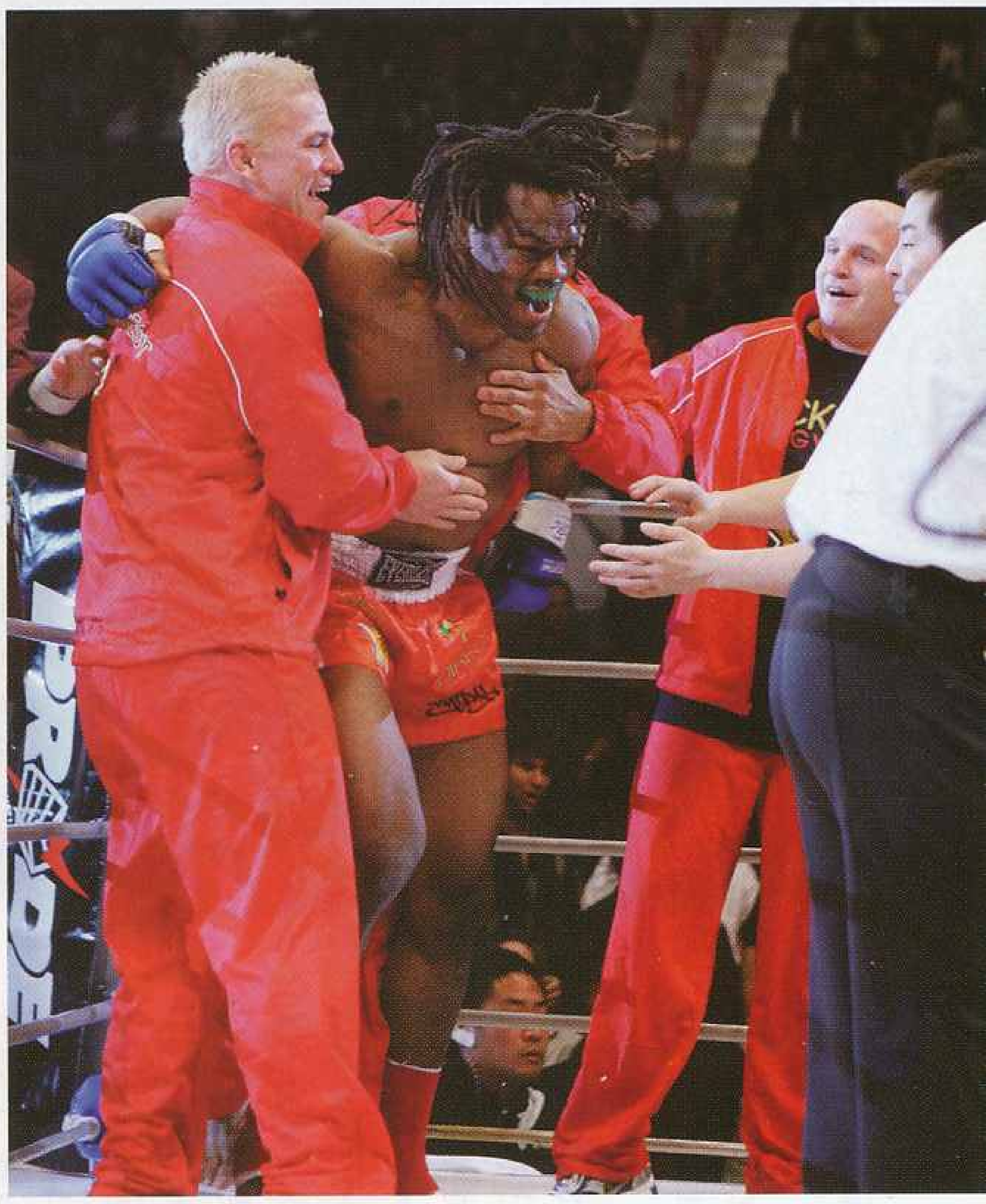
ジョシュ　キリンは人を食べないよ！（笑）

——ええ。ボクも「いやあ、キリンは人を食べないと思うんですけど……」って言ったら、「おまえはキリンの恐ろしさをわかってない!!」なんて言うんです（笑）。

ジョシュ　アハハハハハ!!　でもそういうユーモアがあるっていうのは最高だね。ソクジュ、侮るべからず、だ。しかし、キリンに食われちまうだなんて……笑いすぎて、腹の皮がよじれるよ……（とうずくまる）。

——ジョシュさん、大丈夫ですか!?

ジョシュ　う、うん、なんとかね（笑）。いやあ、リングの上だけでなく、ソクジュは要注意だ。恐るべし!!（笑）。



——では、今大会で最高に強烈な印象を残した試合もやっぱりソクジュですか？

ジョシュ　もちろん、そうだよ！　っと言いたいところだけど、やはり一番はダンの試合だね。彼はリングでとても強く見えたし、彼のほうがチャンピオンらしい闘いぶりを見せたよね。

——これで『ＰＲＩＤＥ』初の2階級制覇ですからね。

ジョシュ　そうだよね！　しかも凄いのは、階級を上げてベルトを獲ったってことだよ。これは、なかなかできることじゃない。ＵＦＣでは彼のチームメートだったランディ・クートゥアーが、ヘビー級のベルトを獲ってから、ライトヘビーに階級を落として二つ目のベルトを獲ったけど、今回ダンの成し遂げた偉業はそれ以上だと思う。それにしても、チーム・クエストから二人も2階級制覇した選手が出るなんて、凄いことだよね!!

ソクジュみたいな選手が出てきたことは PRIDEの全選手に刺激を与えると思うよ

——前王者シウバはＵＦＣライトヘビー級王者チャック・リデルとの対戦をさかんにアピールしていましたけど、もしダンとチャックが対戦したらどうなると思いますか？

ジョシュ　うーん、この予想は難しいなあ……ダンが勝つと言いたいところだけど、チャックのほうが背が高いし、リーチもあるからねえ。このマッチアップ（組み合わせ）はダンにとって不利だね。ダンがチャックを倒すというのは、かなり難しいと思うよ。

——この二人だと通常の体格差がかなりありますからね。

ジョシュ　うん、そこなんだよ。チャックはヘビー級のミルコと同じくらいの骨格だけど、ダンはウェルター級の体格だからね。逆にＵＦＣミドル級（『ＰＲＩＤＥ』ではウェルター級）のファイターと闘ったら、ダンが苦もなく勝つと思うけど。

——大会全体としては、前回のラスベガス初進出に比べてどうでしたか？

ジョシュ　カードは前回ほどエキサイティングじゃなかったと思うけど、いい大会になったね。たとえばホジェリオvsソクジュなんて、試合前には、みんなホジェリオの楽勝だと思っただろう？　それにトラビス・ビューvsジェームス・リーなんて、まったく新しい選手たちだしね。でもフタを開けてみたら、凄いアクションが満載の大会になった。それと、前回よりも観客動員数が多かったのには驚いたな。だって、前回のようにヒョードルやコールマン、そしてボクみたいなヘビー級のトップ選手が出てるわけじゃないんだし。それなのにこんなにお客さんが入ったということは、アメリカのファンが『ＰＲＩＤＥ』というブランドに非常に興味を持っている証拠だよね。たぶん第1回大会がもの凄くおもしろかったという噂を聞いて、より多くのファンが集まったんだろうね。

——ジョシュさん自身の次の試合は、もう決まってるんですか？

ジョシュ　まだ決めてないんだ。4月か5月あたりかなあ、と思っているけど、いまは「すぐに試合をしなくちゃ」っていう気持ちはないからね。

——まあ、ジョシュさんの去年1年間はもの凄い試合の連続でしたからね。少しは休まないと、さすがに身も心ももちませんよね（笑）。

ジョシュ　うん。それにまだオファーも来てないしね。焦らずじっくり調整して、今年中にヒョードルと闘い、そして勝つ！　それがボクの目標だよ。

——わかりました。では、今日は深夜1時というとんでもない時間にお話をうかがい、ありがとうございました！

ジョシュ　ドーイタシマシテ！

【07年2月25日／米国ネバダ州ラスベガス、シーザースパレスにて収録】



Josh Barnett■1977年11月10日、アメリカ・ワシントン州出身。第7代UFCヘビー級王者、2006年PRIDE無差別級GP準優勝者。格闘家、もしくは格闘技オタクとしての実力が評価されたのか、『PRIDE.33』は解説席で活躍！191cm、116.0kg。



『PRIDE』にインディ・ジョーンズ参戦!? 今回は驚愕のハリウッドセレブが続々来場! ハリソン・フォード（写真左）！ ニコラス・ケイジ（写真中）！ チャック・ノリス（写真下）らリング周辺はスター千夜一夜状態!





「♪ダン！ ダン!! ダダン!!!」と世界のMMAシーンで最高峰の舞台演出を誇るPRIDEのオープニング。今回の大会でも、音響、火薬、照明、映像の四味一体攻撃でアメリカの観客のド肝を抜いた。



脅威のセレブ軍団を招致し、人脈の広さと凄さを見せつけたPRIDE USA代表のエド・フィッシュマン（写真左、左端）はシーザースパレス社長のケーリー・セレズナー（写真左、中央）らとパチリ。さらに元NFL選手のハーシェル・ウォーカー（写真左下）、歌手のホリー・バランス（写真右下）らも来場、これぞエド・パワーだ!





スーパー巻き舌アナウンスでおなじみ、レニー・ハートさんは今回もケイ・グラントさんと一緒にリングアナを担当! 途中からは上着を脱いでの奮闘ぶり!



「ウィー・アー・バック・ラスベガス・アゲイン!」と髙田本部長が挨拶に登場。ビビってたじろぐ"本部長イングリッシュ"満載で威風堂々とスピーチ。「プリーズ・エンジョイ! サンキュー・ベリマッチ!」と締めた。

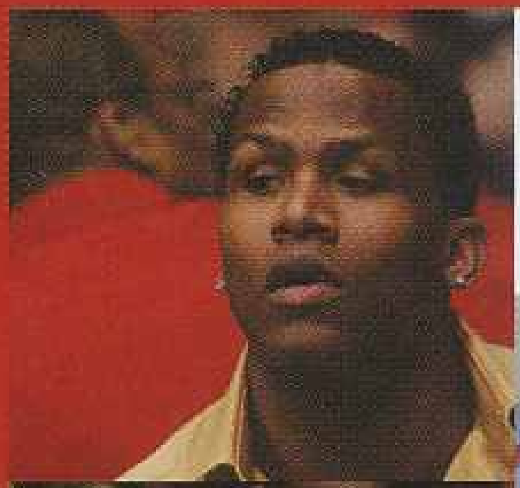
アカデミー賞ばり!? 脅威のセレブ率!!

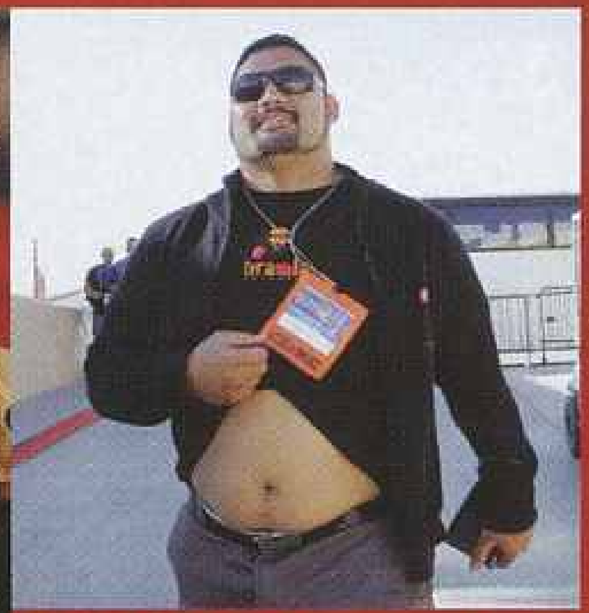
ウィー・アー・バック! セカンド・カミングも大盛況!!

PRIDEラスベガス大会TOPICS

「ヘロウ! アッメ〜リカ!」と約5ヵ月ぶりにラスベガス再上陸をはたした『PRIDE』。
今回は著名なセレブが続々来場! リング上に負けないリングサイドの豪華ぶりなど、試合以外のトピックスをまとめてお届け!

構成／真下義之 撮影／乾晋也 写真協力／DSE







関係者パスの代わりにお腹をペロリ? マーク・ハント（写真上）もベガス出没! 前大会で奮闘したケビン・ランデルマン（写真右上）ら"筋肉三兄弟"。そして"メガネ男子"ルックスの吉田秀彦（写真右下）も姿を現わした。



「次はジャングル・ファイトを観に来い!」。前回のベガス大会では夢枕獏さんに発見されたイズマイウ。今回は前日会見で徘徊しているところを本誌取材班が逆に捕獲されてしまった!



アメリカのPPV解説席は格闘セレブが集結! 普段、解説を務めるフランク・トリッグが試合出場のためジョシュ・バーネット＆デニス・カーンが参上! だが第2試合に登場したトリッグは、「この席は渡さん!」とばかりに、第5試合にはジャケット姿で解説席に!





「I'm very satisfied!」と大会の満足度を英語で伝えた榊原代表（写真左）は、ほかのMMA団体との質の違いを強調! 新王者・ダンヘン（写真上）が会見場に登場すると大拍手が発生!

グッズ売り場は今回もゴールドラッシュ!? 『PRIDE』Tシャツの一番人気はなんと漢字の入った"和"テイストのもの。続いてシウバvsダンヘンの対戦記念Tシャツも人気を博した。





佐藤大輔氏による煽りVもアメリカ本土上陸! 基本は英語ナレーションだが、五味の煽りV中の「ニューエイジ・サムライ!」というキメ台詞のみ、立木文彦アナが担当!

“エド・フィッシュマンのPRIDE買収騒動”を完全否定!
されど前向きな資本提携を示唆!!

PRIDEという かわいい“娘”の “嫁ぎ先”を探しています

ドリームステージエンターテインメント代表取締役

榊原信行



聞き手／堀江ガンツ　会見撮影／乾晋也

昨年末からアメリカWEBサイト上を中心に吹き荒れた〝PRIDE身売り〟の噂。その買収先には、最大のライバルであるUFCをはじめ、〝闇帝王〟カルビン・エアー率いるボードッグ、さらにWWEなど、数々の名前が浮上していた。

そして今年に入ってからは、〝アメリカのPRIDEの父〟として『PRIDE』のアメリカ進出を支援してきた、カジノ&エンターテインメント王のエド・フィッシュマン氏が『PRIDE』を買収し、自ら運営していく意志があることが米WEBサイトのインタビューによって明らかになった。

しかし、2・24『PRIDE・33』大会後の会見で、DSE榊原代表はこれら買収の噂をキッパリ否定。ただし、世界市場の中で『PRIDE』を盤石なものとするための、提携や資本注入については否定しなかった。

本誌はこの記者会見での発言の真意、そして今後の『PRIDE』の展開をうかがうべく、大会翌日の深夜、あらためて榊原代表を直撃した。

――『PRIDE』ラスベガス進出第二回大会お疲れさまでした！　今回も第一回大会に引き続き大盛況でしたね？

榊原　正式な有料入場者数はあとでネバダ州アスレチック・コミッションから発表されると思いますけど、ラスベガスのMMA歴代興行成績9位だったようですね。前回が8位だったらしいんですけど、そのときより100～200人少なかったようです。

――そうなんですか。見た目は前回以上の盛況に見えましたけどね。

榊原　今回は前回より米国内の協賛企業が増えたので、その協賛各社への招待等を含めて、1万3000人ぐらいの動員だったんですよ。ただ、この時期というのは、前の週にはNBA（バスケットボール）のオールスター戦があったりとか、その前にはスーパーボウルがあったり、大きなスポーツイベント目白押しで、ラスベガスで一番興行をやっちゃいけない時期だったみたいなんですね（苦笑）。

――そうだったんですか（笑）。

榊原　そういった中で、これだけの数字が出たことはほっとしました。

――ところで、大会前まではネット上を中心に『PRIDE』買収の噂が飛び交ったりしていましたけど、大会後の会見で、代表はきっぱりとエド・フィッシュマンさんの『PRIDE』買収を否定しましたよね？

榊原　はい。エドさんというのは、僕たちがアメリカで興行をしていく上で、彼が窓口になってシーザースパレスをはじめとしたカジノグループと交渉してくれたり、彼の持つベガスのコネクションを紹介してもらったりする業務を委託していたんです。彼が『PRIDE』の権利やDSEの株を持っているわけではないんですよ。そういう意味では、彼が『PRIDE』を買うというのもおかしいし、そもそも売るとか買うとかという無機質な表現で語ってもらいたくないです。『PRIDE』はモノではないですから。だからエドさんが『PRIDE』を僕らから買うということはありえないし、彼が買ったところで、何か物事がうまくいくわけではないですから、そういうことはないと思います。

――これまでエドさんは、「PRIDE USAプレジデント」という肩書きがついていたわけですけど、今後はどういった立場になりますか？

榊原　まず、「PRIDE USA」という組織はそもそもないんですよ。

――そうですよね（笑）。DSEのUSAはありますけど。

榊原　彼がアメリカで我々からの委託業務を遂行する上で、何か肩書きが必要ということで、スポークスマン的な意味も含めて「PRIDE USAプレジデント」という肩書きをつけて動いてもらっているんです。

――実際の役職ではない、と。

榊原　そうですね。だから今後も我々が彼の持つコネクションをもとにアメリカで興行を展開していくのか、いかないのかは現時点ではまだ決めていません。でも、エドさんとは年齢は離れていますが良き友人ですし、これからも良き『PRIDE』の理解者であり、サポーターであり続けてくれると信じています。ですからこれから新しい体制で進めていくことを考えつつ、彼とどう向き合っていくか考えていきたいと思います。

――では、これまではエドさんの紹介でシーザースとのパートナーシップのもと、PRIDEラスベガス大会は展開してきましたけど、次回から違うカジノグループと組むこともありえるわけですか？

榊原　ありえますね。シーザースパレスを中心としたハラス・グループとはこれからもいい関係でいたいと思いますけど、もっといいオファーを他のカジノグループからいただければ、そういったところと組んでいくことも考えたい。いま、いろいろなところからオファーをいただいてるので、どこかと独占で長期的に組むというより、条

件がよくて『PRIDE』を最も理解してくれるところと、ケース・バイ・ケースで考えていきたいですね。

――昨夜の会見では、いろんな企業やグループと資本的な提携というものは考えているとのことでしたけど、これは買収だったり、そこの子会社になるというわけではないんですか？

榊原　先ほども言いましたけど、売り買いだけの問題じゃないと思うんですよ。形があるものじゃないですから。たとえて言うなら『PRIDE』は私にとっては、ファンや選手や心ある関係者とともに手塩にかけて育てあげたかけがえのない"わが子"、まさに何ものにも代え難い娘みたいな存在なんです。だから、どちらかと言うと、『PRIDE』という娘の嫁に行く先を探していると言ったほうがいいかもしれないですね（笑）。

――『PRIDE』の嫁ぎ先を探してましたか（笑）。

榊原　だから嫁ぐ先というのは、ただ単純にお金だけがあっても、"娘"をホントに幸せにしてくれるとは限りませんから。そういった感覚のほうが、いまの『PRIDE』を取り巻く状況を説明するのにふさわしいと思います。つまり『PRIDE』というのは、非常に出来のいい、誰をも魅了する才能のある"娘"に成長したんですけど、世界という市場を相手にしたとき、資本力の部分でいくと、その才能を伸ばしていってあげるのには、もう我々の力だけでは不充分なんです。だから必ずどこかと結婚して、誰かと結ばれないと、"彼女"の才能の芽を摘んでしまうことになる。

――総合格闘技の世界市場の変化によって、はからずも『PRIDE』が"適齢期"を迎えてしまったわけですか。

榊原　ホントにトンビがタカを産んで、いまは"娘"だけが、"DSE家"の残された唯一の財産なんですよ。そしてその娘は非常に出来が良くて美しいんだけど、金のかかる娘なんです（苦笑）。でも、お金はかかるんですけど、世界中のみんなが振り向いてくれるほどの魅力を持ち合わせているんです。"彼女"が今後何十年も幸せに暮らしていける環境、みんなに愛され続ける環境を見つけるために、一生懸命、いま最高の相手を捜しているところです。"求婚"してくれるところはたくさんあります。でも、誰が"彼女"を本当に幸せにしてくれるのか、それを時間をかけて慎重に吟味している状態ですね。

――とりあえず、"エド爺さん"のところへ"養子"に出すことは考えてない、と（笑）。

榊原　はい。探しているのは"嫁ぎ先"ですから（笑）。

――では当初、次回のアメリカ大会は4月28日、ラスベガス・トーマス＆マックセンターと発表されていましたけど、これは変更になる可能性もありますか？

榊原　その可能性が高いです。当然、アメリカ大会はあれだけの熱がありますから続けたいと思っているんですけど、いい意味でもっと戦略を練って行ないたいので、アメリカ大会のスケジュールを全体的に見直しているところです。ただ、現時点では最終的に4月28日にやらないと決めたわけではありません。変更の可能性があるということです。そして、今年中にはラスベガスだけでなく、カリフォルニア州やニュージャージー州でも最低一回ずつはやっていきたいと思います。

――4月8日の『PRIDE.34』さいたまスーパーアリーナ大会はどうなりそうですか？



一部、WEB上のニュースでは、『PRIDE』を買い取れなかった場合、自らMMAの新イベントを立ち上げる意思があるとも伝えられるエド・フィッシュマン。今後も彼の動きには注目する必要があるだろう。

4.8さいたまSAは10周年記念の第一弾「これぞ『PRIDE』」というカードを組むつもりです！

榊原　今年日本で最初の大会ですから、いまいろんな選手たちと交渉してビッグイベントにすべく動いているところです。やはり、日本に軸足を置いてこその『PRIDE』ですから。アメリカ進出というのは、これまでどおり「世界最強の男たちが集う大会」というクオリティを維持するために、どうしてもアメリカマーケットを手に入れなければならないから、行なっているわけです。だから、それによって日本のファンの皆さんにそっぽを向かれるようなことになっては、本末転倒ですからね。4月8日は、「これぞ『PRIDE』」というカードを組もうと、気合いを入れていますよ。なんといっても、10周年の日本で行なう第一弾イベントですからね。

――アメリカ向けのサブタイトル「KAMIKAZE」は、どういった思いからつけたタイトルなんですか？

榊原　一つは、やはりこの状況の中で神風を吹かせたいということですよね。この大会は、初めて日本で開催されるイベントをアメリカでライブ中継するんですよ。これまでは18時間遅れだったんですけど、初めて日米同時生放送という試みをするんです。だから、日本でのイベントは時差を考えて正午開場、13時30分開始というかたちになると思います。

――何かアントニオ猪木vsモハメド・アリのときみたいですね（笑）。

榊原　そうです（笑）。なぜ、これをやるかといえば、日本発の本物の『PRIDE』をアメリカの人たちにも見せたいんですよね。何万人ものファンが熱狂している、あの空間をライブでアメリカの人たちに共有してもらいたい。そして、神風を吹かせたいという思いですね。

――それが『KAMIKAZE』の意味だと。

榊原　それとやはり「神風」というと、神風特攻隊などを連想すると思いますけど、日本人の魂や日本人の生き様、まさに武士道精神というものを見せたい、という想いも含まれています。僕たちにとってアメリカ市場進出というのはデッド・オア・アライブですから。死ぬか生きるか、プロモーターもそれぐらいの意気込みで、このアメリカ市場に向かっていき、死ぬ気で勝負をかけるという、アメリカに対する僕らの強烈なメッセージです。

――わかりました。では4月8日も素晴らしい大会を期待してます！

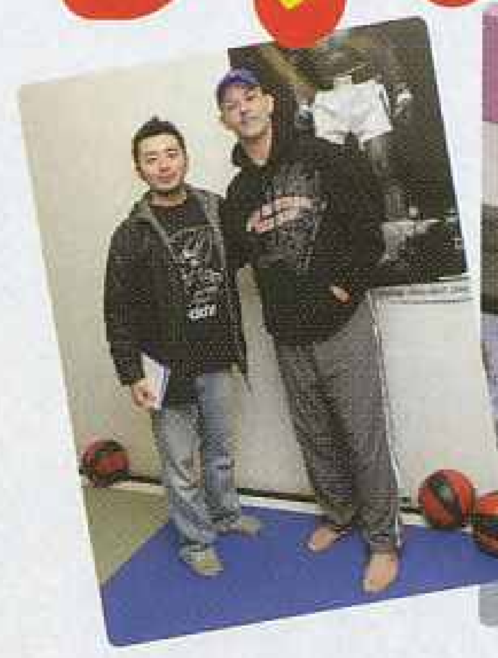
榊原　はい。凄い熱だった今回のラスベガス大会以上の熱を生み出すために、これから一生懸命仕込みを頑張ります！　その前に今日はロクに食事をとってないんで、これから焼き肉を食べにいきますけど（笑）。

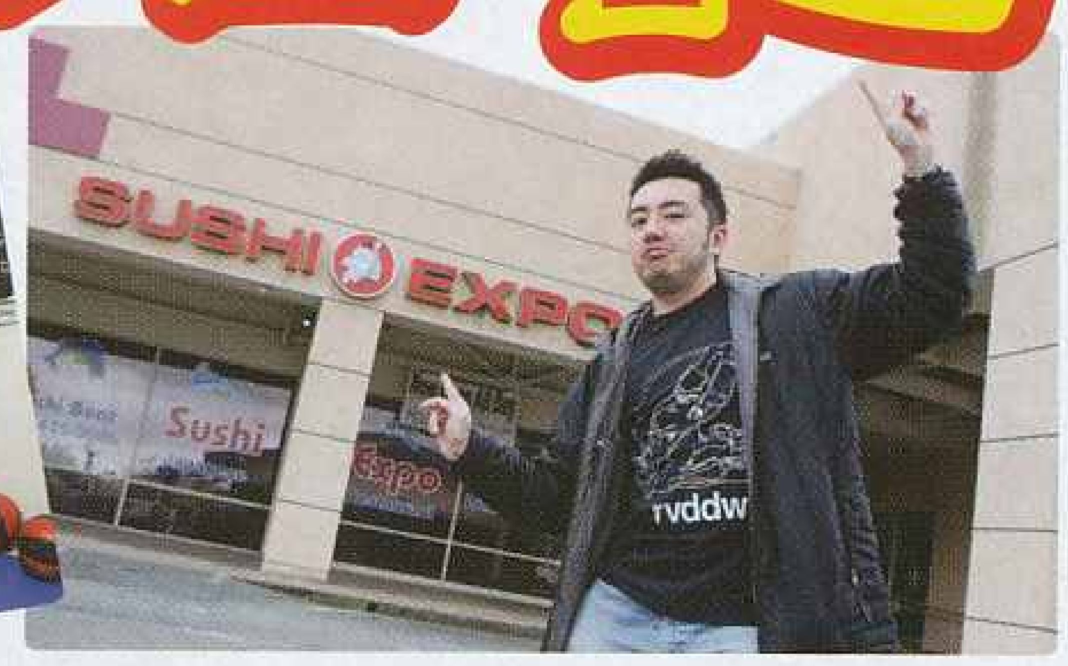
［07年2月25日（現地時間）／米国ネバダ州ラスベガス、シーザースパレスにて収録］

『PRIDE.33』ラスベガス大会

THE SECOND COMING

旅日記





ヘロウ・アッメ～リカ!!　というわけで現在、私は『PRIDE.33 "THE SECOND COMING"』の取材でラスベガスに来ております。その前にはアメリカ西海岸でグランド・キャニオンのように盛り上がる総合格闘技のジムを緊急取材してきましたよ!!　五味隆典を破ったニック・ディアスを輩出したサンフランシスコ周辺、いわゆるベイエリアにはディープな格闘技地帯が広がっていました!! 詳しくは『kamipro』109号にto be continued!!

文／坂井ノブ　撮影／乾晋也

［1日目］2月19日(月)／サンフランシスコ

初日はサンフランシスコ近郊サンノゼにある名門ジムAKA（アメリカン・キックボクシング・アカデミー）に行った。UFC、ストライク・フォースなどで台頭する若手を数多く輩出する名門ジムで、さまざまな日本人選手が出稽古に訪れている。アメリカと日本の格闘技事情に精通しているハビア・メンデス会長の話は、「さすが！」とうならされる奥深さだった。『PRIDE』で五味隆典選手と対戦するベイエリア出身のニック・ディアスについて話を聞いたのだが、ここで会長はじつに興味深い発言をした。「今回の試合、俺ならディアスに賭けるね」その発言の真意とは『kamipro』109号にて！

★

［2日目］2月20日(火)／サンノゼ

二日目はホテルもサンノゼに移動、この日はAKAのプロ選手の練習を取材！　MMAを取り巻く環境が整ったことで、経済的にも潤いつつあるアメリカのプロ選手の意外にもリッチな横顔を取材してきました。さらに、このベイエリアで大人気を誇る二大格闘家を取材!!　日本でもおなじみのフランク・シャムロックと、まだ見ぬ強豪でアメリカ西海岸のアジアンコミュニティから絶大な支持を受ける〝ベトナム難民ファイター〟であり、〝ジャッキー・チェン&ジェット・リーに続く次世代アジア系アクションスター候補〟カン・リー先生です。彼の名前は近々、全世界に広まるかもしれません。ぜひ覚えておいてください。こちらも『kamipro』109号でのインタビューをお楽しみに！

★

［3日目］2月21日(水)／サンノゼ

この日も朝からAKAへ。『PRIDE』ライト級戦線で台風の目となりつつあるギルバート・メレンデスを取材しました。『ボードック』でコスタリカに行っていて、前夜の夜11時に帰国したにも関わらず、朝から目ん玉の飛び出る勢いで激しいスパーリングを繰り広げるギルバート、強さの根源を見た気がします。

この日のランチはAKAの二軒隣にある「SUSHI EXPO」なる寿司屋へGO！　初めてのカリフォルニア寿司は、ちょっとトラウマになりそうなぐらい強烈なインパクトでした。回転寿司のカウンターは水上を屋形船が走るという日本でも見たことがない風情で、スペシャルメニューのロールは画期的すぎて軽くめまいがしました。「ROCK'N ROLL」（写真中央）、「STAR WARS」（写真右）などのタイトルもイカす!!　ロッケンロール！



さらに、この日はあのブライアン・ジョンストンに接触することができました！　脳梗塞で生死の境をさまよいながら奇跡的な回復を遂げたジョンストンに、我々は独占取材を敢行！　総合格闘技界に波紋を起こせず、悪い意味でプロレスファンの記憶に残っただけの『X—1』という金網バーリ・トゥードにジョンストン軍団を引き連れて来日したとき以来、公の場には姿を現わしていないですが、あいかわらず元気そう。病気の後遺症で障害が残っているものの普通に会話もできるし、自分で歩くこともできる。そして、現状の日米の格闘技に対する鋭い指摘、自分の将来の夢まで熱く語ってくれました。ブライアンの決して折れない心、そして常に前向きな姿勢は、ここ3日間でベイエリア出身格闘家が共通して持っていたアティテュード。偉大なる先達であるブライアンの魂は、ここベイエリアで脈々と受け継がれています。

★

［4日目］2月22日(木)／ラスベガス

この日はサンノゼから空路でラスベガスへ。空港からホテルまで向かう道の途中に、なんとカルビン・エアー氏の写真がデカデカと載った『ボードッグ』の巨大看板広告が出現！　豊富な資金力でUFCと『PRIDE』が大会を行なうラスベガスにも攻勢をかけているのだろう。恐るべし！

この日の公開練習はホテル前の大通り（通称ストリップ）に面した広場にリングを組んで行なわれた。熱心な格闘技ファンはもちろん、通りすがりの人も興味深く選手たちの練習を見つめていた。この日は練習をしなかったシウバだが、リングに登場するだけで大歓声！　それに驚いた通行人がさらに駆けつけて凄まじい人だかり。「ダンヘンに勝つ」と宣言したシウバにはチャック・リデルに関する質問も飛び交った。シウバは「一つの階級に二人のチャンピオンはいらねえんだ！　ヤツと俺が闘って誰が一番強いか決めりゃええんや」と訴えて大歓声を浴びた。リングを降りたあとも、ファンの中に飛び込んだヴァンダレイはサインや記念撮影などに応じまくること約40分！　体調不良の中でもファンに尽くすその姿勢は他のどんなファイターよりも突出していた。さすがプロの鑑だよ!!



★

［5日目］2月23日(金)／ラスベガス

この日の公式行事は公開計量&公開記者会見。全選手が一発で計量をパスした。直接顔を合わせるということで三崎和雄とフランク・トリッグが睨み合いを繰り広げるなど選手たちのあいだにもピリピリしたムードが漂う中、会場になんとあの男が出現！　そう、〝闘魂ストーカー〟ことヴァリッジ・イズマイウだ。あのギラギラした目で日本人プレスに「ジャングルファイトに来い」と猛アピールを繰り広げていた。さすがだ……。

★

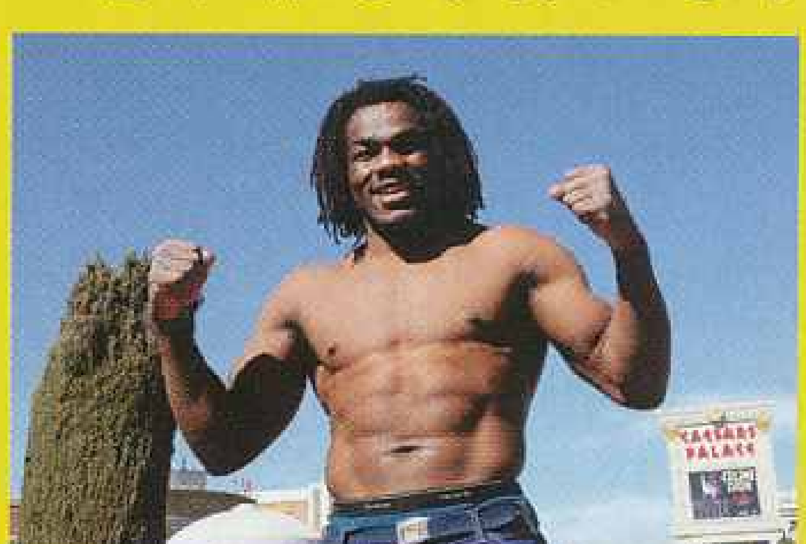
［6日目］2月24日(土)／ラスベガス

会場に向かう前、シーザースパレス内のスポーツ・ベッティングにて「俺ならディアスに賭けるね」というAKAハビア・メンデス会長の言葉どおり、ニック・ディアスにベット！　前日に会った『MMA WEEKLY』のスコット・ピーターソン氏に「ディアスにベットしようと思うんだ」と話したら「俺はそうは思わない。ゴミが勝つよ！」と笑っていたが……。会長の予言が、見事に的中した。

★

［7日目］2月25日(日)／ラスベガス

激闘が終わりシーザースパレス内のメディアセンターでは一夜明け会見が行なわれた。アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラをKOして一躍スターダムにのし上がったソクジュに報道陣も興味津々！　4月8日の『PRIDE・34』参戦が決定したソクジュもノリノリで「『PRIDE・34』は日本でやるのか？　じゃあ、『PRIDE・35』はアフリカで開催だべ！　闘いの舞台はリングじゃなくてサバンナ、観客はキリンとライオンだ～」と大ハシャギ。ソクジュ凱旋興行も夢じゃない。そのときもきっと会場の片隅にイズマイウの姿があるに違いない……。



PRIDE

“本誌・編集次長”
松林貴のギャンブル大将!! second season

私の“博徒”への旅はまだまだ終わらない……
今回も本誌編集次長・松林貴が俺流のスポーツ・ベッティングにチャレンジ!



『PRIDE.33』ラスベガス大会　オッズ表
★……松林がベットしたもの

五味隆典	1.33倍
ニック・ディアス ★200ドル	3.2倍
桜井“マッハ”速人	1.23倍
マック・ダンジグ ★200ドル	4.3倍
三崎和雄	1.45倍
フランク・トリッグ ★600ドル	3.0倍

[その他の試合のオッズ]

ヨアキム・ハンセン	1.2倍
ジェイソン・アイルランド	4.5倍
セルゲイ・ハリトーノフ	1.25倍
マイク・ルソー	4.0倍
マウリシオ・ショーグン	1.16倍
アリスター・オーフレイム	5.0倍
ヴァンダレイ・シウバ	1.4倍
ダン・ヘンダーソン	3.0倍

のるか? そるか? 松林貴の賭け収支表

★ギャンブル大将の必勝ポイント
➡ソクジュ一点勝負が不発!
急転、自爆覚悟の迷走ベッティング!

ニック・ディアス(3.2倍)に“200ドル”をベット!
➡200ドル×3.2=640ドル
➡440ドルの利益!

✚

マック・ダンジグ(4.3倍)に“200ドル”をベット!
➡200ドルの損失……

✚

フランク・トリッグ(3.0倍)に“600ドル”をベット!
➡600ドル×3.0=1800ドル
➡1200ドルの利益!

<収支結果>
損失「-200ドル」+利益「440ドル+1200ドル」
➡1440ドルの黒字!!

「ソクジュで1000ドル一点勝負してくるッ!!」

そう言い残し、機上の人となったのは前回のラスベガス大会のベット(コールマン、ランデルマン、バローニの〝筋肉三兄弟〟流し!)で大敗を喫してしまった〝ロマン派ギャンブラー〟こと本誌編集次長・松林貴。しかも前回、誌面では225ドル(約2万7000円)の損失となっていた金額は、「じつはその5倍だったんだよね」(松林)というから驚くばかり。

松林の今回の狙いは、(この段階では本誌以外はノーマークだった)熊殺しならぬ〝ライオン殺し〟ことソクジュの「1000ドル一点買い!」という、まさに〝自分殺し〟。

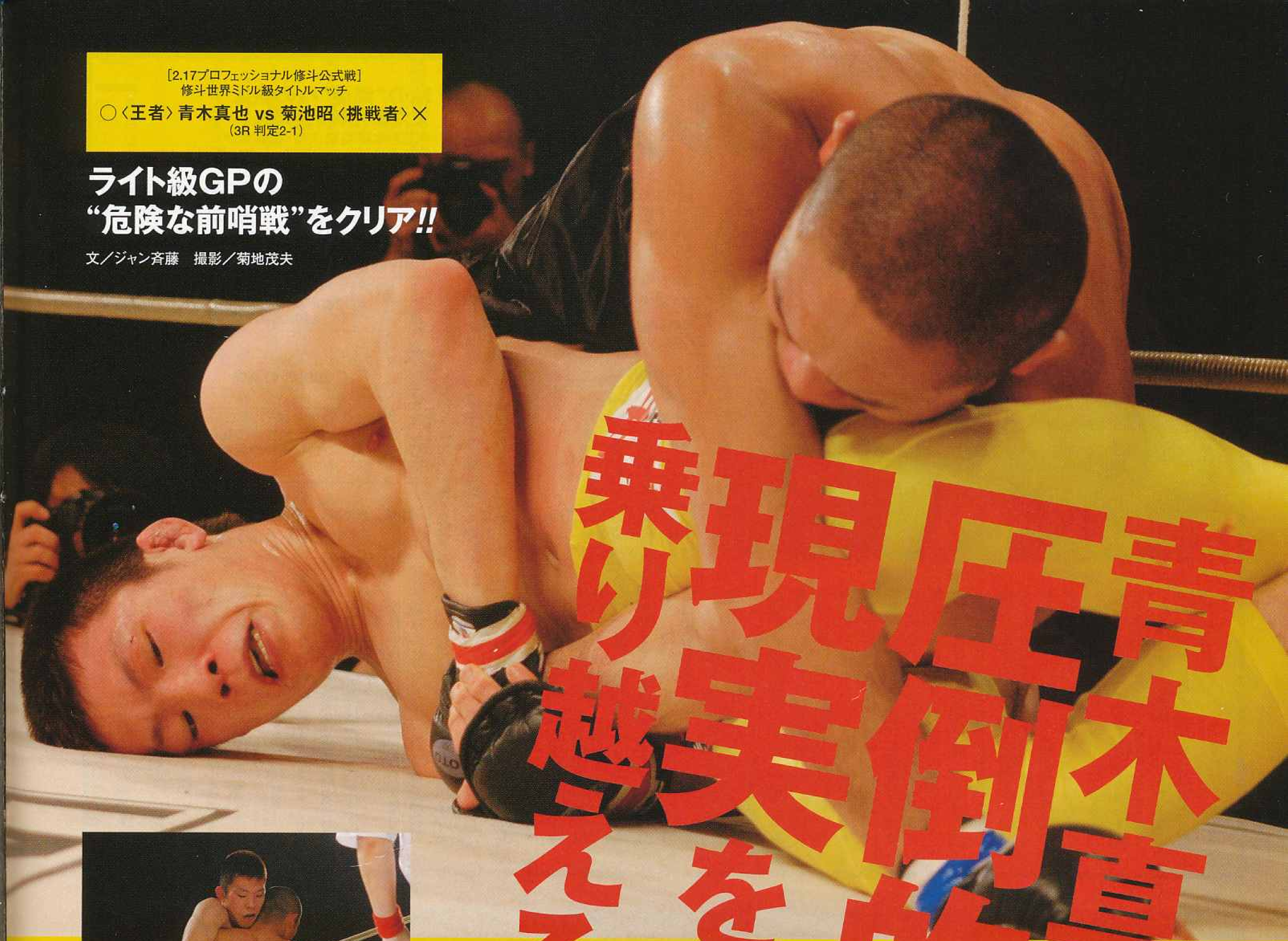
ソクジュのことで頭がいっぱいの松林は大会当日、シーザースパレス内のインド神の像の前で、〝どうかソクジュが勝ちますように〟とお祈りを始める入れ込みよう。だが、スポーツ・ベッティングの窓口で待ち受けていたのは「ソクジュvsホジェリオ戦は(両者の戦績差により)賭けとして不成立」という〝圧倒的現実〟だった……。

「自分の儲けよりも誌面が盛り上がればいい」という本誌思い(?)の〝張り場〟を失なった松林。失意の中、本誌編集統轄本部長・ジャン斉藤に国際電話をかけると、「某写真週刊誌編集次長のS波氏が、五味とシウバに大金を張っている」という正攻法すぎるベット情報を聞き、捨てバチな気分は3倍増!血迷った松林は、確実に勝利が予想されていた三崎、マッハ、五味ら日本人選手の〝相手側〟すべてに1000ドルを砂漠に捨てる覚悟でベット!

だが、この不可解すぎる行動が功を奏してしまい、なんと奇跡的に1440ドルの大儲け! そして神様へのお祈りのおかげ(?)でソクジュも秒殺KOの大勝利!

結果的に財布はパンパンに膨らんだが、ソクジュで一点勝負できなかった悔しさで心はどうにも晴れない。今後も「ムチャなテーマ設定でのゴールドラッシュ!」を目指す博徒の旅はまだまだ終わらない!!





[2.17プロフェッショナル修斗公式戦]
修斗世界ミドル級タイトルマッチ
○〈王者〉青木真也 vs 菊池昭〈挑戦者〉×
(3R 判定2-1)

ライト級GPの“危険な前哨戦”をクリア!!

文／ジャン斉藤　撮影／菊地茂夫

青木真也、圧倒的現実を乗り越える!!

『PRIDE』の存続を賭けたラスベガス大会が開催されたほぼ同時期に——『PRIDE』上半期の命運を握る闘いがひっそりと繰り広げられていた!!

PRIDEライト級戦線で活躍中の〝バカサバイバー〟青木真也が、修斗世界ミドル級チャンピオンとして、2・17修斗横浜パシフィコ大会に参戦。超実力者・菊池昭を挑戦者に迎えタイトルマッチを行ない、見事に防衛を果たしたのだ。

修斗内や格闘技界からだけの視点でこの一戦を見れば、〝1年ぶりの再戦〟であり、〝中量級世界一決定戦〟もしくは〝寝技最強バトル〟になるのだろう。

しかし、今後の大きな流れを追って考えてみると——今年のマット界の大目玉の一つである、PRIDEライト級GPの行く末が懸かった闘いだった。

もしここで青木真也が不覚をとるようなことがあれば、彼が中心人物の一人となるライト級GPに大きな影響を与えるのは必至だ。それに、菊池は1年前に青木に敗北を喫してから遠ざかっているとはいえ、『HERO'S』サイドの選手である。ライト級GPに、対『HERO'S』という図式——。青木真也には負けられない理由があった!!(TBS格闘技番組ナレーション調)。

……はずなんだが、試合前の青木は「また(=再戦)かよ?　という感じでボッキしてません。〝半勃ち〟です」と、モチベーションの低さを感じさせるコメント。大丈夫か、ボッ木……じゃなくて、青木!　と関係者は誰もが不安を胸に覚えたことだろう。

PRIDE上半期の命運を握る闘い、ひっそりと決着!!

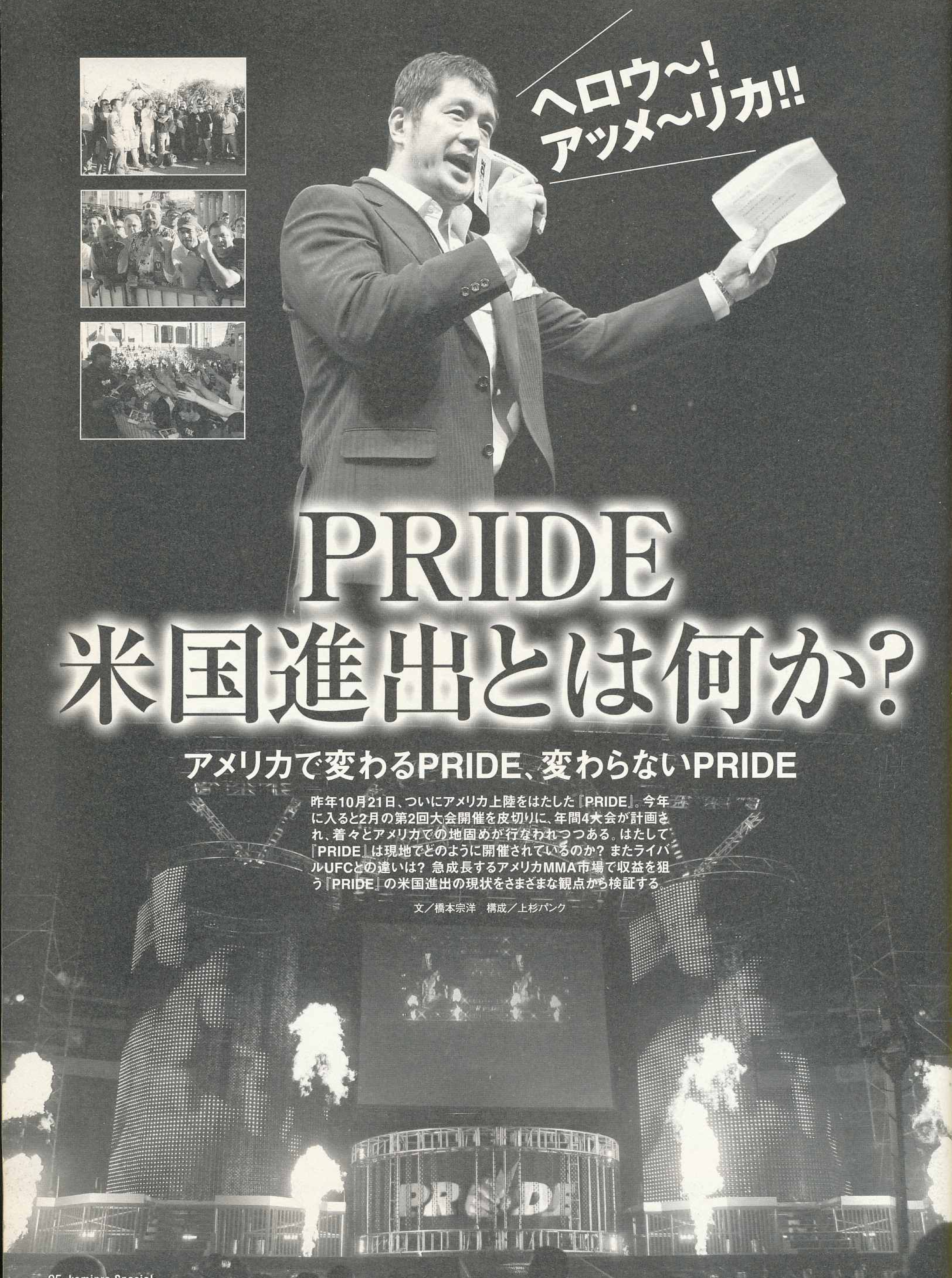
格闘技とは、周囲がどんな青写真を描いていようと、結局、リングには選手のそのときの〝現実〟しか浮き上がってこない。そして、〝圧倒的現実〟という言葉に代表されるように、リングには〝思うようにいかない〟ことがあたりまえのように浮き上がってくる。格闘技とは、観る者の希望を何度も何度も潰してきた歴史でもある。

今回の青木にしても、希望を打ち砕く〝圧倒的現実〟が舞い降りかねないポイントが数多くあった。だからこそ〝半勃ち〟ながら、ホイホイと涼しい顔で試練に挑み、楽々と乗り越えていく姿や、あの菊池相手に、奇っ怪で難解な関節技で極めかけたことには恐れいった。恐るべき青木の〝半勃ち〟!!

これまで〝圧倒的現実〟とは、ずっと〝負〟のイメージで語られてきた。しかし、そろそろ逆の意味合いで語りたい。そう思わせる青木真也の闘いぶり、希望をつくりだす〝圧倒的現実〟だったのだ。



寝ても立っても鋭い極め技で場内を沸かせた青木!　完全に試合をコントロールしていたが、判定はスプリット。試合後のコメントでは「意味がわからない」とご立腹。



ヘロウ〜！
アッメ〜リカ!!

PRIDE 米国進出とは何か？

アメリカで変わるPRIDE、変わらないPRIDE

昨年10月21日、ついにアメリカ上陸をはたした『PRIDE』。今年に入ると2月の第2回大会開催を皮切りに、年間4大会が計画され、着々とアメリカでの地固めが行なわれつつある。はたして『PRIDE』は現地でどのように開催されているのか？ またライバルUFCとの違いは？ 急成長するアメリカMMA市場で収益を狙う『PRIDE』の米国進出の現状をさまざまな観点から検証する。

文／橋本宗洋　構成／上杉パンク

コミッションとライセンス



第１回大会では、レスリングシューズの着用が許されていないため、コールマンが裸足に。また出血によるストップ多発を避けるため、ネバダ州では認められているヒジ打ちが禁止とされた。



02年にネバダ州での興行ライセンスは下りたものの、06年になってようやくリングの使用が認められた『PRIDE』。今年に入り、念願だったカリフォルニア州でのリング使用も認められている。

興行ライセンス取得に申請から18ヵ月

UFCの妨害工作は凄まじかった!

『ＰＲＩＤＥ』アメリカ大会開催までの道のりは、困難の連続だった。ＤＳＥはやりたがっているが、マスコミやファンは本気で実現するとは思っていない。そんなレベルだったのである。本誌の連載『ＵＳＡ Ｃｏｏｌ宅急便』の聞き手・デューク東郷にいたっては、こんなことまで言っている始末。

〈『ＰＲＩＤＥ』の米国進出はサクvs田村戦とかタイソン祭りとか永久電機とか、「さてさて、今年は実現するのでしょうか?」って感じで楽しむ風物詩だからねえ〉

会場を押さえ、広報活動を行ない、選手を集めれば大会が開けるというものではない。ＭＭＡもアスレチック・コミッションの管轄下に置かれるアメリカでは、複雑かつ多岐にわたる手続きが必要なのだ。

まずは大会を開くこと自体にプロモーター・ライセンスが必要。ＤＳＥの財務状況や代表者の職歴などさまざまな面での書類審査があり、面接があり、さらには取引先や株主への調査……。２００１年の申請からじつに18カ月を要して、ＤＳＥはネバダ州のライセンスを取得したのだった。

もちろん、競技そのものもコミッション管理のもとで行なわれる。ＵＦＣのような金網オクタゴンではなくリングの使用、４点ポジションでの頭部へのヒザ蹴り、踏みつけ、10分・５分・５分の試合形式など、『ＰＲＩＤＥ』独自のルールが認可されなければならない。

ＤＳＥがまず狙ったのは、ＵＦＣの地盤が強いネバダ州（ラスベガス）ではなく、カリフォルニアでの認可。専門の弁護士を雇い、ロビイストも使っての交渉で２００５年に一度は許可が下りたのだが、その後、一転して却下されてしまう。『ＰＲＩＤＥ』に好意的だったコミッションのメンバーが突如として解任され、通常とは違う手続きで新コミッショナーが就任したためだった。

このあたりの交渉は、まさに熾烈というほかない。ビッグマーケットであるカリフォルニアへの進出はＵＦＣも狙っており、『ＰＲＩＤＥ』上陸を食い止めようとさまざまな〝攻撃〟を仕掛けてきたという。ズッファ社の首脳陣はもちろんレフェリーのジョン・マッカーシーや各階級のチャンピオンなどがコミッションのミーティングに訪れ、「いかにＰＲＩＤＥルールが危険で野蛮なものであるか」を訴えたとか。

そういった状況を経て、『ＰＲＩＤＥ』はまずラスベガスでの大会開催に打って出た。カリフォルニアでの認可を待つのではなく、現行のネバダ州ＭＭＡルールに則り、一日でも早くアメリカでの第一歩を記そうという選択である。５分３Ｒの試合形式、４点ポジションのヒザや踏みつけ禁止などルールの違いはあったが、〝敵〟であるＵＦＣの本拠地ラスベガスでの大会は大成功を収めた。

だが、もちろんこれですべてが軌道に乗ったわけではない。アメリカのファンも望んでいる、本来のＰＲＩＤＥルールでの試合実現。より多くの州で認可を受けること。アメリカ進出は、これからが本番だと言っていい。

日米ルール比較表

	PRIDE日本	PRIDEラスベガス	UFC
4点ポジションでの頭部へのヒザ	○	×	×
ストンピング	○	×	×
シューズ、道衣の着用	○	×	×
ヒジ	×	×	○

メディア環境の変化

FOXスポーツとの提携で認知度増大

膨れ上がった米国に生き残りを懸けて米国市場参入

地上波放送で認知度を高め、ペイ・パー・ビュー（PPV）で大きな収入を得る。この放送形式を日本マット界でいち早く取り入れ、定着させてきたのが『PRIDE』である。もちろん、その先駆けはアメリカにおけるスポーツ中継。UFCも、無料放送のケーブルテレビ局『スパイクTV』で放送された選手育成リアリティショー『ジ・アルティメット・ファイター』の成功によって認知度を飛躍的に上昇させている。

DSEもアメリカ支社を設け、以前からDVD発売など定着への作業を地道に重ねてきた。2000年からは、日本大会のPPV中継がアメリカでも行なわれている。だが、より幅広い人気を得るためには無料視聴できるメディアが重要だった。

そこで『PRIDE』が得た強力なパートナーが、FOXスポーツネットワーク（FSN）。FOXブロードキャスティングのケーブルテレビ部門で、全米8000万世帯が加入している。MLBやNBA、NFL、NHLなどのメジャースポーツを放送しているFSNにおいても『PRIDE』への評価は非常に高く、毎週日曜日の夜6時、9時という放送枠が用意された。一昨年8月に開催された記者会見には番組制作副局長のマイク・グリーンバーグ氏も出席し、「全米で『PRIDE』の名を知らない者はいない、というところまで知名度を高めたい」と力説。榊原代表も「DSEとして新たに踏み出した第一歩」と、その重要性を語っている。

全米での放送開始といっても、当時は日本のファンにとって「へぇ、そうなんだ」という、〝海の向こうの出来事〟でしかなかったはず。その重要性がはっきりと認識されるのは、昨年6月、フジテレビによる放送が突如として打ち切りになってからだ。超のつく強力なメディアを失なった『PRIDE』にとって、アメリカ進出が〝将来の展望〟や〝夢物語〟ではなく、決して避けては通れない大勝負になったのである。UFCが大ブームを巻き起こし、PPV収入の増大によって巨大帝国と化した中、膨れ上がった市場に参入することは『PRIDE』の生き残りを懸けた闘いだった。

ご存知のように、昨年10月の『PRIDE』ラスベガス大会第1弾は大成功。会場には熱狂的なファンが詰めかけた。その成功には、FSNの無料放送で得た認知度イコール「PRIDEファンの拡大」も大きく手伝っていたはず。放送開始から1年で、6時からの放送は視聴率が2倍にはね上がり、ボクシングよりも数字を稼いでいるというから驚異的だ。

日本での地上波放送復活も当然ながら急務である。しかし、市場規模やMMAが人気スポーツとして凄まじく勢いを増している現状（MMAが広告主にとって重要な、18歳から34歳の層を惹きつけているのもポイントだ）を考えると、『PRIDE』が日本以上にアメリカでメジャー・ブレイクする可能性はおおいにありそうだ。

米MMA団体とケーブルテレビ局提携リスト

UFC	スパイクTV
WEC	ヴァーサス
エリートXC、ストライクフォース	ショウタイム
ボードッグ	ION TV
PRIDE、IFL	FOXスポーツネットワーク

『TUF』で大成功を収めたスパイクTVは、その後もUFC関連の番組を制作し、いまやその数、週6本! また『TUF』の契約もすでに09年まで結ばれており、スパイクTVは“UFCTV”とまで呼ばれるように。そうしたMMAのテレビソフトとしての優良性に目をつけて、各局が参入。一気に市場が過熱している。



昨年、初のラスベガス大会の直前にDSEは、カリフォルニア州で、FOXスポーツの全面協力のもと公開記者会見を開催。極めて日本的な広報スタイルでタイソンを投入したが……。



05年8月、FOXスポーツとの提携を発表した榊原代表。NFLなどで人気のあるキャスターが起用されるなど、同局の期待の高さがうかがわれた。

世界のファイターが集結





皮肉にもUFCのミルコ獲得への布石に……

ヒョードル人気爆発で米MMAシーンに変化!

「アメリカ人は、アメリカ人のすることにしか興味を持たない」

それが、『PRIDE』アメリカ進出までの常識だった。サッカーよりもアメリカンフットボール。F1よりもNASCAR。ア・リーグとナ・リーグの優勝チームが闘うことを『ワールドシリーズ』と呼ぶ。そんな国においては、『PRIDE』もまた〝アメリカ人による、アメリカ人のための〟大会を開くことが不可欠だと思われていたのだ。つまり、成功にはジョシュ・バーネットをはじめとしたアメリカ人スター選手の活躍が必須であり、新たなアメリカ人強豪選手の発掘が重要だと。

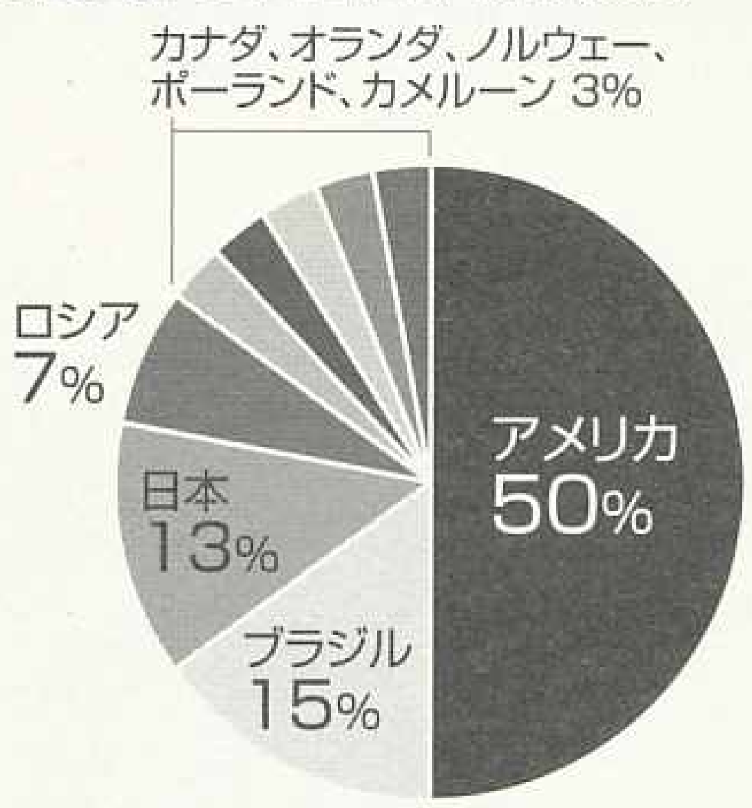
だが、大会に向けての動きが活発化すると、そんな常識は完全に吹っ飛んでしまった。昨年8月、ロサンゼルスで開催されたファン公開型の記者会見で最も歓声を浴びたのはエメリヤーエンコ・ヒョードル。公開計量＆記者会見、それに大会当日も、それは同じだった。ヒョードルやマウリシオ・ショーグン、ゲストとして登場したヴァンダレイ・シウバ、ミルコ・クロコップといった〝非アメリカ人〟ファイターたちが、アメリカ人選手以上の人気を集めたのである。国籍や人種に関係なく、真の強さと個性を持った選手であればファンの支持を得られるのが『PRIDE』という舞台。それはアメリカにおいてもなんら変わることがなかった。ファンは選手がこれまでどんな試合をしてきたかを、我々の予想以上に理解していたのだろう。

アメリカのPRIDEファンは、単に「同じアメリカ人だから」という理由で応援するのではなかった。ヒョードルの圧倒的な、他を寄せつけない強さにこそ、彼らは幻想を抱いたのだ。それは前年のミドル級GPを制覇したショーグンや〝絶対王者〟シウバ、〝妖刀〟左ハイキックという絶対的な武器を持つミルコに対しても同様。

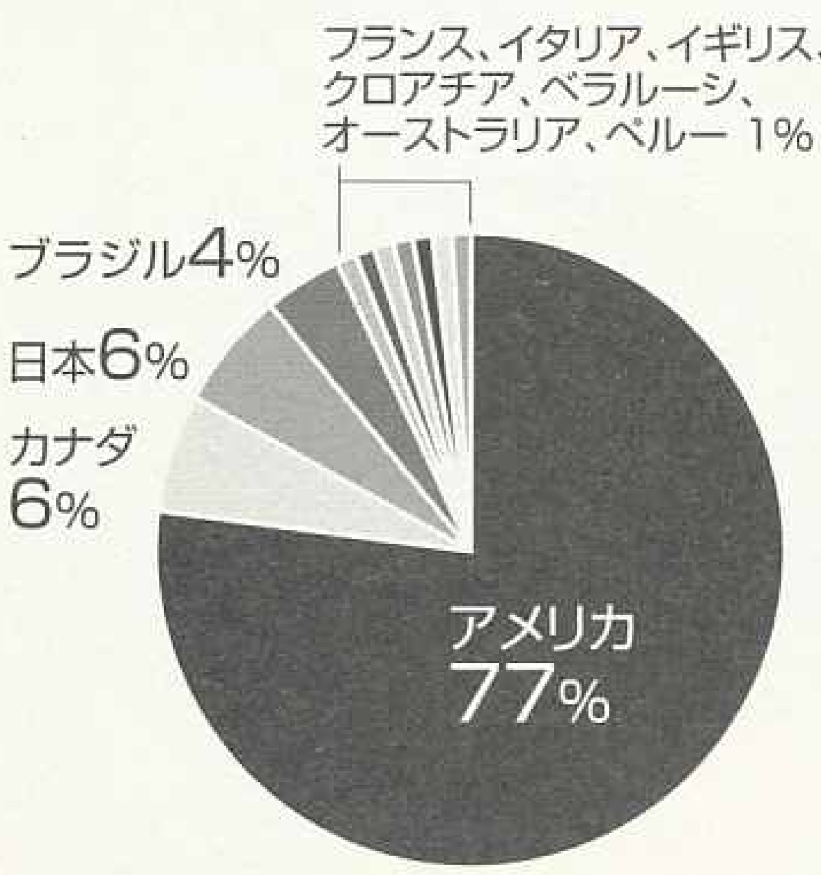
別表にもあるように、UFCはこれまで、あくまでもアメリカ人中心で試合が組まれてきた。一部の大会では、実力のある外国人ファイターよりもアメリカ人選手同士の対戦が組まれやすい傾向があったともいう（いずれにしてもアメリカ人が勝つ→アメリカ人の観客が喜ぶという単純すぎる理由で）。そんな流れを、『PRIDE』は変えた。ファイターの魅力に国籍や人種は関係がないことを、他のプロモーションも気づき始めたのである。そのことが、UFCのミルコ獲得につながってしまったのは皮肉な話だが……。

PRIDEアメリカ大会&UFC選手出身国比較表

PRIDE第1&2回ラスベガス大会



UFC過去5大会



国際色豊かな日本大会と比べて、地元アメリカの選手を大量に起用している『PRIDE』ラスベガス大会だが、その数は半数。一方、UFCのアメリカ人選手起用率は約8割!! 多すぎ!!

観客と興行収入



『PRIDE』にとって、UFCはアメリカでの覇権を争うライバルである。だが、決してそれだけではない。MMAというスポーツをアメリカに根づかせた、偉大なる先駆者でもあるのだ。

ブラジル、ロシアなど世界各国からファイターが集結し、凝った演出を行なう『PRIDE』では、当然ながら大会開催の費用もかなりの額になる。それをまかなうためには、相応のゲート収入（チケット売り上げ）が必要だ。だが数年前までのアメリカMMAシーンでのチケット料金は、最大のイベントであるUFCでも、オクタゴンサイドで300ドル（最も安い席で30ドル）。だが『TUF』をきっかけに大ブレイクをはたすと、それがオクタゴンサイド750ドルにまで達した。UFC人気によってチケット料金が上がったからこそ、『PRIDE』はクオリティを落とすことなく、ラスベガスで大会を開くことができたのだ。

ただ、会場に集まったファンは、ライト層中心のUFCとは大違い。主催者発表1万1727人（コミッション発表の有料入場者数は8079人）の多くはコア層、いわゆる〝格闘セレブ〟だったのだ。選手がロシア人であろうがブラジル人であろうが魅力的なファイトをすれば声援を送り、ダン・ヘンダーソンvsビクトー・ベウフォートが展開したグラウンド・テクニックの攻防を固唾を飲んで見守る、そういうファンである。ものの10秒も膠着すればブーイングという従来のイメージからすれば、信じられない光景だった。

加えていえば、グッズの売り上げも日本大会の約10倍を記録したという。『PRIDE・33』を成功に導いたのは、「ライブで『PRIDE』を観たい！」と願い続けたコアファンの飢餓感だったのだ。

UFCの入場料上昇でPRIDE開催が可能に！

PRIDE第1回ラスベガス大会『PRIDE.32 "THE REAL DEAL"』データ　※ネバダ州アスレチック・コミッション発表

開催日時	2006年10月21日
興行収入	約206万ドル（約2億4700万円）=ネバダ州歴代8位
来場者数（主催者発表）	11,727人
有料入場者数	8,079人
チケット料金	700ドル、350ドル、150ドル、70ドル

UFCが1週間後にPPV興行をぶつけてきた第1回『PRIDE』ラスベガス大会。激しい興行戦争にも関わらず、興行収入歴代6位（当時）を記録し、大成功を収めた。

変わらない演出



たとえアメリカでも、日本でやっているのと同じ『PRIDE』をもっていかなければ意味がない」

それが、アメリカ進出にあたっての『PRIDE』関係者の合言葉だった。日本で熱狂的なファンを生んだ『PRIDE』、そのエッセンスは、アメリカでも変えてはいけない。『PRIDE』らしさをなくすことなく、勝負しなければいけない（だからこそアメリカでもアピールできるはず）ということだ。

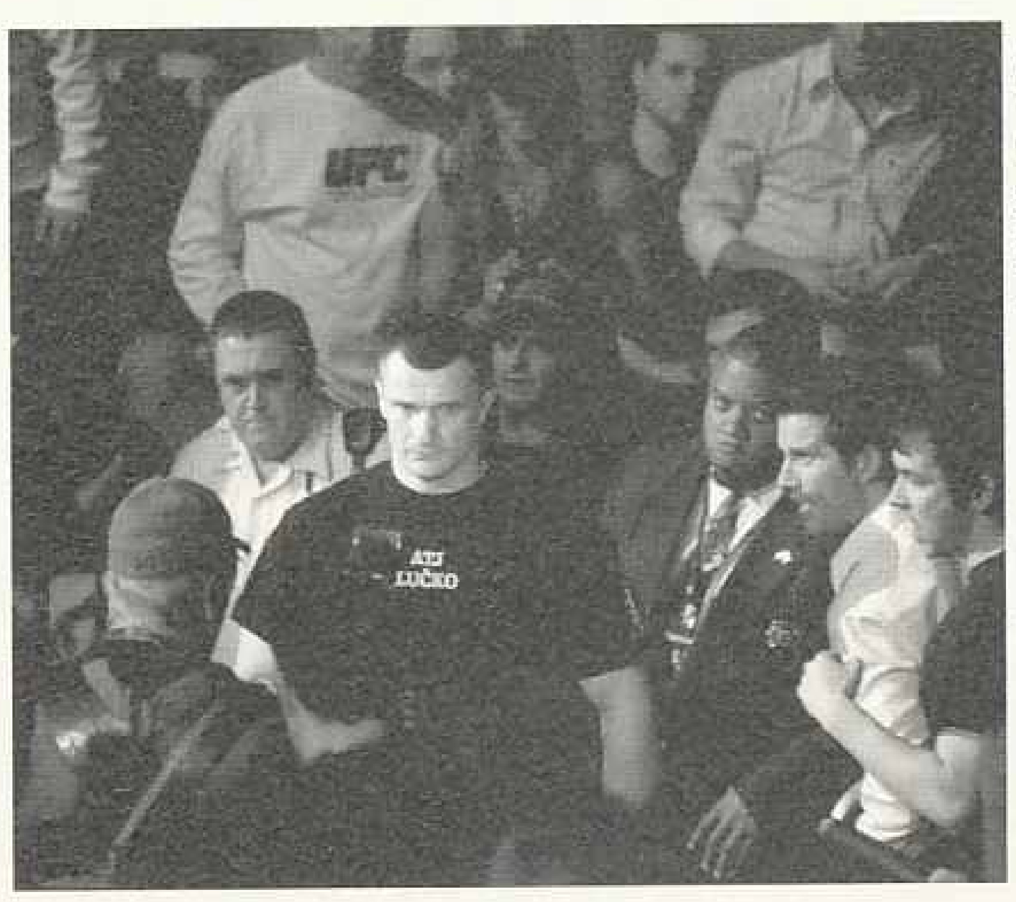
『PRIDE・32』では、これまでと同じくアメリカ人選手に偏りすぎることのないマッチメイクがなされ、それが観客に支持された。もう一つ、見逃してはいけないのが大会の〝演出〟だ。UFCでは（WWEとの差別化もあってか）演出はシンプルそのもの。選手入場も単なる〝通路〟といった感じだ。

だが、『PRIDE』はあくまでも『PRIDE』のままだった。オープニング・セレモニーではステージに花火が飛び交い、選手は広くて長い花道から入場。メインイベントでヒョードルが登場する際には、なんと入場ゲートに雪が降るという演出がなされた。

さらには、単なる〝選手紹介〟にとどまらず試合のテーマを掘り下げ、ことんまでエモーションに訴えかけようとする〝煽りV〟。ここでマーク・コールマンの親子愛を煽ったことが、激闘を終えて娘たちと抱き合う感動的なエンディングを呼び込んだのである。

その演出は「UFCのライブショーがかすんで見えたよ」という人間もいるほど、アメリカのファンや関係者にインパクトを与えた。アメリカ進出に向け、さまざまな困難にぶつかってきた『PRIDE』だが、最も大事だったのはやはり〝『PRIDE』らしくあること〟だったのである。

日本と同じPRIDEをやらないと意味がない！



プロレスを源流に持つ、日本格闘技界ではステージも花道も派手にショーアップ（写真上）。一方、〝スポーツ〟を打ち出す米MMAイベントの入場シーンは地味そのもの（写真下）。これじゃ選手も盛り上がらない!?



凄いんだけど UFCは凄くない!!

“アメリカMMAシーンの御意見番”

フランク・トリッグがUFC幻想に鉄槌!

ミルコの移籍に象徴されるように、UFCの巨大化は目を見張るばかり。実際、海外発の景気のいいニュースが日々飛び交い、アメリカはMMAバブルの真っ只中の様相。しかし、その見方に異議を唱える男がいた！『PRIDE』アメリカ放送の解説を務めるトリッグが米PPV業界の構造から『PRIDE』再逆転の構想まで大放談!!

聞き手／デューク東郷　撮影／乾 晋也　協力／MMA WEEKLY

――フランク！　今日は、『PRIDE』アメリカPPV中継コメンテーターのアンタに、〝アメリカ格闘技情勢〟を聞こうと思ってるんだよね。

トリッグ　どーでもいいけど、俺がまだ現役のファイターだってことも忘れないでくれよ！

――そういえば、『PRIDE』ラスベガス大会では三崎和雄と闘うね。まあ、一生懸命、頑張って！……それでアメリカの話題なんだけどね。

トリッグ　（さえぎって）なんだよ！　そのそっけない態度は。もっとミサキ戦のことを聞いてくれよ。

――いや、それがこの速報号はその試合後の発売なの。かつて〝中量級世界一〟と呼ばれたアンタの活躍はもちろん願ってるけどさ。

トリッグ　もちろん、あたりまえのように勝つ！　それで試合後には中継席に戻るつもりだよ。

――ムチャだよ、それ（笑）。アンタの代打解説として、口達者なジョシュ・バーネットが出演するんだから、彼に全試合任せておけば？

トリッグ　い〜や！　ジョシュなんか任せられない。あの〝席〟は俺のものだよ!!

――ダハハハ！　ジョシュに取って代わられる危機感があるのかよ（笑）。（※結局、トリッグは三崎に完勝。その後、解説席に戻り、マシンガントークでジョシュを呆れさせた）。そんな話はともかく、ミルコ・クロコップがついにオクタゴンに上がったけど、試合をライブで観たそうじゃん？

トリッグ　ああ、観たよ。俺はラスベガスが地元で、会場が家から近いからな。

――それでミルコのUFCデビューはどうだったの？

トリッグ　まず言えることは、UFCで最初の〝リアル・ストライカー〟はチャック・リデルだったが、ミルコが来たことでリデルがナンバーワンではなくなったってことかな。

――それはつまり、リデルはミルコに打撃ではかなわないってこと？

トリッグ　ところが、それはそうでもないんだ。キックの試合なら、リデルに勝ち目はない。だが総合の打撃は、純粋な立ち技とは違う。MMAの経験はリデルのほうが長いから、どっちが上かはわからないな。とくに金網ならリデルのほうに分があるといっても過言ではない。

――やっぱり、オクタゴンでは経験にまさるリデルが有利になるのかな？

トリッグ　リデルの試合を観ていればわかるんだが、彼のフットワークはオクタゴン仕様なんだ。リングで踏むステップとは違う。そしてそれが、リデルが『PRIDEミドル級GP』で苦戦した理由でもある。

――うん。リデルは（クイントン・〝ランペイジ〟・）ジャクソンにKO負けしたし、初戦のアリスター・オーフレイムにも大苦戦してたね。

トリッグ　オクタゴンでしか闘ってなかった彼は、リングでの闘い方に慣れていけなかった。もし自分が『PRIDE』のリングにいたとしよう。リングは正方形だ。ロープを背負わされても、コーナーに追い詰められない限り、左右には常にスペースがあるから、たいした問題はない。でもオクタゴンでは、その正八角形という性質上、後ろに下がると左右が狭くなっていくんだ。

――よくオクタゴンで闘った選手が口にす

る〝圧迫感〟ってやつね。横の動きが制限されてしまうという。

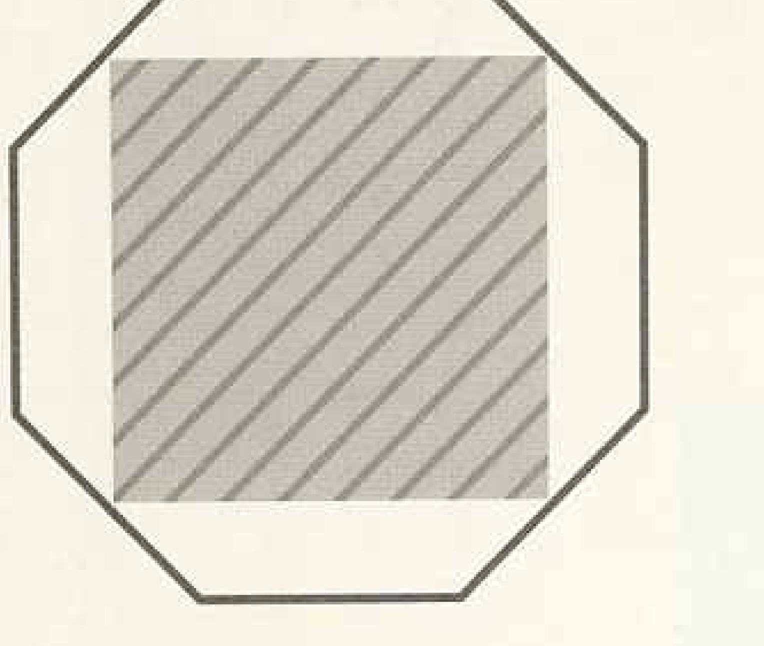
トリッグ　そうさ。オクタゴンでは、リングのようにロープ際まで下がって、ターンするようにかわすことは難しい。

──そういえば、昨日の試合で、オクタゴンデビューしたミルコが、円を描くように逃げていたエディ・サンチェスを捕らえきれず苦戦したね。

トリッグ　ああやって逃げられちゃあ、さすがのミルコもどうしようもないさ。『PRIDE』なら注意やカードが出されるだろうけどね。ただミルコも、これからはオクタゴンのステップワークに慣れないといけない。オクタゴンとリングの最大の違いは広さじゃないんだ。形の問題なんだ。そのことを学習しておかないと、あとで痛い目をみることになるだろうな。

──なるほどねえ〜。形以外にもリングとオクタゴンで大きな違いってあるの？

トリッグ　そうだな。金網だと身体の逃げ場がないことだな。たとえば、モハメド・アリはロープに追いつめられても、パンチをスウェーでかわすことができた。それはロープには〝たるみ〟があるからね。でも金網ではまったく身体を動かせないから、詰まってしまって打撃をもらってしまう！



『PRIDE』のリングは7メートル四方で、その対角線の長さが約10メートル。その距離は、オクタゴンの一辺とその向かい側の辺との距離とほぼ等しいため、リングとオクタゴンの広さの違いは上記のようなイメージとなる。

──実際、金網際での決着は多いしね。

トリッグ　それからタックルで押し込まれたときもそうだ。リングの場合、ロープの下にスペースがあるからそこから足を出して踏ん張ることもできる。でも金網の場合、押し込まれると足が金網際で揃ってしまい、棒立ちの状態となって簡単にテイクダウンされてしまうわけだ。

──なるほど、なるほど。

トリッグ　金網に押し込むだけなら、テクニックがなくてもいいし、もの凄く簡単なんだ（笑）。ティトがかつて強かったのは脇を差して、金網に押し込む馬力があったからだ。で、押し込んだら金網を利用してテイクダウンするだけさ。でもリングではそれはできない。

──すると、ミルコも圧力の強い選手との対戦では、とくに注意が必要！ってこと？

トリッグ　そうだな。ミルコは（ティム・）シルビアか（ランディ・）クートゥアーの勝ったほうと闘うことになると言われているそうだが、気をつけないとな。とくにグレコローマン・レスリングのベースもあって、ケージでの経験が長いクートゥアーには。あとはミルコがどれだけ学べるかだ。

──フランクからすると、ミルコは対応できると思う？　多くの日本のファンは「誰と闘ってもミルコが圧勝する！」って思ってるみたいだけど。

トリッグ　K−1から『PRIDE』に移籍したときを思い出せばわかることだけど、ミルコの学習能力は極めて高いよ。それと、俺は学習するということが今回のミルコ移籍の鍵になっているとも考えているんだ。

──ほほう。その話、ちょっと詳しく聞かせてよ。

トリッグ　ミルコの移籍には、これはあくまで個人的な意見だが、二つの理由があると考えている。一つは、『PRIDE』でミルコにとってイージーファイトがもう残ってなかったということ。ミルコはもっと経験を積まないとヒョードルに勝てないことがわかったんだろう。でも、エディ・サンチェスのような簡単に倒せるファイターがPRIDEヘビー級にはいなかった。強敵とやるか、もしくはミノワマンのような勇敢な選手を待つかだ。

ミルコの移籍には二つの理由がある
金だけでなくマッチメイクの問題だ

──『PRIDE』でのマッチメイクが限られてきていたのは確かだね。

トリッグ　でも無差別級GPを制したあととなっては、もはやマッチメイクが難しい。だからUFCに移って、ヒョードルとの試合の備えて、さらに経験を重ねておこうというアイデアがあったと思う。

──それがUFCに移った理由？

トリッグ　一つはね。ヒョードルという目標がある以上、ミルコは『PRIDE』に戻ってくる。UFCとは2年で6試合の契約を結んでいるらしいが、ミルコはそれを年内で早く消化してヒョードル戦を望んでいると聞いているし。

──必ずリベンジを果たしに『PRIDE』に戻ってくる、と。

トリッグ　そして、もう一つの移籍の理由は、言われているように金銭的な理由だ。ファイトマネーだけで、数十パーセントも上がったわけだからな。さらに莫大な契約金もある。プロとして条件のいいほうに行くのはあたりまえの選択だろう。

──じゃあ、アンタもUFCからオファーされたら動くのね（笑）。

トリッグ　いや、動かないよ。俺には解説者としての仕事のほうが大事だからな（笑）。なんてたって、（ケーブルテレビ局の）FOXスポーツ・ネットワークの番組では毎回300万人の視聴者が俺のことを観ているわけだから。

──300万人！　目立ちたがり屋のアンタとしては、さぞかしやりがいのある仕事だ（笑）。

トリッグ　一言多いよ！（笑）。とにかく、知らないと思うけど、ミルコの移籍は3ヶ月前に俺が「1年以内に起こるだろう」と予言していたんだ。なぜなら、いまは多くの団体ができていて、完全な売り手市場になっているからだ。つまり、アメリカのファイターにとってはいい環境が整ってきている。UFCが巨大化していて、もう一つのメジャー『PRIDE』もアメリカに進出してきた。IFLやエリートXCなど新興の大きな団体もできて、やっとちゃんとした市場ができてきたんだ。そもそも、このビジネスでは、こういった選手流動化の動きは鈍かったんだ。というのはアメリカではUFCの一極支配がずっと続いていたからね。でも、これからはPRIDEファイターもUFCに来るし、UFCフ

ファイターも『PRIDE』に来るようになるさ。

――でも、金銭面での条件に応じてということになるんでしょ?

トリッグ もちろん、マネーは大事さ。俺のマネージャーにも毎日、試合のオファーがきてるよ。「ウチのリングで闘ってほしい」ってね。

――ホントかね、それ（笑）。

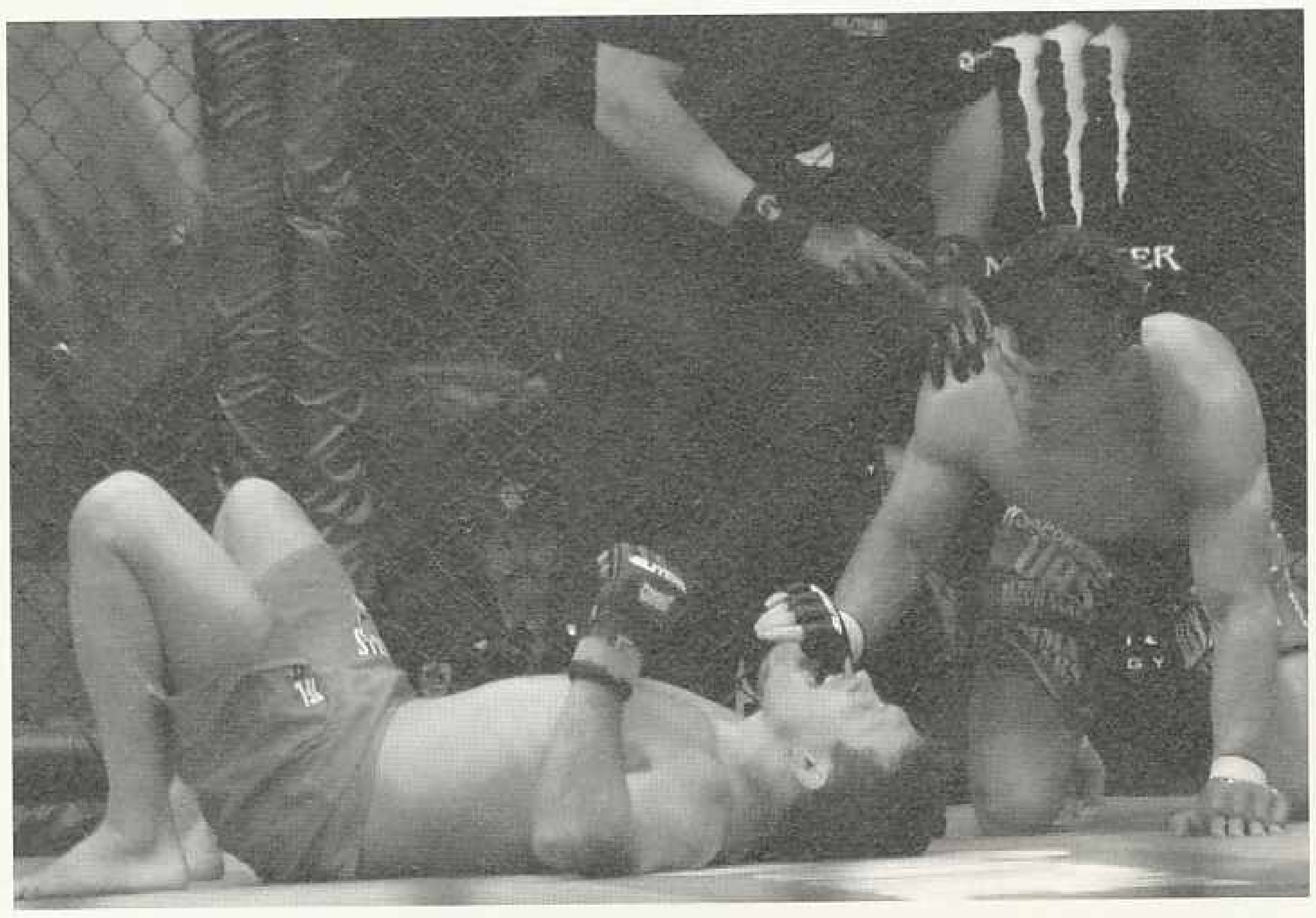
トリッグ ホントだって！ 金銭面以外でも「最強と言われるヒョードルと闘いたい」とか、「自分はミドル級だから、楽に倒せそうなアンデウソン・シウバがチャンピオンのUFCに行くよ」とか、そういう理由で動くファイターもいるだろう。

――そこで日本のファンの一番の心配しているのは、『PRIDE』からUFCなどに選手が大量流出することなんだよ、フランク。

トリッグ それはないね！

――ない！ じつに自信を持って言い切ったね（笑）。

トリッグ なぜなら、興行数を増やしているUFCだって、そんなに選手を抱えきれない。それに今回ゴミ（五味隆典）と闘うニック・ディアスのようにUFCから『PRIDE』に上がるようになる選手も出てくるわけだからね。



有力ケーブルテレビ局ショータイムの支援を受けて、鳴りもの入りで旗揚げしたエリートXCだが、メインイベントのフランク・シャムロックvsヘンゾ・グレイシー戦は反則決着による不完全燃焼に。『PRIDE』、UFCらトップブランドとのクオリティの差は明確だ。

PRIDEとK―1も争っていたがアメリカでは毎日が大晦日状態だ

――ただ、さぁ、巨大資本をバックにした新興団体が引き抜き攻勢に出てくることも考えられるわけじゃん。

トリッグ いやいや、海のモノとも山のモノともわからない団体にフララしないよ。ファイターたちは、どの団体がちゃんとしていて、どの団体がいいかげんかよくわかっているからね。いまだに、「来月、大会を開きます」って選手をブッキングしておいて、前の週になって「延期します」ってことは多いんだ。新興団体と違って、『PRIDE』もUFCならそういうことはないし、信頼がある。だからベストファイターを揃えることができるんだ。

――それがブランド力につながるわけね。

トリッグ それに『PRIDE』は日本で地上派テレビ放送をいずれ取り戻すだろうし、ファイナンシャルの面ではさらに安定すると思う。やはり『PRIDE』とUFCだけがトップブランドさ。

――世界的にも、その二強体勢は変わらないと？

トリッグ そうだな。それにMMAシーンにも競合が必要だろ。アディダスなしにナイキがないように、『PRIDE』なしにはUFCもない。競い合わないと業界が発展しないからな。

――日本でいえば、かつてのK―1と『PRIDE』の関係か。

トリッグ そう！ ただし、『PRIDE』とK―1の本当の勝負は大晦日だけだった。でも、ここアメリカでは毎日がシェアを奪い合う闘いだよ。

――毎日、大晦日状態（笑）。そんな〝MMAバブル〟の中で、『PRIDE』がシェアを広げていける実感はフランクの中にあるかい？

トリッグ う〜ん、すぐには難しいな。というのは、それはいまUFCが日本に来て興行を行なったときのことを考えてみればわかるはずだ。東京でリデルが試合をするとしよう。ファンは「コイツ、誰？」って感じだろう。

――おそらくそうだろうね。

トリッグ 昨日のUFCでもランペイジが吠えていたら、「『PRIDE』に戻ってこい！」って声が一部で上がったけど、ランペイジが『PRIDE』にいたことを知っている人は一部だよ。ましてや、WFAにいたことは誰も知らないね（笑）。

――まあね（笑）。

トリッグ つまり、新規参入組が認知を得るのは本当に大変ってことだ。ミスター・サカキバラがアメリカ市場の大きなパイを求めているのはわかるけど、なかなか時間がかかるよ。

――要するに、UFC層と『PRIDE』層ではファンがカブってないということなんでしょ？

トリッグ いや、『PRIDE』を観ている人はUFCも観ているけど、UFCを観ている人の多くが『PRIDE』を観ているわけではない。なぜならUFCファンの大部分は、新しいライト層のファンだからね。彼らはUFC以外の団体には目が向いてない。というより、『TUF』ファイターしか知らないよ（笑）。

――リアリティショーが入り口になってるわけだしね。では、どうやったら『PRIDE』はその層を取り込めるかね？

トリッグ それは、つまるところテレビ契約だろうね。UFCがスパイクTVの『TUF』でファン層を獲得したようにね。さっき話したFOXスポーツ・ネットワークでの番組は、月に2回の放映がこれから月に4回になるけど、とにかく露出を増やすことが第一。

――総合格闘技イコールUFCという認識を変えることが大事だと。

トリッグ そして団体にとって大事なのは、いい試合を提供することだよ。『PRIDE』を観始める人にとって、大物が出るとかは関係ないし、毎回、ヒョードルが出場する必要もない。ただ毎回、一つの興行の

中に必ずエキサイティングな試合が必要なんだ。それで初めてファンに認められて、クチコミやネットで確実に伝わっていくからね。

——つまり日本でやってきたように『PRIDE』のクオリティの高さをしっかりと示すことだね。

トリッグ　それからシェアの奪い合いは熾烈なんだけども、MMAマーケット自体の拡大が大事だね。MMAビジネスは成長しているといっても、ほかのスポーツと比べれば、まだまだ小さい。4大メジャースポーツはもちろん、NASCAR（自動車レース）やサッカーよりも人気は低いからね。

——サッカー以下！　アメリカでサッカーって人気ないんでしょ？　規模が拡大したといっても、アメリカではそんなに人気がないの？

米国でもMMAの人気はまだ低い PPV120万件も本当は……

トリッグ　今後、爆発的に人気が出る可能性はあるけど、まだスポーツの中では10位台なんだ。たとえば、火曜日の午後にスタジアムに行けば、ベースボールファンが大勢集まっている。べつに野球なんか好きじゃない俺だって、去年だけで15回ぐらいはスタジアムに行っているんだ。でも、UFCは週末でも1万2000人をアリーナに集めるので精一杯。

——とはいえ、MMAシーン全体ではアメリカ市場が一番大きいじゃない。

トリッグ　それは違うね。昨日UFCに行ったろ？　日本と比べて、どっちの会場が大きかった？

——会場だけなら日本のほうが大きいよ。でもビジネスモデルが違っていて、アメリカではPPV件数のケタが違うわけだから。

トリッグ　……PPVの数字についていうと、真実はわからないんだ。ネットメディアに載っている数字は、あくまで関係者から洩れている数字だから、本当のところはわからない。

——じゃあ、『MMA WEEKLY』発表の数字を載せている『kamipro』の情報も本当かどうかわからないと（笑）。

トリッグ　UFCがこれまで獲得した最高のPPV売り上げ件数は、120万とも言われているが、実際は昨年末の70万件ぐらいらしい。

——約半分！　でも、UFC66で70万件もあれば、それは莫大な利益じゃんかよ！

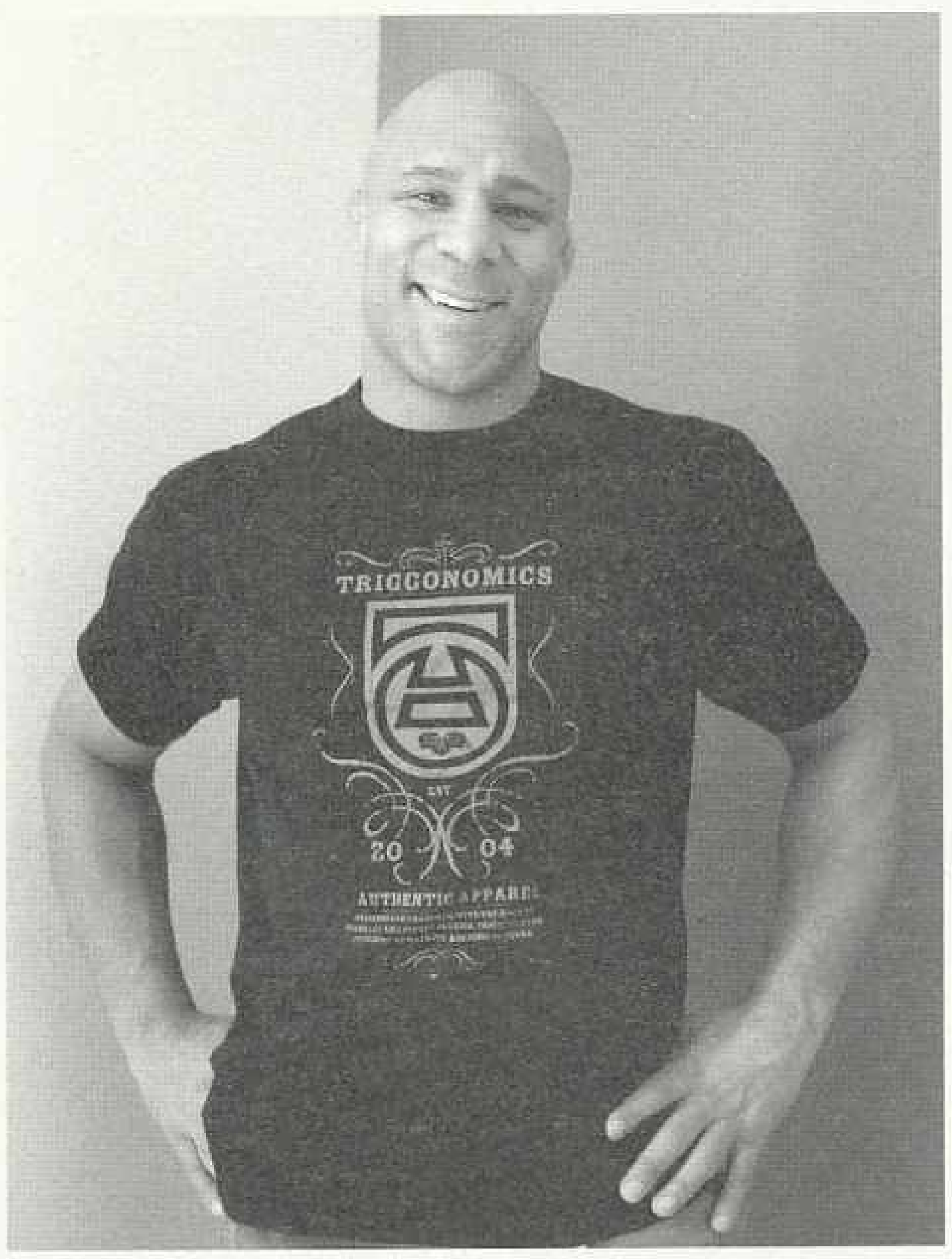
トリッグ　でも、PPVよりフリーテレビのほうが儲かるんだ。たとえばボクシングでいうと、ホリフィールドの試合はもうPPVではやらない。なぜか？　FOXテレビがやるからだ。つまりPPVをやって得る利益よりも、フリーテレビの制作費のほうが大きいというわけだ。PPVだと視聴者が払った金額を回収して、プロモーターとPPVカンパニー、そして代理店などで分けるから、そんなには儲からないよ。

——じゃあ、なぜUFCがトップファイターたちを集めることができるようになったかといえば……。

トリッグ　それはPPV収益の一部を選手に支払う仕組みがあるから！

——そう言われてるよね。

トリッグ　リデルが大金を得ているのは、アスレチック・コミッションが管理しているギャランティ以外でPPVのインセンティブがあるから。でもファイターへの支払いもあって、UFCもそんなに儲かってるわけではないよ。



Frank Trigg■1972年5月7日、ニューヨーク出身。97年、総合デビュー。『PRIDE』では米国PPVの解説者を務めていたが、2月の三崎和雄戦でカムバック。予告どおり完勝し、試合後すぐさま解説席に戻ってみせた。173cm、83kg。

——しかし、ギャランティがファイトマネーであれ、PPVのインセンティブであれ、UFCがトップファイターを集めることができるのは、やはりアメリカ市場でしょ。そのアメリカで『PRIDE』がUFCに追いつこうとするうえで、有利な点は？

トリッグ　それはやはりファイターだね。UFCはチャック・リデルという、アメリカで最も有名な選手を抱えているけど、選手の強さに関しては、すべての階級で『PRIDE』のほうが上。その打ち出しが必要だろう。でもハッキリ言って追いつくのは難しいよ。現状を言うなら、シェアは彼らが95パーセントで『PRIDE』は5パーセントだ。

——たったの5パーセントかよ！

トリッグ　そして50対50には永遠にならないかもしれない。でもそれでいいんだ。アメリカでは70対30でいいんだ。ヨーロッパでは逆に95パーセントのシェアを取れるようにして、日本では100パーセント、韓国や中国でも100パーセントを取っていけば、べつにアメリカにこだわる必要はないだろう。

——でもUFCもカナダやメキシコで興行を予定していて、さらにイギリスには支社を出すそうだよ。

トリッグ　そうだね。だから、UFCの動きからもわかるように、これからは世界的な競争になっていくよ。『PRIDE』はそのための準備も進んでいるしね（ニヤリ）。『PRIDE』にファイターはそろっているんだ。ブラジルでは（ホドリゴ・）ノゲイラやパウロ・フィリオの人気も高い。世界各国のトップファイターと契約している『PRIDE』にこそグローバルな市場で勝機はあるよ。

——UFC追撃のキーワードは、アメリカ市場侵攻だけではなく世界進出ってことか。そうなると、アンタ、世界的に有名になる日も近いということね。

トリッグ　そういうこと！（笑）。

【2月4日　米国ネバダ州ラスベガス、フランク・トリッグ宅にて収録】



デーブが語る
日米格闘文化の違い

これぞアメリカMMAシーン大躍進の原動力!!

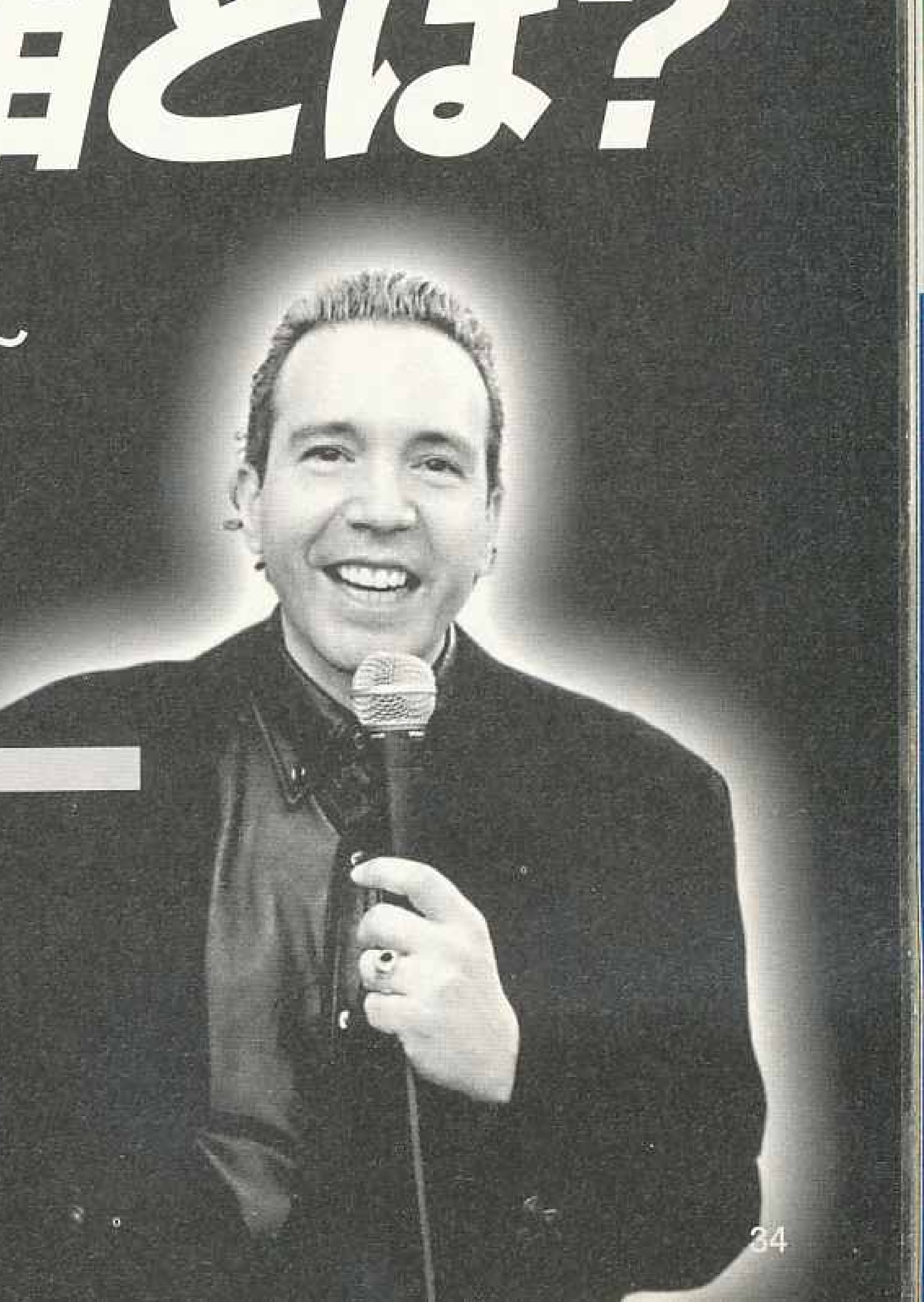
リアリティショー、その実態と真相とは?

~『TUF』から『サバイバー』、
そして『風雲! たけし城』まで~

CIAのスパイ?
埼玉県出身疑惑?

じつは“世界的テレビプロデューサー”な

デーブ・スペクター



アメリカMMAシーンを加速的に急成長! させた番組『THE ULTIMATE FIGHTER』……それは一般出演者による勝ち抜きサバイバルドキュメンタリーであり、いまアメリカを熱狂させている“リアリティショー”といわれる番組形式だった。そこで今回は日米リアリティショー事情に詳しいデーブ・スペクターさんに電話取材! そこから見えた日米の文化の違い、格闘文化の違いとはなんなのか? 教えてデーブ!

聞き手/ジャン斉藤

空前のMMAバブル到来！　いまや世界の格闘家が"もっとも上がりたいリング"となった巨大帝国UFC。このUFCが市場拡大したきっかけ、それは05年からアメリカのケーブルテレビ（スパイクTV）で放送されたリアリティショー『THE ULTIMATE FIGHTER』だった。

無名の新人選手が24時間カメラに監視される中、チャック・リデルやランディ・クートゥアーのコーチを受け、約2ヵ月間の合宿生活を送る、この番組。サバイバルゲームや試合を行なって、続々と脱落してゆく出演者たち。シロウトの出演者たちが展開する、過酷なドキュメンタリーが一躍人気番組となり、第1回の優勝者、フォレスト・グリフィンらがUFC本戦にも登場すると、相乗効果でUFCも高視聴率を獲得！

ついには格闘技市場をアメリカに移行させてしまう影響力を与え、アメリカ人を夢中にさせているリアリティショー……だが、そもそもリアリティショーってなんなんだ？

そこで本誌はバラエティ番組のコメンテーターとして知られ、流暢すぎる日本語から"埼玉県出身疑惑"や、ホテルにテレビ機材が設置されていたことで"CIAのスパイ説"まで流れるも、本業はテレビプロデューサーでアメリカのテレビ事情にも詳しいデーブ・スペクターさんに日米のリアリティショー事情を電話で直撃！

——もしも〜し！　そちらはデーブさんでしょうか？

デーブ　はいはい。そちらはプロレス雑誌の方でしょ？

——そうです、そうです。今日は世界を股にかける、テレビプロデューサー、デーブさんが本誌に登場していただけるということで。

デーブ　いやいや。僕は"世界を股にぶらさげる"デーブ・スペクターですから！

——さっそくデーブ・ジョーク炸裂（笑）。それで今日はアメリカのテレビ界でも猛威をふるっている格闘技プロモーション、UFCのリアリティショーについて……。

デーブ（さえぎって）あ〜、凄いよねぇ。『THE ULTIMATE FIGHTER』（以下、『TUF』）の人気は！

——あ、デーブさんの耳にも、『TUF』の噂は届いてますか！

デーブ　ええ。いま話題の番組ですから。ちらっと観たことはありますよ。

——じつは、これまでの格闘技市場は日本が中心だったんですけど、その『TUF』の成功でUFCが飛躍的な人気となって、市場も選手もアメリカに完全に移行してるんです。そこでデーブさんに、市場拡大のきっかけとなったリアリティショーとは何か？　という話をうかがおう、と。

デーブ　わかりました。まず、こういったリアリティショーの歴史をさかのぼると、ほとんどの番組パターンが"勝ち抜き方式"なんですね。それが圧倒的に主流です。ドナルド・トランプという不動産王も自分の会社の人材を探すコンペ番組（『ジ・アプレンティス』）（注1）をやったり、それから格闘技のリアリティショーだと、ボクサーのシュガー・レイ・レナードが出てくる『コンテンダー』（注2）という番組もありました。これは俳優のシルベスター・スタローンが司会をして、「誰がプロボクサーになるか？」という過程を見せる番組ですね。

——日本でいえば、『ガチンコ・ファイトクラブ』ですね。

デーブ　あと、有名シェフの弟子を募集する番組や、モデルやダンサーを募集する番組、ミュージカルの出演者を探す番組とかもやってるんだけど、もう基本は"勝ち抜き方式"なんですね。

——『TUF』も勝ち抜き方式ですしね。

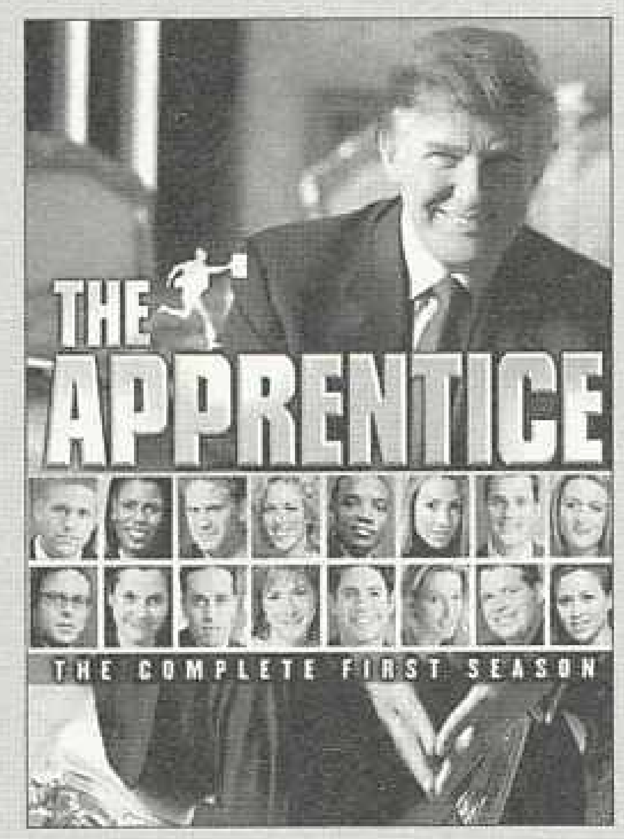
デーブ　その歴史をさらにさかのぼると、じつは『ビッグ・ブラザー』（注3）というオランダの番組が最初なんです。この『ビッグブラザー』はイギリスやあちこちの国で大ヒットしましたからね。

——リアリティショーの起源はオランダ。その『ビッグブラザー』って、どういった内容なんですか？

デーブ　公募で選ばれた男女が一軒家で長い期間、集団生活をする様子に密着する番組ですね。その家には、トイレ以外の部屋にカメラが設置してあるんですけど、日常生活をずーっと撮影しておいて、毎週、その共同生活の中で「おもしろくない！」と判断された人が視聴者の投票によって番組から追い出されるんですよ。視聴者は編集された番組を観ながら、「誰を落とすか？」を決めるわけです。当然、出演者同士がケンカしたり、派閥ができたりするんですけど、最後に生き残った人はとんでもない賞金をもらえる。

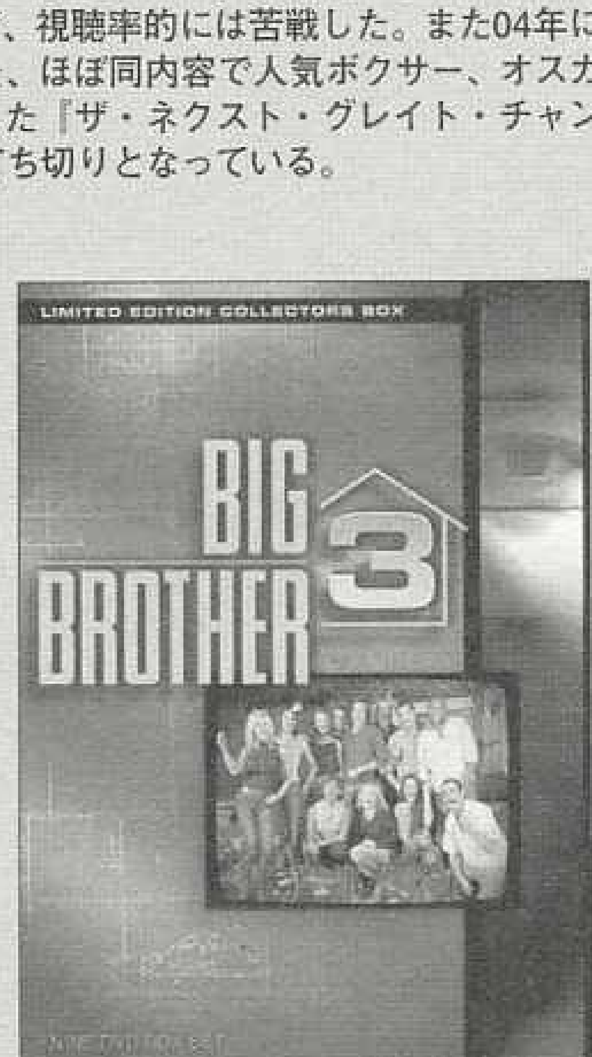
——リアルタイムに進行する視聴者参加型なんですね。

デーブ　ただ、アメリカに関していえば、リアリティショーをもっとも定着させたのは『サバイバー』（注4）でしょうね。その『サバイバー』がアメリカでもの凄く当たっちゃって、いまでも続いてるほどの人気番組



（注1）『ジ・アプレンティス』（アメリカ・NBCネットワークほか）　＝04年1月からアメリカNBCで放送開始。不動産王、ドナルド・トランプが番組ホストとなり、勝ち抜き形式で彼の会社で働く人材を選出するリアリティショー。ニューヨークのトランプタワーを舞台に、ホストは10数名の応募者に課題に取り組ませ、そこで起きたいさかいや事実を隠さず放送する。生き残った参加者は正式採用となる。トランプが、追放される人間に向けて放つ「YOU ARE FIRED!」（おまえはクビだ！）という決めゼリフが浸透し、人気番組に。参加者は頭脳明晰なビジネスマンが多く美男美女揃いだが、参加者同士、罵り合う姿はほかのリアリティショーと同様。

（注2）『コンテンダー』（アメリカ・NBCネットワーク）＝05年3月からアメリカNBCが放送したボクシングの勝ち抜きリアリティショー。映画『ロッキー』のシルベスター・スタローンや、5階級制覇したボクサー、シュガー・レイ・レナードが番組ホストとなり、共同制作した勝ち抜きリアリティショー。この番組の勝ち抜きは、参加者同士のボクシング試合の結果によって決定される。参加者による自殺事件などで話題を呼んだが、視聴率的には苦戦した。また04年にFOXテレビが放送した、ほぼ同内容で人気ボクサー、オスカー・デラホーヤを配した『ザ・ネクスト・グレイト・チャンプ』も不人気で番組打ち切りとなっている。



（注3）『ビッグ・ブラザー』（オランダほか）　＝99年にオランダで初放送、大反響を呼んだドキュメンタリー番組。一般から選ばれた男性5人と女性4人が、外界と遮断された一軒家の中、カメラの設置された状態で24時間態勢で3ヵ月間監視され、共同生活する。毎週、視聴者からの投票で、「もう見たくない」とされた参加者が脱落。優勝賞金は12万5000ドル相当の現金で、中には色仕掛けで仲間を巻き込み、セックスの最中まで放送されたことも。シルベスター・スタローンの母親と、スタローンの離婚した妻という仲の悪い二人を一緒にするなど、有名人も参加する。06年は同タイトルが20カ国で制作されるなど、リアリティショーの先駆け的存在。

日本の番組でいうと、昔の『風雲！　たけし城』！
あれは完全に〃お笑い〃リアリティショーですよ!!

なんです。

――日本でも放映されてましたね、『サバイバー』は。

デーブ　TBSが日本版の『サバイバー』を作ったし、アメリカ版の吹き替えも深夜にやってましたけど……。

――日本ではいま一つ、ヒットしなかったという（笑）。

デーブ　うん。いまいちだったね（笑）。どうして日本でこういう番組がウケないかというと、日本だとすぐ〃お笑い〃のほうに持っていくからなんですよ。

――確かに、そういう傾向はありますね。

デーブ　たとえば、昔の『風雲！　たけし城』（TBS系）（注5）なんて、完全に〃お笑い〃リアリティショーですよ。

――『風雲！たけし城』はリアリティショー！　確かに（笑）。

デーブ　あの番組もメインは〃お笑い〃だったでしょ。攻撃隊の隊長役で谷隼人さんを出したり、城みちるみたいな、ごぶさた系タレントを使ったり、キャスティングだけで笑いが取れたでしょ。たけし城までの途中に、たけしさんが出入りする、ショボいカラオケスナックの場面もあったり。

――リアリティショーという衣をかぶったバラエティ番組というか（笑）。

デーブ　でも、アメリカってそういう〃お笑い〃じゃなく、常に姿勢はガチンコなんです。じつはアメリカで制作された『風雲！たけし城』もあるんですけど、あくまでマジに『たけし城』をやったんですね。

――お笑い抜きの『たけし城』。反応はどうだったんですか？

デーブ　『筋肉番付』（TBS系）みたいに体力勝負のシリアスな感じでやったんだけど……そんな『たけし城』はおもしろくもなんともないんですよ！

――そりゃそうでしょう（笑）。

デーブ　それに日本のシロウト参加番組は、司会者はお笑いの人が多いし、要所要所でタレントを配置して、シロウトだけに頼らないんですね。ところが、アメリカだとシロウト自体がかなりおもしろい！　自己主張や個性も強いし、いろいろなタイプの人がいる。だからこそ、『サバイバー』みたいな番組が成り立つんですよ。

――それが日本のシロウトだとうまくいかない、と。

デーブ　そう。番組としてもたないんです。『クイズ$ミリオネア』（フジテレビ系）（注6）を見てもわかるけど、一般視聴者参加番組から始まっても、いつの間にか出演者がほとんどタレントになるんです。それはやっぱりリアクションがうまいから。

――『PRIDE』中継の実況席にしても、髙田本部長がいないと盛り上がりに欠けますし（笑）。

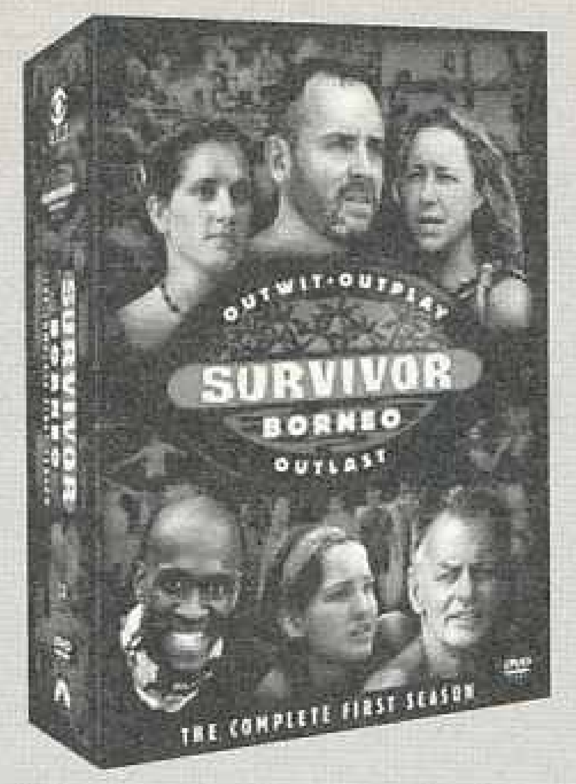
デーブ　『笑っていいとも！』（フジテレビ系）みたいに、素人さんをタレントがいっぺんにイジれば成り立つんですけど。そうでない場合は、『○○の○○○○○○○○○』みたいになっちゃう。……まぁ、あれは最高のヤラセ番組なんですけど（笑）。

――ハハハ！　やっぱり！（笑）。

デーブ　あれは番組のライターがシロウトの回答を全部、書いてるんです。そうでもしなきゃ、シロウトがあんなにおもしろいこと言えるわけないじゃないですか！

――要するに、そういうことでもしないと、もの足りないということなんですよね。

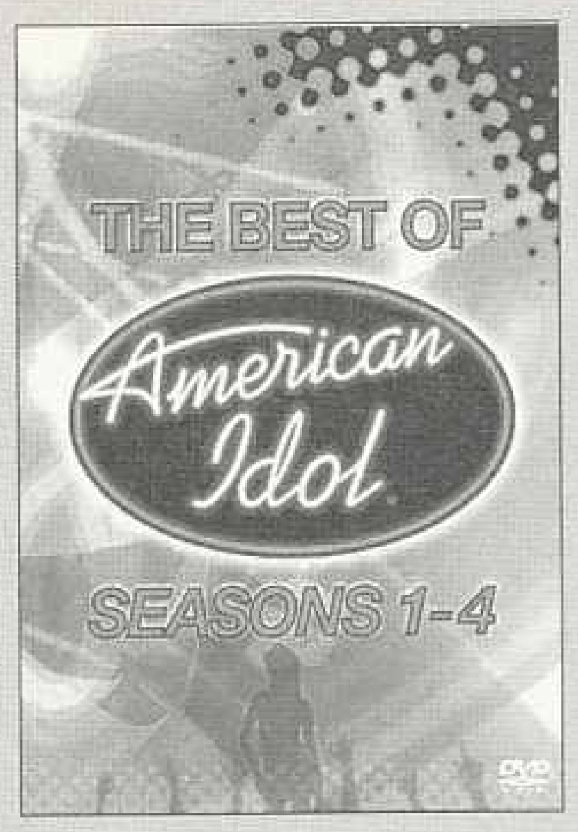
デーブ　それに、リアリティショーの勝ち抜き方式って、つまらない人からハジキ出されていくわけですから。アメリカではリアリティショーの落選方法は、視聴者投票や、司会者や番組をつかさどる大御所的な人の独断で追い出すんです。さっきのドナ



（注4）『サバイバー』（アメリカ・CBSネットワークほか）＝00年にアメリカCBSで放送開始。大ヒットとなり、現在も新シリーズが制作されるアメリカの代表的リアリティショー。約16人の一般参加者が39日間に及ぶ無人島生活の中、グループに分かれて食料調達から調理、寝場所設営まで、道具のない浜辺でサバイバル。日々、行なわれるゲームに勝つと、食料や道具など“褒美”や、競争が免除される“生存権”が手に入る。毎週、必要のない人間を全員投票によって追放、最後に残った一人が高額賞金（アメリカ版は優勝者に100万ドル）を獲得。日本ではTBSが02年4月から日本版を制作するも、人気が低迷して約1年で放送終了している。

（注5）『風雲！　たけし城』（TBS系）＝正式タイトルは『痛快なりゆき番組 風雲！　たけし城』。1986年5月から約3年間、TBS系で放映された素人参加型のバラエティ番組。谷隊長率いる素人たちの攻撃軍が、ビートたけしが城主であるたけし城を攻略するゲーム。悪魔が待ち受ける迷路の館を通り抜ける“悪魔の館”やバネでできた池の上の飛び石を渡る“竜神池”など、さまざまな難関を突破し、最後のカートを使ったゲームで城主の乗る戦車の的を撃つと100万円、敢闘賞には10万円が授与される、野外アトラクション番組の先駆け的な番組。アメリカ、イギリス、ドイツなど海外でも放送され大人気を博した。

（注6）『クイズ$ミリオネア』（フジテレビ系）＝英国ITVテレビで放送されている『Who Wants to Be a Millionaire?』の日本版。00年4月より始まり、07年春までフジテレビで放送予定のクイズ番組。司会はみのもんたで、番組内で使われる名ゼリフ「ファイナルアンサー!?」は社会現象に。予選を勝ち抜いた視聴者の10名が出演、「早押し並べ替えクイズ」で早く正解できた人がみのもんたと対戦。4択方式によるクイズが出題され、15問すべて正解すれば1000万円を獲得できる。レギュラー放送で著名人が登場するのは日本のみ。著名人大会初のミリオネア（1000万円獲得者）は、プロレスラーの馳浩が成し遂げている。

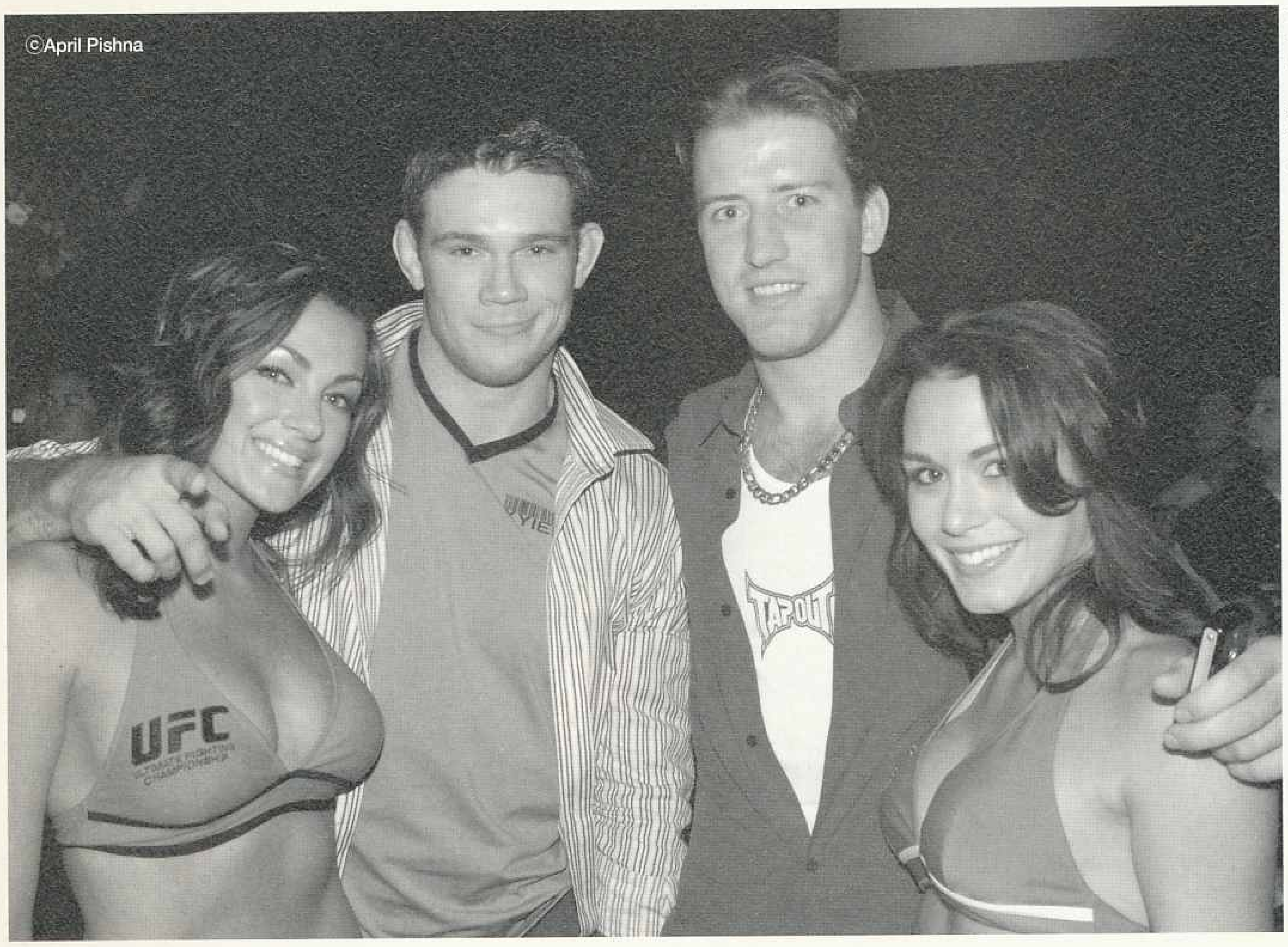


（注7）『アメリカン・アイドル』（アメリカ・FOXテレビ）　02年からアメリカFOXテレビで放送、驚異的な視聴率を誇る全米規模のアイドル・オーディション番組。芸能界デビューを熱望する一般公募の若者たちが“のど自慢”で勝ち抜くリアリティショー。約4ヵ月間、毎週火曜日に参加者が歌い、水曜日に誰が脱落するかを生放送で決定。まず、音楽プロデューサーのサイモン・コーウェルとランディ・ジャクソン、シンガーのポーラ・アブドゥルの3人が全米を予備選考し、5万人以上の中から、24人を選定。このあと最後の優勝者まで、毎週視聴者投票による勝ち抜き方式で、参加者を絞っていく。

（注8）『TVチャンピオン』（テレビ東京系）＝1992年4月より放送開始、93年10月から90分枠に拡大し、テレビ東京を代表する人気長寿番組に。大食い選手権をはじめ、アイスクリーム王選手権、手先が器用選手権、鉄道王選手権、美しい日本語王選手など多岐に渡ったテーマに、一般公募で予選を勝ち抜いたその道の達人たちが、ラウンドを経て人数が絞られ、毎回1名のチャンピオンを決定。「早食い」による、中学生の死亡事故が起きたことで大食いシリーズが打ち切りとなったことも。現在は『TVチャンピオン2』（毎週木曜日19:57～20:54）として放送中。ちなみに“ラーメン王”石神秀幸氏はこの番組出身。

ルド・トランプの番組では、「YOU AREFIRED!」って言葉が名ゼリフになったぐらいだし。
―「おまえはクビだ!」って意味ですね。
デーブ でも、日本のシロウトは手応えがないから、そういう厳しいスタイルが活きないんです。ただ、日本で例外的に成功したリアリティショーがあるとしたら、『○○○○』なんですけどね。
―あの番組こそ、日本の代表的リアリティショーかもしれないですね。
デーブ でも、あれはヤリたい……というか、○○○○したいから、やってるだけでしょ!
―そんな、身もフタもない(笑)。
デーブ そらぁ、もうやっちゃいたいんですよ!! 一番若いときだから。
―まあ、違った意味で勝ち抜き方式の重要さがあるんじゃないでしょうか(笑)。
デーブ あの番組は例外ですけど、密着型のリアリティショーがアメリカでウケる理由は、とにかくシロウト自体がおもしろいから。だから司会も凄く地味でどうでもいいような人ばっかりです。でも日本なら(島田)紳介さんとか、みの(もんた)さんを使うでしょう?
―手練の司会者がシロウトをいじっていくという。
デーブ 東野(幸治)とか今田(耕司)とかね。でもアメリカではタレントは使わない。なぜなら参加者を際立たせるのが番組の狙いですから。それに、この『TUF』は地上波じゃなく、ケーブルテレビで放送してるんですが、それは番組を提供する側からしたらもの凄くやりやすいし、視聴者にも効果的なんですよ。
―日本と違って、アメリカはケーブルテレビがメチャクチャ普及してますからね。

リアリティショーがアメリカでウケる理由は出演するシロウト自体がとにかくおもしろいから!!



アメリカ版の所英男!? 『TUF』の第1回優勝者としてアメリカンドリームをつかんだ、フォレスト・グリフィン(中央左)と『TUF』出演でUFCと契約したステファン・バナー(中央右)。テレビの力を背景にスターダムに駆け上がった彼らが“新規顧客”の窓口となり、MMAシーン勢力図は激変。

デーブ 日本でもBS放送やCS放送を観られる人はたくさんいるけど、まだ注目度は低いでしょう? ところがアメリカでは、みんながこぞってケーブルテレビを観てる。番組制作側も放送枠がドンドン取れるから、もうやり放題ですよ!
―つまり、専門チャンネルとしての特性を保てるってことですね。
デーブ そう。アメリカには24時間スポーツを流す局も、3つか4つある。日本も、ゴルフ専門チャンネルとか、『GAORA』や巨人の専門チャンネル(『日テレG+』)もあるけど、注目度が低いから、なかなかビッグな番組にはならないんですよ。
―日本はまだ地上波優先だし、そのうえ地上波の放送枠にも限りがありますしね。
デーブ それに、日本では視聴者投票と番組がリアルタイムで進行するような番組は成り立たないんです。たとえば、アメリカで流行ってる視聴者参加型のアイドル公開オーディション番組『アメリカン・アイドル』(注7)なんか、内容的には日本でやってもおかしくないんだけど、問題は番組のシステム。だって約4ヵ月のあいだ、毎週二日連続で2時間くらいの生放送枠が必要なんですから。そんなの日本じゃ無理ですよ!
―どんな人気番組とはいえ、そんな余裕はないですよね、いまの日本の地上波枠は。
デーブ だからアメリカのリアリティショーのシステムは日本のテレビ事情に合わないんです。ただ、日本の場合、地上波のバラエティにしても昔の『ザ・ガマン』(フジテレビ系)なんかを筆頭に、『オレたちひょうきん族』(フジテレビ系)や『めちゃイケ』(『めちゃ×2イケてるッ!』フジテレビ系)といった番組は構造自体がリアリティショーの勝ち抜き方式に近いんですよ。たとえば、お笑いの若手がイジメられて罰ゲームしたり、ダチョウ倶楽部が身体を張ったり……。
―熱湯にムリヤリ入らされたり(笑)。
デーブ 『進め! 電波少年』(日本テレビ系)で松村(邦洋)が牛のゲップを吸ったり(笑)。とにかく日本のバラエティはホントにおもしろいんですよ!
―日本のバラエティには普遍的にリアリ

Dave Spector

ティショーっぽい要素があったという。

デーブ　昔から、日本のバラエティはタレントに大食いや早食いもやらせてたし、あるいは『TVチャンピオン』（テレビ東京系）（注9）という素晴らしい番組もありますしね。

――よくよく考えると、日本を代表する勝ち抜き番組ですね、『TVチャンピオン』は。

デーブ　あれもリアリティショーの一種ですよ！　でも、『TVチャンピオン』がずっと続いている理由は、テレビ東京という東京ローカルだから成り立っている部分もあるんです。

――かつては毎週、1時間半の枠（※現在は1時間枠）でしたからね。

デーブ　普通の民放ほど視聴率のハードルが高くないからね。だから、『TVチャンピオン』はテレビ東京だからできた番組という見方もできますよね。

――なるほど。日本からすれば、うらやましい環境ですけど、そのアメリカのプロレスや総合格闘技に対する一般人の捉え方というのはどういう感じなんでしょう？

デーブ　じつはアメリカ社会でのプロレスや格闘技の位置づけって、日本よりも低いんですよ！

――そうなんですか？　市場の規模は日本とは段違いなのに。

デーブ　それはいろんな理由があるんですけど、プロレスに関していえば、WWEなんかは凄くショーアップの度合いが高いけど、日本では戦後、貧しくて娯楽がなかったときに力道山が国民に夢や希望を与えていたし、猪木さんを見てもわかるように、日本のプロレスはあまりショーアップはしなかった。そのおかげでスポーツとして捉えられていた部分がありますよね。

――日本のプロレスは出発点から、社会との関係が深いですからね。

日本のプロレスは〝芸能〟とクロスオーバーしてるから マニア以外の人にもレスラーの知名度があるんです

デーブ　それがよかったんでしょう。それに、プロレスはアマレスや柔道みたいなオリンピックの種目や相撲なんかとも、うまくクロスオーバーしてるから。そういう一般的なスポーツと同等に近いかたちで扱われる。それから、日本のプロレスラーって国会議員になってるじゃないですか？

――ええ。たくさんなってますね。議員の適性があったかとはともかく（笑）。

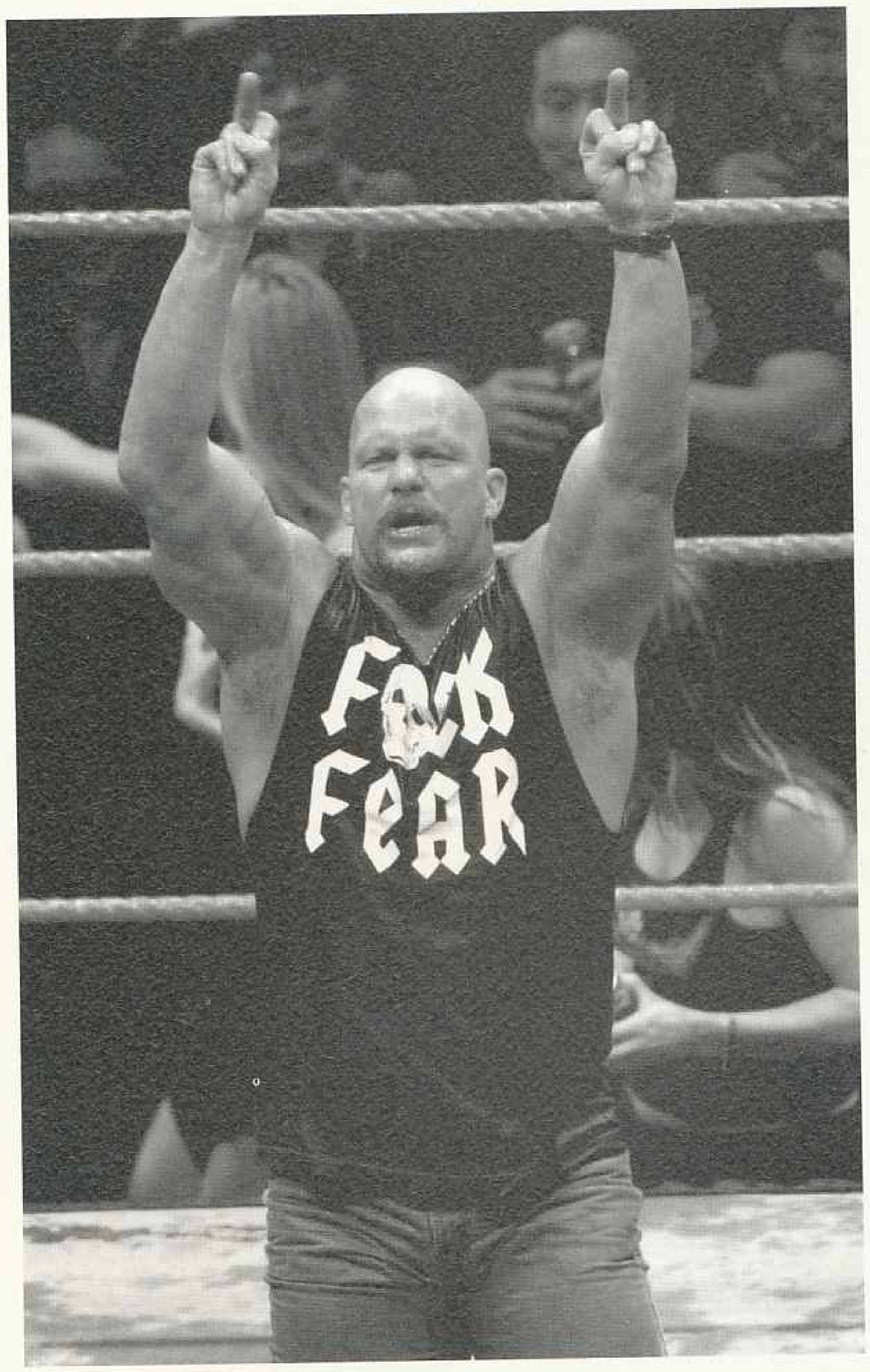
デーブ　最近は神取（忍）さんみたく、女性までいるじゃないですか？　猪木さん、馳浩、大仁田（厚）とか、何人もいますよね。ザ・グレート・サスケだって地方とはいえ、岩手県議員ですから（笑）。

――覆面レスラーが政治家になれる国、それが日本（笑）。

デーブ　猪木さんにしても、アメリカなら『スポーツ平和党』なんて政党は作れないし、考えられないから。ぜーったい、ありえないよ！（キッパリ）。

――〝ホワイトハウスに卍固め〟は通用しませんか（笑）。

デーブ　そういう意味で、アメリカと比べて日本のプロレスラーの社会的なステータスは凄く高いんですよ。ジェシー・ベンチュラという元WWF（当時）の人気者がミシガン州の知事をやりましたけど、有名なのは彼くらいじゃない？　元WWEのスティーブ・オースチンや、ハルク・ホーガンなんかも有名人だけど、ジャガー横田夫妻みたいにワイドショーのネタになったりしないから。



「What？」の名フレーズや凶悪なキャラ、ビンス・マクマホン社長との抗争でアメリカのケーブルテレビの最高視聴率を獲得し、WWEトップスターとして一時代を築いたスティーブ・オースチン。引退後は刑事ドラマなどで活動するも、アメリカの一般知名度は"全国区"とはまではいかない模様。

Dave Spector

――日本のプロレスラーは、芸能ニュースやバラエティに登場する機会は多いですね。

デーブ　そうやって、〝芸能〟ともクロスオーバーしてる。だから日本で有名なプロレスラーは、プロレスマニア以外の人にも知名度があるんです。たとえば、プロレスは知らなくても、髙田延彦のことは知っているわけ。

――プロレスは知らなくても、越中詩郎のことを知っていたり（笑）。

デーブ　でも、アメリカでそのへんを歩いてる女性に「スティーブ・オースチン、知ってる？」と聞いてもピンとこない可能性が高い。アメリカではプロレスを観たい人しか、プロレスは観ないんですよ。

――興味がある人間がケーブルテレビで観ているだけ。アメリカは市場は大きいけど、そこは一長一短なんですね。

デーブ　うん。興味がない人間は本当に何も知らないから。

――ただ、いまのUFCはPPV件数が100万件に迫ったりと、ボクシングの世界戦並みの勢いなんですよね。

デーブ　もう大儲けでしょう！　PPV収入はもちろん、グッズも売るし、アパレルも売るし、ゲームもあるし、ネットサイトもある。そういう事業も並行してやってる

WWEやUFCも日本でのプロレスや格闘技の〝社会的認知度〟はうらやましい部分があると思う



Dave Spector■アメリカ・イリノイ州シカゴ出身。83年に来日。ワイドショーなどに登場する“超日本通”外国人タレントとして知られるが、本業はテレビプロデューサー兼、放送作家。アメリカのABC、NBC、CBSの3大ネットワークなどで日本国内の取材やレポート、日本のテレビなどを海外に紹介。流暢な日本語はあくまでも独学。

わけですから。

——そのうえ海外にだってソフトは売れるわけですしね。

デーブ　WWEにしても株式上場してる大会社ですから、もう一流のメディア会社ですよ！　それにくらべると日本はちょっとショボいというか……。

——お恥ずかしい話です（笑）。

デーブ　でも、そこが憎めないんですけど（笑）。そのぶん日本のプロレスには愛嬌があるんです。一方のアメリカのプロレスには力道山のような社会的なヒーローはいなかったし、社会的にも必要としてなかった。

——そもそも日本とは成り立ちの背景が違うというか。

デーブ　普通のスポーツと違って、プロレスにはある程度のストーリーはあるんだろうけど……そういう背景もあって、日本のファンはみんな気をきかせて、あまり突っ込まないでしょ？

——暗黙の了解がファンに行き届いていますよね。最近はプロレスの文化を通過してないファンが多いから、一概には言えませんけど。

デーブ　でも、アメリカよりは観る側がとても協力的な姿勢だと思う。だってアメリカのプロレスなんか、誰一人本気でやってるとは思ってない。そんな気持ちは皆無ですから！

——いないでしょうね、アメリカには（笑）。

デーブ　でも規模自体が凄く大きいから、経営的には充分やっていける。一方の日本は芸能やスポーツとのクロスオーバーが成功している。

——う〜ん。それぞれの良さがあるわけですね。

デーブ　それから正直言って悪いけど……卓球とか水泳みたいな、どうでもいいスポーツってあるじゃない？

——一般の関心度が低いスポーツですよね。

デーブ　そういう「もう勝手にやって！」と言いたくなるようなスポーツも日本は平等に報道する。だから日本はスポーツが一番やりやすい国だと思うし、とーっても恵まれてますよ！　日本の市場というのはスケールは小さいかもしれないし、アメリカと比べたら金銭的においしくないかもしれない。でも日本の基盤として、受け入れる側はとても協力的で親切なんです。プロレスでさえ、スポーツ的なものとして認知されてるわけですから。

——そもそもプロレスがスポーツとして、テレビやスポーツ紙なんかで報道されるのも、不思議ではありますよね。よくよく考えると、報道の信用問題に関わりますよ、これ（笑）。

デーブ　だからWWEやUFCが日本のプロレスや格闘技の社会的な認知度を見たら、「うらやましい」と思う部分があると思いますよ。それに空手や柔道や合気道みたいな、日本が生んだ武道は世界的に尊敬されてますし。海外では多少デフォルメもされてますけど、大相撲も有名なんだから、格闘技の文化としたら堂々たるものですよ！

——そういう意味で、日本は文化的格闘技王国ですね。

デーブ　ホントそうなんですよ！　そういうポテンシャルを考えれば、アメリカの市場に対して、日本が闘っていく資格や、闘う余地なんていくらでもあると思いますよ。たとえば合気道だって相手の力や勢いを利用して倒すわけでしょ？　プロレスなんかは、相手が襲撃してきたら、それをうまくかわしたり、その相手の勢いを利用して技をかけるんだから……いわば〝インチキ合気道〟みたいなもんじゃない（キッパリ）。

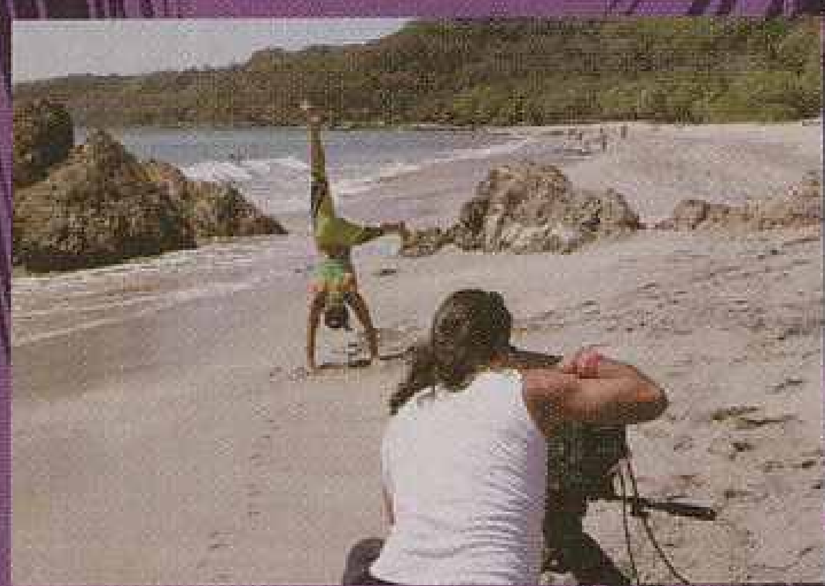
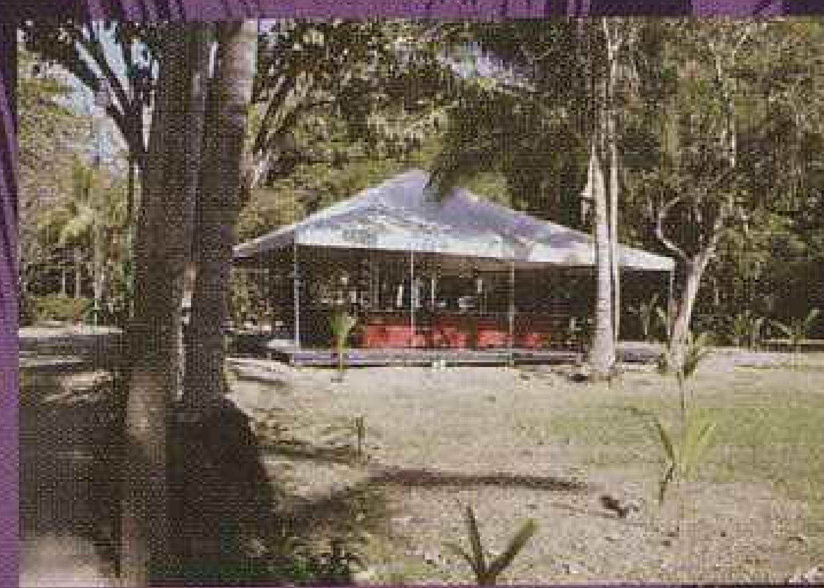
——まあ、なんというか、そのとおりというか（笑）。

デーブ　ハハハハ！　そういう話も含めて、武道として再アプローチすれば、アメリカでもうまくいくかもしれないよね（笑）。

——マジメな話、商業規模がかなわないなら、文化や武道としてのアプローチは非常に合点がいくお話です。しかし、まさかデーブさんに堀辺師範と同じ結論を述べていただくとは（笑）。

デーブ　はいはい。じゃあ、このへんで失礼しまーす。

［07年2月7日／電話取材にて収録］

闇の新興イベント・ボードッグ、ほぼ全貌解禁!!

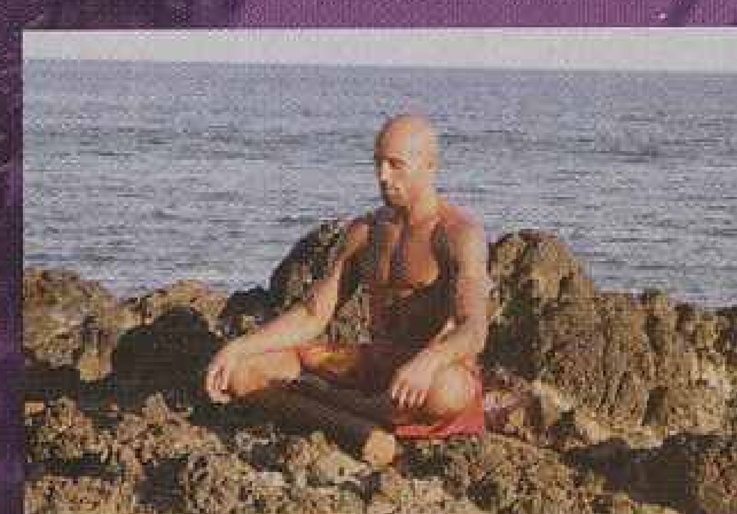
禁断の楽園

ボードッグ・ファイト徹底追跡 in コスタリカ

2.10(SAT.)-15(THU.)

文・撮影／高崎計三　協力／シュウ・ヒラタ　構成／松下ミワ





ーのお膝元

カ　に大潜入!!

～序章 コスタリカとは何か?～



通貨はコロン。１ドルはだいたい500コロン強。紙幣は10,000、5,000、2,000、1,000の４種、硬貨は500、100、25、10、5の５種……のはずが、20コロン硬貨も流通している。これがなぜか硬貨で一番大きく、500円玉より一回りデカイ。日本円で６円ぶんしかないのに。

自然

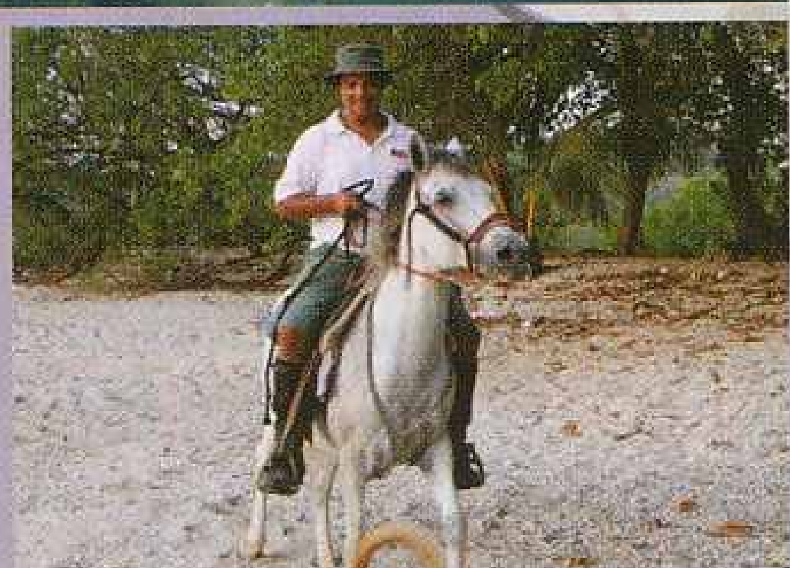


北米と中米をつなぐ部分に位置し、九州と四国を足したほどの面積を持つコスタリカ。その国土のじつに24パーセント、４分の１が国立公園という、まさに“自然立国”だ。それぞれに特色を持つ各公園は観光資源として多くのツアーが設定されており、さまざまな景色や自然現象を楽しむことができる。中でも圧巻なのは国内に９つ存在する活火山で、最も活発なアレナル火山はそのダイナミックな噴火の様子が見もの。また東がカリブ海、西が太平洋に面していることからサーファーたちも世界中から集まってくる。

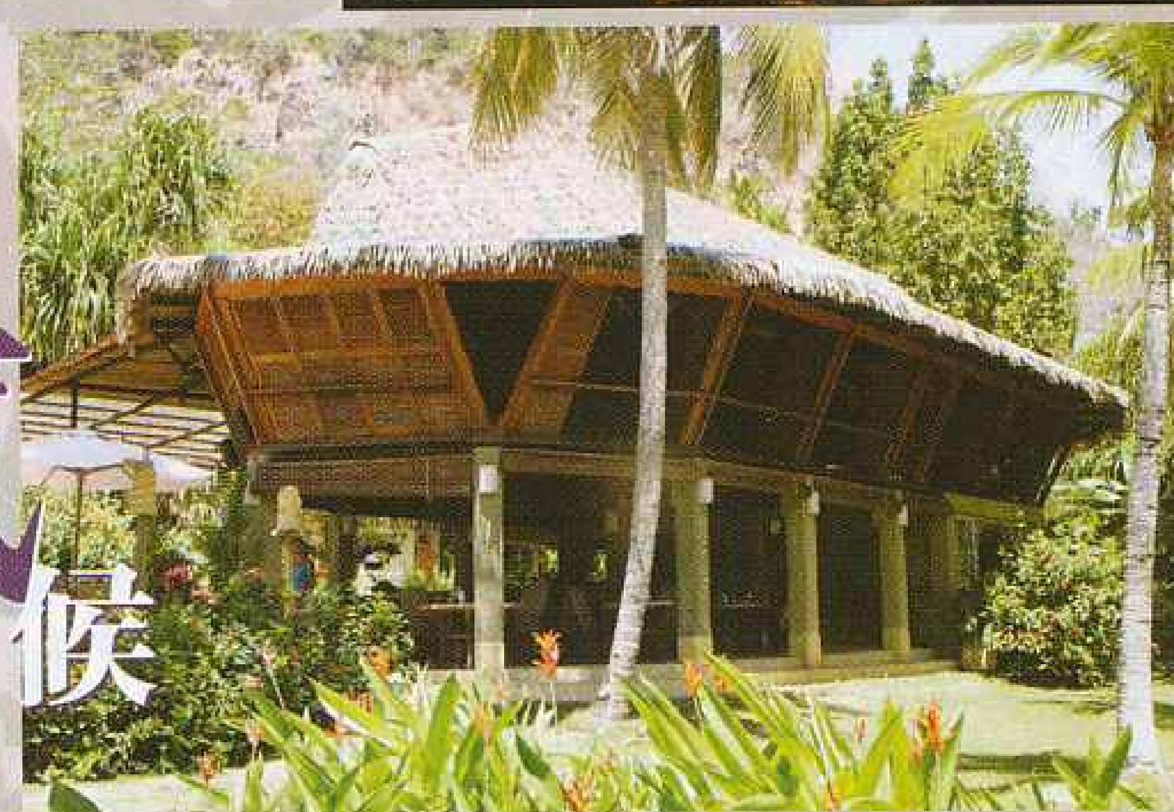




● SAN JOSE
サンホセ（首都）



気候



コスタリカの緯度は北緯8～11度。場所としては熱帯に属することになる。サンホセは高度も高く年間を通じて平均気温が20℃台前半なので、よく“常春の楽園”と書かれているが、タンボールでの印象はまるっきり夏！　気温も30℃近くまで上昇していた。12月～4月は乾期で、6日間の滞在中で雨は一度、やや降った程度。5月～11月は雨期で、１日１回スコールが来るという。年間を通じて湿度は高く、そのため体感温度は高い。だが夜半は心地よい風が吹き、かなりすごしやすい。

コスタリカ
COSTA RICA



生物



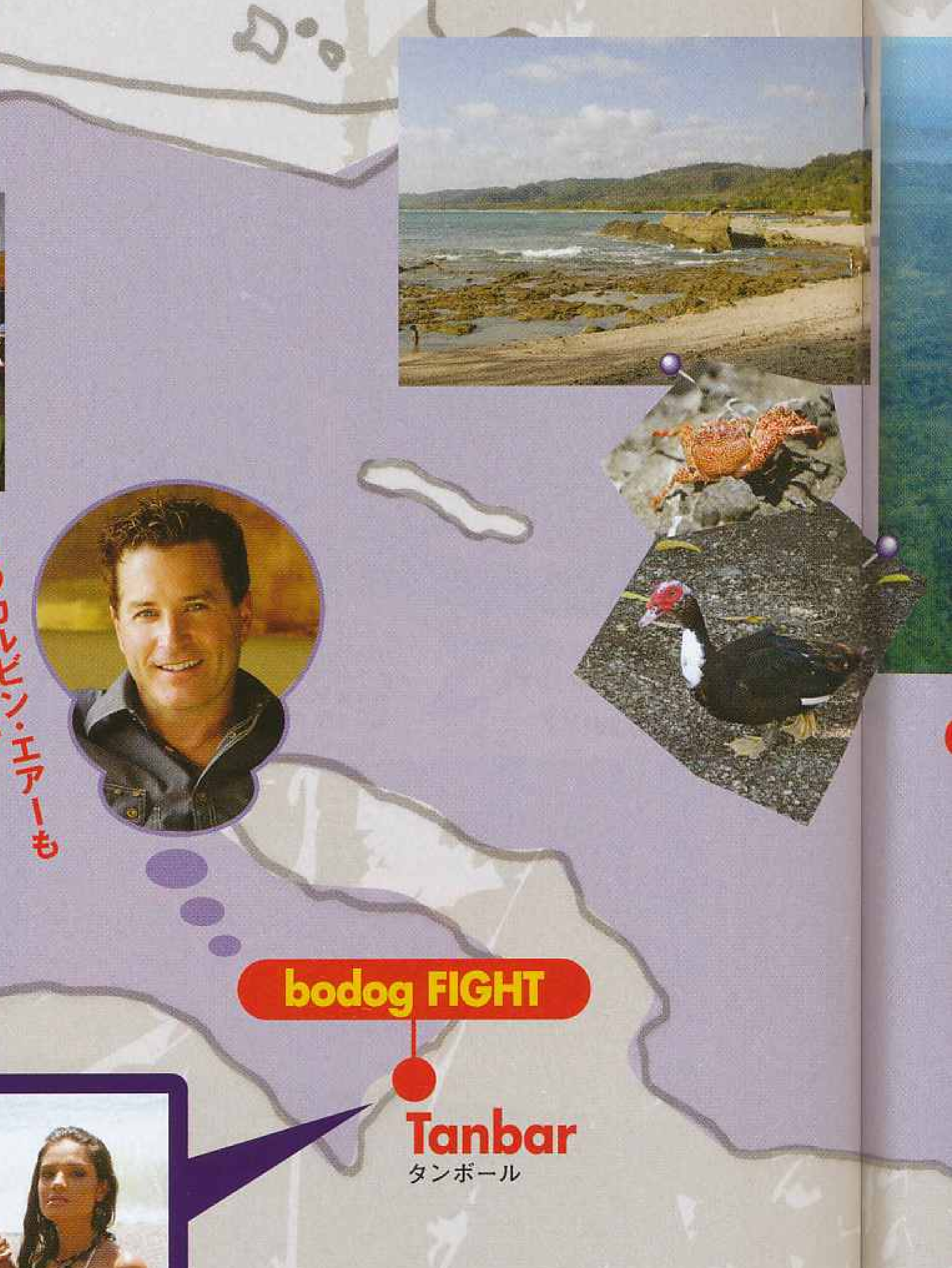


前述したような自然環境から、動物、植物も豊富に生息する。地球上のあらゆる生物種のうち、５パーセントが存在するというから驚きだ。中でも鳥類は世界の10パーセントにあたる850種、蝶は1000種あまりが生きている。海岸ではウミガメが月夜に一斉に産卵する姿が見られる。滞在したリゾートホテルの庭でも、リス、アライグマ、はてはイグアナ（！）までが平然と歩いていた。蝶ばかりを集めたバタフライ・ミュージアム、何百種という鳥が見られる公園もある。国の花はカトレア。これもなんと1800種類！

謎多き未開の格闘源泉地

ボードッグ総師カルビン・エアーのお

コスタリカ



人種





外務省などが発表している公的資料では「スペイン系の白人および先住民との混血が95パーセント、アフリカ系3パーセント、先住民ほか2パーセント」となっているが、現地での（数日間のみだが）印象では浅黒い肌を持ったインディオ系の人たちが多いように見受けられた。もっとも、今回はほとんどタンボールですごしていたので、都市部の人間を見ていないせいかもしれない。公用語は他の中米諸国同様スペイン語だが、教育政策に力を入れており、ホテルなどでは英語が通じる。宗教はカトリック85パーセント、プロテスタントほか15パーセント。

潜入地はココ！ タンボール

今回のロケ地は、首都サンホセから空路（ローカル航空会社のセスナ機が1日6便出ている）で25分、陸路＋フェリーで4～5時間ほどのリゾート地、タンボール。太平洋側に突き出たニコヤ半島の先端に位置し、ビーチの周りに今回の拠点である「バルセロ・プラヤ・タンボール」をはじめとするリゾートホテルが点在する。それ以外には街らしいものはほとんどなく、今回滞在した中には「ストリップ劇場がない！」と怒っていた外国人選手もいたとか。近隣のモンテズマの街までは車で1時間程度。



はるばる来たぜ、〝禁断の楽園〟コスタリカ！ 『ボードッグ・ファイト』のスタートとなった『ボードッグ・ファイト・シーズン1』の舞台で、かつては本社が置かれていた（昨年、カリブ海の島国、アンティグア・バーブーダに移転。いまも300人規模の支社があるらしい）コスタリカ。この地でのテレビ収録に、記者としては世界で一人だけ、潜入に成功した！

まずはコスタリカという国の印象から。ヒューストンから首都のサンホセまでは飛行機で約3時間半。なのでアメリカ人のリゾート地という色合いも強い。国自体が環境保護、動物保護に力を入れていることもあって、自然豊かな環境はそれだけで見もの！ ホテル内でいろいろな動物を見かけたことは別項に書いたが、バスでロケ地に移動する最中にも馬、牛、バイソンみたいな動物が広大な土地に放牧されている風景をあちこちで見かけた。そして鳥の鳴き声。日本では動物園でしか聞けないようなけたたましい声が、そこかしこで聞こえる。アウトドア派にはピッタリの国だ。

まあ一言で言えば、〝闘い〟に来るには向かないというか、縁遠いことこの上ない国、コスタリカ。わざわざそんなところに世界中から選手たちを集めて、ボードッグは何をし、何をさせたのか？ 一度、足を踏み入れてしまったら最後、そこから抜け出せない怪しい魅力が漂う禁断の〝ボードッグ・ワールド〟は、現在の格闘ジャングルをただ破壊するのか、もしくは新たに創造するのか……。さあ、徹底調査開始！





浜辺に突如、現われた特設リング！　ムードとしては「●●スーパー駐車場特設リング」に近いものがある。しかし試合は午前10時開始、いくら屋根があるといっても、暑いって！

コスタリカ ボードッグ・ファイト
スケジュール表

◆8日（火）選手到着
◆9日（水）
到着／試合組み合わせ確認
衣装チェック
ウェブインタビュー（1～4班）
カメラインタビュー
◆10日（土）
連続インタビュー（1～4班）
ウェブインタビュー（5～8班）
◆11日（日）
連続インタビュー（5～8班）
ウェブ用ビデオ収録（1～4班）※未確定
◆12日（月）
遅れて到着した選手のインタビュー
選手インタビュー（1～4班）
選手撮影（5～8班）
◆13日（火）
撮影用の計量
選手インタビュー（5～8班）
選手撮影（1～4班）
◆14日（水）
「Know Your Moves」撮影
広告撮影（1～4班）
交代で収録（1～4班）※未確定
◆15日（木）
公式計量（大会①出場選手）
ルールミーティング
広告撮影（5～8班）
◆16日（金）
公式計量（大会②出場選手）
◆17日（土）
公式計量（大会③出場選手）
◆18日（日）
アフターパーティ
◆19日、20日（月、火）選手帰国

"巨大なる実験場"で何が起こっていたのか!?

恐るべき楽園の実態

～ボードッグはクリエイターか、はたまたデストロイヤーか～

ボードッグの全貌、ついに解禁！　全64選手とそのスタッフを南国コスタリカに完全招集させたボードッグは、その恐るべき財力をもっていったい何を行なっていたのか。得体の知れないその動向の一部始終を、なんと『kamipro』が全世界完全独占で渾身の徹底レポート!

どこまでも青い空！　寄せては返す波！　真っ赤に照りつける太陽！　日差しに焼ける白い砂！　そして…… そそり立つリング!?

最初に言い切ってしまうと、ボードッグはアホである。コスタリカなんて国に世界中から選手64人、セコンド、スタッフも合わせると合計200人以上の人間を集め、1泊●万円のリゾートホテルに2週間近くも泊まらせ、ビーチに作り上げたリングで無観衆の中、ガチンコの試合をさせる。真っ昼間、3日間で32試合。いやあ、どこをとっても正気の沙汰とは思えない。豪快すぎるアホである。そんなとんでもないことを計画し、なおかつ実行できるダイナミックさとマネーパワー……これがボードッグの、何よりの個性だ。この個性を武器に、ボードッグはトロピカル極まりないコスタリカでUFCや『PRIDE』を脅かす"何か"を、一度潜入するともう抜け出せない"何か"を起こそうとしているのだ……。

今回、試合が行なわれたのは2月16日から18日までの3日間。日本人選手をはじめ、選手たちの多くがタンボール入りしたのが8日、筆者が入ったのは10日だ。じつは今回の取材についてボードッグと交渉した過程で、先方から「とにかくコスタリカまで来てくれれば、あとは全部こっちが持つよ」という衝撃のメッセージが！　さすが、ボードッグ。

選手たちが泊まったのは「バルセロ」というリゾートホテル。ビーチとプールはもちろん敷地内にあり、朝・昼・晩の豪華バイキングでの食事、バーでの飲食、毎晩のショーステージ、ディスコなどは宿泊費にすべて含まれる。ロビー脇にはショッピングモール、その中には24時間営業のカジノも。そのほか、『ボードッグ・ファイト』のIDカードを下げていれば、各種サービスが割引で受けられる。まさに至れり尽くせりだ。

64人の選手たちは8つのグループに分けられる。そして、まずは二日に分けてトレーニングとインタビューの撮影。班ごとにライトバンに分乗し、周辺各地のビーチに散って撮影に臨む。移動の車内では、「ケガするようなこと、やりたくないことは断ってもいいから」などの案内が担当のプロデューサーから告げられる。

ボードッグファイト in コスタリカに出場した選手

◆ライト級
Brad Pickett（イギリス）
JR Sims（アメリカ）
Nick Agallar（アメリカ）
Rafael Diaz（アメリカ／ブラジル）
Sami Aziz（スウェーデン）
イーブス・エドワーズ（アメリカ／サード・クラウン）
Scott McAfee（アメリカ）
タイラー・ジャクソン（カナダ）
Kyle Watson（アメリカ）
David Love（アメリカ）
坪井淳浩（グラップリング・シュートボクサーズ）

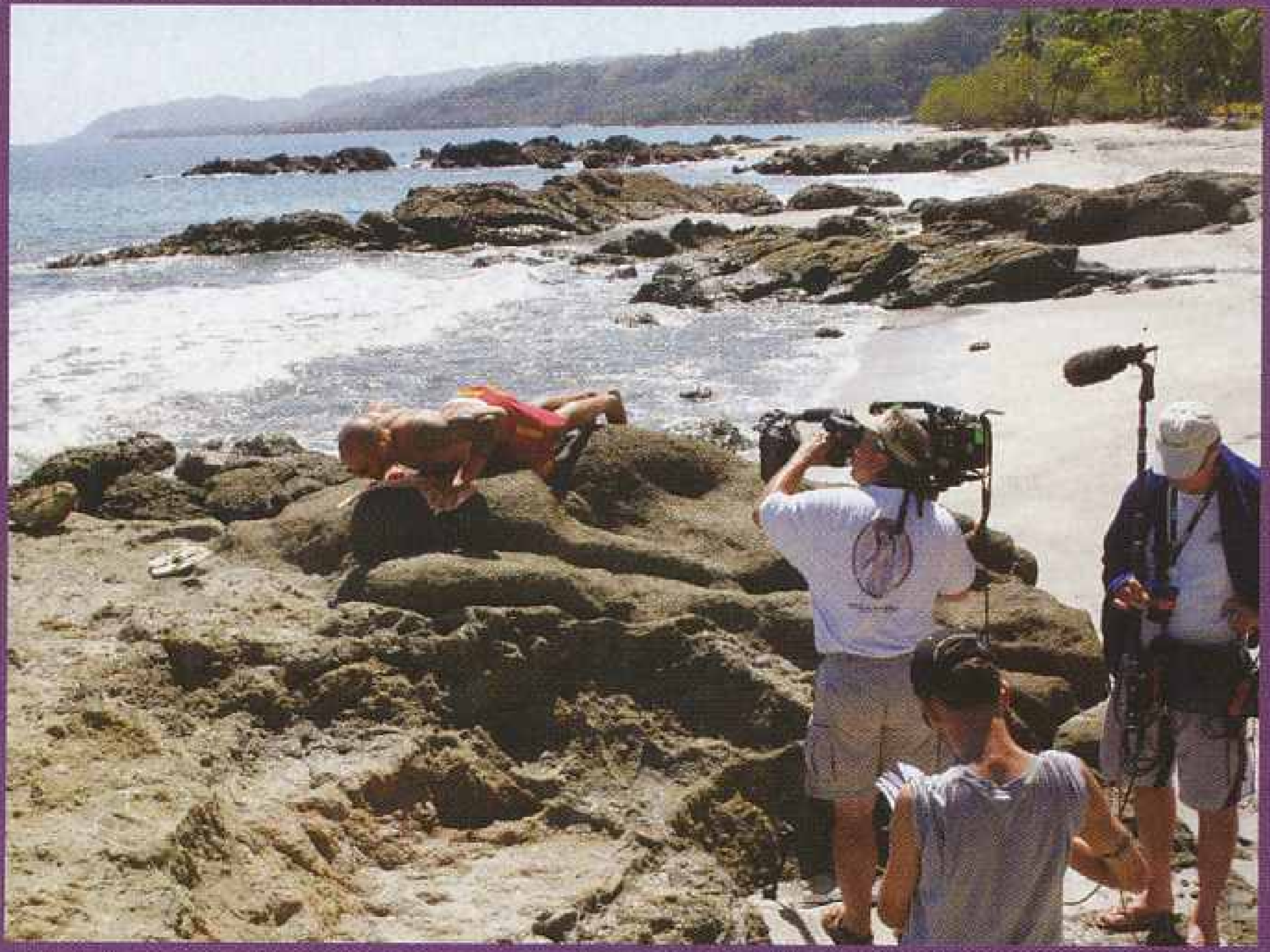
◆ウェルター級
エディ・アルバレス（アメリカ／ファイト・ファクトリー）
スコット・ヘンジー（アメリカ／フリー）
ニック・トンプソン（アメリカ／フリースタイル・アカデミー）
ダスティン・デニス（アメリカ／ATT）
Stephen Haigh（アメリカ）
和田拓也（SKアブソリュート）
ペレ（Brazil／シュートボクセ）
フィル・ノーマン（イギリス）
Piotr Jakacynzki（スウェーデン）
スティーブ・バーガー（アメリカ／ホドリゴ・バギ柔術）
Zach Light
Jake Ellenberger（アメリカ）
ジェイク・シールズ（アメリカ／シーザー・グレイシー・アカデミー）
Ray Steinbiess（アメリカ）

◆ミドル級
Chael Sonnen（アメリカ）
ティム・マッケンジー（アメリカ／シーザー・グレイシー・アカデミー）
トレバー・プラングレー（アメリカ／AKA）
Pierre Guillet（イギリス）
マット・エウィン（イギリス／RANGE）
アンドレイ・シモノフ（ロシア／レッドデビル）
Grzegorz Jakubowski（ポーランド）
Andy Foster（アメリカ）
竹内出（SKアブソリュート）
Kyacey Uscola（アメリカ）
Eugene Jackson（アメリカ）
Diego Visotzky（アルゼンチン）

◆ライトヘビー級
MikePatt（アメリカ）
ToddGouwenberg（カナダ）
フランシス・カルモント（フランス／スイス・トップ・ファイターズ）
JeffFord（アメリカ）
アントニー・レア（フランス／エリート・トレーニング・センター）
DavidAvellan（アメリカ）
MoiseRimbon（フランス）
アレックス・スティーブリング（アメリカ／I.F.アカデミー）

◆ヘビー級
マリオ・リナルディ（アメリカ／ATT）
Roy Nelson（アメリカ）
マーク・バーチ（アメリカ／デューンランドVT）
髙橋義生（パンクラス）
Kellan Flukinger（アメリカ）
Miodrag Petkovich（アメリカ）
Dan Evensen（アメリカ）
Jeremiah Constant（アメリカ）
Daniel Puder（アメリカ）
Michael Alden（アメリカ）

◆女子格闘技
Rosie Sexton（イギリス）
WINDY智美（パンクラスism）
カリーナ・ダム（ブラジル）
Molly Helsel（アメリカ）
Tara LaRosa（アメリカ）
Shayna Baszler（アメリカ）
たま☆ちゃん（巴組）
Jan Finney（アメリカ）



岩の上で腕立て伏せ！ 単なるムードだけが狙いです。



近隣の、あちこちのビーチで行なわれた撮影。中にはこんな断崖を通って行かなければならないところも……。

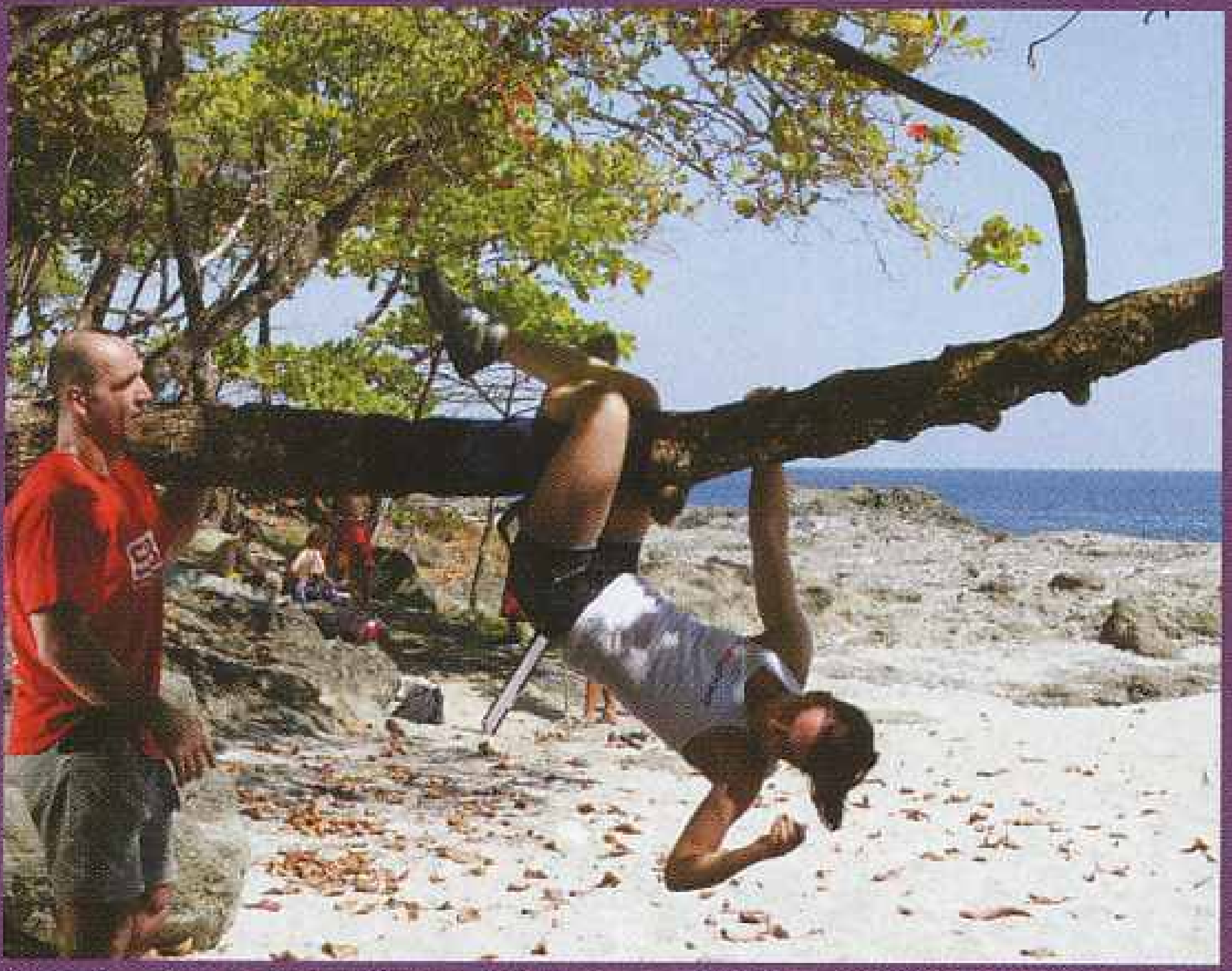


たま☆ちゃん、試合前日までプールで撮影。水の中でシャドー、泳いできて顔を出してファイティングポーズなど、意味不明のリクエストが多数。



ビーチでの撮影では、海の中でランニングする選手も……。ちなみにこれは選手自ら提案してやりだしたもの。

これはMMA界の常識を覆す革命の一環なのか、それとも――!?



岩のあいだから真横に伸びた木を使っての撮影。ぶら下がって腹筋する選手もいれば、写真のロッシー・セクストンのように4の字ロックで下から殴る練習をする選手も。ヘンすぎです。

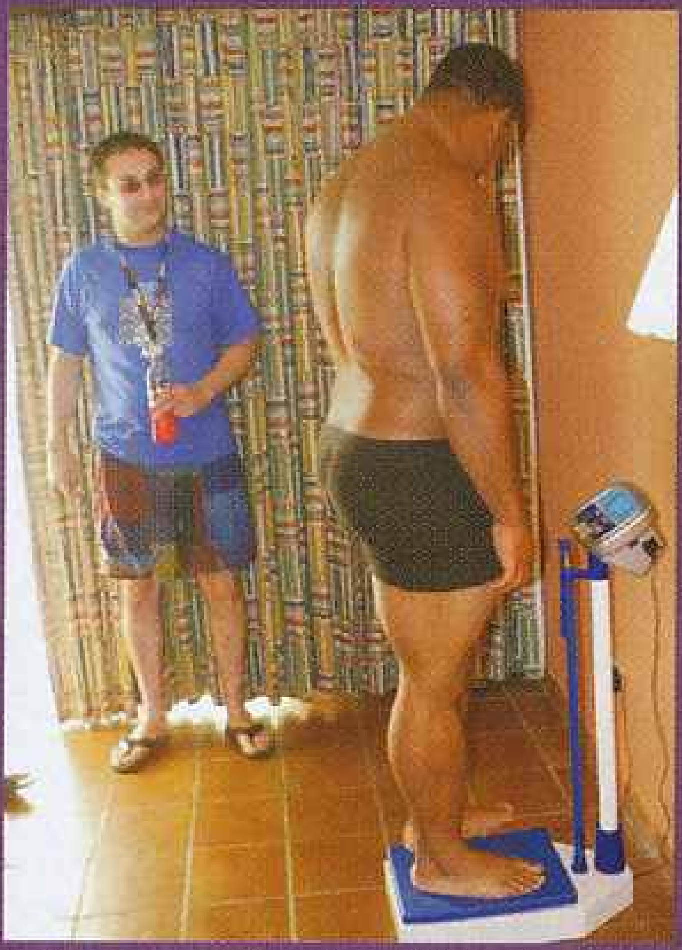
BODOG TV



番組内で使われる素材の収録も次々に。インタビューではたくさんしゃべる選手のほうがスタッフのウケはいい。そんな中、竹内出は……。



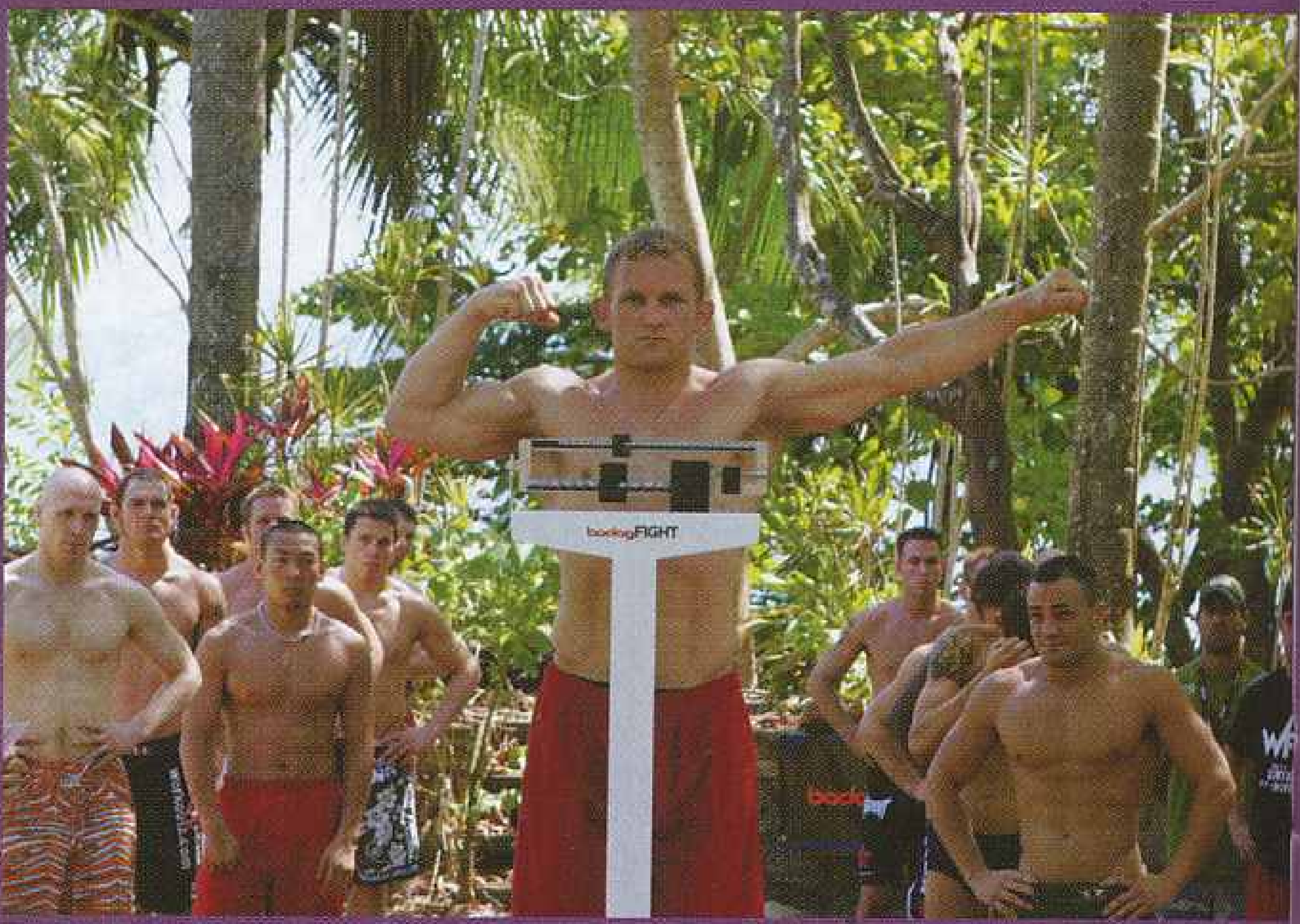
同じセットで、動きの撮影も行なわれる。初めて体験する選手にとっては戸惑うことばかりだ。



実際の計量は試合前日の朝、スタッフの一室を使って地味に行なわれた。このギャップ！



かたちだけ計量パスすると、対戦相手同士が睨み合い。状況的に闘志が湧かず、顔を合わせると笑いだす選手たちも。プロデューサーが「笑うな！ ファイターらしく！」と怒鳴っていた。



撮影のためだけの、"ニセ計量"の様子。カメラが回ってるから、目立った者勝ち！（写真はエディ・アルバレスと対戦したスコット・ヘンジー）。

朝8時に出発しての撮影は、日差しが照りつけるビーチでまる半日におよぶ。砂浜や林の中でのランニング、シャドー、ミット打ちなど。事前のリサーチを元に、選手によってはヨガのポーズをしたり、カポエイラの動きを披露したりしている。少し離れた場所では、一人ずつ交代でインタビュー撮影を受ける。出番の選手以外は木陰で休憩。移動や昼食を経て夕暮れとともに撮影は終了し、帰還。ホテルに戻るのは遅い班だと夜7時をすぎた。

試合直前にこれだけの拘束をするのは選手には酷に思われるが、不思議と文句を言う選手はいなかった。ボードッグのなんたるかをすでに理解しているということか？ 撮影中、「こうやったらおもしろい？」と自分からアイデアを出す選手もいる。ある選手などは「あの岩から海に飛び込もうか？」と提案し、「ケガするからやめときなよ」とカメラマンに止められていた（笑）。

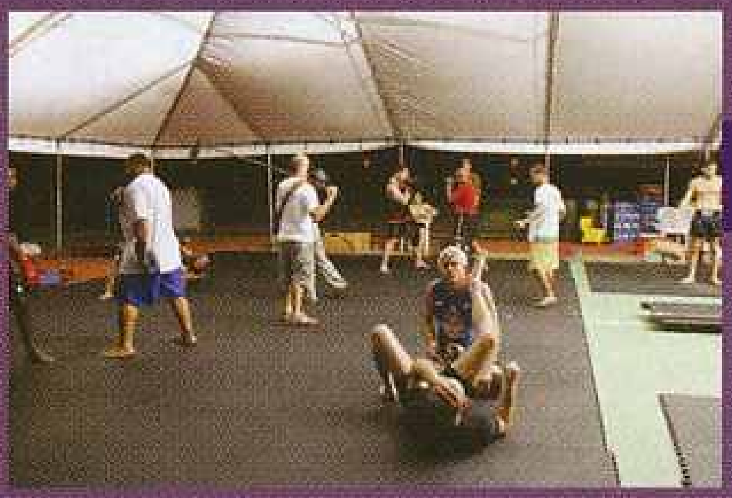
インタビューは、ホテル内の一室でも行なわれる。質問内容は、「格闘技を始めて何年？」「どれぐらい情熱を注いでる？」といった基本的なものが中心。試合に関しては、「どうしてもKOで勝ちたいと思う？」「これまでで一番会心のパンチは？」のように、やはりKO至上主義が垣間見られる。

練習環境ももちろん用意されていたが、これは充分とは言えなかった。練習場は、テニスコートにマットとテント！ サンドバッグなどの器具も若干置かれていたが、選手からは「がっちりスパーとかするにはちょっ

TRAINING



本番用リング、作り始めの様子。下が砂浜なので、まず水平に台を組むことからして大変なのだ。



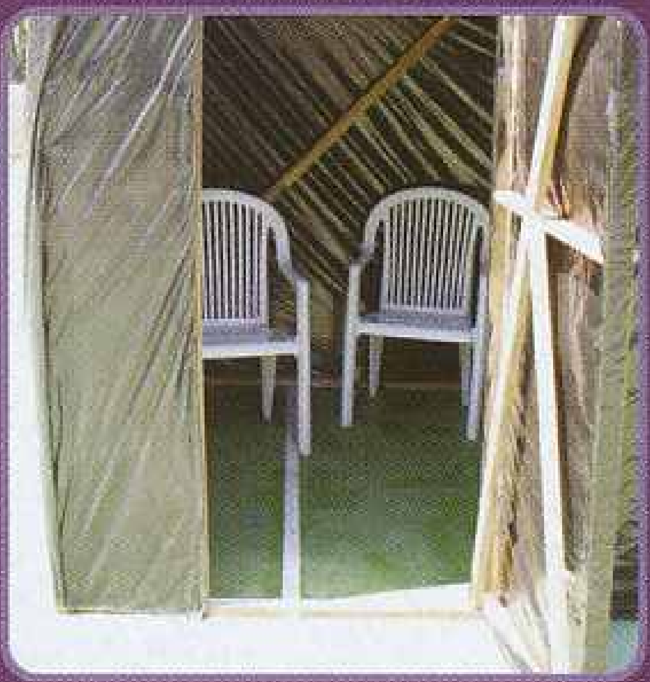
マット1枚敷かれた状態では、「ガチスパーは無理」との声も聞かれた。ここでもカメラが回っている。また、各国の選手たちの交流の場という一面もあった。

屋外のテニスコートにテントを張り、マットを敷いた練習場！　午前中と夜に来る選手が多かったのは、当然の話か。





バスケットコートの真ん中にポツンと置かれた謎のブラックボックス。その正体は……。



黒いビニールを張っただけの、即席サウナボックス！　確かに中は暑いが、長時間いるのはムリ！

OFF SHOT



ボードッグの常連となりつつあるカリーナ、ホドリゴのダム兄弟をプールサイドで。この二人を含むブラジル人チームはプールにいる時間が多かった。



毎日3食、同じ場所でバイキングを食べるので、日にちの感覚はなくなってくる。高橋義生はTKがあとから到着するまでのあいだは、ほとんど一人で食事。「そのほうが気が楽なんで。ほかの選手たちとはキャリアも離れてますからね」。



愛する家族を帯同していたエディ・アルバレス。家族連れには最高の環境ではある。パパが試合をしなければならないことを除けば。

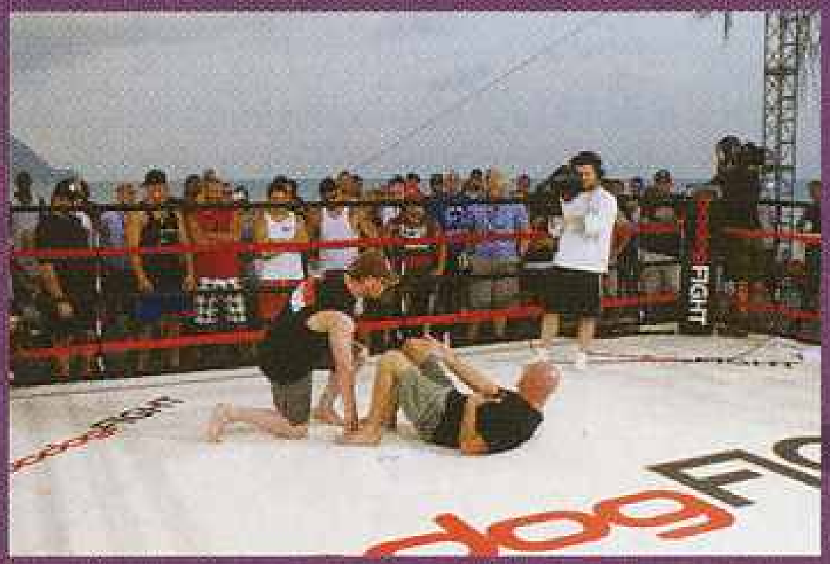


ホテルの建物はすべて2階建て。竹内出、和田拓也のSKアブソリュート・コンビは同室。部屋の広さも申し分ない

STAFF



ファイターたち……ではなく、広報担当のエリック・ニコル氏（右）と撮影スタッフを仕切っていたプロデューサー、ハリウッド・ジョー氏。ニセ計量の段取りを、実際にやってみせているところだ。それにしても、スタッフもデカイ！



試合前日のルールミーティング。カメラも回っているが、これは正式なもの。レフェリー、ジャッジはAFC、MFCでの経験者が担当している。日本から来た松本天心もジャッジに加わった。



試合に関すること全体を取り仕切る、マッチメイカーのミゲル・イトゥラテ氏。彼の経験と人脈によって、ボードッグのマッチメイクはツボを押さえたものが多くなっている。

と……」と不満も。また、離れた場所に練習用リングもポツンと作られていたが、こちらもあまり評判はよくなかった。さらに選手にとっては減量も重要だが、このホテルにはサウナがない！　そのため、バスケットコートに黒ビニールで張られたサウナボックスが！　実際に入ってみると確かに暑いが、真っ暗で狭い中に長時間いられないって！

気候といい居住設備といい、申し分ない環境であることは確かだ。だが、ここで10日ほどすごしたあとにガチンコの試合があり、その試合に先のPPVへの出場権が懸かっていると思うと、「どうなの？」という気もする。まあそれも選手によりけりで、家族を連れてきて時間によっては旅行気分を満喫する者もいれば、ブラジル人チームはプールで豪快にバレーボールを楽しんだりしていた。3食のバイキングも肉、魚、野菜、フルーツにスイーツなどよりどりみどりだが、これも減量のきつい選手にしてみれば難しい状況だ。

減量といえば、驚いたのが「撮影用の計量」だ。試合3日ほど前、屋外に選手がズラリと並び、撮影のためだけに計量（の真似事）をするのだ。もちろん、全員パス（笑）。そして対戦相手と睨み合う。逆に試合前日の本計量は、スタッフの部屋で地味～に行なわれる。このへんも、「まず撮影ありき」というのを痛感するところ。

選手によってはボードッグ・ガールズに技を教えるお遊びコーナーの撮影があったり、女子選手などは試合前日でもプールで撮影に連れ出されたりしていた。そんなこんなの末、ビーチに突如現われたリングで、ノーピープルマッチに臨むのだ。日本人選手たちは口々に、「どんな感じか、やってみないとわかんないですね」と戸惑いつつ話していた。「またオファーがあったら？」と聞くと、「うーん……微妙ですかねえ」という答えが多数（笑）。

試合が近づくと、ホイス・グレイシー、ジョシュ・バーネット、フィル・バローニらスペシャルゲストたちも続々現地入り！　今回はTVマッチのため試合の取材はできなかったが、このなんとも言えないムードの中、試合、そして打ち上げパーティーと、〝闇の宴〟は最高潮を迎えたことだろう。この収録は2シーズン（16話）ぶん。あくまでウワサだ





ホイス・グレイシーも! ADCCのアメリカ国内プロモーターを務めるミゲル氏の人脈が生かされた人選だ。



ジョシュ、バローニらが首都・サンホセから乗ってきた15人乗りのセスナ機。所要約25分と5～6時間かかる陸路よりかなり短いが、飛んでるあいだはリアルに怖い!。



バイキングは品数、質ともに最高! フレッシュフルーツだけでもこの充実ぶり!



これがホテル内の24時間営業カジノ。さすが、オンライン・カジノで一財産を稼いだ企業なだけに、カジノがある生活は、もはやあたりまえ!?

ジョシュ・バーネットがスペシャル・ゲストとして来場! ジョシュはこれを終えて、ラスベガスで『PRIDE』の解説に向かったことになる。



ギルバート・メレンデスも来場、ジェイク・シールズと練習用リングでスパーリングする様子を番組用カメラもバッチリ収録していた。

ジョシュと同じ飛行機で、フィル・バローニも会場入り。ジョシュ、バローニらは現在TV放送中のシーズン2でも解説を務めている。



デニス・カーンもゲスト! 試合が近づくにつれ、ホテル内はオールスター状態に。



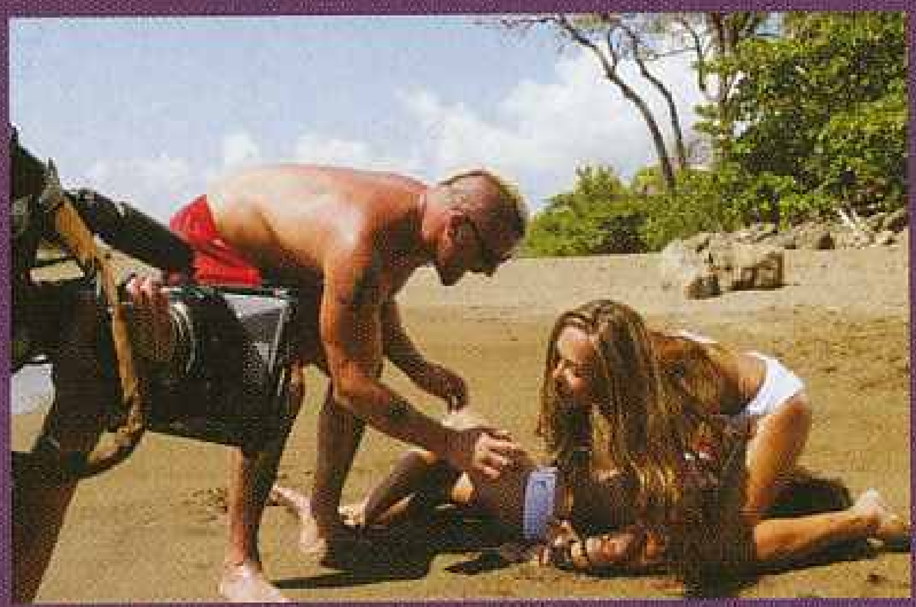
高橋義生のセコンドとしてコスタリカ入りしたTK。現地では友人との再会もいくつかあったという。



OTHERS

ホテル内のステージでは、毎晩1～2時間のショーが行なわれている。もちろん観覧は無料! 夜中すぎまで、大音量で音楽がこだましていた。





選手がボードッグ・ガールズに技のかけ方を教える、「KNOW YOUR MOVES」コーナーの収録風景。プロモーションの一環とはいえ、試合前にこんなことを強要される選手も酷である。

SPECIAL

「ドキッ! 女だらけの……」ばりの綱引き大会。負けそうになった選手が応援を読んでなんとか勝つ、というヌルすぎる内容(笑)。



GUESTS

大物ゲストがコスタリカに続々到着!!

この豪華なゲスト陣を見よ! 『PRIDE』、UFC、そのほかマット界のあらゆるリングで活躍しまくる大物ファイター&スタッフらが次から次へとコスタリカに到着～。この面々が現段階でボードッグの手中にあるというわけではないのだが、じわじわと広がりをみせるボードッグ人脈は、やはり不気味!

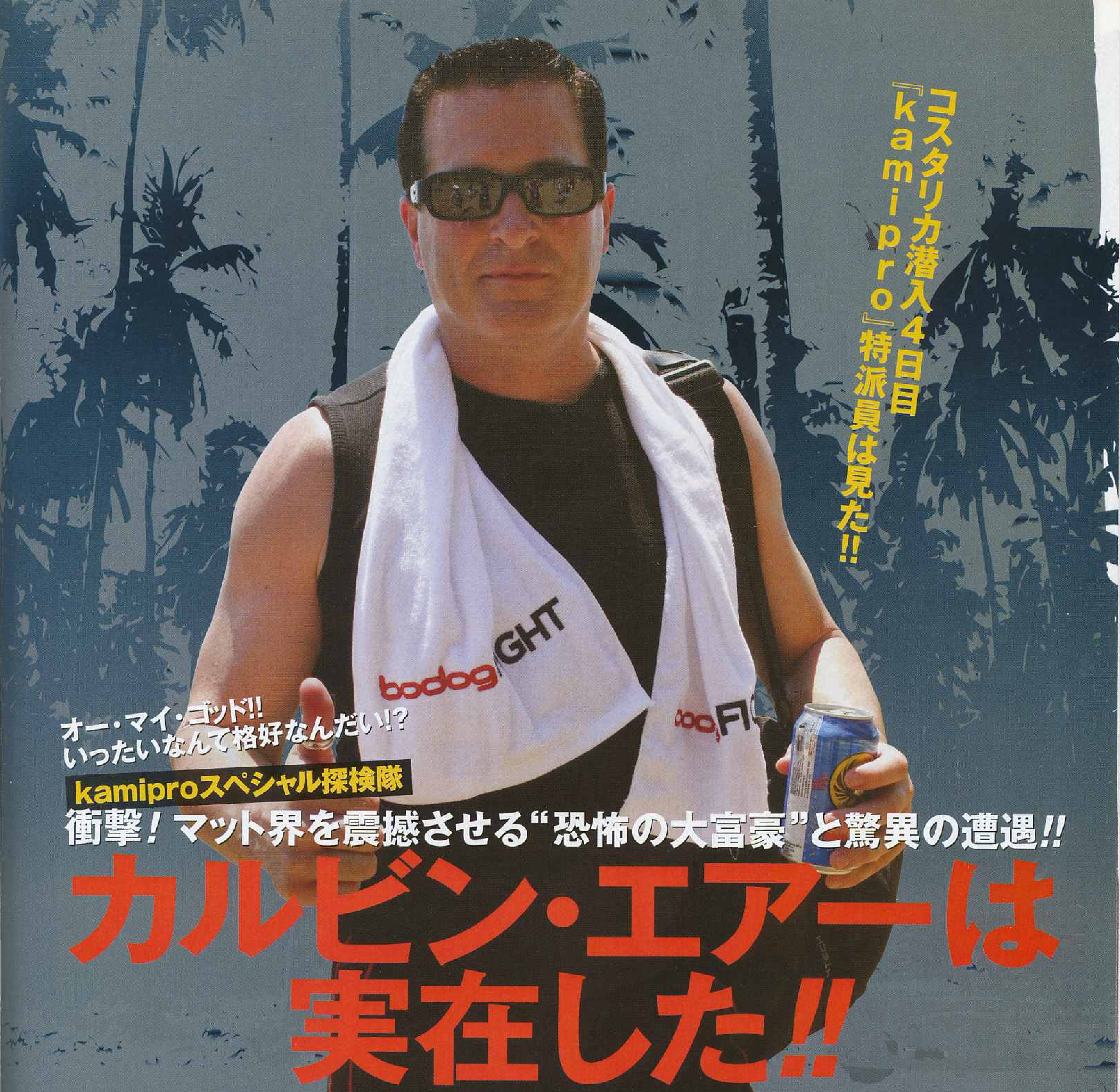
が、テレビ番組のため1話ぶんの予算が数千万円、だから全体で10億円近い予算がかけられるという話もある。信じられナ～イ!

ふと思ったのだが、いまはアホらしいほど豪快としか見えないボードッグのこのやり方が、最大限にうまくいったとしたら、どうなるのだろう。自分が連想したのは、MTVだ。レコードとライブ、ラジオが中心だった音楽界に現われたMTVはプロモーションビデオという新しい概念を提示し、それをあたりまえにした。アーティストがビデオの中で演技したりすることに最初は違和感を覚えたファンも業界も、いつかそれがヒットへの常道と感じるようになった。もしかしてもしかしたら、ボードッグの「収録ありき」のやり方もそこまでたどり着くか? いや、音楽と格闘技では違いすぎるか?

そして選手たちにはどんな影響があるだろう? 至れり尽くせりでトロピカルな環境、割のいいファイトマネーを一度味わってしまったら病みつきになってしまうのでは? こんな南の楽園の裏に、UFCや『PRIDE』、そして選手たちを脅かす魔物、いや麻薬が潜んでいるのか?

いずれにせよ、この「ボードッグ・ワールド」の中では、これまでの価値観をまるっきり切り替えて接する必要がある。カルビン・エアーがあり余るお金を使って自分のやりたいことを子どもの夢のように実現した末に"ただのアホ"で終わるのか、それとも業界全体の常識をガラリと覆してしまうのか? その答えは、1年ぐらいであっさり出ると見た!

コスタリカ潜入4日目『kamipro』特派員は見た!!



オー・マイ・ゴッド!!
いったいなんて格好なんだい!?

kamiproスペシャル探検隊

衝撃！マット界を震撼させる“恐怖の大富豪”と驚異の遭遇!!

カルビン・エアーは実在した!!

「“世界のビリオネア”カルビン・エアーは本当にこの世に実在するのか?」。
『kamipro』編集部は、本誌107号で本人エアー氏のインタビューを実施した(電話にて)にも関わらず、
一部で“影武者説”のあるエアー氏に対して、上のような疑念を拭えずにいた——。しかし!
今回のコスタリカ潜入でその謎を解き明かすべく、『水曜スペシャル探検隊』川口浩隊長ばりに一人の
『kamipro』特派員が立ち上がった!! 現地での入念な追跡調査の末に、特派員が目にしたものとは……!!

〝闇の帝王〟カルビン・エアーって、本当にいるのか？ 撮影用の影武者じゃないのか？ 『ボードッグ・ファイト』がもの凄い勢いでその力を誇示し始めるや、あちこちからこんな疑問が湧いてきた。写真で見せる妙に現実味のない、俳優チックな微笑み。これまた現実味の薄い背景や美女たちとのポーズ……。たとえば会見で晴れやかな笑顔や苦渋の表情を見せる『PRIDE』の榊原代表、オクタゴンで威勢のよさを見せつけるUFCのダナ・ホワイトあたりと比べたら、〝実存感〟に欠けるのは確かだ。だから今回の潜入取材にあたって、編集部からは最終ミッションが下された。

「カルビン様をキャッチして、インタビューを取れ！ ついでに、『kamipro』を買い取ってくれるようお願いしてこい！ 『発行部数200万部の雑誌だから』と伝えて、200億円で買ってもらえるようにお願いしてくるんだっ!!」

いや正直な話、コスタリカに行く前はかなり不安だった。正確に言えば、タンボールに到着してからもその不安はどんどん増していった。日本にいるあいだから、広報を通して「インタビューさせてくれ！」というお願いは何度も伝えてある。関係者からも、念押しをしてもらってもいる。だが、過去の収録で「現場でまったく顔を合わせなかったのに、オンエアを見たら映ってるからビックリした選手がいる」なんていうウワサも伝わってくる。はたして会うことはできるのか。いやその前に、本当にいるのか？ ハリボテで撮影し

ハリボテか、CGか——。その疑念は一瞬にして打ち砕かれた！

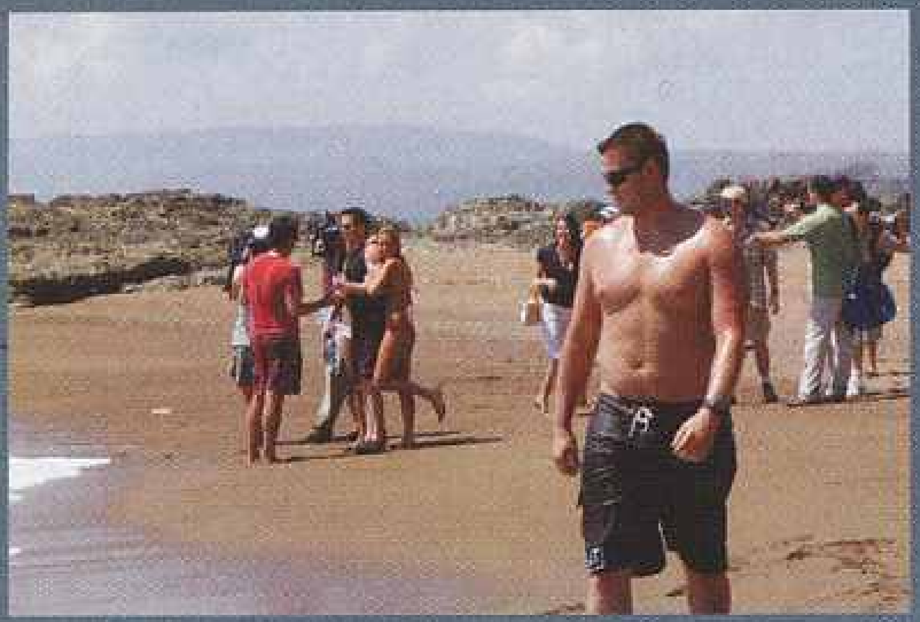
て、あとからCGでハメ込んでたらどうする？　インタビューも、ハリボテ相手にやんなきゃいけないのか!?

10日、タンボールで出迎えてくれた広報にまず尋ねてみる。「カルビン様はいま、どこにいるの？　インタビューは大丈夫？」

「OK、OK。わかってるよ。最終日にセッティングするから。ただ、いま彼がどこにいるかは知らないんだよね。自分はカルビンのスケジュール担当じゃないからここに入るまでのことは把握してなくて」

広報といっても、現場の仕切りをほとんど手がけているような男である。それでも知らないなんて！　まあそれでも、そんな責任者が「最終日に」と言い切るのなら、信用していいのだろう。自分がこちらを発つのは16日午前。ということは、15日に感動の対面か？　そしてあの口ぶりだと、どうやらカルビン様はコスタリカにはいないのか？　いきなり会えるとも思ってなかったが、やはり不安は解消されないまま。

数時間後、昼メシを食っていたら例の広報がやってきて、「インタビュー、14日になるかも。質問事項を自分にメールくれる？」と。インタビューが早まるのはありがたいし、メールするのは全然かまわないけど、その場では答えを考えないってこと？　やっぱりハリボテがテープに吹き込まれた回答を発するのか？　もう、何を言われても疑心暗鬼状態。



エアー氏が姿を現わすと、なんとボードッグ・ガールズの一人がエアー氏に抱きついた！　達成感あふれる笑みを浮かべるこの女性。彼女も我々と同じくエアー氏の"捕獲"を狙っていたのか。

翌11日はやっぱり会えず。ただ、関係者が「コスタリカにはいるみたいですよ。ただタンボールにはいなくて、ほかの仕事してるみたい」と発言。おおっ！　じゃあ同じ空気は吸ってるということ!?　意味もなくときめく（笑）。

12日は取材に費やしたこともあり、進展なし。そして13日、広報から「やっぱりインタビューは15日になりそう」との連絡を受けたあと、番組プロデューサーのエライ人が持ってた撮影スケジュール表を何気なくのぞくと……「14日午前＝カルビン・ボート撮影」の文字が！　少なくとも明日は、タンボールにカルビン様が！　一気に血圧が上がる。明日はボードッグ・ガールズの撮影に同行することが決まっているが、背に腹は代えられない。カルビン様ロケに同行できないか頼むと……。「うーん、ちょっと難しい」。

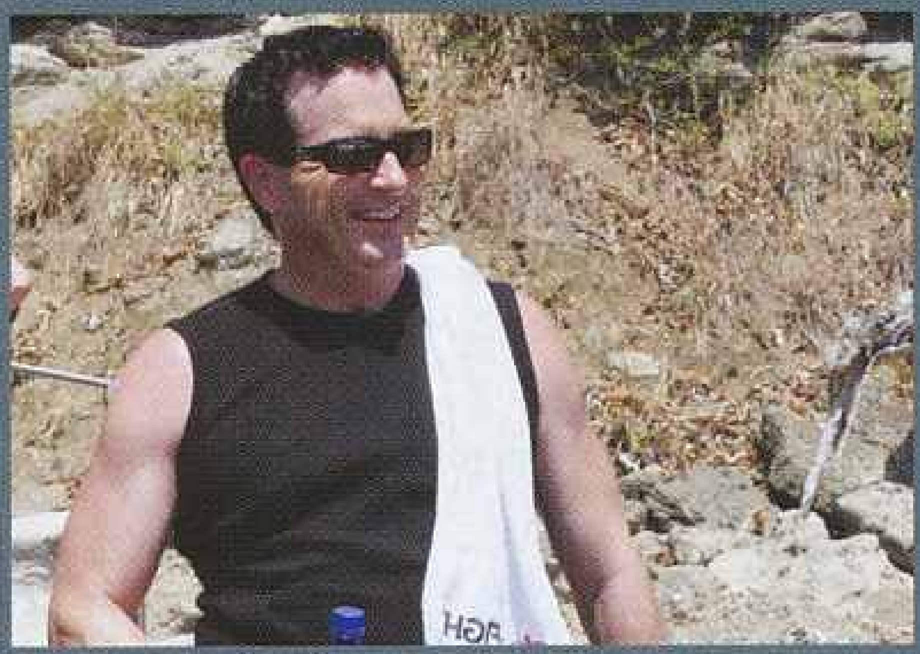


ボードッグ・ガールズに寝技を教えるファイターを、「なるほど。なかなかやるじゃないか」と感心しながら見つめるエアー氏。隣にいるのはエアー氏お付きの専属ガールと見受けられる。

ええっ!?　ダメなの？（涙）　しょうがない、ガールズで我慢するか。その夜、別のプロデューサーに会ったので、軽い気持ちで「カルビン様はいま、どこにいるの？」と聞いてみる。タンボールにいることは知ってるもんね。すると……。「知らない。オレ、関係ないから」。あれっ!?　なんでそんなに素っ気ないの？　うーん、カルビン様に関する仕事分担は、想像以上に複雑らしい。難しい……。

そして14日、運命の日を迎えることになる。予定どおりボードッグ・ガールズの撮影に同行し、バスで30分ほど移動。そこから車ではとても行けない道を抜け、断崖の岩場を下りて人気のないビーチで撮影開始だ。選手たちとガールズが戯れる撮影が予定どおり進行していると、砂浜の反対側から別の一団が。中心にいるTシャツに短パンの人物を撮影しながら、こちらに近づいてくる。もしかして……。

カルビン様だ！



青い空、青い海。この素晴らしい景色に囲まれて笑顔が止まらないエアー氏。サングラスの向こうには、それ以上に美しい魅惑のブルーアイがあることを特派員は知っていたが、結局、確認するには至らなかった。

サングラスこそかけているが、あれこそ写真で見たあの顔！　思ったより恰幅がいいが、そしてえらくくだけた格好だが、確かにあの笑顔！　ハリボテじゃない、CGでもない、おおおっ、ホントにいたぁッ！

カメラが回る中、専属（？）のボードッグ・ガールズと何やら話しながら、こちらの現場に合流してくるカルビン様。スタッフたちが、笑顔で挨拶を送る。出番待ちのボードッグ・ガールが、いきなり抱きついている。何千億円という資産を持つグループの総帥が登場しても、現場の空気がビシッ！と張りつめる、なんてことはない。ジェイク・シールズらファイターたちも、気軽に握手を交わし、会話している。見ているとカルビン様、ファイターたちのことはちゃんと認識しているようだ。

そしていよいよ、お付きのスタッフが自分のことを紹介してくれた。

「わざわざ日本から来たリポーター、ケイゾウだ」と。

「おお、コスタリカへようこそ。コニチワ！」日本語、満面の笑み、そして握手。こ、これが何千億円の手！　うおおおおっ、これでオレにも金運がぁっ！（勘違い）。

こうして、思いがけずファーストコンタクトに成功した筆者。あとはインタビューさえできれば、不安だったミッションは達成されることになる（買い取りの件はともかく）。その後の撮影の様子も見ていたが、カメラの前で長ゼリフを一発で決めてみせたり、「こう撮ったほうがいいんじゃないの？」などと逆提案してみたりと、かなりキレる様子。やはり〝闇の帝王〟、ただ者じゃない！

これだけでも、コスタリカまで来た甲斐はあったというもの。いま自分は、自信を持ってこう言い切ることができる。

カルビン・エアー、この男は実在するッ！



「やあ、やってるかい」とファイターたちに気さくに話しかけるエアー氏。ファイターとは極めて対照的なエアー氏の〝もち肌〟を見た瞬間、特派員は「コスタリカ到着前は別の場所に潜入していたに違いない」と人知れず推測した。

編集部あとがき

このように現地に飛んだ特派員はキッパリ断言しきっているが、『kamipro』編集部は、コスタリカ長期滞在によりすっかりラテンモードになってしまった特派員が、"カルビン・エアー"という名の幻を見たにすぎないと考察。よって、この調査はまだ終わらせるわけにはいかないのである！

3月23日（金）発売予定の
kamipro109号にて
夢のカルビン・エアー
インタビュー再び！
はたして特派員は直にお話をおうかがいすることができたのか——!?



「はっきり言って私自身もどうなるかわからないんだよね」

ボードッグ・マッチメイカー

ミゲル・イトゥラテ

一大会32試合を組んだ男

豪腕マッチメイカーの脳裏にあるのはどんな"楽園"なのか

ボードッグの頭脳に直撃!!

何がやりたいんだ!? コラァ! と、特集半ばにして、ますますわからないボードッグの実態。それならば、もうこの人に聞くしかない! ということで、インタビューを試みたのは、実質『ボードッグ・ファイト』を取り仕切っている影の支配者ミゲル・イトゥラテ氏である。

ミゲル氏という人物は『フックンシュート』(アメリカ・インディアナ州を拠点とする格闘技イベント。過去に横井宏考がライトヘビー級初代王者に君臨したことがある)で約8年間マッチメイカーを務め、また寝技世界一決定戦アブダビ・コンバットなど、その他のイベントにおいてもおおいにその手腕を発揮。その後、MFC(04年10月に旗揚げしたアメリカの格闘技イベント。06年7月よりボードッグとパートナーシップ契約を結び『ボードッグ・ファイト』をスタートさせた)の代表を務めるなど、MMA界にたいへん精通しているお方である。2006年12月『ボードッグ・ファイト』にてホジャー・グレイシーの総合初試合を実現させたのも、ミゲル氏の人脈と手腕によるところが大きいと言われている。

そんな、MMA界にどっぷり浸かってきた人が、なんとも得体の知れないボードッグの新手法について、ズバリどう捉えているのだろうか。その率直すぎる意見を読め!

——今回、番組収録を取材させてもらって、そのスケールの大きさに驚きました! いったいスタッフを含めた規模はどれくらいなんですか?

ミゲル ボードッグの本社から来ているスタッフが20人、そして現地で依頼しているスタッフが45人ぐらいかな。だからスタッフとしては合わせて65人ぐらいということになるね。それに加えて設営のクルーなんかもいるから、関係者全体の数でいうともっと多いね。このホテルは部屋数が400室あるんだけど、そのうち200室を我々が押さえているから、まあだいたいそういう規模だな。

——そんな大規模の収録部隊の中で、ミゲルさんの役割というのは。

ミゲル もちろん、本職のマッチメイカーという部分以外にもいろいろあってね。ファイター・リレーションの責任者ということになってる。ファイターのケアに関することを取り仕切ってるってことだ。ご存知のようにボードッグってのは、まだ新しい会社で、MMAのいろんなことに関して学んでいる最中だから。ほかのスタッフはボードッグのほかの事業……カジノとかミュージックとかにも関わってるんだけど、私だけが唯一、『ボードッグ・ファイト』だけに専念してるんだよ。マッチメイカーってのは普通、マッチメイクだけやってればいいんだけど、それ以外にグローブのこととか計量のことか、ファイトに関することは全部私がやっている。だから人手が足りないんだよな(笑)。

——これだけの規模ですからね(笑)。今回の収録に関しては、一番大変なのはどんな部分ですか?

ミゲル マッチメイカーとして悔しいのは、一人一人の選手に対してもっとケアしてあげたいのに、それが充分にできていないことだね。たとえば

好調な数字を弾き出しているUFCと肩を並べるのが目標

対戦相手が急きょ変わったりしたときにきちんといろいろ話したりとか、選手のモチベーションを上げてやるというのがマッチメイカーの役目だと思ってるから。普段はそうしてるんだけど、今回はなにしろ32試合もあるから、そこまで一人一人のケアができなくてね。それに今回は選手のスケジューリングまでやってるから、事務的な仕事が多すぎるんだよ。

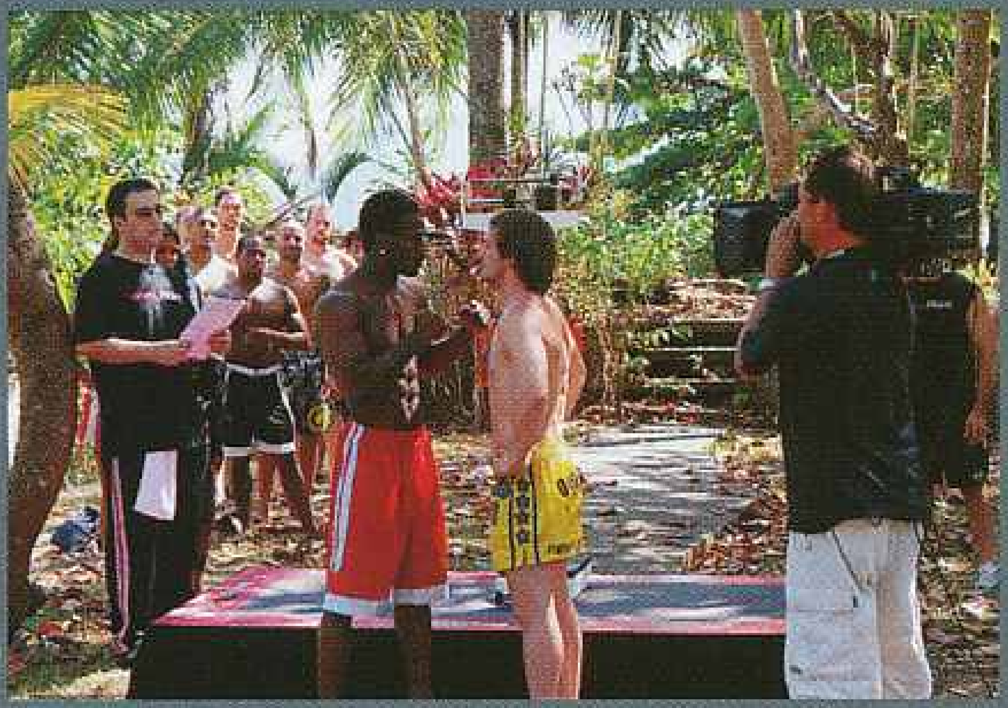
——今回の収録は『ボードッグ・ファイト・シーズン3』と『シーズン4』の試合をまとめてやってるんですよね。各シーズンのあいだには12月みたいにPPVイベントが入る、と。それで、『ボードッグ・ファイト』の基本的なかたちは完成したと思っていいんでしょうか？

ミゲル　基本的には、『シーズン1』とか『シーズン2』のリアリティショーがあってそれぞれの最後にPPVイベントがあっていうスタイルは変わらないんだけど、そのほかにも別途にライブ用の大きな大会をやったりとか、「ボードッグ・パーティ」とかいうイベントを開いてその中に何試合か組み込むとか、そういう新しい展開もこれからいろいろ出てくると思うよ。

——そして、最終的には？

ミゲル　たとえばUFCは『TUF』っていうリアリティショーがあってUFNとか本戦のPPVイベントが好調な数字を弾き出してるよね。そのスタイルが成功するってことは証明されているから、それに似たかたちは取りたいと思ってる。今年はUFCが1年に26回もイベントを打つと聞いてるから、それに対抗するにはいまのリアリティショーとPPVイベントだけじゃ足りない。だからここに生中継を入れたりして、大会数でもUFCと肩を並べるのがいまの目標だね。





「はっきり言って、人手が足りないんだよねえ」と思わず本音を吐露したミゲル氏。確かに、ミゲル氏の働きっぷりは、両脇に女性をはべらせ優雅にふるまう総帥カルビン・エアー様とは対照的である。

——収録を取材したかぎり、ボードッグはUFCとは違う次元でものを見ているのではないかという気がしたのですが。

ミゲル　まずUFCっていうのは、もともとズッファというビジネスの会社が「UFC」というブランドネームを買い取っていまに至ってるわけだよね。ここの場合は「ボードッグ」という名前がすでにブランドで、それ自体が少しエッジーで21世紀に見合ったデジタル・エンターテインメントっていうイメージがある。両者の大きな違いはここなんだ。ボードッグそのものがもうイメージになっていて、そのイメージをより明確にクリエイトするものとしてミュージックとかいろんなものがあって、その一つがファイトであるわけで。そういう意味ではまったく違うと思うね。

——ミゲルさん自身は長いことMMAの世界に関わっているわけで、その意味ではボードッグの価値観に合うように発想を転換するのは難しいことだったのでは？

ミゲル　確かに私は『フックンシュート』などの小さな大会を10年以上やってきた。それと同時に、たとえばズッファがUFCを買ってこのMMAがどんどん大きくなっていくのを見ていて、やっぱり私たちは何か違うことをしないといけないってことはわかってたんだよね。さらに私は、以前シティバンクで働いてたから、企業的なプレゼンとかマーケティングもよくわかってるつもりだ。だからボードッグが私たちにアプローチしてきたときも、彼らが何をやりたいのか、すぐに理解することができたんだ。だから彼らの価値観に合わせるのはそんなに難しいことではなかった。

——今回収録する全32試合を2シーズンに分けるにあたって、どういったコンセプトがあるんでしょうか？

ミゲル　じつはまだ、明確なものはないんだ。

——ないんですか！　いいんですか、そんなことで（笑）。

ミゲル　試合が全部終わってみて、いろんなバランスなんかも考えたうえでその振り分けをしようと思っててね。だから、どの試合がいつオンエアされることになるかは、いまの時点ではまったくわからないんだ。

——そうすると、試合するのはみんな2月ですが、一番遅い場合でオンエアは7月になることもありえるわけですよね……。

ミゲル　私が関わってきたMMAの観点から考えると、選手が試合してからオンエアまで時間がかかること、そして選手自身が結果を口にすることができないってことがファイターにとっていいことなのかどうかは、正直言えばよくわからないんだ。

——まあ、普通の感覚なら疑問に思いますよね。

ミゲル　それに伴なって、報道規制を敷いたりとか、選手たちに守秘義務の契約書にサインさせたりと、追加で生じる仕事も凄くあるよね。そこまでやる価値があるのかなあというのは、不思議に思う部分もあるよ。

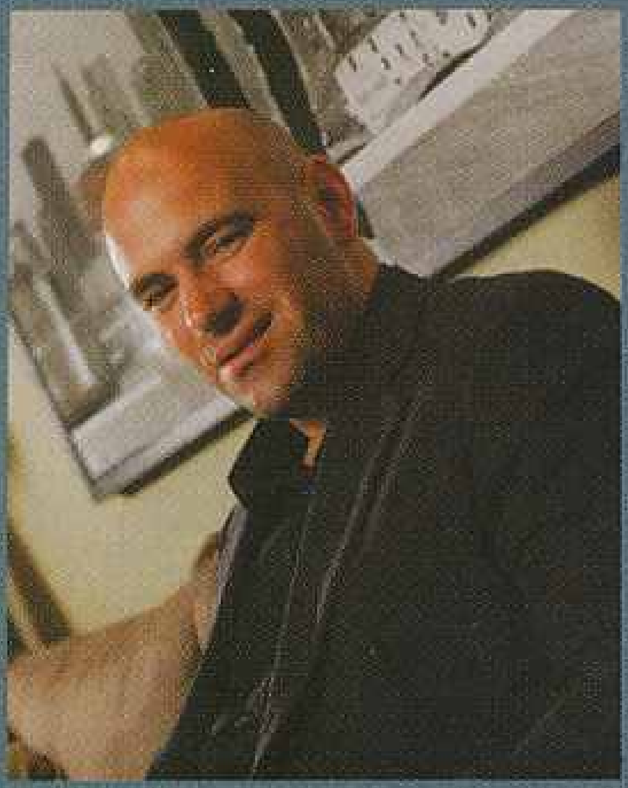
——あ、ミゲルさん自身も（笑）。

ミゲル　ただ、ほんのちょっと前までは一試合のギャラなんかではとても生活もできなかった選手たちにそれなりの額を出すことができて、こうしてある程度拘束することでテレビに出して、いい試合をすればまた使ってということをローカルの小さいプロモーターも同じことは言うんだけど、必ずその約束は破られるよね（笑）。ボードッグは、そんな約束破りを一切しないスタイルでやっていく。また選手たちもプロとして、ある程度犠牲を払わなければいけない部分もある。そのへんのプロ意識の部分で選手たちに少しレクチャーをしたら、幸いにも彼らはよくわかってくれたんでね。

——撮影にあたっては、各選手の特性やバックボーンをかなりリサーチされている印象を受けました。

ミゲル　確かに、来てもらう選手には事前にアンケートを取って、それをもとにインタビューの質問なんかも各プロデューサーが考えるようにはしている。だけど、まだまだ似たような質問が多いんでその部分はもっともっと進歩させなきゃいけないと思ってるよ。何人かのファイターごとにプロデューサーをつけて事前のリサーチをもっともっとさせることで、もっといいキャラクターを引き出せることがわかってきたから、次回のシーズンからはもう4～5人のファイターについて一人のプロデューサーをつけるぐらいの態勢を組みたいと思ってるんだ。

——なるほど。それではパンクラス



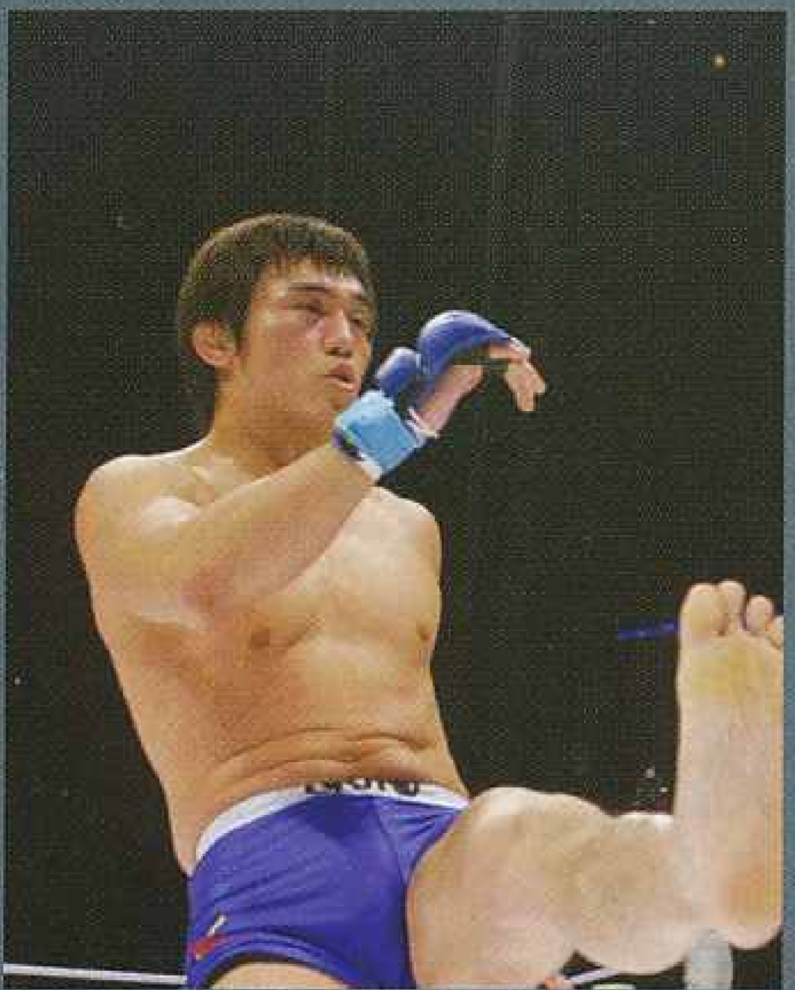
本誌108号インタビューでボードッグについて言及したダナは、カルビン・エアーのインタビューが掲載された『kamipro』をバンバン叩きながら「Bodog is JOKE!!」と厳しい批判を向けた。

パンクラスにはもう話したけど
近藤有己にはぜひ来てほしい

との提携についてお聞きしたいんですが。まずはパンクラスについての印象から。

ミゲル　まず第一に歴史が長いよね。この業界は特殊だから、アメリカと日本の団体でパッパッといろんなことがうまくできるってことはないよね？（笑）。そう考えて、やっぱり日本でいいパートナーを見つけなくちゃいけないと考えたときに、パンクラスが十数年のあいだ、興行戦争だ、引き抜きだっていうのを潜り抜けてサバイバルしてきたことは高く評価しないといけない。それと、私がこの業界に入った頃、パンクラスもアメリカでPPVをやってたんだよね。そこでガイ・メッツァー、ケン・シャムロック、セーム・シュルトといった選手たちを見てきたんで、やっぱりパンクラスっていうのはMMAの歴史の中で非常に価値のある団体だと思うんだ。そういう点では、これから一緒に仕事をするのを非常に楽しみにしているよ。

——ただ、このところパンクラスは日本の格闘技界の中で、ビッグプロモーションがより勢力を増す中で厳しい闘いを強いられてきています。



ミゲル氏がボードッグ入りを切望している近藤有己。もしボードッグへの参戦が決定した日には、近藤も岩場で腕立て伏せしているシーンを撮影されたりするのだろうか。

ミゲル　ボードッグっていう会社自体はもうすでに確立されていて、そこでこのファイトの部分に参入してきたわけなんだけど、アプローチとしてはオンリーワンになって、ほかの競争相手をすべて打ち負かして何もかも独占しようっていう考えはないんだ。このスポーツ全体が上がっていくためにどういうことをやればいいのかっていうのを一番考えてるんだよね。だから、一部の団体みたいにすぐに敵対意識を持って、アグレッシブにされるのは正直、困るんだ。反対にパンクラスは、いくつかの団体に比べればショーの規模は小さいかもしれないけど、その中で自分たちの権威を失なわずにずっとやってきてるわけだし、もの凄く安定してる会社だと思う。まあ、日本のほかの団体でも、海外担当者がボードッグの上層部と会ったりということはしてるんだよ、細かくは明かせないけど。パンクラスの尾崎社長も言ってるけど、やっぱり全方位外交ってことでいろんなところとうまく付き合えるのが理想だよね。

——一部には、パンクラスを日本市場進出の足がかりにして、最終的にはパンクラスに「ボードッグ・ジャパン」というラベルを貼りたいんじゃないかという見方もありますが。

ミゲル　パンクラスを踏み台だとは一切考えてないよ。たとえば2、3年経って土台ができたからポイッと捨ててK—1と組んだり、自分たちだけでやったりっていうことはありえない。だから、もしかしたらどこかの大会でパンクラスのリングマットにボードッグのロゴが入ったりとか、ある大会を「ボードッグ・プレゼンツ」っていうかたちにすることはありえるかもしれない。だけどいまのところはパンクラスの選手をこちらもどんどん使いたいし、こちらの推薦する選手をパンクラスにどんどん送り込みたいと思っているんだ。もしボードッグがパンクラスを買うと言っても、パンクラスにはパンクラスのイメージがあるから、反対に断られるかもしれない。そこまで傲慢には考えてないよ（笑）。

——すみません（笑）。リング上の交流に関してはどんな希望がありますか？　興味のある選手などは？

ミゲル　選手の交換について言うと、たとえばパンクラスで最強の選手とボードッグで最強の選手を当てて、「どっちが強いんだ⁉」みたいなことをしても意味がないと思う。パンクラスはアマチュア大会もたくさんやっているしジムもいくつも持っているから、これからの世代の選手をたくさん使っていきたい。いま、パンクラスでやってる若手の選手も、いきなりボードッグで海外で試合ができるということになれば、モチベーションもプロ意識も上がると思うんだよね。お互いにそういう交換をすることによって、次の大スターを作っていくことが一番おもしろいよね。

——なるほど。発想のスケールが大きいですね。

ミゲル　ただ一人、具体名を出すとしたら、近藤有己にはぜひ来てほしい。これはもうパンクラスとも話してるんだけど、いま彼は郷野戦に敗れて、ケガして欠場してるよね。だけど彼はUFCにも出てるし、いい結果も残しているベテランだ。だから彼がこちらで新しい近藤有己を見せるために、たとえば6月あたりのイベントでいきなりタイトルマッチを闘うってのもありだと思う。

——日本のファンにとって初めてボードッグの名前を目にしたのはMARSを通じてだったと思います。提携は終了したということですが。

ミゲル　MARSには凄く感謝してる。去年の時点でいろんなことができたし、いろんな選手の交換もできたことはよかったと思う。ただMFCトーナメントの優勝者がこちらに来ることまでが決まっていたことで、今回、優勝したキム・ドヒョンが来られなくて準優勝の坪井淳浩が来てくれたので、これで私たちのリレーションシップは完結したと思ってる。ただ、さっきの「全方位外交」だよね。MARSとも今後、いい付き合いができればそれに越したことはないわけだから、向こうも頑張って盛り上げていって、また交流できるときが来ればいいなとは思ってるよ。ただ最近は連絡が取れなくなって困ってるんだけどね（笑）。

——困ってますか（笑）。では最後に。ボードッグに対して、日本のファンとしては昨今のMMA戦争に豊富な財力を持った新たな怪物が現われたという印象を持っています。この戦争状態を乗りきるために、なんらかの秘策とか隠し球があるんでしょうか。

ミゲル　ディテールは言えないけど、あるんだな、これが（笑）。見方を変えてみるといいよ。たとえば『PRIDE』やK—1が、さいたまスーパーアリーナに何万人か集めてやってるのが一番大きな大会だと言うことはできると思う。だけど、今回みたいに1大会で32試合をやるってことはいままで誰もやらなかった。その意味でボードッグはすでに歴史に残ることをやってるわけだよ。

——まあ、ちょっと得体の知れない行為ですから（笑）。

ミゲル　いまはちょっと詳しく言えないけど、年末にはインターナショナルな規模でたくさんの人に楽しんでもらえるようなことを計画しているんで、楽しみにしてほしい。

——相当、自信がありそうですね。では楽しみに待たせてもらいます！

【07年2月13日／コスタリカ・タンボールにて収録】



現在、パンクラスと提携しているボードッグだが、2006年7月あたりからは“あの”MARSと協力関係にあった。いま思うと、非常に不思議な提携であった。

“禁断の楽園”に迷えし皇帝、MMAバブルの渦へ――

エメリヤーエンコ・ヒョードル ボードッグ参戦 とうとう正式発表!!

現実味を帯びるヒョードルの参戦 一方、DSE側はいまだ完全否定

世界の格闘技界を揺さぶり続けていた〝ウワサ〟が、だんだんと〝現実〟になろうとしている。PRIDEヘビー級王者、エメリヤーエンコ・ヒョードルのボードッグ参戦と、マット・リンドランドとの対戦が、ついにボードッグサイドから正式発表されたのだ。ボードッグ側では昨年12月の時点からヒョードルの出場自体については「正式」に発表していたのだが、DSEが否定していたことで情報が錯綜していた。

今回の発表は「ボードッグ・プレス」というメールによるプレスリリースというかたちで、筆者の手元に届いたのは2月14日の午前6時。コスタリカでは『ボードッグ・ファイト・シーズン3』『シーズン4』の収録が行なわれている真っ最中の時期にあたるが、ちょうど同日に『シーズン2』のテレビ放送が開始されたこともあって、発表に至ったのだろう。その時点ではボードッグ・ファイトの公式ホームページにはまだアップされていなかったが、現在は両者の写真とともに告知されている（http://www.bodogfight.com/ppv/）。

二度の日程変更を経て4月14日に決定したロシア・サンクトペテルブルグ、アイスパレスでの次回PPVイベントは、大会名も『ボードッグ・ファイト　エメリヤーエンコ・ヒョードル vs マット・リンドランド、クラッシュ・オブ・ザ・ネイションズ』と命名されており、この一戦に懸けるボードッグ・サイドの意気込みがよくわかる。

同大会は昨年12月のバンクーバー大会同様、8週にわたるTVシリーズ『ボードッグ・ファイト・シーズン2』のフィナーレとして開催されるもの。いつの間にかボードッグと『M―1』（レッドデビルがロシアで行なっている大会）の共催というかたちとなっている。前回と同じく、大会の軸は「ロシア vs アメリカ」だ。前座の試合ではこのテーマのもとに、TVシリーズの各試合で勝った選手たちが名を連ねる予定となっている。

この大会におけるヒョードルの対戦相手は当初、ジェフ・モンソンが有力とされていたが、最終的にマット・リンドランドに決定。この変更の理由はいま一つ定かでないが、モンソンが昨年11月にUFCでティム・シルビアに敗れていること、今年1月にボードッグがリンドランドとランディ・クートゥアーの主催する『スポートファイト』をスポンサードし始めたことは無関係ではないだろう。

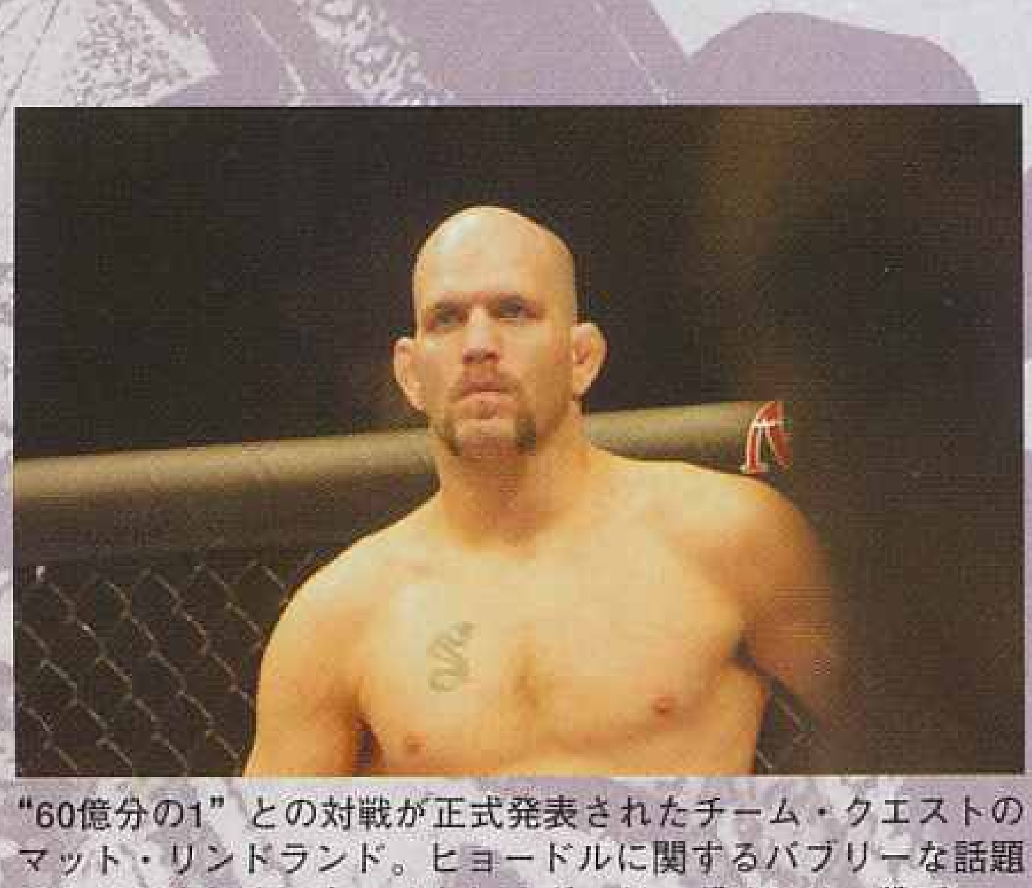
リンドランドは2000年のシドニーオリンピックで銀メダルを獲得したレスリングの猛者で、同年末のディファ有明大会でUFCデビュー。この時は安生洋二を下しており、これが唯一の日本でのファイトとなっている。以後、2005年までにUFCで12戦9勝3敗の成績を残した。3敗はムリーロ・ブスタマンチ、ファラニコ・ヴァイタレ、デビッド・テレルだ。これまでにフィル・バローニ、トラビス・ルターなどを下している。昨年からはIFLに参戦、ジェレミー・ホーン、カーロス・ニュートンに連勝中。

だがそもそもミドル級（80キロ中盤、『PRIDE』でいえばウェルター級）の選手であり、ヒョードルとの体重差も気になるところ。リリースで発表されたコメントでリンドランドは「オレはクレイジーかもしれない」と語っているが、それはこの体重差を指しているのだろう。

このボードッグの出現、さらには2月に旗揚げした『エリートXC』（10日、アメリカ・ミシシッピ州。大手ケーブル局のバックアップと豊富な資金力でメインのフランク・シャムロック vs ヘンゾ・グレイシーなど、大物選手を参戦させている）などの影響で世界MMA界は空前のバブル状態と化しているが、この煽りを受けてヒョードルのギャランティも高騰。その額はいまや、驚くべきレベルにまで達しているという。

〝大人買い〟ボードッグがその原因の一端を担っていることは間違いないが、ヒョードルサイドはミルコ・クロコップのUFC登場によるギャラ・アップも睨みつつ、各団体と交渉しているともいう。契約の問題はもちろん、ギャラの面でもこのMMA戦争が日本マット界に与える影響は大きいことだろう。新プロモーションの興隆、それに伴なう選手の移動にはいつも、新たな闘いの物語の誕生と引き抜きや交渉によるギャラの高騰という善悪両面がつきまとう。今回も、その例に漏れない。

さらに今回の発表について、DSEが「そういった事実はない」とコメントした、という新聞報道がなされた。これまでこの問題に関しては「いったいどうなる？」というニュアンスで書き続けてきたが、ボードッグの正式発表とこの対応を見るとも う、何が何やら状態。PPV契約についての案内を開始していることから見てももちろん、ボードッグサイドとしてはヒョードルの出場は完璧に既定路線だ。また同時に、エメリヤーエンコ・アレキサンダー vs エリック・ペレの一戦も発表されている。ヒョードルの、地元ロシアでの大舞台登場は当日までに、さらなる展開を見せることがあるのだろうか？



“60億分の1”との対戦が正式発表されたチーム・クエストのマット・リンドランド。ヒョードルに関するバブリーな話題ばかりが先行する中、はたしてボードッグはこの一戦でマット界に何を提示しようしているのだろうか？

MARS審判団 鬼木貴典の



ボードッグ in サンクトペテルブルグ

ズンドコ遠征談

聞き手／松澤チョロ　写真協力／bodog.com

謎多きボードッグのこと、もっと知りた〜い!! というわけで、本誌は今回潜入したコスタリカとは別に、昨年12月中旬にサンクトペテルブルグにて収録された『ボードッグ・ファイト・シーズン2』を調査すべく、一人の男に話を聞いた。その人物こそ鬼木貴典である。ボードッグといえば、現在は日本の老舗団体パンクラスと提携しているが、昨年末までは本誌が大プッシュしていたMARSと協力関係に。そのため『シーズン2』にはMARSからも審判が送り込まれることになり、代表して鬼木が派遣されることになったのだった。この重役を背に鬼木は一人サンクトペテルブルグへと飛んだのだが……!!

——今回はいろいろ謎の多いボードッグに関して、かなりの情報を持っていると噂の鬼木さんに、その裏事情についてお話をおうかがいしたいと思います!

鬼木　裏事情とかはそんなわかんないですよ。まあ、おかげさまで夜のサンクトペテルブルグに関してはかなりの情報を持ってますけど(笑)。

——そうですか(笑)。そもそも鬼木さんはMARSとボードッグがまだ協力関係にあった昨年、ジャッジ要員としてボードッグのサンクトペテルブルグ大会に派遣されたんですよね?

鬼木　ええ。去年の12月ぐらいだったと思うんですけど。

——いったいどういう経緯で鬼木さんが派遣されることになったんでしょうか?

鬼木　僕もあんまりわかってないんですけど(笑)、一応、僕が聞かされていたのは、MARSさんがボードッグから「ジャッジも世界基準にしないといけないから、格闘技が盛んな日本からもジャッジを一人派遣してくれ」って言われたらしいんですよ。それで、MARSさんから僕にお達しが来たという感じだったと思うんですよね。

——なるほど。しかし、ボードッグというと、オンライン・カジノの大富豪カルビン・エアーが主催するイベントなので、選手だけじゃなく、スタッフとかに対してもさぞや素晴らしい待遇だったんじゃないですか?

鬼木　あ、それは素晴らしいと思いますよ、たぶん(棒読み)。

——な、なんか、非常に他人行儀な言い方ですね(笑)。

鬼木　いやいやいや。だって僕、それどころじゃなかったんですもん。ずっと向こうで寂しさに耐えてすごしてたんですよ!

——は? それはいったいどういう意味ですか!?

鬼木　ずっと通訳がいなかったんですよ。僕、日本人一人だったのに……。

——見かけによらずそんな弱音を(笑)。最初は、通訳がいるって聞いてたんですか?

鬼木　もちろんですよぉ。最初は、「初日は通訳いないけど、二日目からいるから安心してくれ」って言われてたんですよ。だから、まあそういうこともあるだろうなって思ってたんですけど、二日目もいない! だからもう、サンクトペテルブルグに着いたはいいけど、スケジュールから何からまったくわからない。

——それは不安になりますよね(笑)。

鬼木　でも、僕は二日目は普通に通訳が来ると信じてたんで、二日目の朝、メシ食って、そのあとにロビーみたいなところで待ってたんですよ。でも、誰もいない……。ひたすらボーッとしてたんですけど一向に通訳らしき人が来る気配はない……。そんな僕を見かねたかどうかわからないんですけど、ボードッグのマネージャーみたいな人が僕のところに来たんですね。なので、「通訳は?」って聞いてみたんですよ。そしたら、「あとできっと来るだろうから、とりあえずバスに乗れよ」って言われて、選手とかスタッフと一緒にバスに乗って、よくわからないところに連れて行かれたんですよね。

——捉えようによっては拉致ですね、完全に(笑)。

鬼木　それでバスを降りたら、よくわからないロシアのお城みたいなところで選手の撮影とかが始まってるし、いったいこの集団は何をやってるんだ? って(苦笑)。

——2月のコスタリカ大会もそうだったみたいですけど、ボードッグって選手を各国の観光名所みたいなところに連れ出してプロモーション撮影をするんですよね。7月の『MARS』新宿大会(7・21『MARS bodog FIGHT01』)のときも浅草で選手にシャドーボクシングをさせたりして、それを撮ってたらしいですからね。

鬼木　そんな感じですね。で、次の日はさすがに来るだろうと思って同じように待ってたんですけど、3日目も来ない……(寂しそうに)。

——3日目も来ませんでしたか……。

鬼木　もう、あんまりおかしいなと思ったんで、通訳の件に関してはロシアからMARSとかいろいろ連絡とったりしてたんですよ。でもスタッフは「もうすぐ行くと思うから」って言うだけで……。だから僕も「これはもう自分で手配するしかない」と思って、日本にいる今成(正和)と連絡をとって「サンクトペテルブルグに日本大使館があるかどうか調べてくれ!!」って言って調べてもらったんです。それで「日本領事館ならあるよ」っていう返事だったんで、そこに連絡して「こういう状況で、どうしても通訳が必要だからそこから派遣してくれないか!?」って言って、ようやく通訳をつかまえたんですよね。

——完璧に自力じゃないですか(笑)。

鬼木　その通訳が、一日あたりお金が300ドルかかると言われたんですけど、もう、そのときはあったまに来てたんで、日本円で11万ぐらい現金で払ってやりましたよ!

——11万!! じゃあ、通訳が来るまでは、撮影が終わったら一人ホテルに閉じこもる生活だったんですか?

鬼木　いや。……じつは、そのボード

カルビン・エアーさんもいましたよ。〝王様の椅子〟に座ってました

ッグの撮影にUFCとかでもよく裁いてるレフェリーがいたんですね。その人と話せるようになったんで、その人についていって、夜はストリップとかに一緒に行ったりしてました（笑）。

——けっこう楽しんでるじゃないですか！（笑）。

鬼木　開き直るしかないもん。だから通訳が来るまでは「通訳こねえなあ」って思いながら酒飲んでストリップ行く、と。そういう生活です。でも、ちょっと前にサンクトペテルブルグで、なんか国際会議みたいなのがあったらしくて、街が異様にキレイだったんですよ。なんで、そっち方面もかなり物価が高くなってたんですよねぇ……。

——あっち方面ですね（笑）。まあでも、とりあえず通訳を見つけて、大会までには無事にボードッグのルールも把握できたわけですか。

鬼木　ええ。で、あとからわかったんですけど、通訳に関して結局どういうことだったかというと、ある国の選手のスタッフが母国語と日本語と英語を話せるから、それで大丈夫だろうということだったらしいんですけど、その選手が出られなくなったんで、自動的に通訳もつかなくなっちゃった、と。

——つまりは、その連携がMARSとボードッグのあいだでうまくできてなかった、と。いかにもMARS的なトラブルですけど（笑）。で、試合についても聞かせてほしいんですが。

鬼木　大会は二日間あって、全部で15試合ぐらいあったのかな。何人か有名な選手も出てましたけど。

——そこにはカルビン・エアー氏もいらっしゃったんですか？

鬼木　ああ、いました、いました。しかも、ドーラン塗ってましたよ！

——ドーランですか！　あの写真写りのよさはそういうことでしたか。

鬼木　僕、映画ってあんまり観ないんですけど、ハリウッド俳優かなって思いましたもん。それで、大会の会場自体は広いんだろうと思うんですけど、リングの周りはロシアっぽい柄のカーテンみたいなもので囲われてて、リングサイドの高いところに王様の椅子みたいなゴージャスな椅子があったんですね。で、スタッフとみんなで「誰が座るんだろう」って話をしてたんですけど、ちょうどその当時、（エメリヤーエンコ・）ヒョードルがボードッグに参戦するっていう噂が流れてたんで「きっとヒョードルだろう」ってヒソヒソ話してたんです。

——〝皇帝〟ですから、そういったゴージャスな椅子にも座るだろう、と。

鬼木　そういうシャレを利かせたのかなって思ったんですね。しかも、その会場に弟のアレキサンダーがいたんで、「これはもう間違いないな」と思ってたら、結局はカルビン・エアーが堂々とその椅子に座ってましたからね（笑）。

——やっぱり（笑）。アブダビ王子みたいなもんですね。

鬼木　それから、景気のいい話でいうと、その大会のアフターパーティもいきなり船の上で行なわれたりして凄かったですよ。

——ゴージャスに船上パーティですか（笑）。

鬼木　そう。それで、船に入ったら、なんと！　裸の女の人が5人ぐらい普通に歩いてるんですよ。ビックリですよ、もう!!

——裸の女性が5人！　ボードッグというと〝ボードッグ・ガールズ〟というのが常にカルビン・エアーの周りにいたりしますけど……。

鬼木　いやいや、そんなんじゃなくて、身体中にいろんなペイントをしてて、背中を見たら「ｂｏｄｏｇ」って描いてたりしてあるんですよね。ちょっとあれは凄かったなぁ～。

——つまり、それはショーを見せてくれる人たちだったということなんですかね。

鬼木　そういう感じでしたね。なんか異次元に来たような感じで、ホン



鬼木が語る謎の人間オブジェの写真はこちら。ブラックマンバは“当たり前のように”真顔で肩を組んでいるが、この光景、明らかに得体の知れない絵である。



『ボードッグ・ファイト・シーズン2』の会場はまさに異次元的雰囲気。鬼木の言う“王様の椅子”こそ写ってないが、写真にはカルビン・エアー氏の姿も！（左下にちっちゃく）。

トわけがわからない。やっぱ金持ちだとこういうことやるんだなあって、ボケーっと見ながら飲んでましたけどね。そしたら、今度は向こうのほうで喧嘩が始まったり（苦笑）。

——もしかして選手同士で喧嘩が始まったとか？。

鬼木　いや、選手同士じゃなくて、セキュリティみたいな人が突然暴れだしちゃったんですよ。

——セキュリティが暴れてどうするんですか！

鬼木　そういう人って、選手でもないのにやたらと身体がデカイじゃないですか。だから、僕もその喧嘩を止めようと思ってタックルにいったんですけど、100メートルぐらい引きずられましたからね。もう、ボクのタックルなんかまったく通用しなくて、逆にヘコみましたけど（笑）。

——ジャッジがセキュリティに引きずられたと（笑）。

鬼木　恥ずかしながら。ま、そんなこんなで、ボードッグの仕事は最初から最後までトラブル続きだったんですけどね（苦笑）。

——なるほど。結論として、鬼木さんとしてはジャッジとしてボードッグをジャッジすると、どんな感じでした？

鬼木　う～ん、正直なところ、格闘技イベントとしてはまだ完成されてないなっていう印象は受けましたよね。

——まだボードッグも旗揚げからそんなに時間が経ってないですしね。では、率直にいって手探り状態という部分も？

鬼木　あると思いますよ。だって、いざ試合となったときにリングのロープを見たら〝だるんだるん〟だったりしましたからね。リングスタッフも専門の人たちじゃない感じで。しょうがないから僕たちが作り直したりしてたんですけどね。

——資金力はあるけど、ノウハウがそこまで到達してない、と。だから鬼木さんのようなジャッジ陣もいろんな国から集めてたってことだったんですかね。

鬼木　さあ……？　僕、英語がしゃべれないんでよくわからなかったんですけどね（笑）。

——でも、ボードッグだけに鬼木さん個人としてはけっこうな収入になったりしたんじゃないですか？

鬼木　ん～……（考え込んで）、まあ悪くはなかったですよね、ココだけの話（声をひそめて）。

——さすがボードッグ！（笑）。

鬼木　でも僕の場合、通訳代とか、寂しさのあまり日本にかけた電話代とか、あとは……ストリップ代とかで、たぶん全体的にはマイナスかなあ。……だって、物価が高いんだもんなあ。ボードッグと関わって赤字だったっていうのはやっぱり誤算だよなあ……（ぶつぶつ）。

——まったくボードッグに迫っていない鬼木さんでした（笑）。

【07年2月16日／都内・喫茶店にて収録】



おにき・よしのり■1973年3月9日、福岡県出身。Team-ROKENのボスであり、同ジム所属でDEEPフェザー級チャンピオンの今成正和と親交が深い。DEEPを主戦場に選手として闘うかたわら、MARSではレフェリーも務めている。168cm、100kg。

ヒマでモテない kamipro読者へ

PRESENT FROM COSTA RICA

ボードッグといえば、彼女たち抜きには語れない!
ご存知、噂のボードッグ・ガールズ参上である。
遠く、南国コスタリカにて撮影された写真はなんと300枚!
何よりも気合いが入った特派員の"気合いショット"の数々をとくと見よ!!

MMA界を横こそぎ壊滅せんとする "カルビン軍" の魂を見よ!



「カルビンさま～」と元気よく写真に写るボードッグ・ガールズ。各々魅惑のポーズで自己アピールを図っているが、右にいくに従って若干テンションが落ちているのは気のせいだろうか。ちなみに、ボードッグ・ガールズはあと二人いる。



岩場での撮影シーン。ある意味、選手撮影よりもミスが許されない現場だが、彼女たちの完璧なパフォーマンスにより、スタッフたちは救われることが多いという。



皆、屈託のない笑顔を見せるボードッグ・ガールズだが、エアー氏の思惑なのか、彼女たちには「選手といっさい会話してはいけない」という厳しい契約が敷かれていることもぜひ知っておきたい。





ボードッグ・ガールズの最も危険なショット。写真の完成度の高さに驚くとともに、撮影者のカメラワークを想像せずにはいられない一枚である。

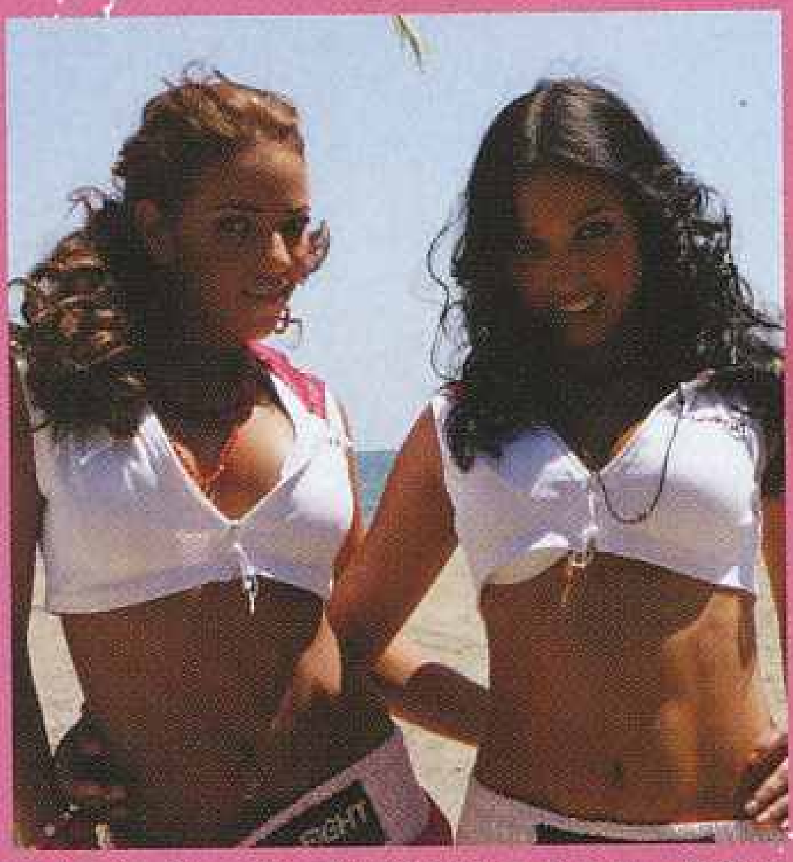


宮崎美子もビックリ! ボードッグ・ガールズにはビーチが似合う


セクシーショットが止まらないボードッグ・ガール。現在、『ハッスル』ではインリン様＆ニューリン様親子がセクシーパートを独占しているが、コスタリカから「カルビン軍」が攻めてきたときのことを考えると、二人は夜も眠れなくなるだろう。

ボードッグ・ガールズとは何か?

殺伐とした格闘シーンに、ひとときの華やぎを与えてくれる見目麗しい美女軍団。ボードッグにおける彼女たちの存在は、ある意味ファイターに勝るとも劣らない重要な位置づけにあり、単に"ラウンド・ガール"という言葉だけでは片づけられないほど、ボードッグのあらゆるシーンに出現する。また、ボードッグ・ガールズはシーズンごとに選出され、毎回、撮影地域のテイストに合わせたメンバーが選び抜かれている。そのため、今回のラインナップは南国コスタリカのイメージにマッチした、かなりエキゾチックな人選になっていることに注目しておきたい。



これぞ、ゴージャス＆ダイナマイッ! と言いたくなる二人だが、そうすると、おそらく恭子さんも美香さんも不機嫌になってしまうので、感じたことは心の中にしまっておこう。



昭和の芸人 その"狂気"の世界とは？

怒るでしかし！
タイガー・ジェット・シン、
横山やすしに学ぶ破天荒ライフ!!

2007年3月15日『ハッスル・ハウスvol.22』後楽園ホール
タイガー・ジェット・シン vs RG決定ッ!

平成の芸人

RGは死ぬか？

ハタリハタマタッ！　昭和の生きる伝説、あの"狂虎"タイガー・ジェット・シンが『ハッスル』3月シリーズに襲来！　なんと平成芸人のRG、HGと対戦する。24時間プロに徹したシンの生き様は、破天荒な昭和の芸人とも通底するが、今回はそんな昭和を生きたレスラー、芸人たちの狂気の世界を考える！

聞き手／井上槃宏（THE PEHLWANS）　構成／真下義之　シン写真／斉藤ユーリ　写真提供／DSE／ハッスル

毎日、怯えてます……。だって私生活でもホントに襲ってきちゃう人じゃないですか

ウソだと言ってヨウ！　本誌108号にて、この3月より新体制となる『ハッスル』に向け、なぜか自信満々にトークを展開したRG。「新生『ハッスル』でリングのド真ん中に立つのはボク」と主役宣言したところで、なんとインタビュー中に3・15『ハッスル・ハウスvol・22』にて、タイガー・ジェット・シン戦決定の報が到着ッ！

一転、RGは青ざめて、ワナワナと恐怖にうち震えた。そこで流血必至のこの大注目カードに挑むRGをふたたび直撃！　はたしてRGは死ぬのか？

――というわけで、前回のインタビュー中に突如〝悲報〟が飛び込んできたわけですけど（笑）。

RG　……そうでしたねぇ（顔をかなり曇らせて）。

――あれ、なんか顔色が悪いですね？

RG　RGは……（タイガー・ジェット・）シンに殺されるんですかね……？

――まあ、ファンはそう望んでいるところはありますよね。ハッキリとは断言できませんが、このインタビューが〝生前ラストインタビュー〟になる可能性がなきにしもあらず、かと。

RG　念のため確認させてもらいますけど、シンって、やっぱりタイガー・ジェット・シンのことなんですよね……？

――100パーセント、矢沢心ではないですね（笑）。まだ気持ちの整理が全然できてないって感じですか？

RG　ちょっと、あの……やっぱり最初は驚きと、「大丈夫なの？　俺は生きて帰れるの？」っていう恐怖心があったんですけど、発表後に全然プロレスファンじゃない友人たちから「おまえ、あのタイガー・ジェット・シンとやるのか!?」というメールや電話がいっぱい来たんですよ。

――やっぱり周囲の反響というのは大きかったですか？

RG　「俺でもシンの名前は知ってるぞ！　凄いな！」っていう。あらためて昭和のレスラーの偉大さを逆説的に思い知らされましたね～（うなずきながら）。

――ご友人たちは、そのほかになんて言ってました？

RG　「死ぬなよ」と……（ボソッと）。

――プロレスを知らない人たちにも〝死の予感〟を与えてますか！

RG　毎日、怯えてます……。だってホントに私生活でも襲ってきちゃうような人じゃないですか？　実際、『ハッスル』のスタッフの方からも「本当に危ないから、絶対に気を抜かないように」と言われたりしてますんで……。

――無責任な助言ですねぇ。そもそもシンというレスラーに関してはどんな印象を持ってました？

RG　いやあ、あんまりいい印象はないですねぇ。全日本プロレスで上田馬之助さんとタッグを組んでた頃の記憶が残ってますけど、ボクも子ども心に「なんでちゃんとリングの上で試合をしてくれないの？　なんで場外乱闘ばっかするの？」って思ってましたよぉ。

――おそらく今回も、ほとんどリング上での闘いにならないんじゃないかって気がしますけど（笑）。

RG　ええっ……？　それはレフェリーにちゃんとしてもらわないと！　大晦日のヌルヌルの件もありますし、新生『ハッスル』になったことを機に、レフェリングに関してはきちっとしてほしいですよ！　いや、冗談じゃなく!!

――しかし、リング上もさることながら、シンはかつて新宿の伊勢丹前でプライベートの猪木さんを襲撃したこともある男ですよ。日本に入国しちゃった以上は、いつどこで襲ってくるかわかりませんよね。

RG　ホント、なんて怖い相手なんだ……。

――たとえば新宿のルミネtheよしもとの舞台で「どうも～」ってやってるときに、いきなりサーベルを持ったシンが舞台袖から飛び出してくるかもわからないし（笑）。とにかく試合当日まではなるべく電車移動はやめて、タクシーを利用されたりしたほうがいいですよ。

RG　そこまで考えなきゃダメェ!?　でも、そんな調子だったらボクが乗ったタクシーの運ちゃんがシンってこともありえるってことでしょ!?

――いや、そんなおもしろいことは起きないかと（笑）。それとRGさん、クルマをお持ちですよね？

RG　へ？

――いや、昔シンが馳浩の愛車のセリカをボコボコに破壊してたなあと思って（笑）。

RG　ちょっとぉ！　ウチのは、ほぼ嫁のクルマなんですよぉ!!　ある意味、ウチの嫁はシン以上に怖いんでそれだけは勘弁してくださいよぉ。車検もこないだ通したばっかりなんだし。

――誰にお願いしてるんですか（笑）。しかし、いまだに一般人にも殴りかかったりするくらい、ハートは〝キープ・オン・狂気〟らしいから、ホントに気をつけるに越したことはないですよ。

RG　……『ハッスル』はなんでそんな人を呼ぶんですか？

――さあ。すべては髙田総統のお考えでしょうからね。

RG　それって髙田総統が「RGならやれるはず」と踏んだんですかね？

――それか、新生『ハッスル』ということで、いままでの『ハッスル』にはなかったカラーを取り入れたいのかもしれませんね。〝命のやり取り〟的な試合とでもいうか。

RG　〝命のやり取り〟……。

――まぁ、RGさんの場合、命をやるだけで取ることはないと思うけど（笑）。

RG　いや、でもマジメな話、髙田総統はボクの〝受けのポテンシャル〟というものをさらに引き出したいということなんだと思いますけどねぇ。坂田（亘）さんも言ってましたけど、「RGはお笑い芸人のツッコミじゃあ光らない」と。だったら、ここはもう〝プロレス界最恐の男〟にツッコませるしかないだろうという発想だと思うんですけど……。

――そうなんですかね。

RG　あとは自惚れるわけじゃないですけども、シンの相手にボクの名前を出したってことは、RGという商品価値もここまで上がってきたのかなあとは思ってますけど。

――前向きですねぇ。ホント、去年一年の闘いで考え方も凄いタフになったようですね。

RG　（ちょっと元気になって）ええ。だからこれはRGにとってちょっとまた凄い転



機が訪れたんじゃないかなと思いますけどね（ニンマリ）。

——あ、今日初めて笑顔がチラっとのぞきましたね。安心しましたよ。

RG コレ（アームブリーカーをする仕種）、いっときますかぁ？　シンといえばコレでしょう！

——極端に元気になりすぎですよ（笑）。

RG いや、いままでもイヤだ、イヤだと言いながら、毎回試合で何かしらの発見があったんで、今回もシンにサーベルでブン殴られて何か新しい発見があるかもしれないですよ！　RGの凄い受けがね。フッフッフッフ……。

——不気味な笑いだなあ（笑）。

RG （ザ・グレート・）カブキさんの自らの血をピュ～って飛ばす妙技じゃないですけど、アレを超える何かが生まれるかもしれないじゃないですか。

——あのグレート・カブキの伝説の噴血芸を超えますか！　でもRGさんは過去に試合で流血したことってないですよね？

RG いえ、学生プロレスやってたときに一度流血したことがあったんですよ。試合中に相手のヒザがボーンってこめかみあたりに当たりまして。あのときは自分の中で凄いボルテージが上がりましたけどね。言うなれば〝流血・ハイ〟みたいな感じで。

——リングネームが「チン先真性」だった時代ですね。それはどんな種類のハイだったんですか？

RG 単純にいうと、カラダが軽くなって動きがさらによくなったというか。その瞬間、ボクとお客さんが一体になりましたね。

——流血で観客と一体になった！

RG だって、流血しながらトップロープを拝み渡りとかしましたからね。

——あ、それは素直にかっこいい（笑）。

RG そう考えると流血には何か不思議な魔力があるのかもしれないですね。流血でボクのいまだ押されてないスイッチが入るかもしれないですよ……。

——なぜか流血する気マンマンですね（笑）。しかし個人的な意見ですけど、マッチメイクを聞いた時点でここまで強烈に観たくなったカードは『ハッスル』史上初ですよ。



あーるじー■1974年6月8日、愛媛県八幡市出身。お笑いコンビ『レーザーラモン』HGの相方。HGに続き『ハッスル』参戦。なぜか4代目GMに抜擢されると現場を大混乱に陥れた。06年より試合出場も増加、金村キンタロー、鈴木みのるらと対戦。壮絶なヤラレ芸と過剰な"受け"で一部マニア層から高い評価を受け、本人も調子に乗っている。

RG どんなシーンを強烈に観たいんだか……。でもまあ、ただのいちプロレスファンだった男が、シンと聖地・後楽園ホールでやることになるなんて、なかなかないですよねぇ。

——あのシンですからね。こうやって過去の数々のエピソードを振り返ってみると、シンって24時間ハッスルして生きてるような男ですよね。

シンには昭和のお笑い界のレジェンドにもある種、通じるものがありますよねぇ

RG そういった部分では、横山やすしさんとか西川のりおさんといった昭和のお笑い界のレジェンドにもある種、通じるものがありますよねぇ。

——なるほど。言ってみれば今回の一戦は「平成芸人を代表して昭和の狂気に立ち向かう」という図式も成り立ちますね。

RG そうですねぇ。やっぱり、いままでビビってるだけでしたけど、確かに平成世代を代表して闘わなければいけないという責任感のようなものも芽生えてきてはいまして……。やっぱりボク、今回シンと闘うことによって得るものって、相当に多いと思うんですね。「キャラクターを貫き通す」だとか「日常生活でも気が抜けない」だとかね。すでにもう現時点から勉強させてもらってる感じはするので。

——勉強させてもらってる！　大先輩の芸人に接する姿勢ですね、それは。

RG やはりボクのゆるいキャラ設定だとか、いままでダラダラ生きてきた生き様だとかを正してくれるいい機会になるんじゃないかなという、プラスの発想で考えてはいます。

——さすが受けの天才！　シンによって生き様を正すなんて発想は、なかなかできることじゃないですよ。

RG だって、いつ目の前に現われるかわからないんでしょ？　クルマだって平気で壊したりする人なんで、もし家族といるときに何か起きたら全力で守らないといけないですから。でも……日常生活にいい緊張感を与えていただいて、高田総統、どうもありがとうございます！

——なんか〝人質が誘拐犯に恋しちゃった〟パターンに陥ってる気がしないでもないですが（笑）、最後にこの世紀の一戦に向け、ファンへのメッセージをお願いします。

RG はい。（姿勢を正して）シン戦で、もしかしたらボクは死ぬかもしれませんが……生き様、見届けてください。そして、もしボクが死んだ場合には、必ず今年のベストバウトはシンvsRG戦に投票してください。以上です。

——授賞式には出られないが、と（笑）。いや、笑ってる場合じゃねえや、RGさん！　必ず生還してください!!

RG はぁ……しかし、なんでシンなんだ……。

【07年2月19日『kamipro』編集部にて収録】

RG、奇跡の生還なるか？ハッスル3月シリーズスケジュール

ハッスル・ハウスvol.22
東京・後楽園ホール
3月15日（木）試合開始19:00（開場18:00）

［チケット料金］
※全席指定・消費税込み
ハッスルVIP 10,000円／スタンドS 6,000円
スタンドA 4,000円／スタンドA 3,000円

［決定対戦カード］
RG vsタイガー・ジェット・シン
KUSHIDA vs ＼(＾０＾)／チエ

ハッスル21
愛知・名古屋体育館
3月18日（日）試合開始17:00（開場16:00）

［チケット料金］
※全席指定・消費税込み
ハッスルVIP（特典＝ハッスル・グッズつき）12,000円
RRS 8,000円／スタンドS 6,000円／スタンドA 4,000円

［決定対戦カード］
HG vsタイガー・ジェット・シン
小川直也 vs TAJIRI

［オフィシャルHP］
http://www.hustlehustle.com

［問い合わせ］
DSEハッスル事業局　TEL.03-5464-1731



タイガー・ジェット・シンの "異常な狂気"伝説!!

これぞ昭和の芸人魂!?

文／山本宗忠（THE PEHLWANS）　構成／真下義之

タイガー・ジェット・シンこそ、プロレス界における〝昭和の凄玉芸人〟！　シンは昭和を代表する悪役レスラーとしてリング上だけでなくリング外でも24時間、その内面に潜む狂暴性を抑えることなく吐き出し続けた。

アントニオ猪木は、そんなシンとの闘いの中において、「自分の潜在的な怒りを叩きつけるような面を、シンが掘り起こしてしまった」とコメントしている。あの猪木に潜む怒りさえも呼び覚ましてしまうほどの狂気とは？

子どもは泣き叫び、大人は逃げまどう——。昭和プロレスファンを恐怖のどん底に叩き落とした〝狂える虎〟タイガー・ジェット・シン。その代表的な凶行の数々をここに紹介しよう。

シン伝説 その1　狂乱の日本マットデビュー

初来日は73年5月。同月4日の新日本プロレス川崎市立体育館大会。なんの前触れもなくフラリと会場に訪れたシンは、リングサイドで試合を観戦していたが、山本小鉄vsスティーブ・リッカード戦後に、突如としてリングに乱入！　山本小鉄に暴行を加えて失神させたのだ。

いまこそ乱入は日常茶飯事だが、当時は前触れもなく、突然乱入してくるというのは珍しいこと。観客はもちろん選手（セコンド）も何が起こったのか理解できず、シンの暴行を制止に入ることもなく、小鉄さんがやられる様子をただ震えあがって見つめるだけだったという。日本マット初登場からいきなり凶行におよんだシンは、ファン・関係者・マスコミに強烈な印象を与え、新日本マットに強硬参戦することに成功！　以後、数々の伝説を作っていくことになる。

シン伝説 その2　猪木、伊勢丹襲撃事件

シンのもっとも代表的な凶行としてあまりにも有名なこの事件。73年11月5日、東京・新宿伊勢丹デパート前。現在も買いもの客で賑わうこの一角で惨事は起こった。シンは、当時の猪木夫人である女優・倍賞美津子さんと買いものデート中だったアントニオ猪木を白昼堂々と襲撃！　猪木はこの襲撃で流血し、警察まで駆けつける大騒動となった。

この事件が話題になり、新日本は〝シン＝狂人〟というイメージを定着させることに成功したわけだが、じつはシンは暴行途中から異様なテンションになってしまい、ヒートしすぎた凶行があそこまでの騒動に発展したとも言われている。

まさに神出鬼没のシン……。HG＆RGが無事『ハッスル』3月シリーズに現われることを祈るばかりである。

シン伝説 その3　馳浩のセリカ破壊事件

RGの愛車はOPELだそうだが、正味の話、試合当日は愛車での来場は控えたほうがいい。なぜかって？　かつてシンは、馳浩の愛車トヨタのセリカを金属バット一本でメチャクチャにブチ壊したこともあるのだ。

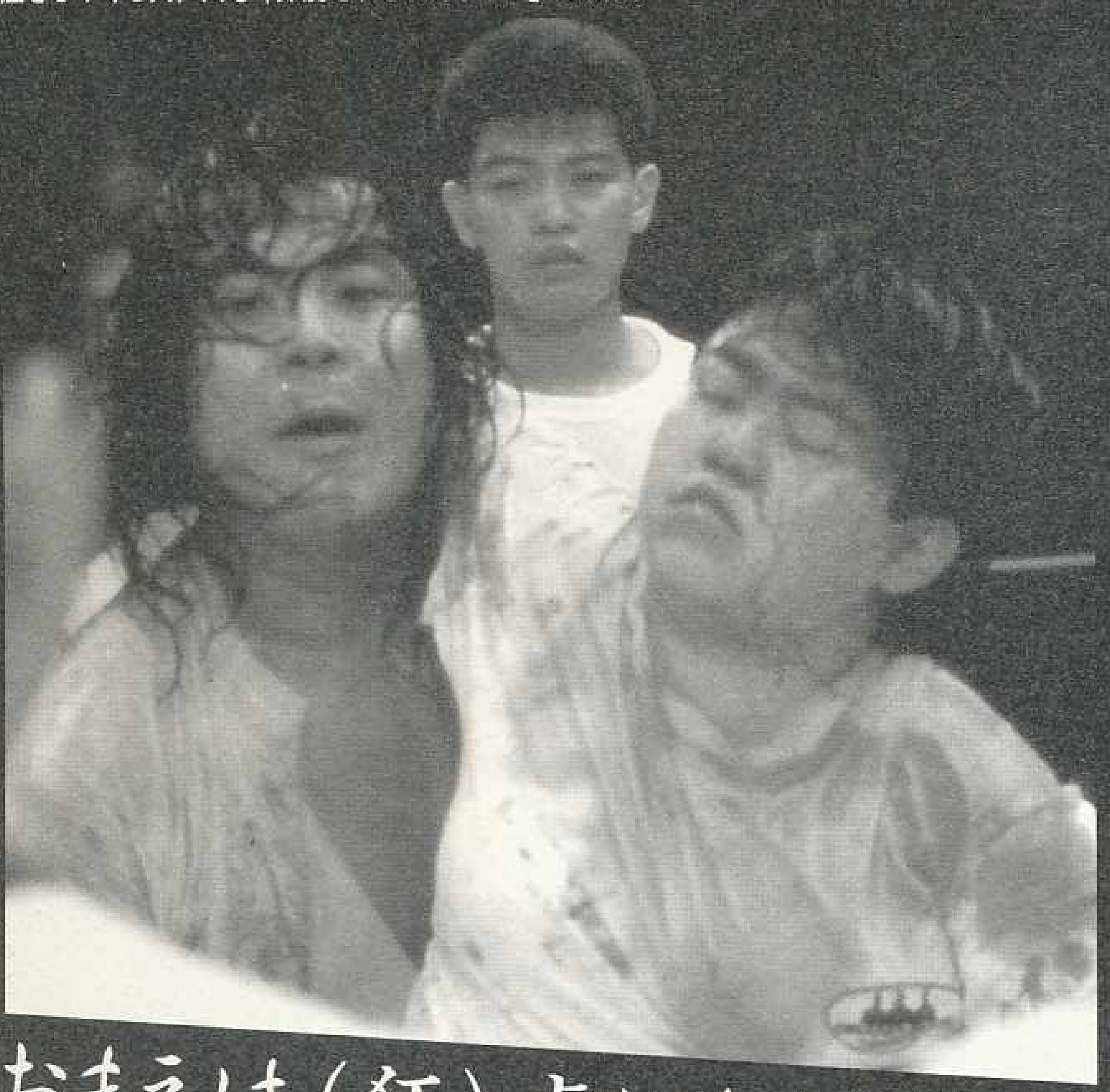
事件が起きたのは、91年3月1日、新日本プロレス諏訪湖スポーツセンター大会。大会終了後、馳が長州とともに会場の駐車場に停めておいたセリカGT—Rに乗り込むと、体育館脇からフラっと現われたシン。

このときシンの手には黒い金属バットが握られていた！　長州と馳は慌てて車外に飛び出ようとしたが、その前にシンはバットでフロントガラスを一撃！　まさに勝手にシンドバット!!

さらに10数回にわたりフロンガラスをバットで叩き続けたシンは車の上に登ると、リアガラスやドアウィンドーも粉々に破壊!!　ボンネットはシンのストンピングでボコボコの状態。なんとか車外に出た長州と馳だったが、その異常な凶行ぶりにキレるヒマもなくただ呆然と立ちつくすのみ。初来日時もそうだが、このときもシンの来日予定はなく、まったくもって予測不能な出来事だったのだ。

凶行におよんだ理由は、同年同月21日に長州は東京ドームでグレーテスト18クラブの指名試合を行なう予定で、その挑戦権を得るためだった。この時点で馳とは因縁ナシ（翌年の92年に馳と

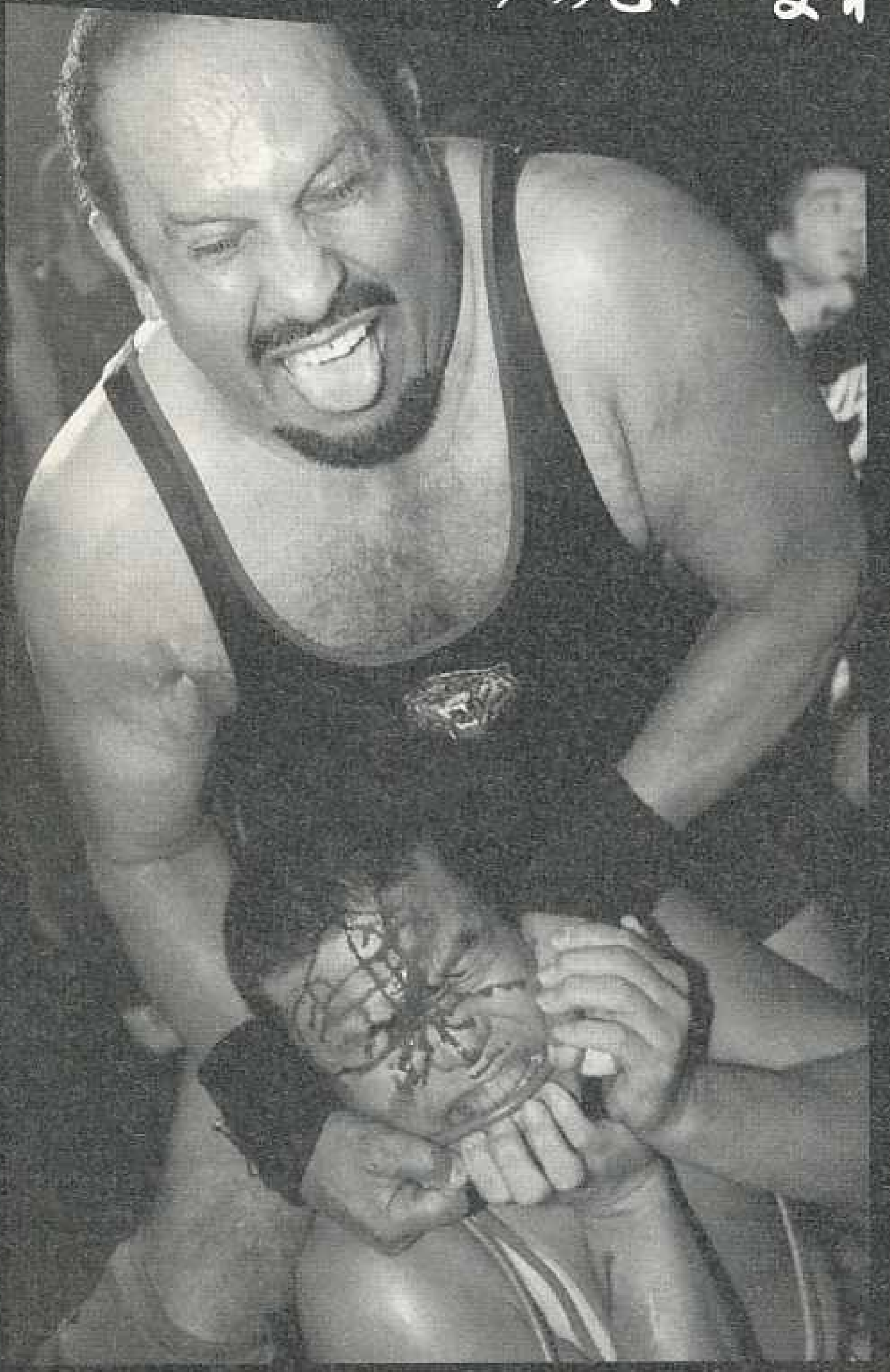
92年7月、ＦＭＷ後楽園ホール大会で、シンは大仁田のセコンドについていた鍋野ゆき江を大流血させて病院送り！ 泣きじゃくる大仁田も「節度をわきまえろや！」と激高。



大勢のファンが駐車場に集まる中、シンは金属バットで馳の愛車セリカGTRを破壊！ 怒った馳がシンにつかみかかったがバットで返り討ち！ 馳がひるんだスキになぜか近くにいた栗栖正信と会場をあとにした。



「おまえは（狂）虎になれ!!」なタイガー・ジェット・シン グラビア



04年10月、『ハッスル』に初参戦したシン。登場とともに客席になだれ込み、変わらぬ狂気性をアピール。『ハッスル6』では当然のように小川を血だるまにしている。





実業家としても成功を収めているリッチなシンは、「プロレスは趣味。対戦相手を血祭りにあげたい衝動に駆られる」とコメント。趣味や道楽であの凶行の数々……狂っているとしか言いようがない。写真上は、ＷＷＥでも活躍した息子のアリ・シンとともに写真に収まるシン。写真下は、インドにあるシンの狂虎御殿。豪邸内にはハンティング場やゴルフ場も所有している。

シン狂気の事件年表

1973年 5月 4日	初来日。新日本プロレス川崎市立体育館大会に乱入し、山本小鉄を失神に追い込む。
1973年11月 5日	東京・新宿伊勢丹前で買いもの中の猪木＆倍賞美津子（当時）夫妻を襲撃。白昼堂々、猪木を流血させる。
1977年 2月 2日	“まだら狼”上田馬之助とのタッグで、坂口征二＆ストロング小林組からNWA認定北米タッグ王座を奪取。
1991年 3月 1日	新日本プロレス諏訪湖スポーツセンター大会で、馳の愛車セリカＧＴ—Ｒを破壊する。
1991年12月10日	翌年の1.4東京ドームでアントニオ猪木への挑戦権を譲ってもらえるようカナダのシン邸に説得に来た馳浩を暴行し、近くの沼に突き落とす。
1991年12月18日	猪木への挑戦権をかけて馳浩と巌流島で一騎打ち。試合は1時間11分、立会人のマサ斎藤がシンの戦闘不能を確認し、馳のKO勝ちとなった。
1992年 6月30日	大仁田厚と関ヶ原でノーピープル・ノーロープ有刺鉄線電流爆破マッチ。大仁田からフォール勝ちを収める。
1992年 7月19日	FMW後楽園ホール大会のメイン終了後に乱入。制止に入るセコンドたちに暴行を加え、ついには女子レスラーの鍋野ゆき江まで襲い、流血、病院送りにする。
2004年10月21日	『ハッスル・ハウスvol.3』後楽園ホール大会に参戦。アン・ジョー之助とタッグを組み、坂田亘＆藤井軍鶏侍と対戦。シンは、ほうきやゴミ箱を持ち客席を急襲！ 本誌・ジャン斉藤編集統括本部長も襲われかけていた。
2004年10月23日	『ハッスル6』愛知県体育館大会で小川直也と激突。小川を流血に追い込むも、小川のSTOボンバーに敗れる。

シンは猪木戦をかけて巌流島で対戦）。あくまで標的は長州であり、馳にとっては非常に迷惑極まりない話だった。

シン伝説 その4 鍋野ゆき江襲撃事件

気をつけるのは何もＨＧ＆ＲＧだけじゃない。観戦しに行くファン、もちろん女性や子どもも充分に注意を払ったほうがいい。

前回の『ハッスル』参戦時も、シンは観客相手にサーベルを振り回し、あたりかまわずイスを放り投げまくっていたことは記憶に新しい。しかしさらに過去へさかのぼると、シンは本気で女性に暴行を加えたこともあるから恐ろしい。

92年7月19日、ＦＭＷ後楽園ホール大会。ＦＭＷマット初登場！ メインイベント終了後には、エース・大仁田厚を襲撃するために乱入！ 制止に入った若手を見境なく蹴散らしたシンは、なんと大仁田のセコンドについていた女子レスラー、鍋野ゆき江にまでサーベルを突き立てた！ エプロンから転げ落ちた鍋野はＴシャツが真っ赤に染まるほどの大流血！ すぐに医務室へ運ばれたが、意識の戻らない鍋野は病院へ直行！『週刊プロレス』の表紙も飾る〝事件〟となった。

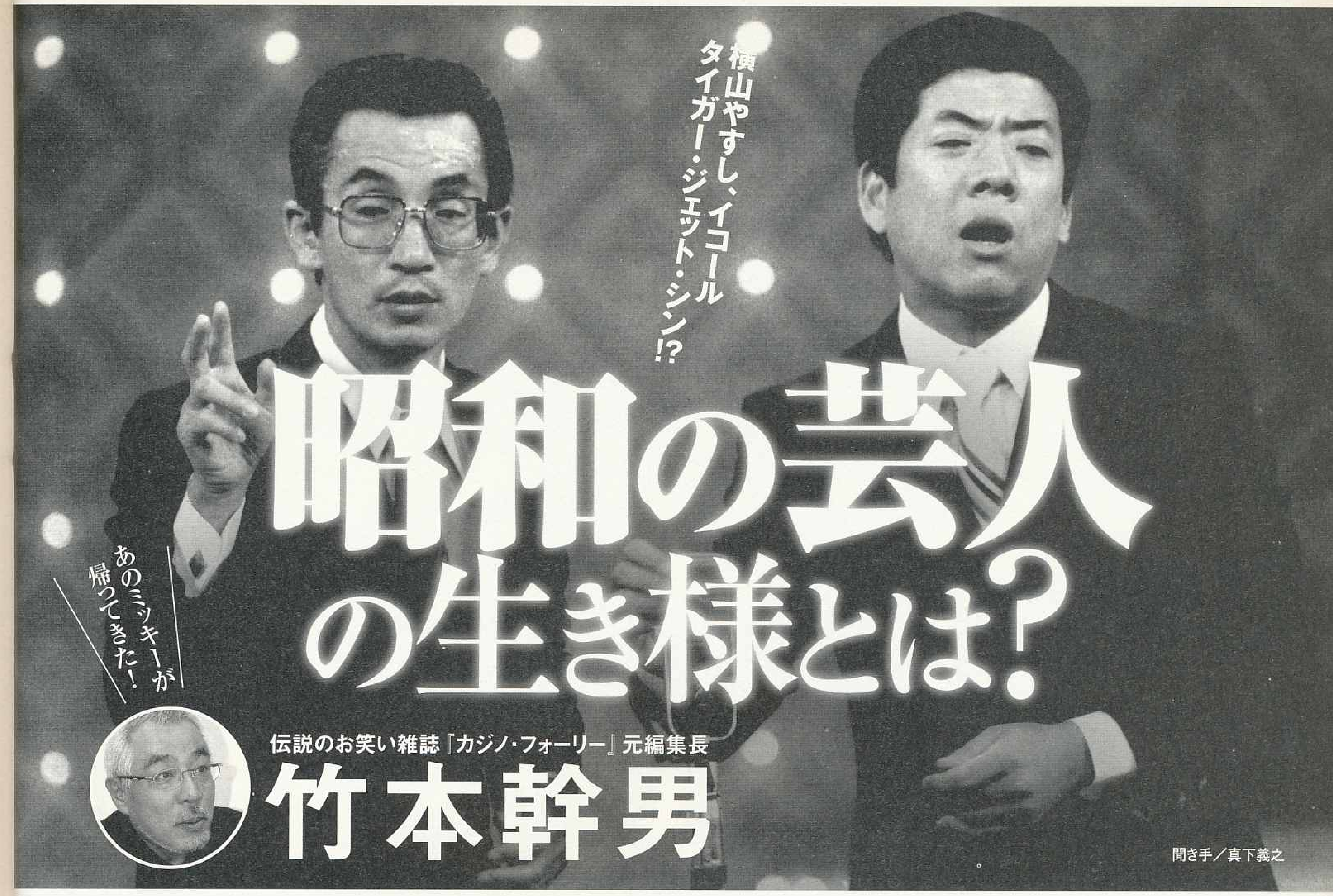
鍋野は後年、この事件を振り返り、「シンと目があったらガツンとやられた！」とその衝撃度を語っている。プロレスラーとはいえ女性。しかし、狂乱状態に陥ったシンにとっては、女性だろうが客だろうが関係はないのだ。

以上、シンの〝異常な狂気〟伝説を紹介してきたわけだが、これはほんの一部にすぎない。たとえば、入れ墨を入れた男が控室に入ってきてシンがボコボコにしたあと、復讐に燃えた１００人のヤ○ザと対峙し、一歩も引き下がらなかった、など脅威の武勇伝も残っている。

「オレ様が闘えば、すべてがシュートになる」

闘う側だけでなく、観る側にも危険がおよぶ。それがタイガー・ジェット・シンだ。

07年3月、常識を越えた狂気をまたもや我々は目撃する！ ハタリ・ハタマタッ!!



横山やすし、イコール
タイガー・ジェット・シン!?

あのミッキーが帰ってきた!

昭和の芸人の生き様とは?

伝説のお笑い雑誌『カジノ・フォーリー』元編集長

竹本幹男

聞き手／真下義之

あのミッキーが『kamipro』に帰ってきた!! ……といってもほとんどの本誌読者はご存知ないかもしれない。

ミッキーこと、竹本幹男は90年代半ばに発行されていた、小っちゃい判型の元祖『紙のプロレス』にたびたび登場し、「『紙プロ』は是か? 否か?」といったディベート大会に参加したり、その不思議な言動についてツッコミを入れる『タケモトの世界』という連載も持っていた人物であり、なにより伝説のお笑い雑誌『カジノ・フォーリー』(現在は休刊)の元編集長である。

今回はそんな竹本幹男をひさびさに編集部にお招きして、これまたひさびさに『ハッスル』に来日する〝狂虎〟タイガー・ジェット・シンと同じく、舞台上でも私生活でも24時間、破天荒な自分を演じた伝説の昭和芸人たちについてたっぷりとお話をうかがった。

竹本　それにしてもさぁ、なんでタイガー・ジェット・シンの企画で昭和の芸人なの?

――じつはですね。今度、お笑い芸人であるRGがシンとプロレスで対戦するんです。

竹本　ほう。

――そのシンをRGの本道であるお笑い芸人にあてはめると、〝狂気を感じるような破天荒な昭和の芸人〟というイメージがあるんですけど。

竹本　そこで、俺が知っている〝昭和の芸人〟を語るってことか。

――そうです、そうです。そうして、〝平成の芸人〟RGとの一戦の意味合いを考えようというのがインタビューの趣旨なんです。そこで伝説のお笑い雑誌『カジノ・フォーリー』の竹本さんにお話をうかがえればと思いまして。

竹本　ま、『カジノ・フォーリー』はとっくに休刊してますけどね(笑)。しかし『kamipro』もだいぶ変わったねぇ。

――竹本さんが昔よく出ていた、小っちゃい頃の『紙のプロレス』とは判型も編集長も違いますから。

竹本　山口(日昇/前・編集長)くんはもう、編集部に来てないの?

――ええ。ズバリ言って、まったく来てねえんです! (笑)。そろそろ本題に入りますが、破滅的な生き方をした昭和の凄玉な芸人というと誰を思い浮かべますか?

竹本　まぁ、横山やすし[注1]というのが一般的かもしれないけど……私生活でも芸人的な生き方を徹底したという意味では、藤山寛美[注2]かなぁ。

――〝昭和の喜劇王〟として知られる松竹新喜劇のスターであり、座長さんですね。

竹本　あの人は金遣いもメチャクチャ荒かったし、もの凄い借金をして周囲を巻き込んでたから! みんなを惹きつける一座のボスでもあったし、そういう意味でシンより、アントニオ猪木的かもしれないけど。……まぁ、藤山寛美だとあまりにも『kamipro』読者には馴染みがないか(笑)。

――横山やすしのほうがまだ馴染みがあるかもしれないですね。

竹本　ヤッサン(横山やすし)は、漫才師として天才だったし、私生活では破天荒だったし、何度か傷害事件も起こしたけど。ただ、ヤッサンがプロレスラーと似てると思うのは自分で自分を〝作ってる〟ところでしょ。

――昭和のプロレスラーのように、自分を過剰にキャラクタライズしていった、と。

竹本　ヤッサンの起こした事件(70年、タクシー運転手に対する傷害、ほか)は、たいした事件じゃなかったけど、マスコミが騒いで、その話がブワーッと大きくなった。ただ、やすしきよしの漫才って、ヤッサン



の事件の話をいつも漫才の中に入れてたんだよ！

――それは意識的に？

竹本　そう。俺は〝ドキュメント漫才〟と呼んでるんだけど、漫才も虚構だけではもたなくなって、そういうリアルな現実を挟み込むんだよ。漫才の途中で相方の（西川）きよしが「笑いが少ないな」と思ったら「ムショから帰ってきた人ですよ！」とか、ヤッサンの事件の話を加えていく。彼らのネタの3分の1はそういう話だったから。

――スキャンダルをビジネスにつなげていた猪木さんとも近いかもしれないですね。

竹本　やすきよは事件の前も、漫才師としては悪くない位置にいたけど、ヤッサンが事件から復帰してからは2倍か3倍くらいの人気者になったし、知名度も全国区になったから。

――シンも新宿伊勢丹の猪木夫妻への襲撃事件がブレイクポイントになってますね。

竹本　ヤッサンの最初の傷害事件は、タクシーの運転手を殴って運転手が怒っちゃった。そこで裁判に持ち込まれて、執行猶予つきだけど、前科がついちゃった。で、2回目の事件のときはタクシー運転手に「おまえらはしょせん〝〇〇〇〇〟だ！」って差別発言をしたらしいけど、運転手もそのぐらいで騒ぐのはおかしいんだよ！

――確かに（笑）。しかし、なぜ2回ともタクシーだったんでしょう。

竹本　じつはヤッサンは師匠である横山ノックの弟子時代に食えなかったから、オートバイで〝白タク〟をやってたらしい。だから大阪の道をよ～く知ってたの。

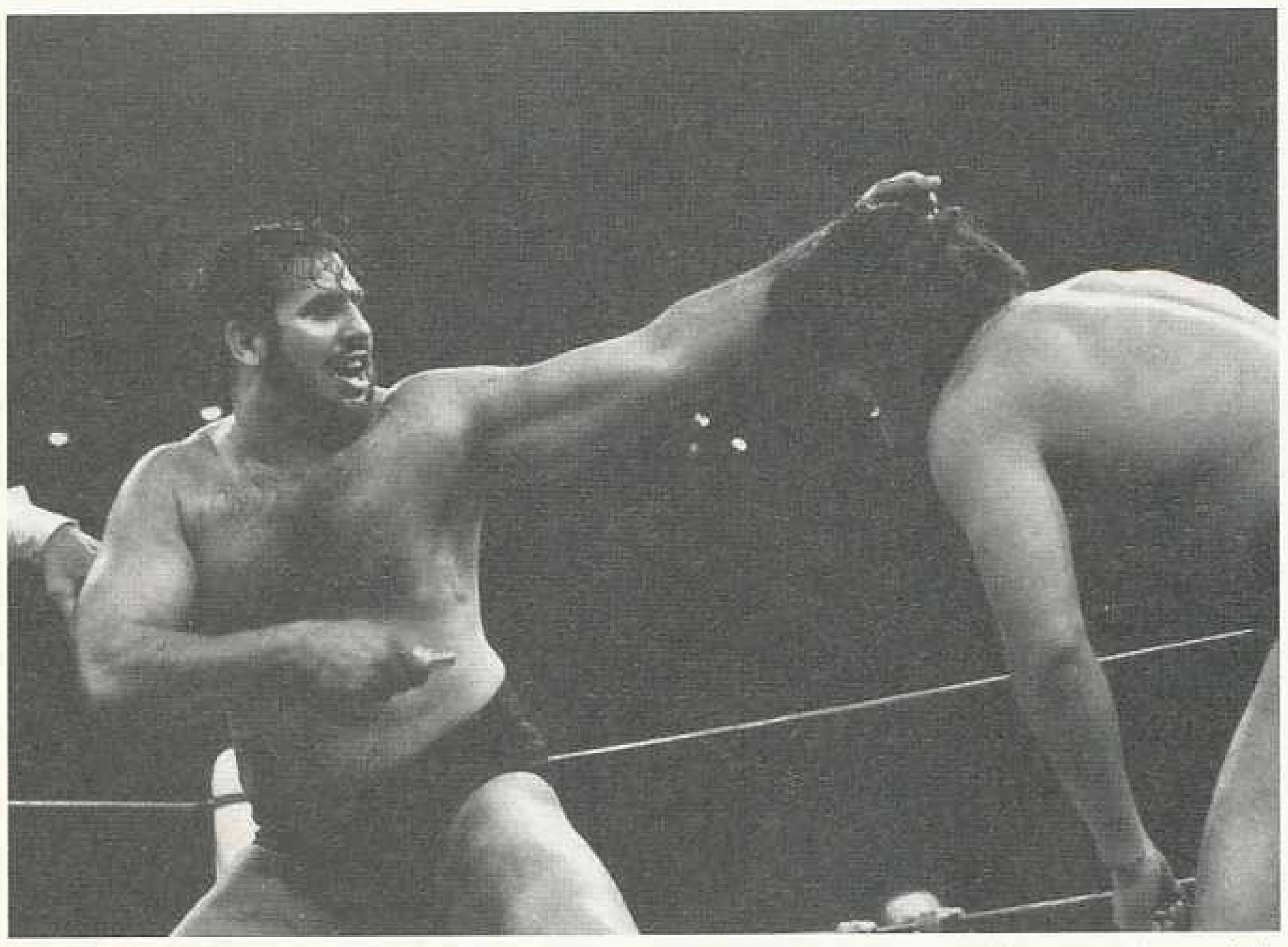
――オートバイでタクシー！　その発想自体が飛び抜けてますね（笑）。

竹本　ヤッサンが頭がいいのは、普通の場所では客は乗らないのはわかってた。だから競艇場とか競馬場の帰り道を狙った。ああいう帰り道はみんないっぺんに帰るから、タクシーなんてつかまらない。でも、勝ってるヤツは金を持ってるから一刻も早く帰りたいでしょ（笑）。

――タクシーのスキ間稼業を狙った、と。

竹本　それにああ見えて、倫理観や正義感は強かったから、適当な運転のタクシーに乗ると「プロなのに、なんで道知らんねん！」とキレちゃう。それに「この道でないとあかん！」っていう部分では潔癖性っぽい部分もあるもんね。

――ヤッサンは潔癖性だったんですか？



"昭和の狂気"を体現する男、シンは「いまのイノキがいるのは俺様のおかげ」と語るように、当時の猪木との抗争は激しさを極め、74年6月26日大阪府立体育会館では猪木のシンへの腕折り事件に発展！　度を超えたプロレスラー魂に観客は熱狂した。

竹本　だって、ヤッサンは3日と開けずに理髪店に行ってたんだから。「この髪型でないとあかん！」って（笑）。

――なんでも「こうでなければならない！」という倫理観が強かった、と。

竹本　そういう意味では〝恐怖の時計鍋〟って伝説もあるね。ヤッサンが自宅で仲間と鍋をやってるとき、ヤッサンはそういうときに早く退散する人や、帰ろうとして腕時計を見るヤツがいるとそいつの腕時計を取って鍋に入れちゃうらしい（笑）。

――それはヒドいですね！（笑）。

竹本　ただ、そういう中で相手の人間性を観察していたらしいんだよ。「表面的に俺にすり寄ってきてるけど、おまえは本当に俺のこと好きなのか？」と。来ているヤツらの人間性を読んでるってことだよね。それにヤッサンは要領のよさも天才的だった。横山ノックの弟子だった時代は、弟子に厳しいノックが「弟子としてパーフェクトだ！」って言ってる。あるときなんて、会館みたいな場所でノックが漫才をするときに、車を降りたら泥の道だったらしい。ヤッサンは師匠が下りるときにドアを開けて、自分の上着をパーッと投げ出したらしいから。

――泥道の上に自分の上着を！

竹本　ま、パフォーマンスでしょうけど。でも、そうするとノックは喜ぶじゃない？

――織田信長に仕えた豊臣秀吉的ですね。

竹本　あとヤバさという点では、『久米宏のTVスクランブル』（注3）（日本テレビ系83年～84年に出演）に出演してたときかな。ヤッサンはよく泥酔して出てたし、いつトラブルが起こってもおかしくない状況だった。……でも、凄いよ！　毎週日曜の夜9時から生放送のテレビで、酔っぱらって暴言や放送禁止用語を吐くオヤジが出るんだから（笑）。

――いまの放送コードからはとても考えられないですね（笑）。

竹本　あれがヤッサンのヤバさのピークのときだったし、そのヤバさをテレビ側も芸としてギリギリ消化してた。あの番組の降板以降は漫才もできないし、ただ事件を起こす、ホントにダメな人になっちゃった。

――そういった狂気も自己演出していた部分もあったんでしょうか？

竹本　酒は確かに飲んでるけど……ただシンが場外乱闘をしても、「プロだから観客にケガはさせないだろう」と思いつつ、たまにケガをさせたりするじゃない？（笑）。ヤッサンもどこまで自分でわかってるか、全然わからない。パッと見、ヤバイように見えるし、本気か演じてるのか判断できないってのは、プロ意識の高さなんだろうけど。

――昭和のレスラーや昭和の芸人って舞台を降りても、過剰なサービス精神を発揮していたわけですよね。

竹本　いつ何時でもシンや、ヤッサンであり続けるというね。日常生活でも演じるという部分では俳優の勝新（勝新太郎）（注4）も凄かった。一番親しかったマネージャーに「勝新ずっとやってるのも疲れる」って漏らしたらしいから（笑）。

――ダハハハ！　24時間、勝新というのは疲れるでしょうね。

竹本　勝新じゃないのは便所に入ったときくらいじゃないの（笑）。あの人も頭がよく

横山やすしがプロレスラーと似てるのは
自分で自分を〝作ってる〟ところでしょ

て本当は小心者だし。まぁ、人目を異常に意識するという意味では、昭和の芸人はみんなそうだよね。

——やすしさんも居酒屋なんかで、あまり飲みたくないときも、後輩やスタッフが姿を現わすと、「酒もってこい！」と言ってたようですし。

竹本　（立川）談志師匠（注5）なんかもそういう部分は凄いよ！

——毒舌でガンコ一徹なイメージの落語家、談志さんも、そういったプロ意識は確かに高そうですね。

竹本　談志師匠と親しい人は、談志師匠にお願いや相談があるときは、絶対に談志師匠の周りに人がいないときに行くらしい（笑）。常に〝偽悪〟キャラを演じているわけだからさ。

——偽悪を演じるというのは、まさにプロレス的ですね。

竹本　尊敬を込めた意味でいうと、ヤッサンより、シンに似てるのは談志師匠かもわからない。あの人も口が悪くて、怖いし、いつ怒るかわからないイメージだけど、もの凄く頭がいい人！

——談志さんはやすしさんみたいに私生活で目立った事件というのはあるんですか？

竹本　先が読めるし、用心深い人だからヤッサンみたいなとこまではやらないよね。でも参議院議員時代には記者会見で暴言を吐いて問題にもなったし、『笑点』（日本テレビ系）という番組はもともと談志が企画した番組で司会も談志がやってたけど、番組の方針の違いがきっかけで番組から降ろされたときは番組関係者に対してもうるさかった。談志師匠は狂気や暴れるというより〝口が悪い〟ってとこに集約されるよね。

——確かに毒舌家というイメージのほうが強いですね。

日常生活を演じる、人目を異常に気にするという点では、昭和の芸人はみんなそうだね

竹本　寄席でお客さんが眠ってて、「帰る！」といって落語をやらなくて裁判になったり。普通そのくらいで、舞台を降りないでしょ？

——相手の腕を本当に折ってしまう猪木さんもそうですけど、〝一線を越えちゃう〟姿勢は、昭和の芸人的ですよね。やすしさんもそういう部分はケタ違いだったんですか？

竹本　けど、俺なんかみんなが言うほど、やすしって悪いことをしたのかな？　って思うよね。あの時代は「タレントも品行方正にしろ」というムードだったから、タイミングも悪かったし。



86年に出版された『横山やすし』（データハウス）という対談集では、落合博満、山城新伍といった昭和の凄玉に加え、ともに異端児の立川談志とも対談！「どちらが先に刑務所に行くか勝負！」（談志）など奔放すぎるトークが展開！

——芸能界における、スケープゴートみたいな感じになっちゃった、と。

竹本　人間・横山やすしはそれほど問題児じゃないし、たいした事件は起こしてないんだよ。近所にもいる酒癖が悪くてわがままなオッサンみたいなもん。逆にいえば、近所にいる程度のタチの悪いオヤジを、歴史に残る破天荒者と思わせるのが、プロなのかもしれないよ。

——ああ、なるほど！

竹本　そういう意味で、いまの芸能界はみんなプチ横山やすし的な手法で、ワイドショー文化を取り入れて生き残ってるよね。だって昔は悪いイメージで叩かれると人気が落ちたんだけど、いまはそう簡単に落ちないでしょ？

——いまは〝お騒がせ〟程度は許されますし、許容範囲は広がってますね。極楽とんぼの山本（圭一）さんみたいな不祥事（06年、17歳の少女に暴行した件で吉本興業を解雇）になると、致命傷になりますけど。

竹本　一番やっちゃいけないのは、女性絡みの淫行だったりロリコン的なもの。植草（一秀）教授とか、田代まさしとか。

——業界から、抹殺されてしまうような部分がありますよね。新日本プロレスの棚橋（弘至）も女性から背中をナイフで刺された事件も謹慎処分になりましたけど……。

竹本　あれも昔だったらうまく転がせていた部分もあるかもしれない。そういう意味では、（島田）紳助さん（注6）も傷害事件（04年、女性マネージャーに暴行し、謹慎処分となった）があったよねぇ。

——紳助さんはあの事件を芸として転がしてはないですね。転がす気はないということなんでしょうけど。

竹本　紳助さんって本性はヤッサン的なヤバさがあるかもしれないけど、そこを極力抑えてソフト路線にして売れた人だよね。紳助さんはあの事件を芸の肥やしにはできなかったし、最終的には被害者にも謝ったけど、いまやまったく事件には触れないし。

——武勇伝とは言えないですし、平成の世では転がしにくいんですかね。

竹本　ヤッサンと紳助さんの事件に対する

（注1）横山やすし＝1944年3月18日生まれ、高知県出身。漫才師。横山ノックに弟子入り後、西川きよしと漫才コンビ「やすしきよし」を結成して一世を風靡。私生活を含めたその生き様から〝最後の破滅型芸人〟と呼ばれる。86年に相方のきよしが参議院議員となって以降は酒量が増え、テレビへの酒気帯び出演や番組のすっぽかし。度重なる事件により、89年に吉本興業から解雇された。96年1月21日にアルコール性肝硬変で早逝。享年51。

（注2）藤山寛美＝1929年6月15日生まれ、大阪府出身。喜劇俳優。23年に松竹新喜劇に参加し、「あほの寛ちゃん」として新喜劇全盛期を支え、83年からは座長として、斬新なアイディアの舞台を行なう。その一方、異常な金遣いの荒さや、巨額の借金を抱えた末の自己破産など、私生活では破天荒な芸人を貫いた。女優の藤山直美は娘。90年5月21日に肝硬変で死去。享年60。

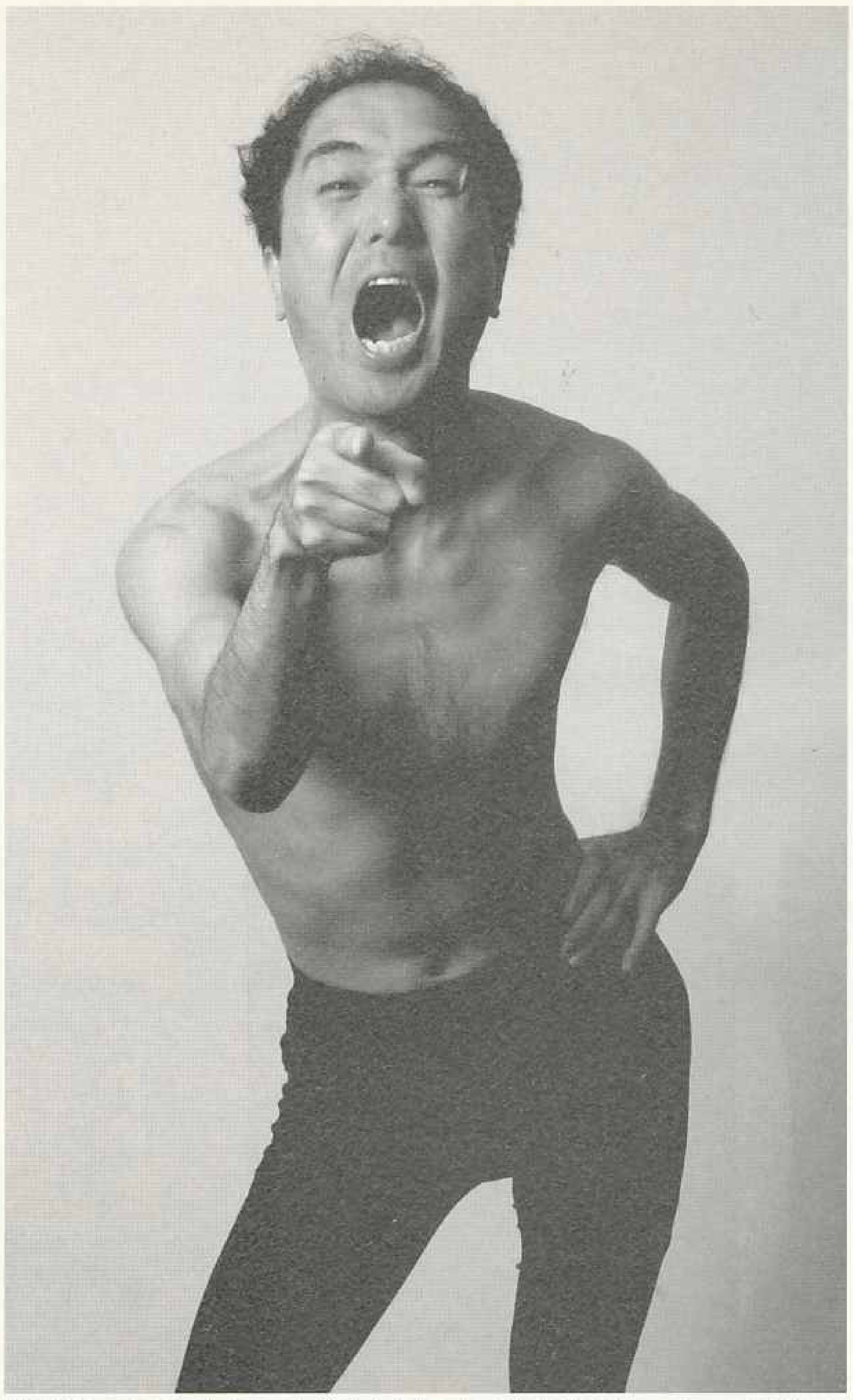
（注3）『久米宏のTVスクランブル』（日本テレビ系）＝1982年10月から1985年3月にかけて、毎週日曜夜8時に日本テレビ系で生放送された情報バラエティ番組。毎回、旬の話題をパーソナリティの久米宏と横山やすしらがコメント。だが、やすしは酒に酔いながら出演や暴言を吐いたり、自分のコメントがCMで邪魔されたことから、発言を一切拒否するなど問題行動を起こす。のちにやすしは飛行機に乗り遅れ、同番組出演に間に合わず、番組に穴をあけたのを機に番組を降板させられた。

（注4）勝新太郎＝1931年11月29日生まれ。東京都江東区出身。日本を代表する名優。映画『座頭市』や『兵隊やくざ』で人気爆発。豪気な性格で、私生活では借金を重ねながら豪遊を続けた。78年にアヘンを所持。90年、92年に麻薬所持で逮捕。大麻をパンツの中に隠していたことが話題に。兄は若山富三郎。妻は女優の中村玉緒。97年6月21日、下咽頭がんで死去。享年65。

（注5）立川談志＝1936年生まれ。東京都出身。16歳で柳家小さんに入門、22歳で真打になり、五代目立川談志を襲名する。71年には参議院議員に当選。83年真打制度をめぐって落語協会と対立し、落語協会を脱退。立川流落語会を創設、家元となる。シニカルでマイペース、直情的で敵を作ることもいとわない性格から、仕事上でのトラブルも頻発。『笑点』の初代司会者としても知られる。

（注6）島田紳助＝1956年3月24日、京都府京都市出身。75年に松本竜介（現・竜助）と漫才コンビ紳助・竜介を結成。80年の漫才ブームで人気者に。85年にコンビを解消後は、バラエティ番組の司会などを中心に活躍。04年10月、番組収録前に女性マネージャーとの口論をきっかけに、傷害事件を起こし謹慎処分となる。05年1月に番組『行列のできる法律相談所』内で復帰のあいさつと事件についての謝罪をあらためて行ない、芸能界に復帰した。

平成の世での〝昭和の芸人〟的ポジションはいまや江頭2：50だけが独占できている



「伝説残してやるよ！」とテレビでも後先を考えずに暴走を繰り返し、　トルコで全裸になったり、北朝鮮で暴言を吐いたり、バイアグラで卒倒したりと、「いつ何時も江頭2：50」をキープするエガちゃんこそ“平成の昭和芸人”だ！



スタンスや、暴力団に刺されて死んだ力道山と、女性に背中を刺された棚橋の事件……こういうのを比較すると、昭和と平成のスケールの違いは出てるよねぇ。やっぱり昭和と平成では、レスラーや芸人が置かれる立場って変わってきてる。いまは〝虚実〟が入り交じるんじゃなくて〝虚虚〟の世界だけだもん！

——実が入り交じらない（笑）。人間の狂気性が絶対に浮かび上がらないという。

竹本　でも、いまが〝虚虚〟の時代になっているのは、芸人もレスラーもそういった〝虚実〟の人たちを観て育った世代だからだろうけど。生身の自分が狂気を内包してなかったり、壮絶な生い立ちがなくても狂気を演じることはできる。そういう方法論はわかっちゃってるから。

——そういう意味では、やっぱり昭和のレスラーや芸人っていうのは、ぶっとい芯が通ってますよね。

竹本　ただ芸人の場合、シンみたいな本当のヒールっていうのは嫌われちゃうからダメなんですよ。ヤッサンなんかはああいう事件も起こすけど愛嬌があったし、きよしという相方がいたからバランスが取れていた部分もあるわけ。

——パートナーのきよしさんが国会議員になって、ストッパーがなくなっちゃった部分はありますし。最後に竹本さんが平成の芸人で、狂気を感じる人はいますか？

竹本　やっぱりエガちゃん（江頭2：50）かなぁ。アイツは凄く昭和的だよ。

——だからこそ、あまりテレビに出られないのかもしれない。

竹本　逆に平成の世では江頭2：50という、昭和の芸人的ポジションはエガちゃんだけが独占できている。エガちゃんは「芸人は銀行マンみたいじゃダメだ。破滅的なことをやってこそ芸人なんだ」という信念を持ってるし。

——「ワンクールのレギュラーより一回の伝説！」がキャッチフレーズですから。エガちゃんも『ハッスル』に上がってますし、江頭2：50 vsタイガー・ジェット・シンの狂気対決は観たいですねぇ。

竹本　エガちゃんにはそういうヤバさもあるし、芸に対しても凄くマジメだし、ホントの意味で「芸人かくあるべし！」というのを持ってる。それに24時間、江頭2：50でなきゃいけないとも思ってるでしょ。

——無理して演じてる部分もあるんでしょうね。シンと闘っても江頭2：50を演じきれるのか？　って興味もありますけど（笑）。

竹本　ただ、エガちゃんのスタイルってキレ芸じゃない？　本人もわかってないうちにおかしいことをやっちゃうっていう……でも最近はテレビなんかでも「メチャクチャやってるんじゃなく、意外とプロだ」っていうのが見破られてきてる（笑）。『めちゃイケ』（『めちゃ×2　イケてる！』フジテレビ系）の収録でホントにウ〇コしたこともあるらしいんだけどさ！



たけもと・みきお■1951年8月20日、大阪府八尾市出身。タウン新聞の記者を経て、83年に伝説のお笑い雑誌『カジノ・フォーリー』を偽装結婚までして創刊。資金難のために86年に休刊も、92年に吐夢書房から第二次『カジノ・フォーリー』が一時的に復刊、実質的編集長を務める。その後はバラエティ番組の構成、お笑いライブの審査員、ライターなど各方面で活躍。小さい判型の『紙のプロレス』にも登場した。

——ダハハハ！　誰も知らないところで一線を越えてましたか（笑）。

竹本　もちろんカットされてたけど、そういうホントにウ〇コさせる心構えの番組がいまいくつあるのか？　いま、酔っぱらったヤッサンを使う度量の番組があるのか？　ということ。

——プロレスでも最近はホントに危ないヤツは使わないですし。

竹本　そういう意味で平成になって芸人やレスラーが変わったというより、そういう使う側の事情もあるのかな、と思うよ。

——そういう意味で、今度のRG戦では全盛期ばりの危ないタイガー・ジェット・シンを期待したいですね。

竹本　ただシンにしたって、ヤッサンや談志師匠にしたって、最終的に表現者はその人の人間性に戻ってくるんだよ。だから人って〝地〟が強いのよ。どんなに虚構を演じていても、地にそれがなきゃあダメだよ！

——やっぱり人間は地が大事！　と。わかりました。竹本さん、今日はためになるお話ありがとうございました。

竹本　はいはい。またいつでも呼んでちょーだい！　アディオス！

【06年2月19日『kami-pro』編集部にて収録】

kamipro books

驚ガク！ 衝ゲキ!!
kamipro booksシリーズ！
死闘インタビューの
歴史的目撃者になれ!!



プロレスインタビュー本の最濃傑作！

吉田豪
セメントインタビュー
11連発!!

★ストロング小林 ★田代まさし ★猪木快守
★イーデス・ハンソン ★阿修羅原 ★鶴見五郎
★サムソン・クツワダ ★康芳夫 ★倉持隆夫
★田中健一 ★小川宏

プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー——数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは“下調べの鬼”が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ！

全国書店にて絶賛発売中!!
B6変型判　344ページ　定価＝1,890円（本体1,800＋税）



夕焼けがよく似合う人生ガチンコ勝負!!

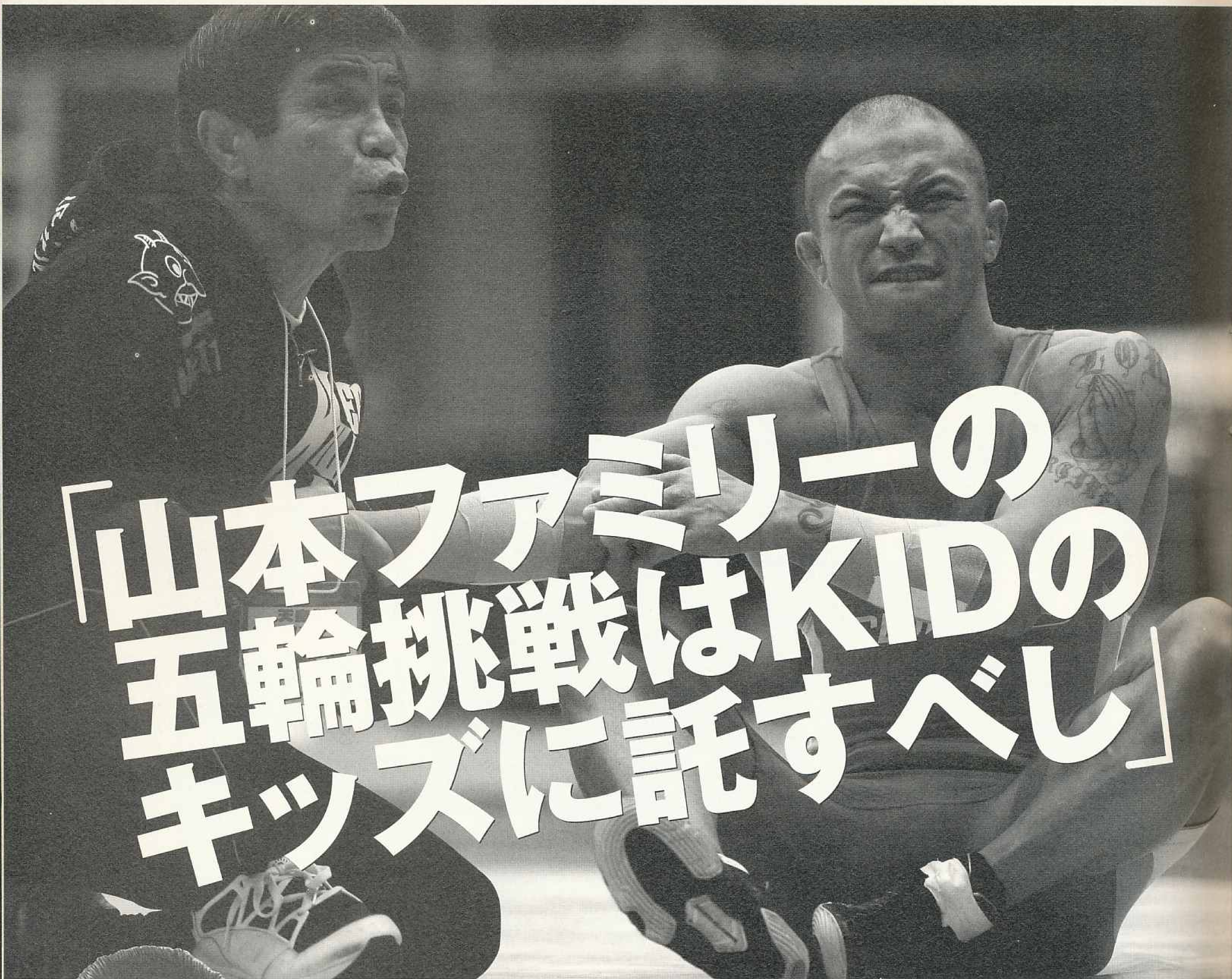
プロレス狂が
シビれる凄玉たちの
壮絶インタビュー集！

★ジェラルド・ゴルドー ★後藤達俊 ★小畑千代
★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎 ★中島らも
★大槻ケンヂ ★シーザー武志 ★ダニー・ホッジ
★高山善廣×金原弘光 ★真樹日佐夫×三池崇史

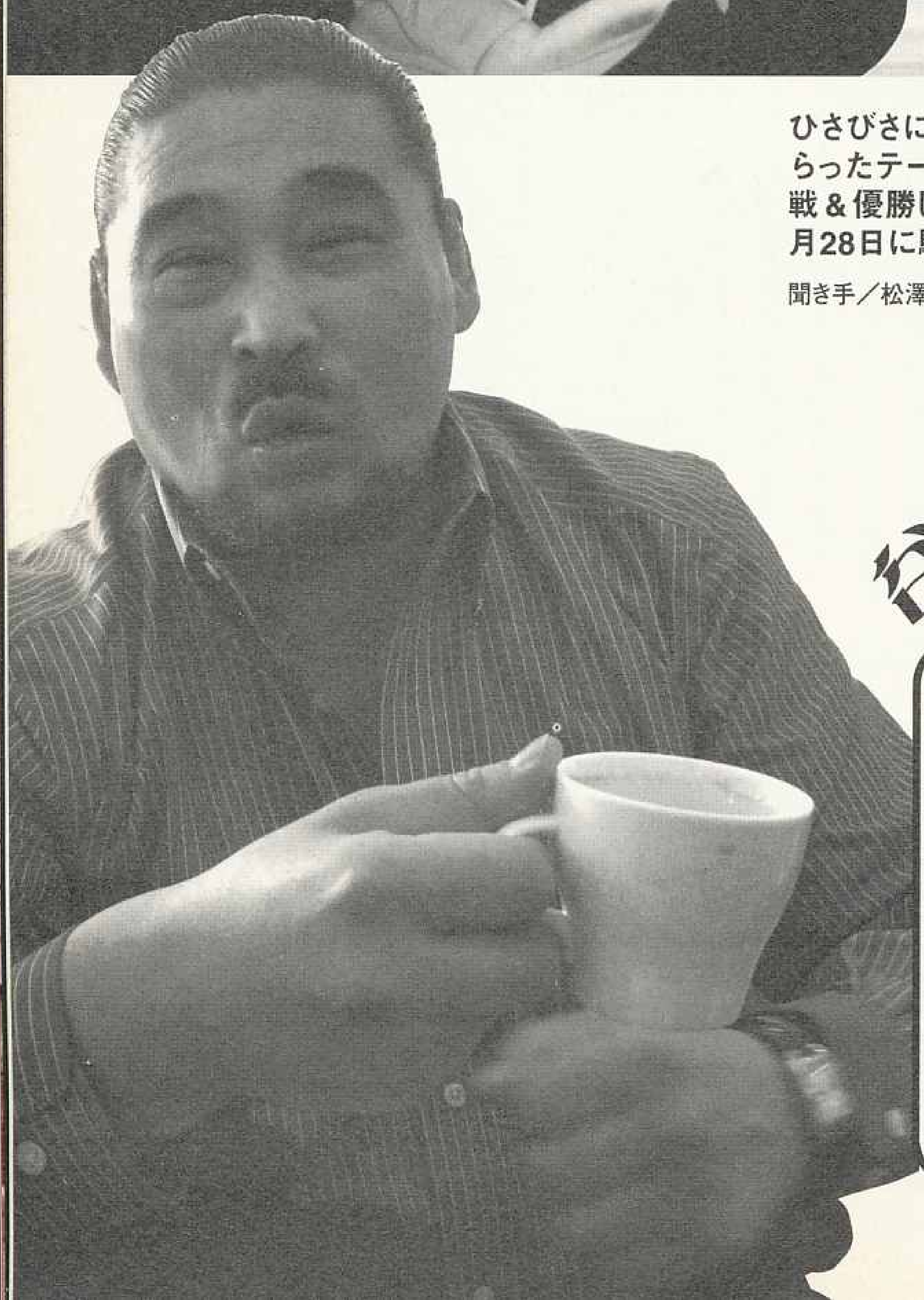
プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる——!!
プロレスラーや格闘家はもちろん文化人、著名人まで、プロレス&格闘技専門誌『kamipro』誌上にて掲載されてきた、100本以上にも及ぶ濃厚1万字突破インタビュー。その中から特別厳選収録！　圧倒的な現実をタフに生き抜き、憧憬の的となる圧倒的な幻想をまとった凄玉たちの金言の数々をとことん読み込め！

全国書店にて絶賛発売中!!
B6変型判　304ページ　定価＝1,890円（本体1,800＋税）

eb! enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/



「山本ファミリーの五輪挑戦はKIDのキッズに託すべし」



ひさびさに登場の『kamipro』のご意見番、谷津嘉章。銀座の洒落たカフェで、たっぷりと語ってもらったテーマは、山本KIDの北京五輪挑戦だ。約20年前、KIDに先がけプロとしてレスリングに挑戦＆優勝し、注目を浴びた谷津。KIDの目指すオリンピックにも出場経験のある我らが谷津親分が1月28日に駒沢体育館で行なわれたKIDのレスリング復帰戦について好き勝手に語りまくってます！

聞き手／松澤チョロ　試合写真／乾 晋也

谷津嘉章の格闘カフェトーク

超不定期連載

今回のテーマは……

山本KIDの北京五輪挑戦

自分でも言ってたのに、負けたら〝神の子〟じゃねえだろ！（笑）

—谷津さん！ 今回は、ちょっと時間が経っちゃいましたが、山本ＫＩＤ選手のアマレス復帰戦についてうかがいたいんですけども。

谷津 おぅ、それだったら得意分野だな（笑）。なんでも聞いてくれ！

—よろしくお願いします！ プロからアマへの挑戦となると谷津さんの出番ですからね。ただ、谷津さんの場合は、もう20年前の話になるわけですけど（笑）。

谷津 まあ、俺のときとは時代背景も違うけど、ＫＩＤに関して言えば、やっぱなるべくしてなったなって感じだな。ある意味、予想どおりだよ。

—やる前から言われてましたからね。

谷津 そりゃぁそうだよ。ブランクは簡単に埋められないし、ましてや総合格闘技とレスリングはルールだってバスケットとバレーボール以上に違うからな。

—バスケとバレー以上に違いますか!?

谷津 そりゃそうだよ。俺だって、最近のレスリングのルールはわかんないとこあるからな（笑）。

—じゃあ、しょうがないですね（笑）。

谷津 まあ、ＫＩＤは「ケガがなかったら二回戦も勝ってたかもしれない」って言われてるうちが華だよ。

—そうなんですかね。

谷津 やっぱりな、「国内外で１００連勝した吉田沙保里は凄い」って、いくら騒いでも、それはレスリング界だけの話なわけ。

—まあ、そうですよね。

谷津 ＫＩＤの場合はレスリング界を出て、自分の修羅場をくぐりながら、自分の格闘技としてのステータスを作って、またやってるわけだからな。だから、レスリング界だけの話題じゃないでしょ。ＫＩＤは世間を巻き込んでるから。

—確かに。

谷津 ＫＩＤもべつにやらなくたっていいんだよ。金にならないんだから。

—まあ、金だけ考えたえら総合を続けていたほうがいいギャラをもらえるでしょうからね。

谷津 それを捨ててまでやるわけだからな。「なんで？」という気持ちと、ＫＩＤのオリンピックに対するピュアで熱い気持ちが伝わったから、みんなが騒いだわけじゃん。でも、2回目や3回目はそれはないぞ。

—やっぱり、一発目が一番注目されるでしょうからね。

谷津 そういうこと。だから一言でいうと、もういい加減にせえってとこだな。

—「いい加減にせえ」ですか（笑）。でも、オリンピック出場の可能性は、まだ一応残されてるじゃないですか？

谷津 いや、その可能性はあるけど確率はない！

—確率はない？

谷津 ない（キッパリ）。だってな、ＫＩＤは今回試合をやってみて、自身の手応えと同時に、逆にダメだと反省する部分、二つがあったと思うんだよ。だから、夢だとか悔しいだとかっていう気持ちはわかるけど、もうレスリングからは撤退して総合に戻ったほうがいい。

—そうはおっしゃいますが、本人は最後の望みをかけて6月の全日本選抜選手権に出る気満々みたいですよ。

谷津 だから無理だって。今回のチャレンジで、三大新聞から何から大々的に取り上げられたんだから、それで満足しないと。

—スポーツ紙も一面のところが多かったですし、三大新聞でも、かなり大きく取り上げられてましたかね。

谷津 それはある意味ではレスリング協会、並びにＫＩＤの枠を越えたプロパガンダというかさ、それは確かに凄い。でも、2回目はないっちゅうの！ いい思いをしたのはレスリング協会だけだよ。

—ＫＩＤ出場の日だけ有料で満員になりましたし、レスリング協会としては、ホント、ＫＩＤ様々ですよね。

谷津 そういう目先だけじゃなくてさ。もちろんそれもあるけど、結局レスリング界から総合にいったヤツって、藤田（和之）をはじめとして、石沢（常光）も（須藤）元気も宇野（薫）もそうでしょ？

—レスリング出身ですね。

谷津 みんな全部アマレス出身だけど、総合格闘技やプロレスに行ってる連中が多いわけだよ。その中でも世間に対して、これだけインパクトを与えたのはＫＩＤが一番でしょ。そこそこみんなやってるけど、ＫＩＤはスター性からルックスからすべて抜きん出てるからな。

—まあ〝神の子〟ですからね（笑）。

谷津 自分でもそう言ってたのに負けたら〝神の子〟じゃねえだろって（笑）。

—そうですよね（笑）。

谷津 まあ、それはおいといて、山本ファミリーには親父さんからお姉ちゃん（美憂）、妹（聖子）とストーリーもあるしな。ＫＩＤがレスリングをドロップアウトして、7年間かけてまた総合格闘技で名前を作ったわけだよ。でも、レスリングのオリンピックに出たいからパーンと出る。それに対して、ピュアな気持ちで挑戦する。でも、そこで負けちゃったら、どうするのって話で。総合格闘技でも秒殺で勝ってたけど、レスリングでも秒殺で負けちゃったからな（笑）。

—二回戦の井上謙二戦は結果的に16秒で負けてしまいましたからね。

谷津 そういうのを考えるとレスリング協会の人間は「やっぱり原点はレスリングなんだ！」って思うんだよ。

—「レスリングこそが最強だ」と（笑）。

谷津 そういうこと。まあでも、ＫＩＤはチャレンジするのが遅かったよな。

—もう何年か早ければ五輪出場の可能性もありましたかね？

谷津 俺から言わせれば、7年前にレスリングからドロップアウトした時点で、もう遅い。それよりも次のＫＩＤや（山本）美憂のジュニアに賭けたほうがまだいいと思うよ。

—ＫＩＤのキッズにバトンタッチと（笑）。それこそストーリーがつながっていきますよね。

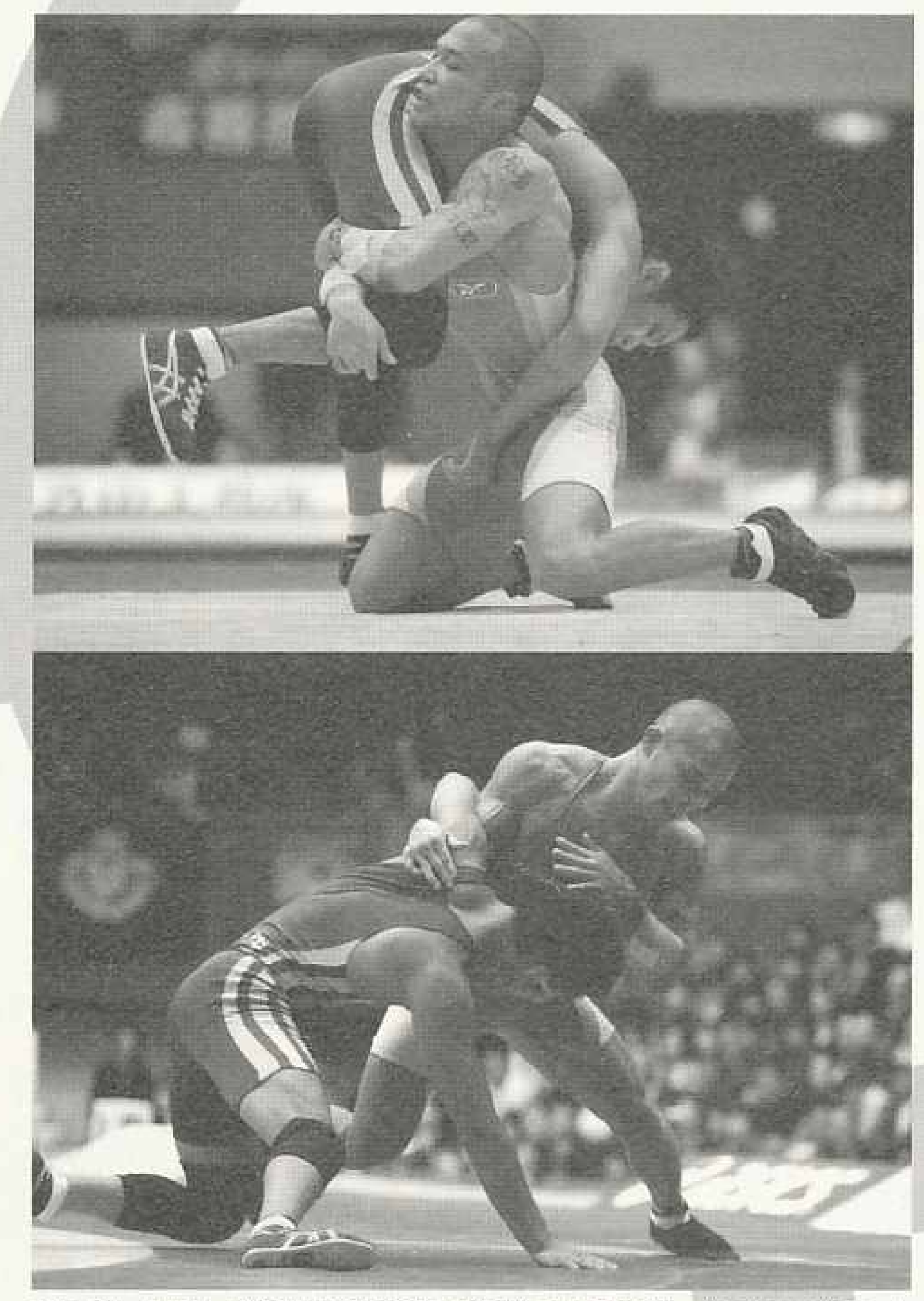
谷津 そうだろ。「山本ファミリーの執念」とか「お父さんの郁榮さんのために」ってやったほうがレスリング界だけじゃなく、マスコミも盛り上がるだろ？

—そうですね。テレビ局も視聴率を稼げるでしょうし。

谷津 あと、俺なんかが思うのは、レスリング協会も粋なはからいを見せて、ＫＩＤの熱いスピリット、プロとしての格闘技魂を選手に注入してもらうってかたちで北京に役員として連れて行けっつうの！ 選手じゃなくてもいいじゃん。ここまで功績出したんだからな。

—闘魂注入ならぬＫＩＤ魂注入、と。それはそれで話題にはなるでしょうけど。

谷津 もしくは格闘技コーディネーター



KIDのレスリング復帰戦の相手は自衛隊の土田章博。約7年のブランクも感じさせぬ試合運びで勝利したKIDだったが、二回戦で激突したアテナ五輪銅メダリストの井上謙二戦は開始から16秒、巻き一本背負いを食らって敗戦。右ヒジを脱臼したKIDだが、すでに練習を再開。最後の五輪出場のチャンスとなる６月の全日本選抜選手権に出場する意向だ。

オリンピック経験者 長州力もKIDを大絶賛！



谷津と同じく五輪出場経験のある長州力がサムライTVの『Versus』にて前田日明と対談。対談中にKIDのレスリング挑戦について「とにかく身体能力が凄い! 7年もブランクがあればしんどいですよ。それなのに、あれだけのタックルができるのは素晴らしい。総合をやらずに、そのままレスリングを続けてたら凄い選手になっただろうね」とベタぼめ。ちなみに長州は所英男のことも絶賛してました。

レスリング協会はKIDに2〜3000万は払ってやらないと！

とかでな。だってKIDのレスリング界への貢献度っていうのは金に換算したら半端じゃないよ。今回の出場ってのは。それだけやってくれたんだから、ある程度はレスリング協会はKIDのことをバックアップしなきゃいかんだろ。

——それはわかるんですが、KIDさんはやっぱり選手としてオリンピックに出たいんじゃないですかね。

谷津 それが無理だから言ってんの。

——し、失礼しました。

谷津 まあでも、レスリングでもオリンピックに出るぐらいの選手は、ある部分、プロ以上に恵まれてるんだよな。

——それこそ、浜口京子や吉田沙保里とかもプロみたいなもんだと？

谷津 だって、みんな大企業の社会人ばかりでしょ？ 警視庁とか官庁。あとは自衛隊とか学校の教員。いろんな一流企業のところのスポーツ選手なんだよ。ある意味、プロよりも安定してるからな。

——それは言えるかもしれませんね。

谷津 練習場だってプロレス団体以上に立派な道場を持ってるからな ホント、どっちがプロなんだよって思うよ。予算だって文部（科学）省から出るわけだし、レスリングっていうマイナーなスポーツに今回KIDのおかげでスポンサーがいくつついたの？

——いや〜、数まではわかりませんけど、かなりついてたのは間違いないです。

谷津 だろ。そのスポンサー料とか諸々が全部、レスリング協会に入ってくるんだよ。俺たちの頃はなかったけど、いまのほうがレスリング協会の収入は絶対にいいはずなんだよ。スポンサー以外にも、あっちこっちでいろんな収入があっただろうから、俺は「KIDに払ってやれ」って思うんだよ。2000万とか3000万とか。

——3000万円!? それぐらい払ってもおかしくない、と（笑）。

谷津 全然いいだろうよ。

——今回のKID効果を受けてレスリング協会はKID以外のプロの選手にドンドン出場を呼びかけるんじゃないですか？

谷津 でもKID以上にインパクトのある選手もいないだろうしな。



KID効果で大会開催中、唯一有料（2000円）となった1.28駒沢オリンピック公園体育館大会だったが、会場は満員の観客と、これまでのレスリング界では考えられないほどの数の報道陣が詰めかけた。スポーツ紙でも何紙か一面で取り上げられたほか、一般紙でも他の選手よりも大きくKIDの試合の模様が報じられた。日本テレビでの中継も高視聴率を獲得し、レスリング協会はKID様々!?

——反対に、K−1の谷川さんなんかは「井上謙二とKIDを総合で闘わせたい」って早くもラブコールを送ってましたけどね（笑）。

谷津 井上君なんかは自衛隊だけども、自衛隊は総合格闘技なんて絶対にやらせないぞ！

——そうなんですか。

谷津 だってさ、自衛隊って一つの安全パイなんだよ。そんなの動くことなんかないじゃん。逆に井上は自衛隊体育学校の中で「凄いな〜！」とか言われてヒーローになっちゃってるだろ（笑）。

——『HERO'S』に出なくても、ヒーローになっちゃってる、と（笑）。

谷津 そういうこと。オリンピックで勝たなくちゃ大金は貰えないけど、ヒーローにはなれるんだよ。だから、いくら金を積まれようが、その安定を捨ててまでやりたいとは思わないでしょ。ましてや彼は世界で3位になったんだから。

——アテネ五輪の銅メダリストですからね。

谷津 その勲章を引っさげて、自衛隊で職業軍人になってたほうがいいんだよ。まあ、中には永田（克彦）みたいなバカもいるけどな（笑）。アイツはまぐれで銀メダル獲っちゃったけど。

——まぐれなんですか（笑）。

谷津 組み合わせが良かっただけ。まあ、ある程度実力がないとダメだけどな。

——そうでしょうね。それこそ、永田さんは最初は警視庁に勤めてましたよね。

谷津 そう。一番安定してたのに、いま永田は坂口道場のコーチやってんだろ？

——そうみたいですね。いろいろあって所属は新日本プロレスになってますけど。

谷津 何考えてんだかなぁ。収入だって、いまの新日本は安定もしてないだろうし（笑）。

——安定はしてないでしょうね（笑）。

谷津 だって人生はいま50歳からだよ。織田敦盛の歌では50で終わりになっちゃってるけど。現代でも五十肩って言うだろ？ 動かなくなったらどうすんだよ？

——プロになったとしても現役時代は限られてるわけですからね。

谷津 そうだよ。だから50歳とかになったときの地位が必要なの。プロを経験してもジャンボ鶴田みたいに大学の先生になっちまえばいいんだけどな。……まあ、簡単になれるわけでもないけど（笑）。

——簡単にはなれないですよね。

谷津 だけど、レスリング界から見れば、KIDはもちろん、吉田沙保里の100連勝ってのがあって、伊調姉妹や浜口京子をはじめ錚々たるメンバーがいるわけだろ。これは、ここ最近の中では一番凄いんじゃない？

——団体として考えれば凄いメンツが揃ってますよね（笑）。

谷津 これで超満員にならなきゃおかしいよ。そういう意味では、レスリング協会は「これだけ話題を作って、さすが福田会長！」って思ってるよ。レスリング協会っていうのは昭和13年ぐらいからあるんだけど、その歴史の中でこれだけお客さんが入ったのはないと思うしな。

——KIDが出場した日は有料にもかかわらず駒沢体育館が満員でしたからね。

谷津 そうでしょ。でも、チケットって今回は2000円だったんでしょ？

——そうですね。さすがにダフ屋までは出てなかったらしいですけど（笑）。

谷津 ただなぁ、2000円という数字が微妙なんだよな。

——といいますと？

谷津 あれがバレーボール協会だったらVリーグとかで客商売に慣れてるから、5000円とか6000円とかに設定するんだけどな（笑）。

——レスリング協会は客商売に慣れてませんでしたか（笑）。

谷津 そういうこと。だからそこを俺にやらせてくれたらと思うんだよな。

——そこで谷津さんが食い込んでいきますか（笑）。

谷津 それは冗談としても、いまのレスリング協会はソフトのほうが先にいっちゃってて、営業としてのハードがないんだよ。前の3列とかはたとえば5万円にしても入るんだよ、KID効果で。そういうところが慣れてないんだよなぁ。

——やっぱり谷津さんの出番なんじゃないですか？

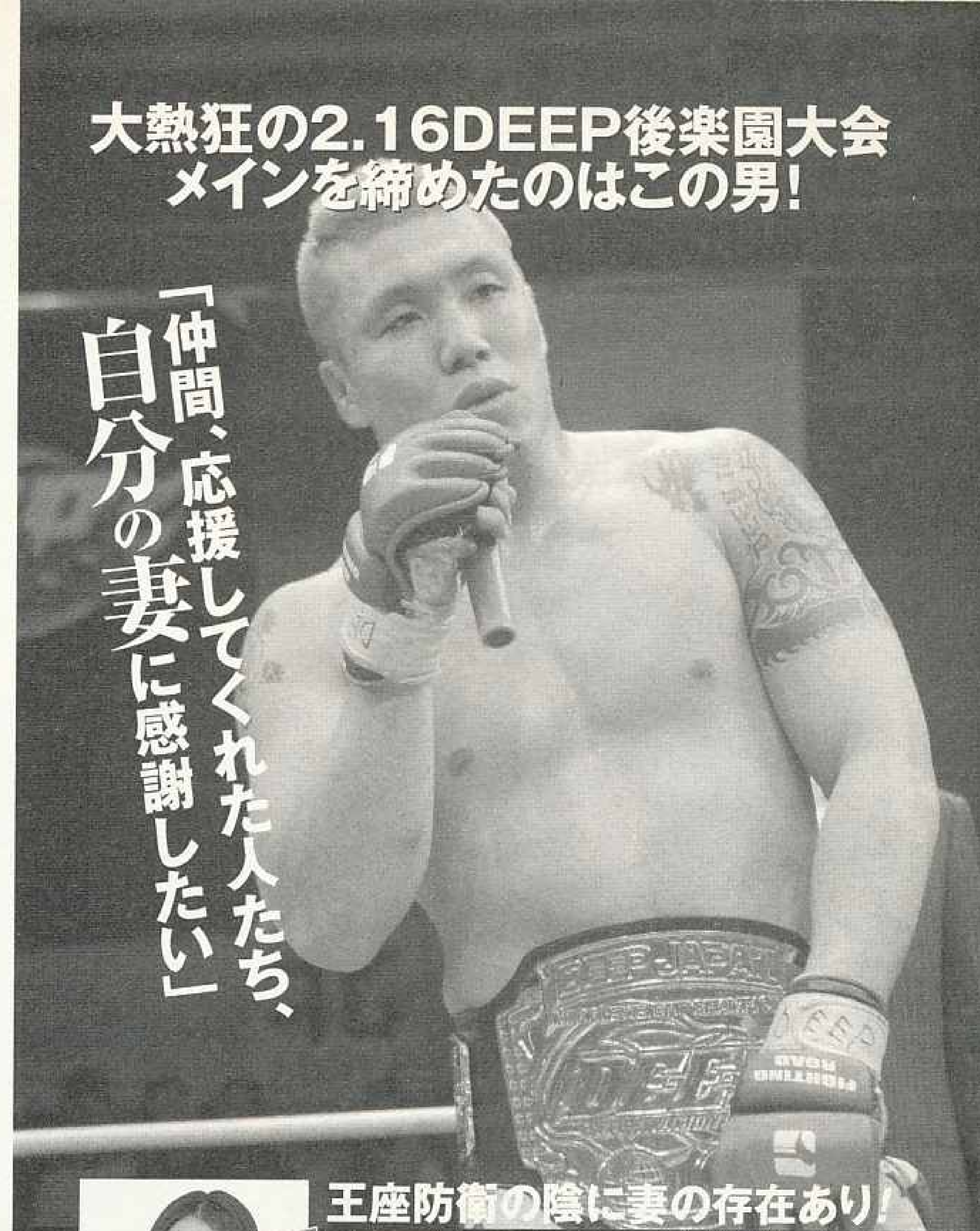
谷津 いや〜、俺なんかお呼びもかからないだろ！（笑）。

——う〜ん、それは残念です。また忘れた頃にお話を聞きに来ます！

【2月2日／都内・銀座のオシャレなカフェにて収録】



やつ・よしあき■1956年7月19日、群馬県出身。名門・足利工業大附属高校でレスリングを始め、卒業後は日大レスリング部で活躍。76年のモントリオール五輪では8位入賞、80年のモスクワ五輪ではエントリーされるも日本がボイコットしたためメダル獲得は幻に。プロレス界でも活躍するも、86年にレスリングの全日本選手権に出場しフリー130キロ級で見事優勝！



大熱狂の2.16DEEP後楽園大会
メインを締めたのはこの男！

「仲間、応援してくれた人たち、自分の妻に感謝したい」

王座防衛の陰に妻の存在あり！



専門誌初

長南の嫁を直撃!!

昨年2月の再戦となった長南亮と桜井隆多のDEEPミドル級タイトルマッチ。激戦を制した長南は珍しくマイクを持つと、仲間やファンだけではなく「妻に感謝してます」と、公の場で初めて結婚の事実を告白した。知ってる人は知ってるが、長南の嫁とは元DSE社員の臼杵彩子さんなのだ。今回は3月に結婚式を控えた旧姓・臼杵彩子こと長南彩子さんを電話で直撃してみました！

聞き手／松澤チョロ　撮影／平工幸雄

——臼杵さん……じゃないや、長南さん、おひさしぶりです。

長南彩子（以下・長南）　おひさしぶりです。

——早速なんですが、新婚生活いかがおすごしでしょうか？

長南　最近は引っ越しでバタバタしてましたね。

——あ、そうなんですか？　いつ引っ越しされたんですか？

長南　試合の翌日に引っ越しました。

——し、試合の翌日!?　それは最初から決まっていたと？

長南　そうなんです（笑）。

——へぇ〜。それは何か深い意味でもあったんでしょうか。

長南　いや、ないですよ、とくに。

——勝っても負けても、試合翌日は引っ越しだったわけですね。

長南　そうなんです。ホントは2月の頭に契約しないといけなかったんですけど、大家さんがちょっと知り合いのところだったんで、融通が利いて伸ばして待ってもらってたっていう感じなんですよ（笑）。

——でも、試合翌日に引っ越しっていうのも凄い話ですね。ちなみにベルトを防衛した長南さんは引っ越しを手伝ってくれたんですか？

長南　手伝ってくれたっていうか、ほとんどやってましたね（笑）。

——さすが長南さん！　大工とかやってたんで力仕事とかはお手のものですからね（笑）。

長南　ハハハハハ。翌日は運び込むだけ運び込んで、まだ家の中はグチャグチャなんですけど（笑）。

——そうなんですか。最初から翌日に引っ越しが決まってたっていうと、試合当日は、いつにも増して気が気じゃなかったんじゃないですか？

長南　そうですよね。冷静に考えるとゾッとしますよね（笑）。

——格闘家の奥さんの中には、旦那さんの試合が怖くて観られないっていう人もいますけども……。

長南　（さえぎって）あ〜、それはないですね（アッサリと）。でも、引っ越しを手伝いに来てくれた人とかに「負けてたと考えるとゾッとするね」って、あとから言われて、「それもそうだよな」って思って。

——「引っ越しする前から負けること考えるヤツがいるか！」って感じだったんですね（笑）。

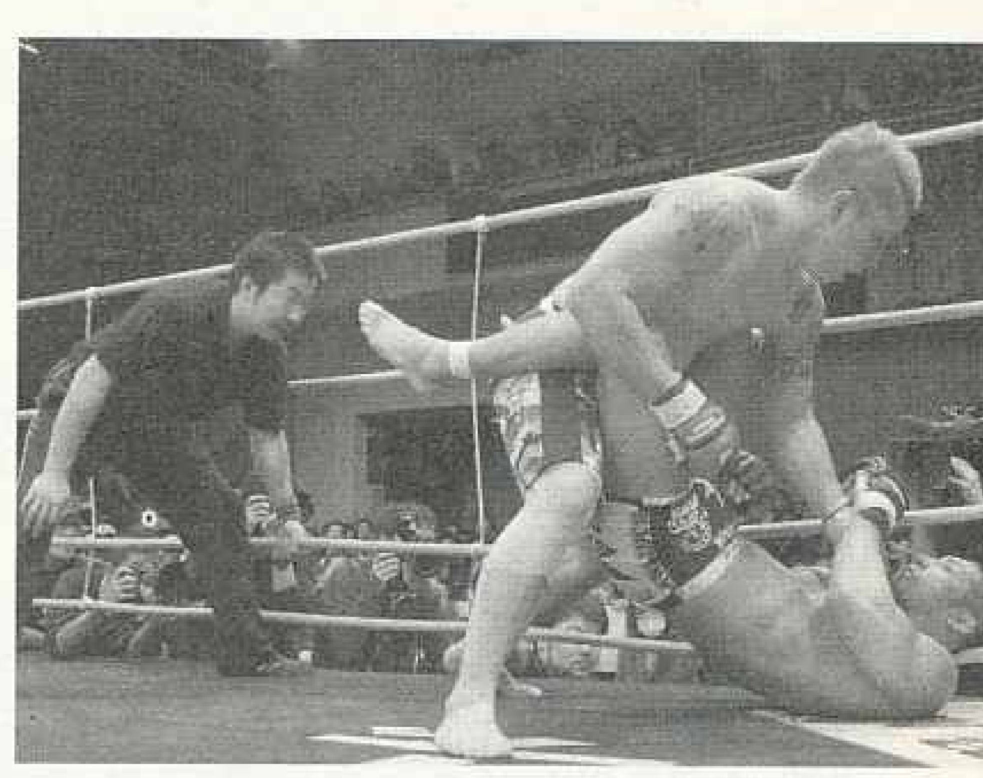
長南　そうかもしれないです（笑）。

——でも実際、長南さんは足のケガ云々もあったみたいで、さすがに体調は心配だったんじゃないですか？

長南　それも私はあんまり考えてなかったですね（笑）。

——そこは心配しましょうよ（笑）。

長南　そうですよね（笑）。



流血による不完全決着となった昨年2月の再戦は、強烈なパウンドでダメージを与えた長南がケガを抱えながらも判定2-0で見事、返り討ちに成功！

——長南さんは今回に限らず、試合前とかにケガをしてるとか弱みはほとんど見せないタイプですからね。

長南　そうですよね。今回は本当に試合やって大丈夫なのかっていうぐらいなケガをしてたので。

——試合前、アメリカにトレーニングに行く直前に足をケガして、ほとんど歩けないぐらいの状態だったらしいですからね。

長南　だから、今回はちょっと心配はありましたね。普段は試合のときも、のほほんとしてるんですけど。

——とは言っても、ここ最近の試合は、どこかしら負傷を抱えたままっていうのが多かったじゃないですか。

長南　そうですね。でも、前の試合のときは顔をケガしたりとかもありましたけど、そのときは本人もちょっと投げやりだったんで（笑）。

——あ、そうでしたか（笑）。

長南　だから私もそんなに緊張しなかったというか。ケガが悪化するのは心配でしたけど、試合だからっていう緊張はなかったんですよ。でも、今回はさすがに凄い「試合なんだ」っていう緊張はあって。走ったりとか、そういう練習ができてなかったっぽかったっていうのもあったし。

——なんか他人事みたいですけど（笑）。そういえば、大会当日は、長南さんの試合を見守ってるところとか、バックステージとかでもテレビカメラで追われてましたよね。

長南　あれは結婚式用のV（TR）を佐藤大輔さんにお願いしてて。

——エッ!?　結婚式用の映像を「煽りV」でお馴染みの佐藤大輔さんが作ってくれるんですか？

長南　そうなんですよ。私たちにとって凄い大特典みたいな感じで（笑）。そのためにカメラが追っかけてて。

——それは結婚式に出席する人にとっては楽しみな映像ですね。でも、それも勝ったからよかったですけど、もし負けてたら……。

長南　そうですね。だからもう、試合だけじゃなく、結婚式もあったし引っ越しもあったんで、ホントに「負けたらどうすんだ？」っていう状況で、よく試合したなって感じですね。……いま考えるとですけど（笑）。

——まあ、そうですよね。

長南　私がいると本人もそういうことも考えちゃうと思うんですよ。だから、試合前の1週間は実家に帰されたんですよ（笑）。

——あら。結婚式前に実家に帰されちゃいましたか（笑）。

長南　そうなんです（笑）。

——今回の桜井隆多戦は、ほぼ1年前にもやってるわけですけど、そのときも会場で見てましたよね？

長南　観てました。

——そのときと今回の試合では、いろんな意味で状況も変わってると思うんですが、違いはありました？

自分たちのへ大特典として、結婚式用のVは佐藤大輔さんにお願いしてます

長南　1年前は、まだDSEの社員だったんで、笹原（圭一）さんと一緒に観てたんですよ。

――そうでしたか（笑）。

長南　柵の中にあるDSE席でちゃっかり観てたんですけど、そのときは周りの他の人たちは私たちのことをまだ知らないんで、普通を装って観てたというか（笑）。

――普通を装ってましたか（笑）。で、それから1年経って、一度『SPORTS Yeah!』という雑誌に「格闘家の妻」ということで出たことはありましたけど、今回の試合後の長南さんの「妻に感謝してます」というマイクアピールで「エッ、結婚してたの？」って驚いた人もけっこういるみたいなんですよ。

長南　私もビックリしました（笑）。でもべつに隠してたりっていうわけでもなくて、本人のブログとかでは（結婚について）書いてましたけどね。

――長南さんはそういったプライベートとかをペラペラしゃべるようなタイプじゃないじゃないですか。

長南　そうですよね。

――ボクもそうですけど、二人が結婚するって最初に聞いたときの衝撃はかなり大きかったですからね。業界内で臼杵さんの人気が高かったっていうのもあるんですけど（笑）。

長南　いやいやいや（笑）。

――今回の試合は内容的にはどう思われました？　広報でも奥さんでもなく、客観的に観て。

長南　あのケガの状態であそこまでやったっていうのは、よく頑張ったなって……。「頑張った」って、なんか偉そうな言い方ですけど（笑）。

――アハハハハハ！　毎回毎回『DEEP』の後楽園大会は盛り上がりますけど、あの日は一段と凄い盛り上がりっぷりだったじゃないですか。そのメインを長南さんはビシッと締めて防衛した上に、あのマイクアピールがあったんで、相当に嬉しかったんじゃないかなと思いまして。

長南　あ～、そうかもしれませんね。なんか、いちいち他人事で申し訳ないんですけど（笑）。

――いや、旧姓・臼杵さんらしくてオッケーです（笑）。これからのファイター・長南亮選手に望むことは何かありますか？

長南　ケガしないように頑張ってほしいなとは思いますけど。











ギッチギチの超満員！

大熱戦続出の2.16DEEP後楽園大会ダイジェスト

3大タイトルマッチが実現した今大会。セミで帯谷信弘が保持するライト級王座に挑戦したグラバカの横田一則は得意の寝技や投げだけではなく、打撃でも終始優勢に進め、判定ながら帯谷を敗り、新王者に輝いた。

第8試合ではウェルター級王者・中尾受太郎にSKアブソリュートの長谷川秀彦が挑戦。序盤からグラウンドで優位に立った長谷川が最終ラウンドに腕十字をガッチリ極められるも、判定3-0で嬉しい初戴冠！

女子ライト級王者の渡辺久江はノンタイトル戦で韓国のハム ソヒと対戦。戦前から打撃が得意なハム相手に、あえて打ち合うことを公言していた渡辺だったが、パンチでダウンを奪われ判定負けという波乱の結果に。

ケガによる長期欠場から復帰2戦目となる石川英司は吉田道場のヘクター・ロンバートと対戦するも、石川はヘクターの猛烈なラッシュに背中を向けてしまいレフェリーが試合をストップ。納得のいかないグラバカ陣営が猛抗議をするも、判定は覆らず。

2月10日の『ケイジ・レイジ』ロンドン大会でのタイトルマッチでロビー・オリバーを秒殺で下し、DEEPフェザー級王座とあわせ二冠王となった今成正和がリング上からにっこり勝利報告。観客は大歓声で今成を祝福！

――最近では魔裟斗選手が結婚発表で言ってましたけど「結婚して弱くなったと思われたくない」って、よくスポーツ選手とかが言いますよね。そういう意味では格闘家の奥さんとしてプレッシャーはないですか？

長南　いや～、何をすればいいんだって感じですよね（笑）。「感謝します」って言ってもらえましたけど、べつに何をしたってわけでもないですし。

――試合前に実家に帰されていただけだと？（笑）。

長南　そうですね（笑）。

――でも、リング上から「妻に感謝します」とか言われたら、やっぱり嬉しいもんなんじゃないですか？

長南　いまとなってみれば嬉しいですけど、あのときはホント、ビックリだけで。だって、そういうこと言うキャラじゃないじゃないですか？

――だからこそ、ボクらも驚きがあったんですけどね。

長南　その瞬間はリアクションできなかったですからね。そのときは大輔さんと一緒に見てたんですけど、冗談で「『彩子～！』って言われたらどうする？」って言われて。そういうエイドリアン的なノリだったら、ひいてたかもしれないですけど（笑）、普通にシンプルにサクっていう感じだったので良かったです。

――リング上に呼び込まれてたら、また違ったんでしょうけどね。では、またタイミングを見計らって長南さんと一緒に『kami pro』に登場してもらえるようオファーさせてもらいますので、そのときはよろしくお願いします！　たぶん、長南さんは嫌がるような気がしますけど（笑）。

長南　アハハハハハ！　でも、嫌がりますね、普段でも。外で仲良くしてたりするのは嫌みたいですよ。

――そうですか～。じゃあ、中で仲良くしてください！

長南　はい（笑）。

――ちなみにツーショット写真とか誌面用に貸してもらえませんかね？

長南　それがね、ないんですよ。



『ハッスル』初代PRとしてジョー・サンとも共演していた長南彩子さん。ハッスルレンジャー・ピンクの正体との根強い説もあった。

――プリクラとかもないんですか？

長南　プリクラなんかね、撮ったこともないですよ。

――確かに長南選手はプリクラ撮るようなイメージはないですからね。

長南　じゃあ、あの写真を使ってくださいよ。『ハッスル』のパンフレットの付録についてた私とジョー・サンのツーショット。

――なんでですか（笑）。写真だけ見て「ジョー・サンと結婚したのかよ！」って勘違いする人がいるかもしれませんよ。

長南　アハハハハハ！　たしか、その写真はジョー・サンのお尻を叩いてるヤツなんですけど。

――わかりました。その写真を使わせてもらいます。では最後に、全国30万人ぐらいの旧姓・臼杵さんファンのために、何かメッセージをお願いします！

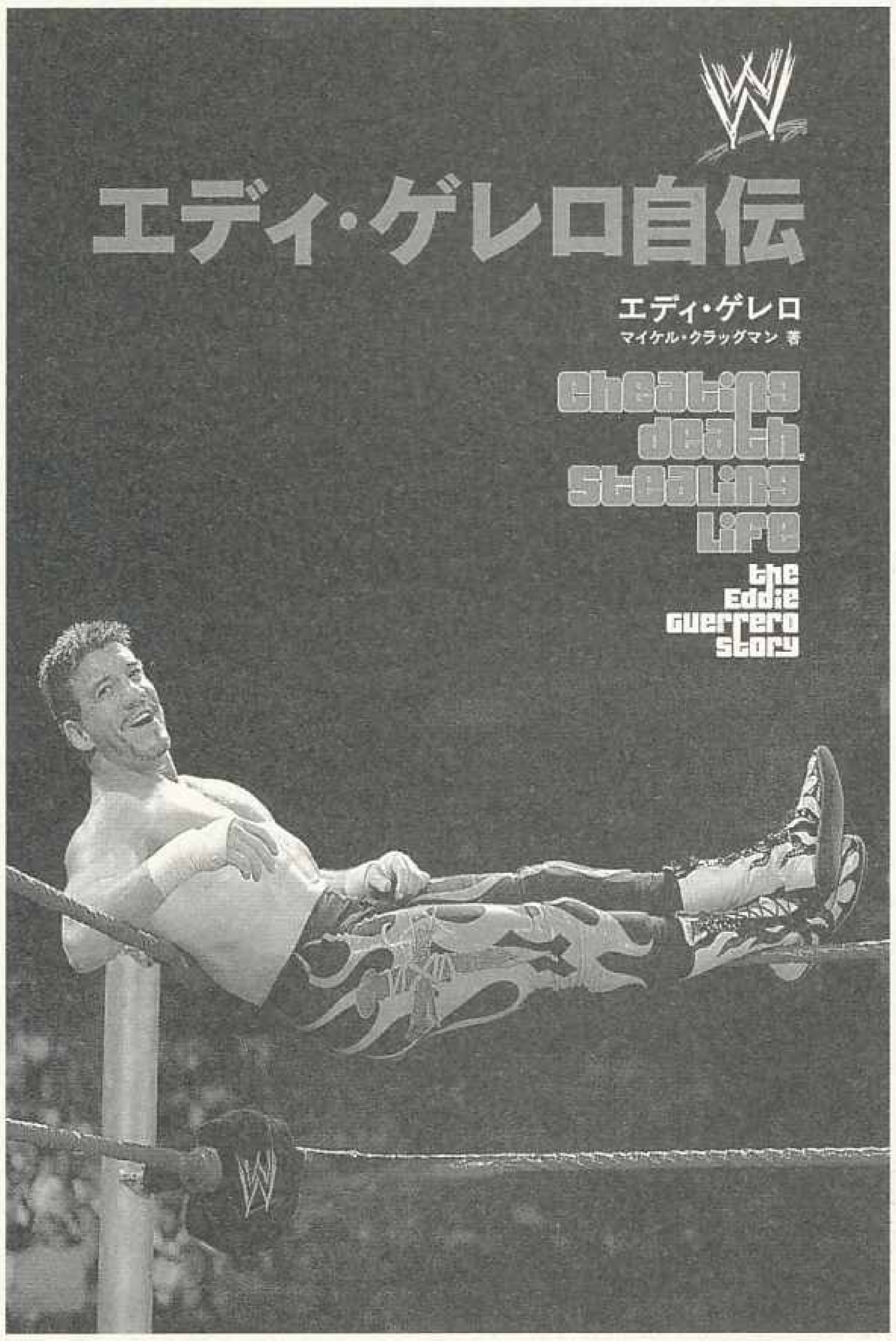
長南　ジョー・サンのようにお尻を叩けるように頑張りますので（笑）、私たちを温かく見守ってください。

――うまくまとめましたね（笑）。それでは、お幸せに～!!

長南　ありがとうございます！

【2月21日／引っ越し直後の新居でくつろいでいるところを電話で直撃】

ラティーノ・ヒートの生き様がこの一冊に凝縮!



四六判ハードカバー　432ページ　定価=2520円(本体2400円+税)

"遺作"となった自伝の日本語訳版、ついに発刊!!

エディ・ゲレロ自伝

エディ・ゲレロ
マイケル・クラッグマン 著

2005年11月13日、米ミネアポリスのホテルの一室で急死。38歳という若さでこの世を去ったWWEスーパースター、エディ・ゲレロ。本書は処女作にして"遺作"となったラティーノ・ヒートの壮絶な自伝である。
ルチャ・リブレの伝説である偉大なレスラーを父に持ち、名門一家の出であるがゆえに期待が重荷になった。メジャー団体のリングに上がり、やがてそのプレッシャーから酒とドラッグに溺れるようになる。
この自伝はひとりの非凡なレスラーが陥ってしまった地獄絵図と、そこから這い上がる勇気を一切隠すことなく明かした衝撃の書だ!

酒とドラッグと愛と勇気の壮絶人生!
全国書店にて"ビバ・ラ・ラッサ!"で絶賛発売中!!

TAJIRI推薦!
「オレは知っている。夢を持てない野郎だろうと、
過去に振り回されている野郎だろうと、ニートだろうと、ろくでなしだろうと、
エディの生き様を真似してみれば、きっとおまえの人生に、希望の光が射してくるであろうことを」

好評既刊! エンターブレインの海外レスラー自伝シリーズ

30年間"最高の男"に
君臨してきた過激な人生!!



リック・フレアー自伝
トゥー・ビー・ザ・マン
To Be The Man
リック・フレアー
キース・エリオット・グリーンバーグ 著

四六判ハードカバー　504ページ　定価=2625円(本体2500円+税)

"プロレス"に魅せられた
"レジェンド"の激白!



テリー・ファンク自伝
人生は超ハードコア!
テリー・ファンク
スコット・E・ウィリアムス 著

四六判ハードカバー　500ページ　定価=2520円(本体2400円+税)

リングの上だけでなく
人生のすべてがまさにキング!



ハーリー・レイス自伝
キング・オブ・ザ・リング
ハーリー・レイス
ジェリー・トリッツ 著

四六判ハードカバー　328ページ　定価=2520円(本体2400円+税)


eb! enterbrain　株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)■通信販売のお問い合わせ先　http://www.enterbrain.co.jp/



4.21『UFC70』
イギリス・マンチェスター大会
ミルコ・クロコップ＆
ファブリシオ・ヴェウドゥム出場

PRIDEの“かけら”を携えて それぞれが 世界を驚かせる旅へ!

GREAT NAVIGATION
OF PRIDE FIGHTER
2007



TEAM CRO COP INVADES UFC!!

文／堀江ガンツ　撮影／乾晋也、Josh Hedges/UFC

4.21『UFC70』イギリス・マンチェスター大会
ミルコ・クロコップ、メインイベント出場へ!
F・ヴェウドゥムはいきなりアルロフスキーと激突!!

♪ダン！ ダン!! ダダン!!!

『PRIDE』のテーマ曲に乗ってオクタゴンに登場という、仰天UFCデビューをはたしたミルコ・クロコップ。まさに〝PRIDEファイター〟として、たった一人で〝敵地〟UFCに乗り込んでいった格好だが、そんなミルコに早くもUFC侵攻の〝同志〟が現われた。

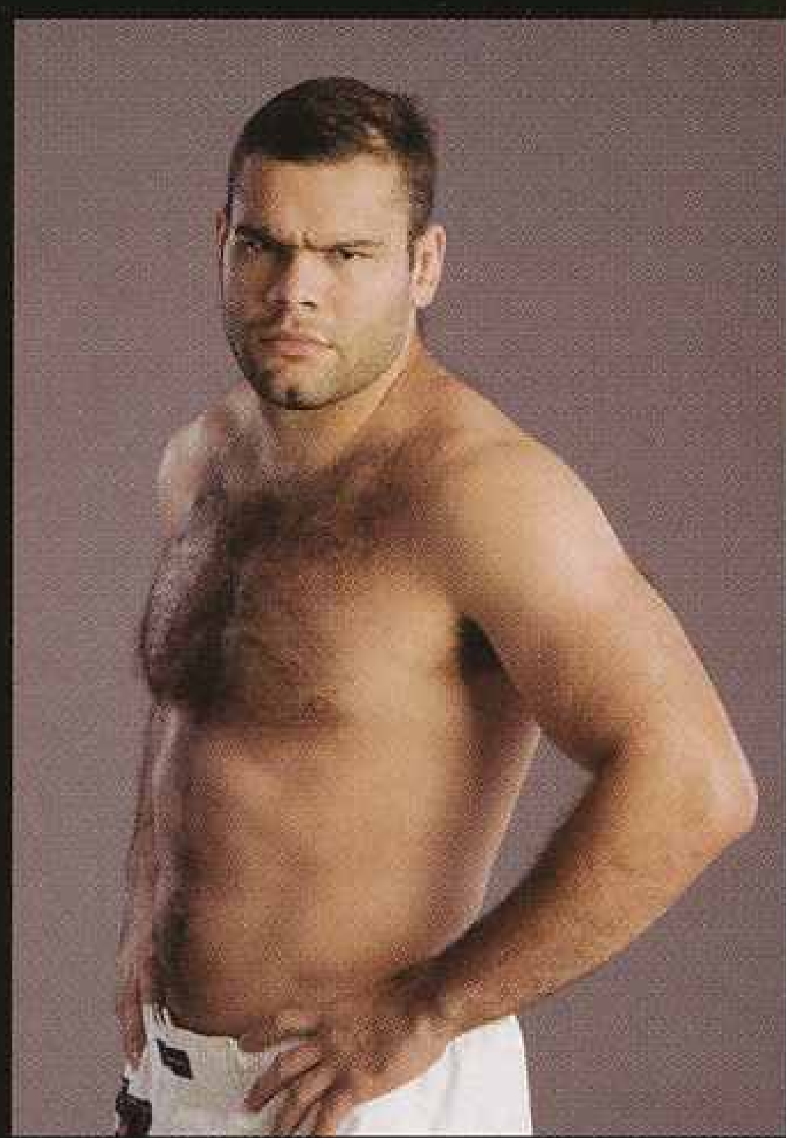
その男の名は、ファブリシオ・ヴェウドゥム。

言うまでもなく、チーム・クロコップの盟友であり、ミルコの寝技の師匠でもあるこの男のUFC参戦がついに正式決定したのだ。

初参戦の舞台は4・21『UFC70』イギリス・マンチェスター大会。対戦相手はいきなりヘビー級ナンバー2であるアンドレィ・アルロフスキーだというのだから、UFCの期待度の高さがうかがえるだろう。

ファブリシオは昨年、『PRIDE無差別級GP』でアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラに僅差の判定で敗れるも、互角の試合内容を展開。さらに10月にオランダで行なわれたMMAイベント『武士道ヨーロッパ』でヒョードルの弟アレキサンダーから肩固めで完璧な一本勝ちを奪うなど、PRIDEヘビー級4強（ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ、ジョシュ）に次ぐ存在だ。そのファブリシオがUFCヘビー級ナンバー2のアルロフスキーと闘うのだから、これぞ『PRIDE』とUFCのレベルを計るのには、格好のマッチメイク。この一戦が、来るべきミルコのヘビー級タイトルマッチの行方を占うのにも、重要な意味を持つことは言うまでもない。

ミルコとファブリシオは、昨年、同じ『PRIDE無差別級GP』に出場するということで、一時チームを解消。ファブリシオはブラジルへ戻っていたが、UFC参戦決定を受けて、再びクロアチアでのトレーニングをスタートすることとなった。これに柔術家マーシオ・コレータとK-1ファイター、カーター・ウィリアムスも合流。K-1 USA優勝経験のあるカーターの参加は、UFC随一のハードパンチャーであるアルロフスキー戦を前にしたファブリシオにとって、心強いスパーリング・パートナーと言えるだろう。



この男が、ミルコのUFC2戦目の相手、ガブリエル・“ナパオン”・ゴンザガ。柔術黒帯、UFC3戦3勝の実績を誇り、現在はあのシュートボクセでトレーニング中という情報もあるだけに、日本では無名ながら、なかなか侮れない相手と言える。

ファブリシオの再合流は、またミルコにとっても心強いことだ。4・21マンチェスターで対戦するガブリエル・〝ナパオン〟・ゴンザカは、UFC3戦3勝。MMA全体では7戦6勝1敗の戦績を誇る柔術家だが、この唯一の敗戦を喫した相手こそがファブリシオなのだ。ミルコ自身はナパオンについて、「ファブリシオとやったのは3年も前の話。それほど参考にならない。全力で倒しにいく」と語っているが、ナパオン対策にファブリシオほどうってつけの人間はいないだけに、この再合体は、両者にとって計り知れないメリットがあると言える。

また、両者にとって、最重要課題はオクタゴン対策であるが、チーム・クロコップのジムにオクタゴンが入るのは、もう少し時間がかかるという。しかし、マンチェスターにあるイルクスチェアMMAアカデミーというフルサイズのオクタゴンがある大きなジムが、ミルコの練習場として提供したいと申し出があり、そこで試合前にチーム・クロコップが短期合宿するプランが進められているようだ。

このように着々と進む、チーム・クロコップのUFC侵攻。ミルコの〝欧州凱旋〟となる4・21マンチェスター大会は、すでに大変な盛り上がりを見せており、クロアチアからは要人150人がチャーター機でマンチェスター入りすることが決定。クロアチアの旅行代理店では、いくつもの観戦パッケージツアーが組まれているという。

この盛り上がりを受けて、ミルコの試合がメインイベントとなることも決定したようだ。UFC2戦目でメイン登場、しかも自身が主役というのは、まさに異例中の異例だ。


今回、ミルコ、ファブリシオと『PRIDE』のヘビー級トップファイターがたて続けにUFCへ主戦場を移したことで、がっかりしているPRIDEファンも少なくないだろう。しかし、これだけ世界中にMMAが広まってきたら、一つのイベントが有力選手を独占するということはありえなくなる。いろんなイベント間での選手の行き来はますます増えてくるだろう。ならば、PRIDEファイターたちが、世界を舞台に闘うこともまた、PRIDEファンとしては誇りとすべきことでもあるのだ。

ミルコがUFCのメインを張り、ファブリシオがUFCナンバー2を倒す。それは、一つの『PRIDE』の勝利でもある。

昨年10月からアメリカに本格進出をはたした『PRIDE』。そのスローガンは「世界を驚かせる旅へ出る」だった。それは何も『PRIDE』というパッケージだけの話ではない。選手一人一人が、あらゆるイベントで世界の格闘技ファンを驚かせていくことになるだろう。

ミルコやファブリシオもまた、PRIDEの〝かけら〟を携えて、世界を驚かせる旅へと出たのである。





ミルコがUFC王者になったら俺がヘビー級に上げて闘ってやる

UFC LIGHT HEAVY WEIGHT CHAMPION

CHUCK "The ICEMAN" LIDDELL

アメリカ総合格闘技の頂点に立つ男

バブル真っ只中のアメリカMMAシーンの中で頂点に立つ男といえば、このチャック・リデルだ。
UFC最激戦区であるライトヘビー級で長期政権を築き、昨年12月30日には、ティト・オーティズとの決着戦も制し、
PPVで推定70万件という記録的な数字を獲得。まさにMMAバブルの牽引者である彼は、ミルコやランペイジのUFC参戦をどう思っているのか？
そしてヴァンダレイ・シウバ戦実現の可能性は？　2.3『UFC67』の会場で、王者を直撃した！

聞き手／堀江ガンツ　通訳／パンク上杉　撮影／乾晋也　試合写真／Josh Hedges/UFC

——昨年7月にチャックさんの自宅で取材させていただいた、日本のマガジン『kamipro』です!

リデル　ああ、覚えてるよ。今日はあまり時間がないけど、なんなりと聞いてくれ。

——よろしくお願いします!

リデル　(『kamipro』107号の『ボードッグ』特集に目を止めて)……ん? コイツは、カルビン・エアーじゃないか。

——そうです。やっぱり、ご存知ですか。日本でも有名になりつつあるんですけど、チャックさんから見て、彼はMMAにとってどんな人間ですか?

リデル　そう言われても、彼のことはよく知らないんだ。コスタリカで会って、ちょっと立ち話をしたぐらいだからね。

——え!? コスタリカで実際に会われたんですか?

リデル　といっても、たいした話はしてないよ。なんかのテレビ番組だったと思うんだけど、一緒にポーカーをしただけさ。

——まさか『ボードッグTV』だったんじゃないでしょうね(笑)。

リデル　う~ん、よく覚えてないけど、とにかく勝てば5万ドルの賞金を得られるっていうトーナメントに招かれて、俺は2着だったんだよ。

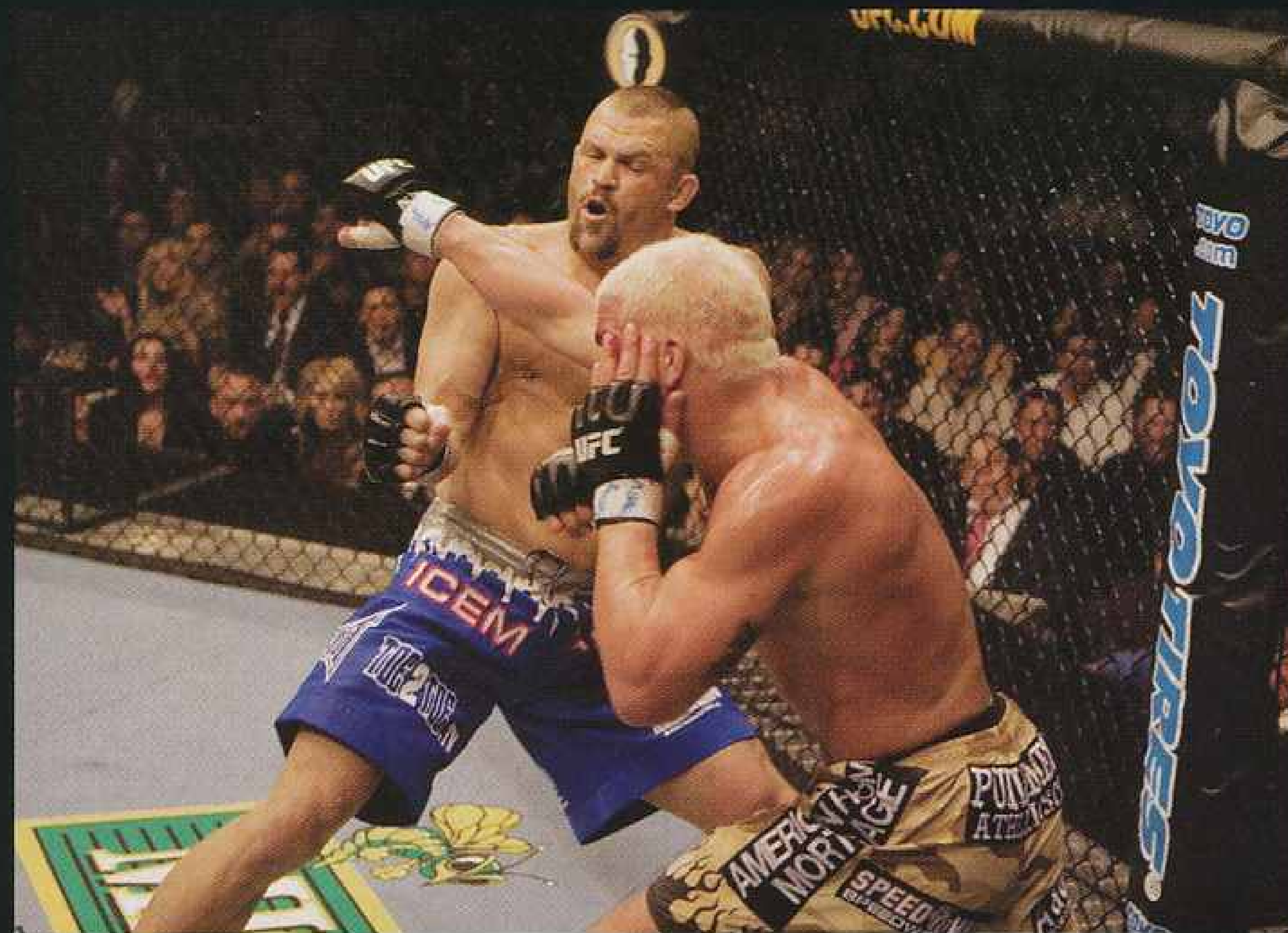
——ポーカーのトーナメント! しかも賞金は5万ドルって!!(笑)。

リデル　あれは惜しかったなぁ~(舌打ちをしながら)。彼らはホテル代も払ってくれたし、いいバケーションだったよ。

——でも、UFCのチャンピオンがカルビン・エアーとテレビで共演してたら問題じゃないんですか?

リデル　べつに試合に出るわけじゃないから問題ないよ。俺にとっちゃプライベートでポーカーやっただけだからね(笑)。





昨年12月30日、宿敵ティト・オーティズを下し、ついに因縁に決着をつけたリデル。この試合はマット・ヒューズvsホイス・グレイシーを上回るPPV視聴件数を記録したという。

——では、彼らはこの業界にとって有益な存在だと思いますか?

リデル　それはわからないな。でも、彼らのおかげで潤っているファイターがいるのは事実だ。そして、そういうリッチな人間や会社がこの業界の周りにいることはいいことなんじゃないかとは思う。まあ、有益かどうかは、時間が経てば自然とわかることさ。

——その〝リッチな人間〟は当然アメリカでもっとも有名なMMAファイターであるチャック・リデルをほしがってるんじゃないかと思うんですけど(笑)。

リデル　あぁ、そういう話は、それとなく聞いているよ(笑)。

——実際、話がありましたか! でも、まさかUFCのエースが、新興団体に行くことはないですよね?

リデル　UFCとはこれまで、ずっと一緒にやってきた関係だからな。いつも自分のことを大事に扱ってくれているし、いまの状況に不満はないよ。だけど自分が闘いたい相手と、それに見合うお金を用意してくれたら、そこで闘うのがファイターっていうものだ。アンタ方の国ではどうか知らないけど、ここアメリカでは、常に自分を一番評価してくれるところで闘うっていうのがプロだからな。

UFCはミルコとランペイジを獲得した。ヒョードルやシウバも時間の問題だろう

——そうすると、移籍の可能性はないわけではないと?

リデル　まあ、そうはいっても、俺はUFCで闘っていくけどね。いま現在、UFC以上に俺を満足させてくれるところはほかにないからな。

——でも、UFCでは昨年末にティト・オーティズとの決着戦に勝利し、いよいよ闘う相手がいなくなってきたんじゃないですか?

リデル　いや、そんなことはないよ。まだまだいるぜ。クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソン、ミルコ・クロコップ、そしてヒョードル、ヴァンダレイ(・シウバ)だ。

——凄まじいビッグネームが並びましたけど、ランペイジやミルコはともかく、ヒョードル、ヴァンダレイとUFCで闘うのは難しいんじゃないですか?

リデル　そんなことないさ。クイントンやミルコとだって、ほんの数カ月前までは闘える可能性なんてほとんどなかったのに、いまは同じUFCで闘っている。それなら、〝残りの二人〟がUFCに来るのも時間の問題じゃないか?(笑)。

——ヒョードルとヴァンダレイがオクタゴンに入るのは時間の問題ですか!

リデル　さっきも言ったとおり、自分をもっとも高く評価してくれるところで闘うのがファイターだ。ダナもきっと彼らのことは高く評価してると思うよ。

——恐ろしいことを言いますねぇ……。その4人の中で、同じUFCライトヘビー級で闘うランペイジが、最初に闘う可能性が高いと思いますけど。彼には3年前、一度敗れていますが(03年11月9日、『PRIDEミドル級GP』東京ドーム)、苦手意識はありませんか?

リデル　まったくないね(キッパリ)。あ

の夜は、ただ自分にとっていい夜じゃなかったというだけさ。俺は自分のキャリアで3試合負けているが、そのうちの2試合はリベンジを果たしている。次はアイツの番さ。

――では、近いうちにランペイジをライトヘビー級王座のチャレンジャーとして迎え入れてもいい、と。

リデル それは彼次第だね。彼自身も何試合か消化してからにしたいと言っているようだし、いまはまだUFCファンは彼のことをよく知らない。というのは、PPVを観たりアリーナに来ているほとんどのファンは、ここ数年でUFCを観始めた人たちなんだ。つまり、そういうライトなファンは『PRIDE』やほかの団体のこともまだよく知らないからな。クイントンは自分の力で実力をアピールしてファンを作っていかないとビジネスとしては難しいね。

――確かに。

リデル もちろん、そんなことはクイントン自身もわかっていると思うけど。だから、何試合かここで闘って、新しい戦場にも慣れていきつつ、知名度を上げていくのがスマートな方法だろうな。

――なるほど。では、リデル選手自身の次の試合はいつになりそうですか？

リデル それはUFCのスタッフとも話したけど、5月になるんじゃないかな。それか、7月の第一週か。俺としては早いほうがいいけどもね。

――ところで、先ほどミルコやヒョードルの名前も出ましたが、近い将来ヘビー級に階級を上げていくことも考えているんですか？

リデル いや、ヘビー級が目標と言うより、その二人との対戦のためなら、ヘビー級に上げてもいいということだね。それに彼らはヘビー級の中でも決して、大きい選手じゃないから、それほど体格差は感じないしね。

――たとえば100キロ契約で、階級を超えたスーパーファイトでミルコと闘うのもありだ、と。

リデル そうだな。でも仮にミルコがタイ

“総合の打撃”だったら ミルコより俺のほうが上だ！



トルを獲ったとして、そのベルトを懸けてくれるのなら正式なヘビー級の試合にしてもらうけどな（笑）。

――ミルコについていうと、彼は「3戦目でチャンピオンになる」と宣言していますが、それは実現すると思いますか？

リデル　チャンスはあるだろうね。あの攻撃力からすれば、王者のティム・シルビアを攻略するのも可能だろう。でも、なんだっけ？　ミルコはあいつにKOされているだろう？

――ああ、ケビン・ランデルマンですね。

リデル　そう。あの試合を観るかぎり、ミルコはそんなに打たれ強いほうじゃない。長いリーチのある、シルビアの右ストレートには苦戦することになると思うよ。

――では、チャックさん自身はミルコと闘うとなると、どういうゲームプランで闘いますか？

リデル　フフフ。単純なことさ。アイツが一発殴ってくれれば、俺はその2倍返す。それだけさ。

――ずいぶんシンプルな作戦ですね（笑）。

リデル　本当のことを言おうか（笑）。みんな俺のことを誤解しているようだけど、俺にはレスリングのバックグラウンドもあるんだ。単純なストライキング・スキルなら、俺とミルコとどっちが上かは簡単には言えないけど、タックルとのコンビネーションを混ぜた、〝総合での打撃〟について言えば、ミルコには負けるつもりはないよ。

――なるほど。パンチやキックだけが打撃じゃない、と。

リデル　べつに打撃でなく、投げ技でKOしてやってもいいしね（笑）。とにかく、彼は『PRIDE』ではチャンピオンだが、UFCではまだルーキーだ。もし、俺と闘ったら、オクタゴンでの闘いの奥深さを知ることになるだろうな。

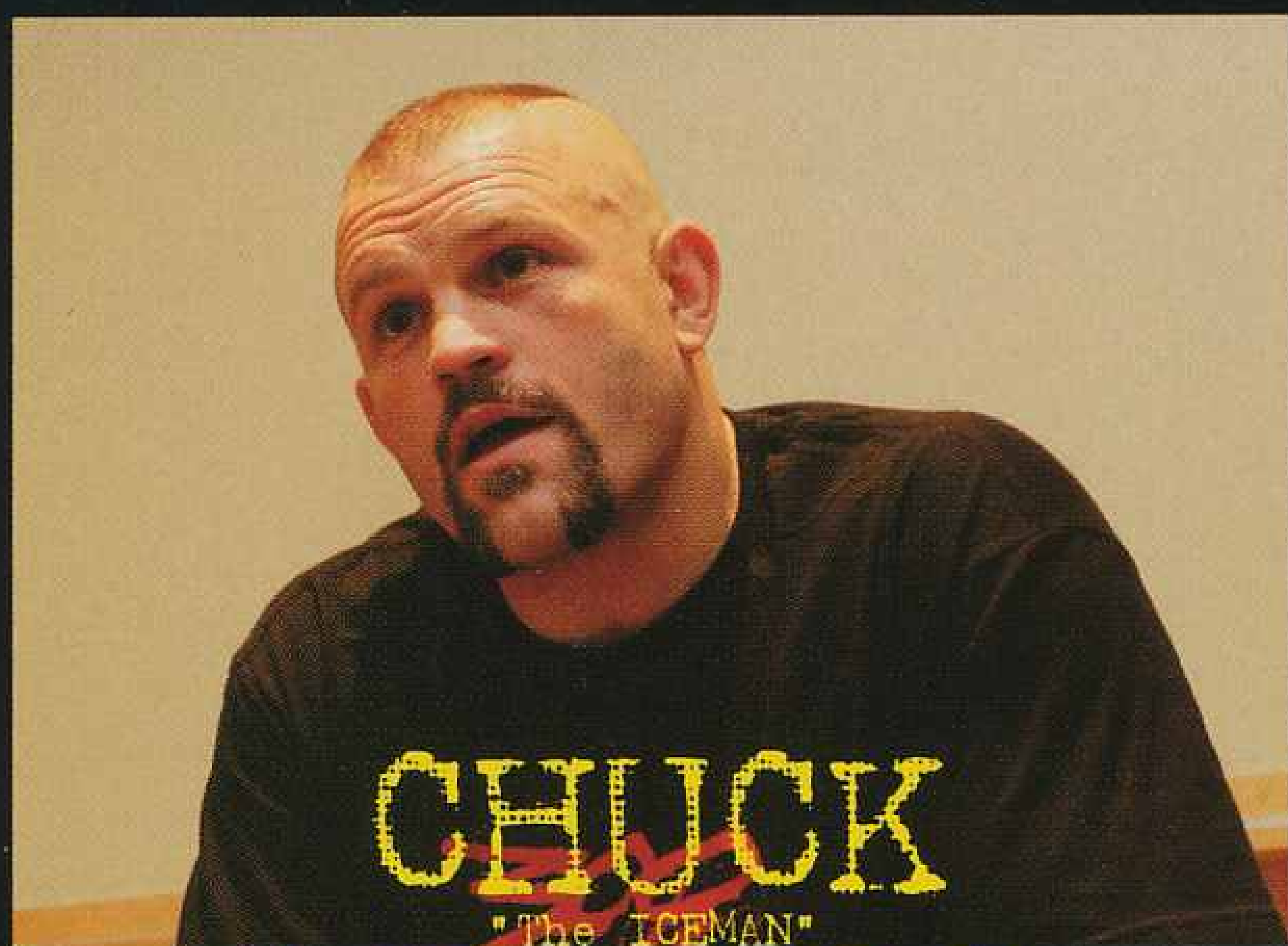
――もう一人、ヴァンダレイ・シウバもチャックさんとの対戦をさかんにアピールしていますが？

リデル　OK。いつでもやってやるよ。闘いたいのはわかったから、早くオクタゴンに上がってきやがれ。こっちは待ちくたびれてるんだよ（笑）。

――たしかに昨年11月に対戦が予定されていたわけですもんね。

リデル　そうさ。それなのに、俺と闘う前にミルコにKOされて、お流れにしたのは、どこのどいつだって（笑）。俺はいつでも準備OK。彼がハード・パンチャーなのはわかっているけど、それは俺も同じ。しかも俺のほうが強いアゴを持っている（自信たっぷりと）。彼のアゴを打ち砕いて、眠らせてやるよ。

Chuck Liddell■1967年12月17日、米国カリフォルニア州出身。キックボクサーとして活躍したのち98年にUFC参戦。数々の強豪を倒してきたアメリカMMAシーンを代表するストライカー。05年、ランディ・クートゥアーを下してUFCライトヘビー級王座を獲得、約2年間にわたってチャンピオンとして勝ち続けている。188cm、93kg。



CHUCK "The ICEMAN" LIDDELL

――そのシウバは、2・24『PRIDE』ラスベガス大会でタイトルマッチを控えていますが、この試合の展開についてはどう思いますか？（このインタビューは2月3日に収録）

リデル　じつはヘンダーソンは、俺の友だちなんだ。だからといってヒイキするわけじゃないけど、彼は強いよ。前回のヴァンダレイとの試合も五分に渡り合ったし、今度もどっちが勝つかはわからない。まあ、なんにせよ、これでシウバがミルコ戦に次いで負けることになったら、俺との試合は半永久的になくなるだろうな（笑）。

――ところで、このアメリカMMAシーンで一番成功しているチャックさんにとって、今後の目標というとなんですか？

リデル　う～ん。俺は、ただ闘いたいだけさ。そして常にベストな試合をしてチャンピオンとして君臨したい。

――とはいえ、すでにそのポジションを得てますよね。

リデル　でも、そのチャンピオンでい続けることが、難しいことで、自分にとってのチャレンジであり、自分のモチベーションなんだ。だから、これからどうしたい？って聞かれたら、「もっともっといい試合をしたい」と言うほかはないね。

――いい試合をするために、闘いたい相手は誰ですか？

リデル　それは最初に挙げた4人のファイターってことだけど、あえて言うなら、一度負けたクイントンかな。いまでも、あの試合のことがフラッシュバックのように記憶によみがえることがあって、悔しいからな。

――やはりあの負けは、チャックさんにとっても大きなことでしたか。

リデル　俺は負けたままでいることが耐えられないんだよ。だから、そのまま勝ち逃げはさせない。キッチリと落とし前はつけるよ。あと、ミルコとの闘いも楽しみだけど、世界で一番強いと騒がれているヒョードルにも勝っておきたいね。言っておくけど、ヒョードルは俺をテイクダウンすることはできないからな。

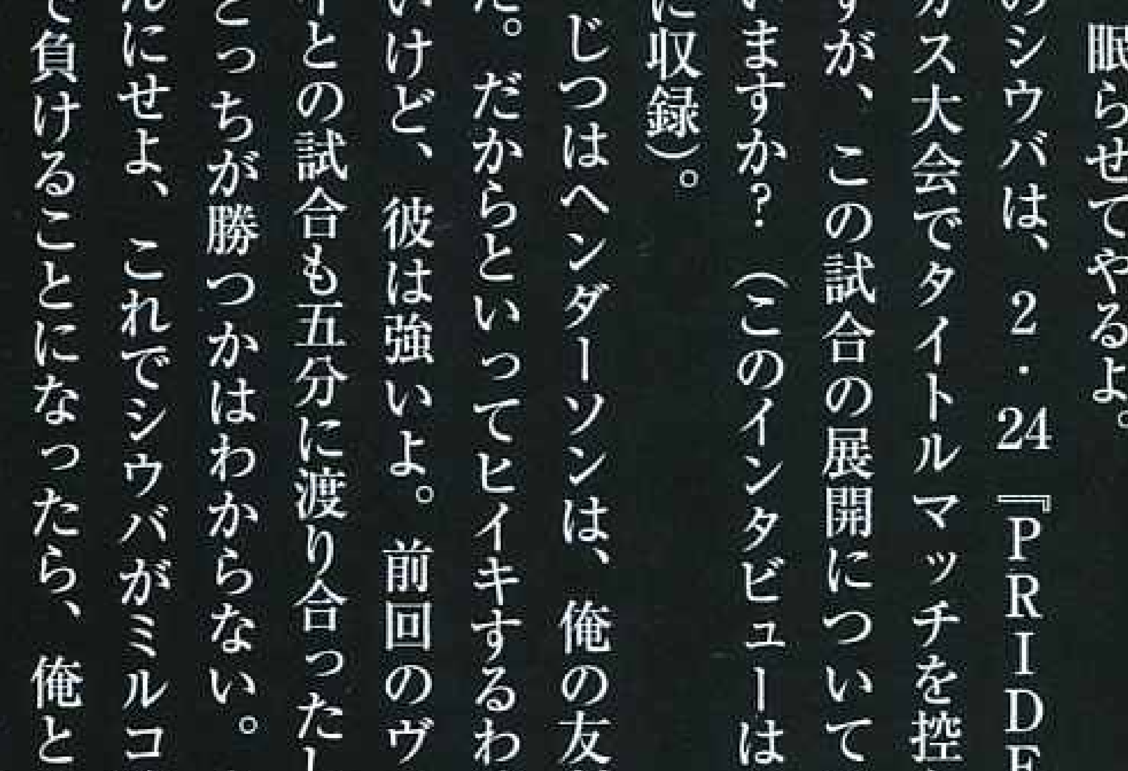
――凄い自信ですねぇ！　でも、ヒョードルはスタンドでも、ミルコに打ち勝つぐらい強いですよ。

リデル　ハッハッハ。あんな大振りのフックは俺には当たらないね。ところで、ヒョードルのパンチは〝氷の拳〟なんて呼ばれているんだろ？

――はい、日本ではそういうキャッチフレーズで呼ばれてますね。

リデル　だったら、〝アイスマン〟（リデルのニックネーム）の打撃をヤツに食らわせて、どっちが本当の〝氷の拳〟かわからせてやるよ！　だから、さっさとヒョードルもUFCに来いって。ハッハッハ！

【07年2月3日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・カジノ&リゾートにて収録】



03.11.9東京ドーム■UFC代表として、『PRIDEミドル級GP』に出場したリデルだったが、準決勝でランペイジにまさかの完敗を喫してしまった。これまでリデルは3つの敗戦があり、ティト・オーティズ、ランディ・クートゥアーは倒し、リベンジしていないのはランペイジだけ。はたして再戦の行方は？



ギブ・ミー・マネー!! ウォ～ン!!

リデル戦実現でミルコよりも先にブレイク必至か!?

QUINTON "RAMPAGE" JACKSON

PRIDEの鎖を引きちぎった狂犬が アメリカ出世街道バク進中!!

昨年『PRIDE』を離脱し、高額ファイトマネーで沸くアメリカに戦場を移したジャクソン。しかし移籍先のWFAが崩壊。そのまま“野良犬”になるかと思われたが、UFCがWFAを買い取ったことで、図らずも“米メジャーデビュー”をはたすことになった。UFCデビュー戦直前、成り上がる狂犬の咆哮を聞け!!

聞き手／パンク上杉　撮影／乾晋也　試合写真／Josh Hedges/UFC

——ランペイジさん！　日本のプレスの者ですが……。

ジャクソン　おうっ！　おうっ!!　懐かしいな、ジャパニーズは!!（日本語で）オカワリアリマセンカァ？

——以前の姿を知ってるんですか、そもそも（笑）。ランペイジさんこそ日本からアメリカに戦場を移されて、ずいぶん環境が変わりましたよね。

ジャクソン　あん？　俺様は何も変わっちゃいねえよ。ファイターとして闘って勝つ！　それだけだ。

——まあまあ、とりあえず振り返ると、昨年2月のユン・ドンシク戦が日本での最後の試合だったんですよね。

ジャクソン　そうだな。当時、アメリカで闘っているファイターのギャランティはどんどん上がっていたにも関わらず、『PRIDE』は俺様を満足させてくれるファイトマネーを提示してくれなかったんだ。

——で、WFAと契約したわけですね。

ジャクソン　ああ、彼らは俺様をよく扱ってくれたよ。しっかり財布を潤わせてくれたしな。ガハハハハ！

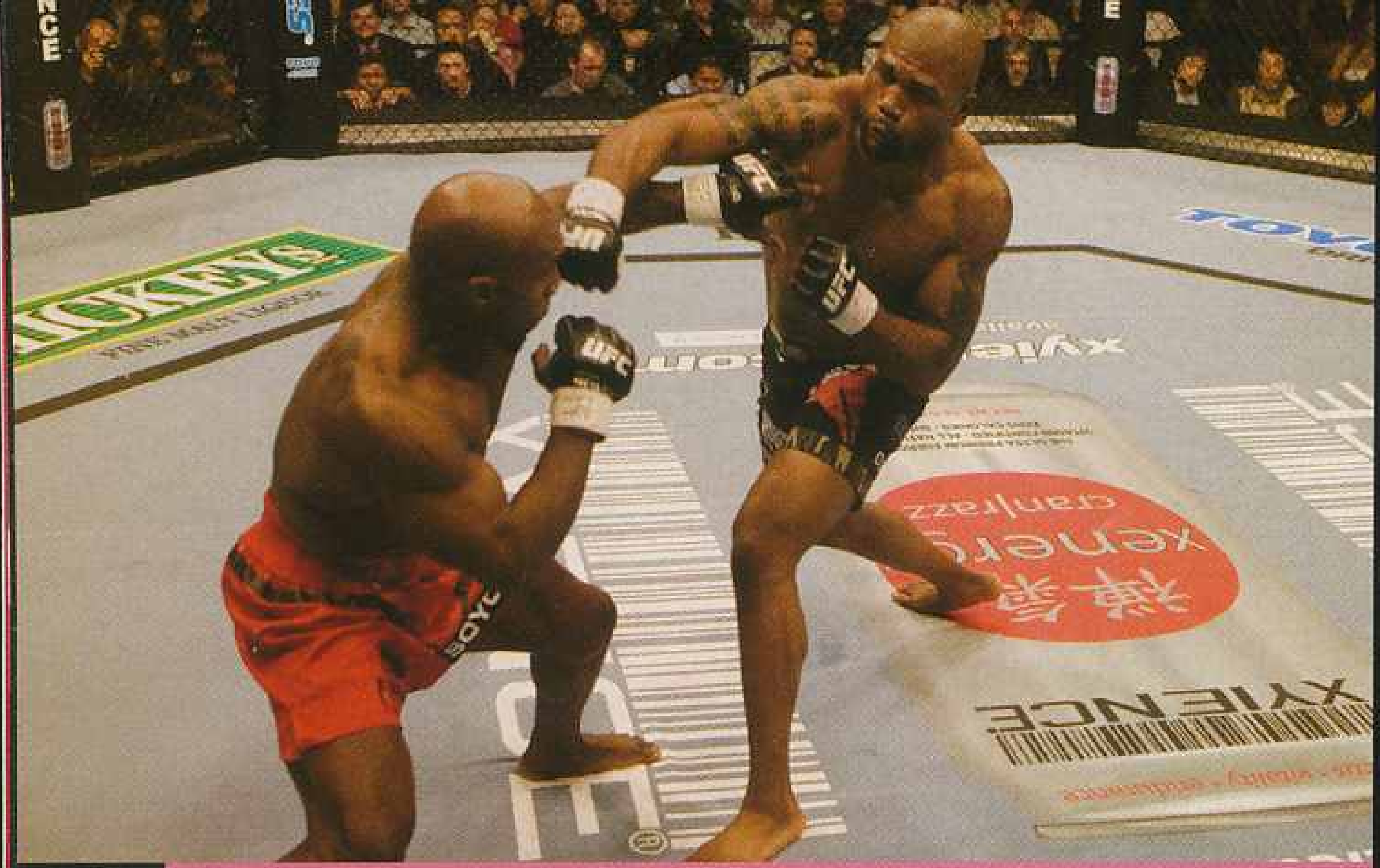
——ちょっと心配したのは、WFAが倒産寸前になったあと（その後、UFCが買収）、そのお金をめぐって元従業員と元オーナーが裁判で争ってますよね。そのトラブルには巻き込まれなかったんですか？

ジャクソン　俺様は大丈夫さ。そうなる前にしっかりと金はいただいていたからな！　ガハハハハ！

——それは日本のファンも安心です。

ジャクソン　サンキュー。それに、UFCではもっと待遇がいいんだぜ（ニヤリ）。

——実際、ここマンダレイベイ・ホテルでもランペイジさんの試合映像がバンバン流されて、大々的に売り出しています



［2.3 UFC67 ALL OR NOTHING］
米国ネバダ州ラスベガス／マンダレイベイ・リゾート&カジノ
○クイントン・“ランペイジ”・ジャクソン vs マービン・イーストマン×
（2R 3分49秒 KO）
試合前日のインタビューでは金の話しかしなかったランペイジ。しかし試合では一転、強打を誇るイーストマン相手に距離を取り、隙のないファイトを展開。最後は首相撲で捕獲して、ショートアッパー連打! 見事、UFCデビューをKOで飾った。ワォウ! ワォ～ン!!

よね。いつも首にかけている鎖がロビーのショーケースに飾られているのを見たときは、さすがにたまげましたけど（笑）。

ジャクソン あ、そうだ。思い出した！ ヤッら俺様のチェーンを盗みやがったんだ！ 試合までに取り返さないとな。でも、まあ見てのとおり、UFCの俺様に対する期待は感じるぜ。もう一儲けさせてもらうよ。ガハハハハ！

――明日のUFCデビュー戦へのモチベーションはバッチリなんですね（笑）。では、さしあたっての目標は？

ジャクソン もちろん、ライトヘビー級のベルトさ。『PRIDEミドル級GP』のときみたいに、チャック（・リデル）をもう一度シバキ倒してベルトを奪い獲ってやるよ。それでマネーをガッポガッポだ。

――やけに自信満々ですねえ。

ジャクソン ……オマエ、日本人ならあの試合を観ただろ!? どっちが強いかわかんないのか？ バカヤロー！（大声で）。

――ヒャッ！ 落ち着いてください。ここで暴力をふるったら、大金が台なしですよ、旦那！

ジャクソン うんうん。そうだなあ。エヘヘヘ！ まあ、あれが俺様とチャックの実力差だ。『PRIDE』で揉まれた俺様の力は、アイツがよ～くわかっているはず。いま頃、ベルトを抱えて、ビビって泣いているんじゃないかあ？ ガハハハハ！

――では、ファイターの強さ以外の部分で『PRIDE』とUFCの差というと、なんですか？

ジャクソン （即座に）金だよ、金!! オクタゴンからルールからいろいろ違うけど、なんたって一番の違いは金だよ！ コンチクショー！

――また金の話！（笑）。

ジャクソン おいおい、誰に話を聞いているんだ？ 本当のことを聞きたいんだろ？（聞き手を小突きながら）。

――イ、イタ！ 何をするんですか、いったい（怒）。

ジャクソン ガハハハハ！ 怒るな、チャイニーズ！ 俺はチャイニーズが大好きなんだゾ！

――日本人ですよ！（怒）。じゃあ、強い対戦相手が減ったうえにファイトマネーもガッポリもらえて、現状には満足しているわけですね！（嫌味ったらしく）。

ジャクソン ハイ、ソウデス！（日本語で元気よく）。

日本に帰ってきてほしい？ それはファイトマネー次第だな！

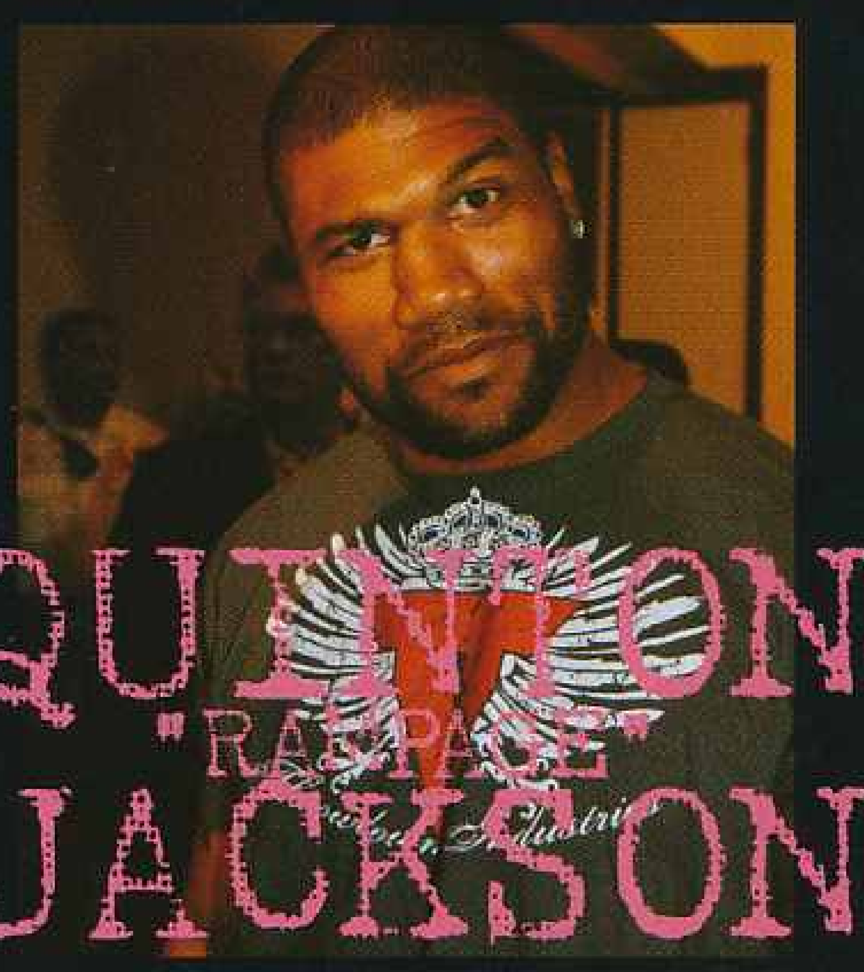
――即答しないでくださいよ！ ファイターの誇りはないんですか（笑）。

ジャクソン だって、ラスベガスに来てみたら、ビルボードに真っ黒い男がいて、「誰だ？」って思ったら、それは俺様なんだぜ！ 人生、サイコーだよ。ガハハハハ！

――なんだかもうウハウハですねえ。では、リデルを倒すのは、時間の問題ということですね。

ジャクソン （大きくうなずいて）そういうことだ。そうだ、俺様が本当に闘いたい相手を教えてやろうか？

――はい、お願いします。



Quinton "Rampage" Jackson■1978年6月20日、アメリカ・テネシー州出身。怪力を活かした暴走ファイトを信条としながら、K-1ルールでシリル・アビディを破ったボクシング技術を併せ持つ。日本語検定3級（推定）。185cm、92.9kg。

ジャクソン マッイ（松井大二郎）だ！

――え、松井さん!? そういえば、金的蹴りで反則負けになってますけど、それは意外な答えだなあ。

ジャクソン ウソに決まってんだろ、このバカ！

――……なんて意味のないウソを（笑）。

ジャクソン このバカ！ バカ、バカッ!!

――はいはい。わかりましたから、本当に闘いたい相手は？

ジャクソン しょうがねえなあ。（ヴァンダレイ・）シウバだよ！ あとは（マウリシオ・）ショーグンとサクラバ（桜庭和志）！ アイツらのケツを蹴り上げてやらないとな。

――そうすると、いずれまた日本でその遠吠えが聞けると？

ジャクソン それは金次第さ。日本のプロモーションがいくら俺様に払ってくれるかによるだろ。その前にシウバらが、UFCに来るかもしれないしな！

――確かに、かつて日本で闘っていた選手たちがアメリカに流れてます。その状況をどう思いますか？

ジャクソン だから、さっきから言ってんだろ？ すべて金だって！（と、また聞き手を小突きながら）。オマエだって給料がいいほうで働くだろう？

――ええ。大きな声では言えませんけど。

ジャクソン それに俺様には養わなきゃいけない子どもたちがいるんだ。ヤッらの服代や散髪代、それにミルク代もかかるんだよ。（突然、意気消沈して）女房がいないからさあ……。

――え!? 離婚されたのですか？ 試合直前にリング上から携帯でプロポーズした奥さんと？


ジャクソン （悲しい顔で）そうだ。ノー・モアだ（と首を横に振る）。とにかく、いまの俺様は稼ぐことしか考えてない。子どもたちのためにもな。

――なるほど、二言目には金の話になるのは、そういうことでしたか。日本から離れて寂しいですが、応援しています。

ジャクソン アリガトウゴザイマス！（突然、ラップ調で）俺様はシングル・パパ！ 稼ぐしかねぇ♪ ミリオネアになるぜ～♪

――試合直前とは思えないランペイジさんでした！

【07年2月2日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・カジノ＆リゾートにて収録】


ナンダコノヤロー！



アントニオ猪木最後の愛弟子がUFC快勝デビュー！
秋山成勲にも宣戦布告!?

LYOTO
マチダ・リョウト

“闘魂の火種”UFCで燃えあがる！

“のん気なアントン”がオクタゴンデビュー!! “アントニオ猪木最後の愛弟子”として、『イノキ・ボンバイエ』や『ジャングル・ファイト』、『アルティメット・クラッシュ』、『HERO'S』などで活躍していたLYOTO。アントン総帥が総合格闘技界から離れるにつれ、しばらくその名前を聞かなくなっていったが、2.3『UFC67』にリョウト・マチダのリングネームで登場。見事、アメリカ“メジャーデビュー”をはたした。じつは総合無敗でもあるこの“闘魂の火種”は、UFCで燃え上がるのか？　気になる現在のアントンとの関係から“秋山問題”も含めて、ひさびさに“ノー天気な燃える闘魂”を直撃した！

聞き手／堀江ガンツ　通訳／パンク上杉　撮影／乾晋也　試合写真／Josh Hedges/UFC

――LYOTOさん、元気ですか――ッ!?

LYOTO　ンムフフフ！　ゲンキデース（日本語で）。

――いやあ、本当におひさしぶりですね。日本のファンからすると、ここ1年近くLYOTOさんの姿を見てなかったわけですけど、どうしていたんですか？

LYOTO　ずっと地道にトレーニングばかりしていたよ。残念なことに、日本では試合ができなくなってしまったんだけど……。でも、こうしてアメリカのイベントに呼んでもらえるようになって嬉しいよ！

――ミルコ・クロコップやクイントン・“ランペイジ”・ジャクソンと、日本のファンの注目を集めるUFCの大会で、いきなりカードに名前が入っていたんでビックリしましたよ。

LYOTO　アメリカでのMMAの試合は、これが2試合目なんだ（※アメリカでの総合デビュー戦は、昨年7月のWFAでのヴァーノン・タイガー・ホワイト戦。結果は3－0の判定勝ち）。契約を結んでいたWFA自体にトラブルがあって、それで結局、UFCに出ることになったんだけどね（※昨年12月、UFCがWFAを買収）。

――ある意味、ラッキーですよね。で、日本での後見人だった猪木さんとは、まだ連絡をとったりしているんですか？

LYOTO　うん（笑）。ときどき電話で話をしたり、まだ連絡は取ってるよ。

――あ、連絡はちゃんとしているんですね。猪木さんとは、以前は師弟関係だったと思いますけど、いまはどんな関係なんですか？

LYOTO　う～ん、そうだなぁ……いまは、いい友だちかなあ……。

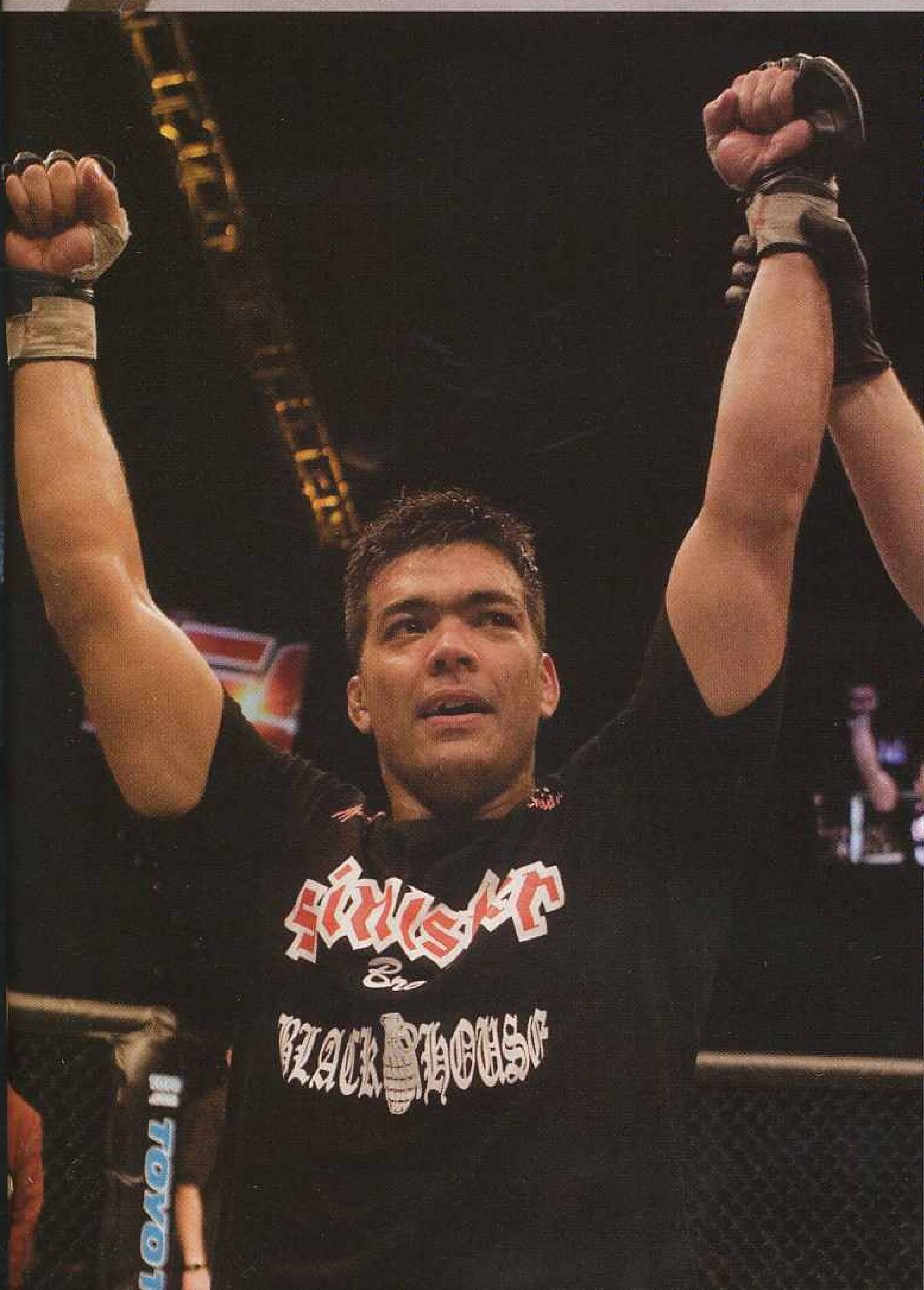
――猪木さんとは友だち！　なんか別れ



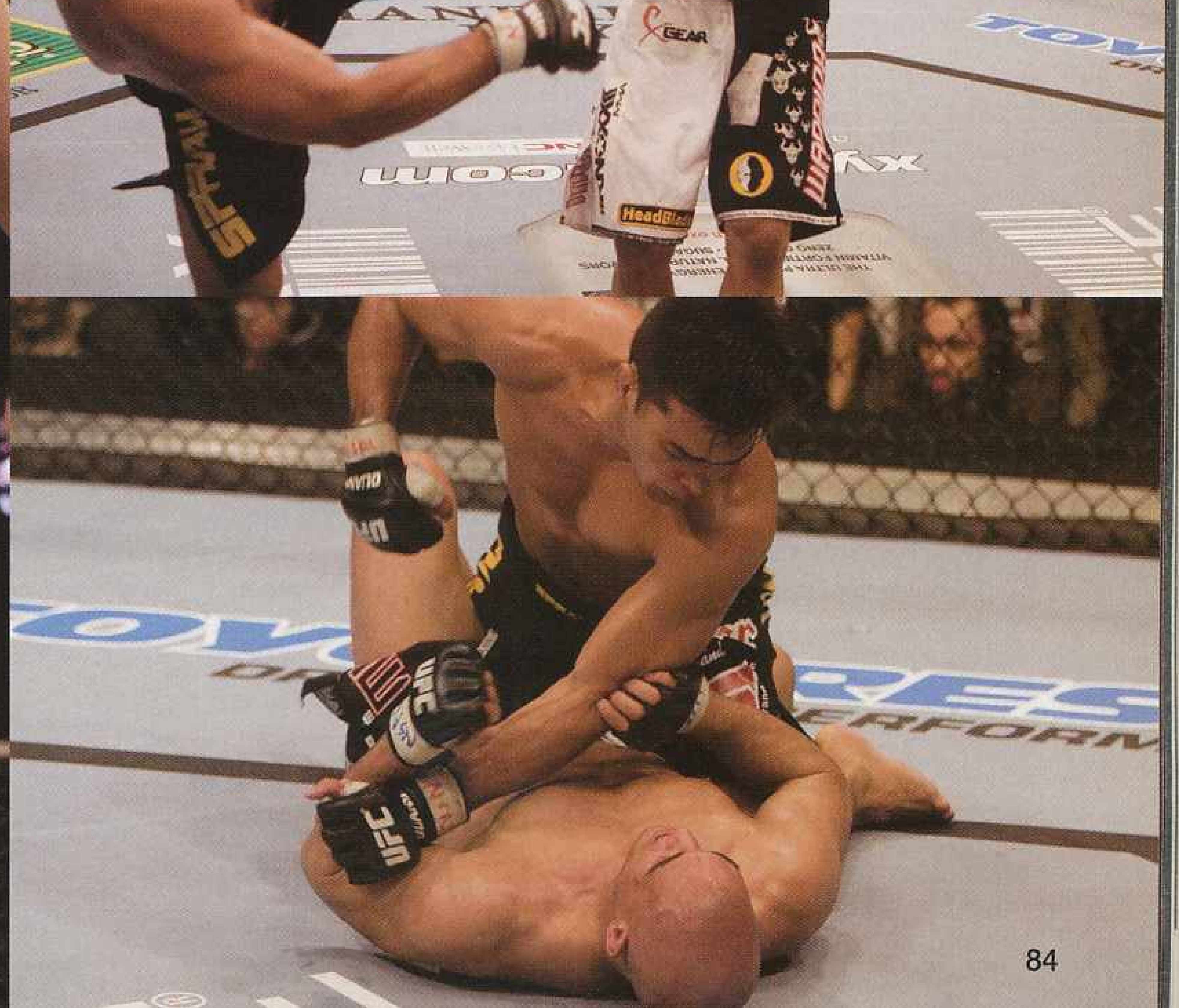
［2.3 UFC67 ALL OR NOTHING］
米国ネバダ州ラスベガス／マンダレイベイ・リゾート&カジノ

○LYOTO vs サム・ホーガー×
（3R 判定3-0）

開始早々、鋭いローとミドルで会場をどよめかせたLYOTOは左ストレートを炸裂させダウンを奪う。グラウンドでもたびたびマウントを取るなど、終始、試合を優位に展開。その後も打撃を浴びせ続け、判定3-0で圧勝!







イノキさんとの関係？　いまは"いい友だち"かな（笑）

た彼女みたいですね（笑）。

LYOTO　ンムフフフ！　でも、凄くいい関係だよ。ビジネスの付き合いじゃないだけで、いまでも凄く仲良しだから。

——では、「ブラジル道場」の代表で『ジャングル・ファイト』のプロデューサーでもあるヴァリッジ・イズマイウとも、いまは友だちなんですか？

LYOTO　……彼とはトモダチではないかな（苦笑）。

——イズは友だちじゃない！　まあ、彼は勝手に近寄ってくる"ストーカー"というか（笑）。

LYOTO　まあ、彼は"知り合い"って感じ（笑）。

——わかりました（笑）。ところで、猪木さんは「LYOTOを秋山（成勲）と闘わせたい」と言っているんですけど、そのことはご存知ですか？

LYOTO　え〜⁉　そうなの？　その話は聞いてないよ〜。

——やっぱり聞いてませんか（笑）。秋山選手が誰かは知っていますか？

LYOTO　もちろん、彼のことは知っているよ。昨年の大晦日にサクラバ（桜庭和志）と闘った柔道のチャンピオンでしょ？

——そうです。その秋山選手が身体にクリームを塗ってきて、問題になったことはご存知ですか？

LYOTO　その件は聞いてるし、グローブの中に何か細工した疑いがあることも知っているよ（笑）。

——日本にいないのに、そんなことまで知ってましたか！（笑）。

LYOTO　だってボクは格闘家だし、このビジネスに身を置く以上、どこで何が起こっているかは知ってないとね〜。

——で、猪木さんいわく「LYOTOが秋山に怒ってる！」ってことなんですよ（笑）。

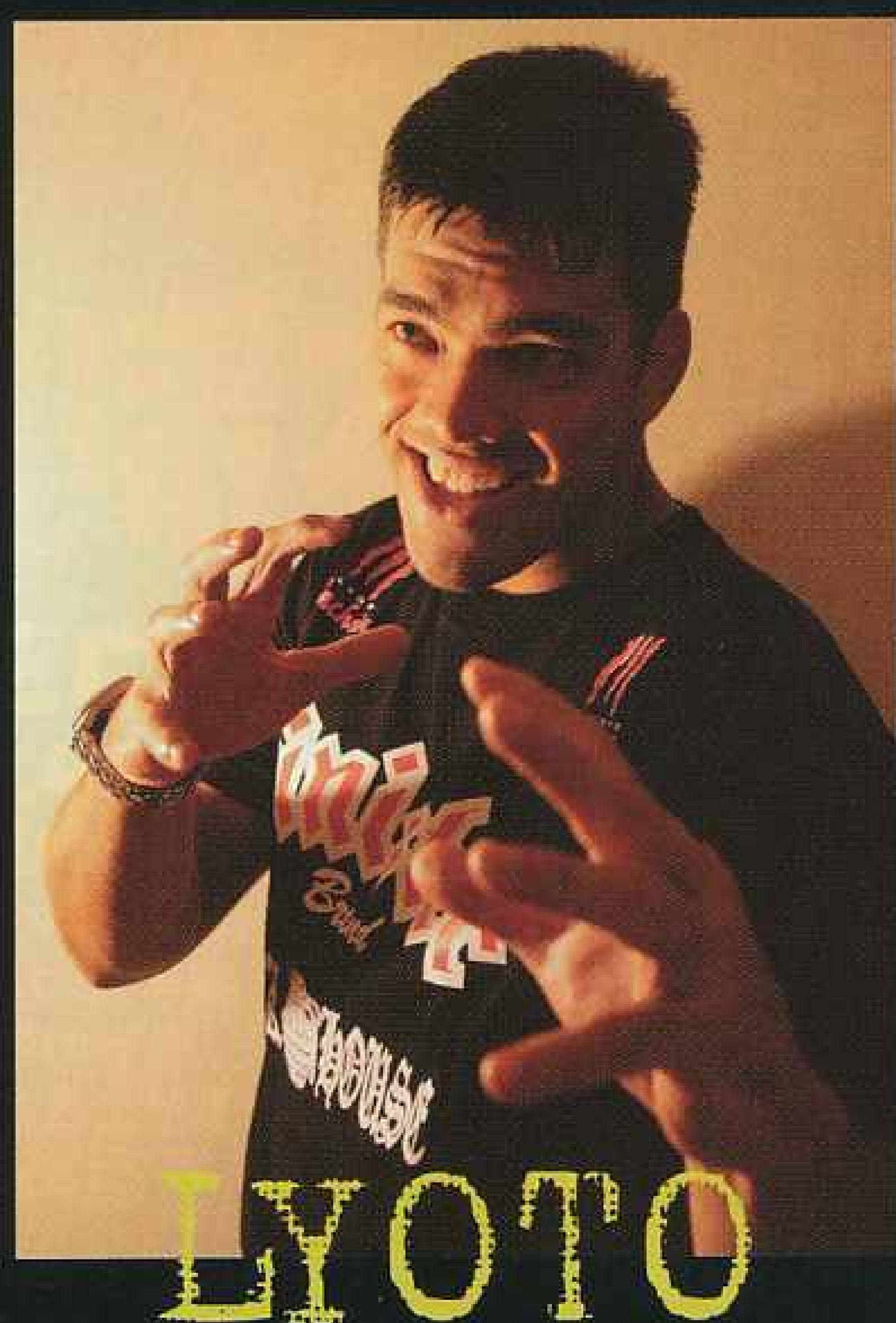
LYOTO　（いきなり大声で）アキヤマ、コノヤロー‼

——うわっ！　ホントに怒ってる！

LYOTO　……ってボクが？

——まあ、そんな感じです（笑）。

LYOTO　う〜ん。そこまで怒ってはないけど（笑）。確かに彼がやったことについては怒ってるよ。やっちゃいけないことをやったわけだからね。



Lyoto Machida■1978年5月30日、ブラジル・バイーア州出身。日本人の父を持つ日系二世。空手道場の師範を務める父のもと、幼少の頃よりさまざまな格闘技を習得。ブラジル訪問中のアントニオ猪木に見いだされて03年、新日本プロレス初のVT『アルティメット・クラッシュ』でプロデビュー。総合9戦無敗。185cm、93kg。

——じゃあ、猪木さんの言ってたことは、まんざら嘘でもないんですね（笑）。秋山選手と闘ってみたいとは思いますか？

LYOTO　いまはUFCに出場してるから難しいけど、チャンスがあればいつでもいいよ。もちろんオイルは禁止でね（笑）。

——ヌルヌルなしならやってやる、と。猪木さんのもとを離れてから、いまはどこで練習してるんですか？

LYOTO　いまはベレンという、ブラジルの生まれ故郷に住んでるんだけど、試合前はリオに長期滞在して、ブラックハウスという新しいチームで練習してるんだ。このチームには、ビクトー・ベウフォートやいまのUFCミドル級王者、アンデウソン・シウバらが所属していて、ノゲイラ兄弟もよく出稽古に来ているから、強くなるにはとてもいい環境なんだ。

——凄いメンバーですね。実際、ノゲイラ兄弟ともスパーリングしたりすることはあるんですか？

LYOTO　しているよ。とくにミノトゥーロ（ホジェリオ）とは、よく練習しているよ。

——へえ〜。そうすると、これまでと比べて練習環境はかなり良くなったわけですね。

LYOTO　そうだね。だって、ブラックハウスのメンバーは各階級のトップクラスのファイターだからね。本当にいい練習ができているよ。ボクは空手家だから打撃にはもともと自信があったけど、なんといっても、ノゲイラ兄弟らを相手にスパーリングしているわけだから、イヤでも寝技が強くなる。それと、打撃からのタックルとか、そういう総合でのコンビネーションも凄くよくなったよ。

——じゃあ、今回のUFC出場は、絶好の機会だったんですね。

LYOTO　うん。新しい目標ができて、もの凄く充実しているなあ。

——でも、リングとオクタゴンという戦場の違いは気になりませんか？

LYOTO　ダイジョーブ！　前のWFAでもオクタゴンを使っていたし、慣れるとこっちのほうが自分には合ってるんじゃないかと思う。それに、いまは目の前の敵を倒すことしか頭にないからねぇ（インタビュー翌日、UFC67でサム・ホーガーと対戦。判定ながら完勝）。もちろんチャンピオンにはなるつもりだよ！

——いずれは、"UFCの象徴"でもあるライトヘビー級王者、チャック・リデルの首を狙う、と。

LYOTO　そうだね。ボクは、いつでもリデルと闘う準備はできているよ。だってべつにボクは数ヵ月後の試合のために練習をしているわけじゃない。生まれてからずっと闘うためにトレーニングしてきたんだ。それにもっと言えば、べつにチャックと試合がしたいわけではないんだよ。常に最強の人間を倒したいと思っているんだ。だからUFCチャンピオンがゴールだとは思ってない。大きな目標の一つではあるけどね。

——わかりました。では、最後に日本のファンにメッセージをお願いします！

LYOTO　え〜、いまは闘いの舞台をUFC移したばかりだけど、いつかまた日本に帰ってファンの前で闘いたいと思っていますので、応援してください！

——では、最後に"いつものヤツ"をお願いします！

LYOTO　いつものヤツって？　アレですか（笑）。

——はい。「ダー」で締めていただけたらと思います（笑）。

LYOTO　え〜、それでは一緒にご唱和ください！　いくゾ〜〜‼

——よっ！　待ってました、アントン二世！

LYOTO　イ〜チ、ニ〜、サン、ダ〜〜〜ァッ！（声を裏返らせて）。

【07年2月2日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・カジノ＆リゾートにて収録】



アメリカでヌルヌル事件は起こるのか？

宇宙一厳しい選手管理体制を誇る

ネバダ州アスレチック・コミッション キース・カイザー代表

日本とアメリカの総合格闘技で、最も違うことといえば、試合が州のアスレチック・コミッションという公的機関の統括の下で行なわれるということ。アメリカでは、選手、レフェリー、プロモーターすべてが、コミッションの許可を得なければ大会を開催することはできない。また、選手の不正についても厳しく監視されている。日本では昨年末、ヌルヌル事件が起こったが、このような不測の事態にコミッションはどう対応しているのか？ 競技として一歩進んでいるアメリカMMAシーンの現状をネバダ州アスレチック・コミッション、キース・カイザー氏に語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　通訳／パンク上杉　撮影／乾晋也

——本日は、MMAイベントにおけるアスレチック・コミッションの役割についてお話をうかがいたいと思います。

キース　わかりました。我々の役割として、まずはプロモーターへのライセンスの発行が最初ですね。さらには選手やセコンドへのライセンスの発行があります。選手はまず、試合を迎えるにあたって、公式の診断書を出さないといけません。健康診断書や、目や脳に関するチェックですね。それからエイズや肝炎に関する血液検査の書類もそろえていただきます。

——そういったものをすべてクリアしないと試合には出られないというわけですね。

キース　そうです。それらのメディカル・チェックの資料が計量前日にそろってなければいけません。さらに、計量直前にはドクターがフィジカル・チェックもしますし、あとファイターの契約書にも目を通します。

——契約書まで確認するんですか？

キース　イエス。あらゆる意味で選手を守るのが我々の役割ですからね。当然の行為です。

——あと、試合当日の衣装についてもチェックするんですよね。

キース　そうです。ファイターは規定のトランクスを穿いてないといけないですし、闘う両選手のトランクスの色が似ていてもダメです。

——トランクスの色にまで口を出しますか（笑）。

キース　そうです。今日の計量でも同じ色の選手たちがいたので、穿き替えるように指示を出す予定です。

——そして、シューズやギ（道衣）の着用は認められていないんですよね？

キース　現時点では認められていません。ほかの国で着用が認められているのは知っていますし、オーガナイザーの一部からは申請も上がってきているのですが、いまのところ、公平な試合を妨げる要素があるとの判断から許可していません。ですので、現時点では、ファイターが着用を許されるのはトランクスだけですね。ただ、我々も自分たちのルールがベストだと思っているわけではありませんから、今後、着用が認められる可能性は充分にあります。

——なるほど。たとえば昨年末の日本で、身体にクリームを塗ってすべらせるという不正があったんですが、ネバダ州の規定では、それに対応するルールというのはありますか？

キース　それはサクラバvsアキヤマ戦のことですね（笑）。

——あ、ご存知でしたか（笑）。

キース　もちろんです。我々も世界のMMAで何が起こっているかは勉強していますから。グリースやオイルを塗る行為は禁止しています。まず試合前にはオクタゴン下のサブレフェリーが耳の裏や身体を触ってチェックします。ワセリンを目の上に塗るのはオーケーですけど、首などに塗るのは禁止ですからね。それから、バックステージでもそういった行為がないようにインスペクターが常に監視しています。

——控室からオクタゴンに上がって試合が開始するまで、ずーっとチェックしているわけですか？

キース　そうです。それに試合が始まっても、ラウンド間でセコンドがそういうものをつけないか、目を光らせるようにもしていますよ。

——では、試合前に身体にクリームなど塗り込ませておいたうえで、シャワーを浴びるなどして表面的には流しておいて、試合中に浮かび上がらせる場合というのはどうでしょうか？

キース　試合中にレフェリーが発見すれば、拭き取るようにします。ただ、それを見つけるのはなかなか難しいですね。試合後に発覚した場合は、ライセンスの剥奪などの措置をとることができますが、我々がまずやらないといけないのは、そういうクリームなどにアクセスできないような状況を作ることですね。ただ、そういった行為を完全に防ぐのは難しいです。

——やはり、そうですか。

キース　はい。試合前に特殊なオイルを飲んで、それを試合中に身体から噴き出させるというトリックもありますからね。

——そんな手もありますか！

キース　だから、ある特定の不正につい

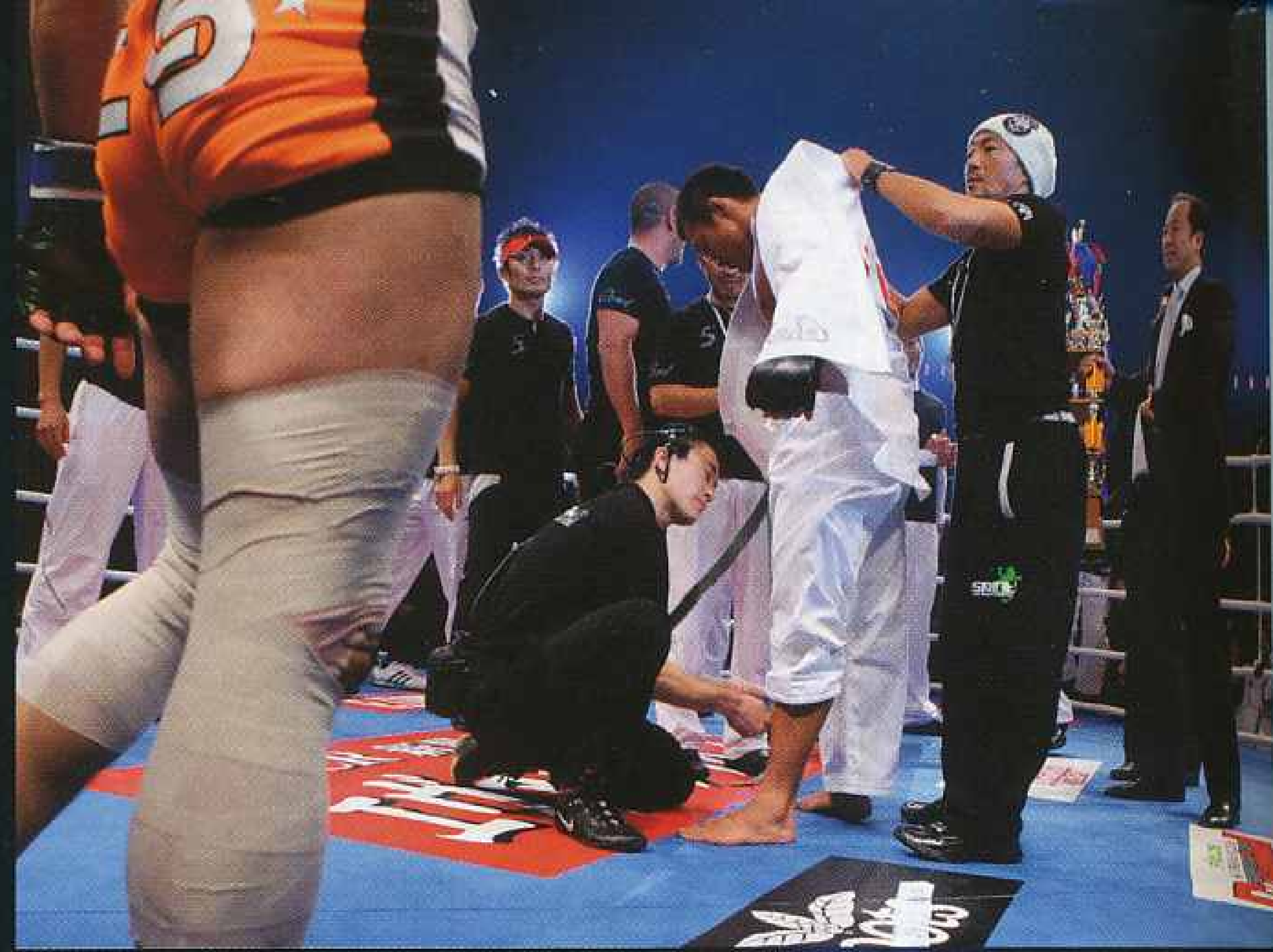
て対策を立てても、それをすり抜ける方法を選手が発見したりと、結局はイタチごっこになってしまうんです。だから、ケース・バイ・ケースで対応するしかないんですよね。

――なるほど。薬物の場合はどうなんですか？

キース　ドラッグテストは試合前と試合後に行ないます。ステロイドや興奮剤のテストに加えてマリファナやコカインなどイリーガルな麻薬の検査をします。もし、薬物の使用が発覚した場合、関係者と協議して処分を検討することになります。

――ただ、薬物の種類によって検査結果が出るのに時間がかかってしまうんですよね？

キース　そうです。結果が出るのに5日ほどかかるものもあります。その場合は、まず検査結果を公表したのちに、60日以内にコミッションで公聴会を開いて、選手の処分を決めます。その内容は、一定



『HERO'S』の正式な大会申請は受けていません

アスレチック・コミッション 鉄壁の管理体制！

[現地進出準備]
■**プロモーターへのライセンス発行**
興行会社の財務状況や、または取引先、株主などを信用調査。認可されるまでに長い時間がかかる場合も多く、DSEは申請してから1年半も待つことになった。

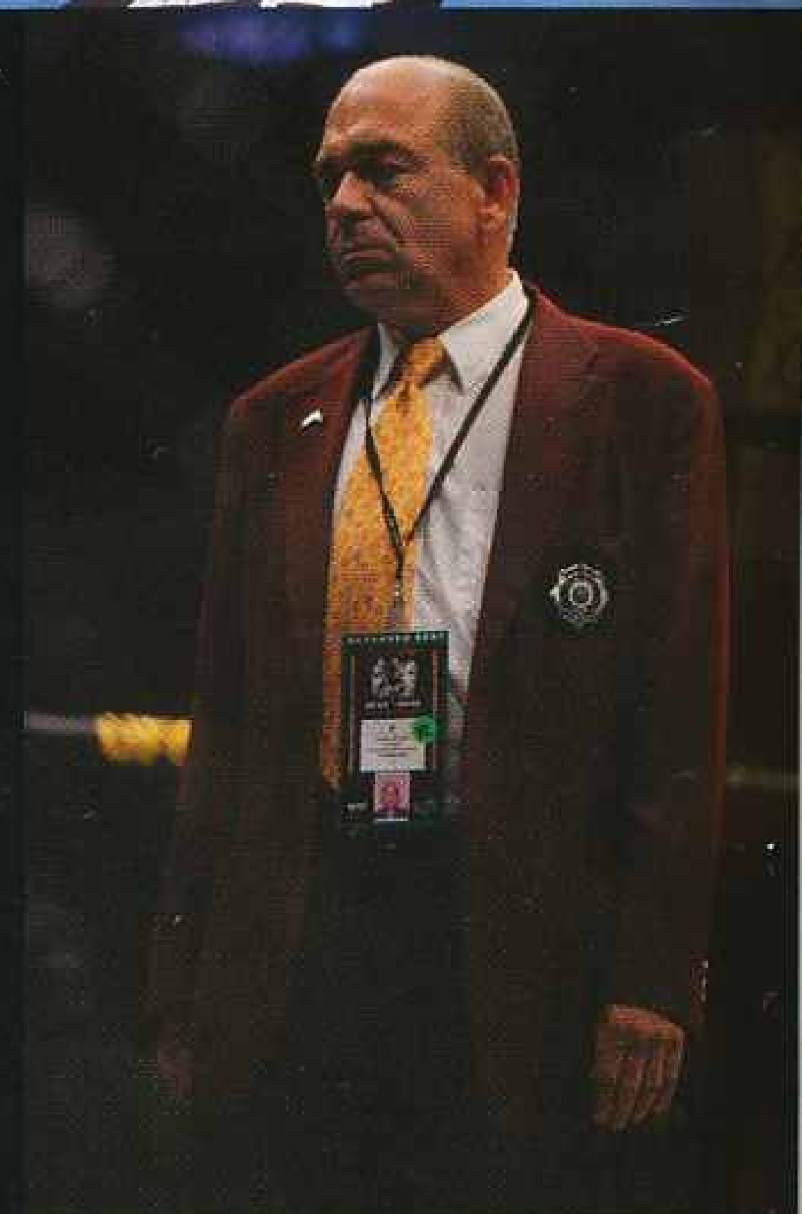
[大会開催前]
■**選手へのライセンス発行**
公式の診断書により目や脳、血液などのメディカル・チェック。また選手個人のこれまでの経歴を調査。ライセンスが下りず、大会に出られない選手もいる。

[大会開催前日]
■**計量&フィジカル・チェック**
実際にドクターが選手を診断して試合ができるかどうかを判断。また選手の契約書の内容までも確認。

[大会当日]
■**ステロイド&ドラッグテスト**
試合前もしくは試合後に尿検査などを実施。試合前にはドクターが当日の健康状態をチェック。

※バンテージ、グローブに不正がないか、またオイル類などを身体に塗らないか控室からオクタゴンに上がるまでインスペクターが徹底監視。

[大会後]
■**公聴会**
不正が発覚した選手に対して60日以内にヒアリングを実施。出場停止処分や罰金などのペナルティーが課せられる。ライセンスを失なうケースも。



世界中に知れ渡っていたヌルヌル事件。ラスベガスでは監視員が控え室にいるため、秋山のようにクリームを塗ることは不可能。また尿のすり替え防止のため、トイレにまで監視員が付き添うことが検討されている。

期間の出場停止や罰金などで、たいていの場合、その両方が選手に課せられます。またその際、ファイターは検査結果に対して弁明する機会を与えられます。

――グローブやバンデージの規制についてはいかがでしょうか？

キース　グローブにはとくに注意を払っており、常にインスペクターの監視下に置かれています。ファイターだけがグローブに触れるという環境は絶対に作らせません。バンデージについても同様で、インスペクターの目の前で巻かないといけないですし、グローブ着用後も常にインスペクターがそれに触れて確認しています。

――そこまで監視員の目が行き届いているわけですね。では、日本のようにコミッションが存在せず、レフェリーやルール、そしてそういった管理体制までもすべてを主催者側が請け負っているということについてはどう思いますか？

キース　それについては、私の口からはなんとも言えませんね。というのは、システムはこうあるべきというのではなく、それぞれの国やイベントの事情に合わせるべきですからね。

――なるほど。

キース　それはルールについても同様で、たとえばラスベガスに進出するにあたって、『PRIDE』からルールを変えたいという要望がありました。それを受けて我々はエルボーの使用を禁止するなど、いくつかのルールの変更を認めました。我々としては、より安全になるのであればいいわけですから。ルールを押しつけるのではなくて、常に話し合って、よりよいルールを作っていければと思いますね。

――ところで、話が変わるんですけど、ダナ・ホワイト代表とティト・オーティズとの試合が行なわれるそうですが、それはコミッションとしては認められる話なんですか？

キース　その話は聞きました（笑）。でも、まだ正式には申請を受けてないんです。ただ、もしこれがMMAの試合だったら、ティトとダナのキャリアを考慮して許可を出すことはできません。しかし、ボクシングならば、両者とも205ポンド（93キロ）ぐらいだし、実際に私はダナのスパーリングも見て、動きも悪くなかったので、アスリートとしての観点からは問題はないと思います。ただし、二人はプロモーターとアスリートという関係なので、コミッションでも議題として扱わないといけませんね。

――あと『HERO'S』がアメリカ大会を開くと発表していますが、すでにライセンスは交付されているのでしょうか？

キース　たしか半年ぐらい前にK-1の関係者と話して、MMAの大会を開きたいという考えは聞きました。ネバダ州としては、ぜひ開催してほしいと思っています。ただ、まだ彼らから正式な申請は受けていません。

――わかりました。最後に、アスレチック・コミッションとして仕事のうえでのモットーを教えていただけないでしょうか。

キース　それは、言うまでもなく選手の安全が第一ということですね。そしてそのうえで、心がけていることは「備えあれば憂いなし」ということです。こういうイベントの管理というのは、当日になってどうにかできるものではありませんから。事前の準備ですべてが決まりますね。それを各プロモーターにも心がけてほしいです。

【07年2月2日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・カジノ&リゾートにて収録】

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールなUSAニュースをお届け!!

USA Cool 宅急便

出張版

チーム・クロコップ勢の参戦で突如活気づいたかに見えるUFCヘビー級戦線。このインタビュー収録時には、ティム・シルビアとランディ・クートゥアーのタイトルマッチの結果はまだ明らかになってないが、ミルコが次期挑戦者最有力候補であることに変わりはない。PRIDEファイター獲得により、停滞したUFC重量級の勢力図はどう変化するのか?

聞き手／デューク東郷　助手／パンク上杉



PROFILE
Scott Petersen
【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』(http://www.mmaweekly.com/)を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居を構え、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「『プロレスを元気づけてほしい』という声が俺に届いた」。

ミルコ、ファブリシオ参戦! PRIDEファイター獲得で活気づく UFCヘビー級戦線の現状とは?

スコット へ、へ、へ〜ックション!

—どうしたのさ、スコット。

スコット よくわかんないんだけど、なんだか鼻がムズムズしてさ。

—それは花粉症だよ。外国人でも東京に住んでると発症する人が多いんだよね。

スコット カフンショウ? ホワット?

—花粉に対するアレルギー反応だよ。花粉にとくに害はないけど、身体の免疫システムが過剰に反応しているのさ。

スコット じゃあ、UFCがネットメディアを寄せつけないようなものかな(笑)。

—いやいや、アンタらは彼らを充分不快にさせるじゃないか。だから『MMA WEEKLY』を取材拒否するのは、過剰なアレルギー反応じゃなくて、正常な防衛機能だよ。

スコット なんだかいきなり失礼な出だしだね! ホント毎回、気分悪いよ。

—まぁまぁ、そう言わずにさっさとアメリカンニュースを教えてよ。さっそくだけど、ミルコのUFC第2戦の対戦相手が決まったんだってね?

スコット (ムズっとして)ガブリエル・〝ナパオン〟・ゴンザガね。ブラジル出身の柔術家だよ。

—ストライカーの次はグラップラー。UFCも、ミルコの〝お手並み拝見〟といった感じだね。

スコット ナパオンは05年のアブダビコンバット・ブラジル予選で優勝している強豪。UFCでも3連勝中で好調だから、いい試合になるかもよ。

—ミルコはナパオンに勝てば、この本の発売日にはもう結果が出ているけど、3月3日のUFCコロラド大会で行なわれる、ティム・シルビア vs ランディ・クートゥアーのUFCヘビー級タイトル戦の勝者と闘うんだよね。

スコット そう! ついに『PRIDE』とUFCのトップ対決が実現する。これは見逃せないよ!

—とくに〝アメリカの英雄〟でもあるランディとミルコの対決が実現するなら、本当にPPV売り上げ100万件いくかも。

スコット ホント、やっとUFCのヘビー級戦線がおもしろくなってきた。チーム・クロコップからはファブリシオ・ヴェウドゥムもUFCに参戦する。俺がこれまで口を酸っぱくして言ったきたとおり、『PRIDE』の選手を引き抜いて、ようやくUFCヘビー級の陣容が整っただろ? (偉そうに)。

—ちょっと待ってよ! べつにダナ(・ホワイトUFC代表)はアンタの意見を聞いてPRIDEファイターをひっぱってきたわけじゃないよ。なんでそんなに偉そうなのさ。またいつもみたく昔のUFCを振り返るように、「アメリカでは誰にも知られてなかったPRIDEファイターの知名度を上げたのは俺たちネットメディアだ」なんて言うんじゃないよね? (笑)。

スコット (睨んで)うるさいなぁ!

—で、話を戻すと、これからのヘビー級戦線はどうなっていくのさ?

スコット ミルコがベルトを獲ったら、これまで短命王者が多かったUFCヘビー級でついに長期政権が生まれることになるだろうね。たとえば、シルビアを倒してタイトルを獲った場合、ほかにミルコの打撃とわたり合えそうなのは、アンドレィ・アルロフスキーぐらい。でも、そのアルロフスキーはファブリシオとの対戦が控えている。ファブリシオは昨年の10月にオランダで行なわれた『武士道ヨーロッパ』で皇帝弟のアレキサンダーに一本勝ちしているぐらいだから、アルロフスキーも危ないなぁ。もし負けたら、ミルコへの挑戦者がいきなりいなくなってしまうね。

—ほかにヘビー級のタイトル挑戦者になれそうな選手はいないの?

スコット そうだね。これといった選手がいないのがUFCヘビー級戦線の現状だね。ジェフ・モンソンは11月にシルビアに完敗したばかりだし、元王者フランク・ミアは不運な交通事故以来、中堅の選手になり下がってしまった。UFC参戦直後は好調だったマーシオ・〝ペジパーノ〟・クルーズも2連敗でタイトル戦線からは遠い。

—ふんふん、誰が誰だかよくわかんないけど、めぼしい挑戦者がいないってことね。

スコット ちょっとは勉強してこいよ、この連載の担当ならさ! で、ダナにとって頭が痛いのは、総合戦績8戦無敗でUFC4連勝中の〝次期エース候補〟ブランドン・ベラと契約を更新できなかったことなんだ。

—妖怪人間ベラがどうしたって?

スコット (無視して)ベラは日本の団体と交渉しているというウワサもあったんだけど、どうやら『ボードッグ』が獲得に成功したらしいんだ。

—へー! 『ボードッグ』が『PRIDE』だけじゃなくて、UFCにも魔の手を伸ばした、と。

スコット しかも、その金額を聞いてビックリするよ。なんと●●●万ドルなんだって!

—うわっ!! 『ボードッグ』はデビュー前のホジャー・グレイシーに莫大な契約金を払ったりもしてたけど、ホント金だけはあるねぇ。

スコット 『PRIDE』もUFCの引き抜き攻勢で大変だろうけど、UFCだってただでさえ人的資源の少ないヘビー級戦線を維持するのに大変なんだよ。

—そんな状態じゃ、チーム・クロコップがあっさりUFCを制圧したら、またストーリー展開のない膠着したヘビー級戦線になってしまいそうだね。

スコット そういうこと! やっぱりダナには、選手育成も含めて、根本的に団体運営を考えてもらわないと。

—だから、オマエが言うなって!

【2月28日／花粉の多い都内・八王子市にて収録】

©MMA WEEKLY



UFC本戦に参戦するや、全試合1ラウンドKO・一本勝ちの戦績を残したベラ。その実力は各団体が目をつけていたが、『ボードッグ』に参戦か?



ズッコケマニアに朗報続々！
謎の新団体『イノキ・ゲノム連盟』も発進!?

世紀の大発明が近日中に大公開ダー!!

“元気なおちんちん”
アントンの
誕生会レポート

2月20日、アントニオ猪木誕生日

永久電機も誕生日!?

本誌108号の“秋山問題”特集「わるいやつら」では、“わるい首領”としてひさしぶりの本誌登場!!
あいかわらずの“絶口調”ぶりを見せつけたアントンが、64歳の誕生日パーティーを開催。
そのめでたい席で、やっぱりあの“発明”の話題で騒然と——？　そろそろ動きますかーッ!?

文／『イノキ・ゲノム連盟』応援連盟

いくらUFCのPPV件数が記録的な数字を誇ろうが、いくらカルビン・エアーが大金持ちだろうが、あの大発明が完成したとなれば、日本マット界は安泰なのである。ズバリ言って！
賢明なる『kamipro』読者なら、もうおわかりでしょう。桃栗3年、電機8年と言いますが――。2000年の年末から手がけ始めた、あのノーベル賞モノのプロジェクト。わずかな磁力で半永久的に電力を生み出すアントン総帥の大発明、永久電機がついに完成しそうなんですよ！
これで商品化に成功すれば、もうガッポリ稼ぐことができて（あくまで、商品化に成功すればですが）、アメリカに流出したMMAトップファイターの頬を札束でひっぱたくことだって可能なのだ！（しつこいようですが、商品化すれば！）。
これまで本誌がさんざん〝電機が完成した〟なんていうフレーズを書いてきたので、「どうせまたウソだろ？　できるわけないって！」と、まるで聞く耳を持っちゃくれない読者もいることでしょう。
アントン自身すらも「金にならない事業に投資するのは苦しみだった」と告白する、金食い虫。それが永久電機計画だったが、その完成発表を予告したのが、アントン総帥の記念すべき64歳の誕生日パーティという大舞台となれば、話は大きく違ってくる。ええ。大きく。
「全然、違わないよ！」という全国津々浦々からのツッコミを無視して原稿用紙のマスを埋めさせていただくが、アントン総帥の誕生日パーティが行なわれたのは2月20日、場所は東京ドームホテル。パーティのタイトルは『夢に向かって〝猪〟突猛進、猪〝木〟のもとに〝寛〟ぎ、〝至〟福の時間を過ごそう』、略して猪木寛至。……もの凄くムリヤリすぎるこじつけだが、会場には豪華ゲストが訪れ、元横綱・千代の富士こと九重親方、長沢純、春一番、南部虎弾、アントニオ小猪木、池谷幸雄、谷隼人（司会）、佐山サトル総監、星野勘太郎総裁、木村健吾、そしてクレヨンしんちゃんも！　なんで!?
来場はかなわなかったが、長渕剛、古館伊知郎、谷川貞治、松井章圭館長、江本孟紀、千葉真一、山本寛斎、TOKIOの松岡昌宏らからお祝いの花、祝電などが届けられていた。そんな華やかな席上に、アントンはまずはVTRで登場。

HAPPY BIRTHDAY ANTON!


平和、ダー!!　アントンのスポンサーでおなじみのパチンコメーカー『平和』社長、石橋氏が乾杯の音頭!!　アントン絡みのパチンコ機種は続々リリースされているが、同じ“機械”の永久電機もこの調子で!!　ところで『イノキ・ゲノム連盟』のスポンサーはどこの誰なのか?


おなじみの春一番も登場!!　生死の境をさまよっているところをアントンパワーで奇跡の復活を遂げた春さんは、その闘病生活を『元気です!!!』という一冊の本に。装丁はリリー・フランキー、帯文はアントンだ!!


沖縄のヒップポップユニット、トリプルPが『道』のヒップポップバージョンを披露すると、アントンもゴキゲンでダンシング!!　おまけに女性ボーカルに「1、2、3、ダ〜ッコ!!」とセクハラ攻撃。いいぞ、アントン!!


現役時代、幾度となくプロレス入りが報じられていた“名横綱”千代の富士こと九重親方も登場!!「元気ですか〜っ!?」と、アントンのお株を奪う冒頭の挨拶。「酒と女には気をつけてもらいたいです」とアドバイス。事業投資のほうは……?

年を重ね　重ねる程に見えてきた　人の憂き世と裏表（作・猪木）

「元気ですか〜ッ!?　元気があれば誕生日も迎えられる！　ここで皆さんにお詫びをしなきゃいけない。じつは用事ができて、いまからニューヨークへ旅立ちます。運が良ければパーティの最中に戻ってこれるかな、と。とんぼ返りで、いくぞ！　イチ、ニー、サン!!　ダーッ!!」
……まるで03年大晦日、あのズンドコ『猪木祭り』のオープニング映像（アントンが搭乗中のヘリが墜落するというものだが、ストーリーが性急すぎて会場は静まり返っていた）ばりの展開を見せつつ、その後、アントンが登場。初めに触れたように永久電機や石油の精製についての重大な報告を近日中に行なうことを口にしたのだ。ついに電機が動きますか！
また、パーティの途中で、星野総裁が突然壇上に上がりアントンに嘆願書を提出。この嘆願書の内容は「プロレス界を救うために再び猪木さんの力を貸してほしい」といったもので、アントンは「もうオレのことを（プロレス界に）ひっぱり出さないでよ。首も肩も腰もガタガタなんだから。元気なのは一カ所だけ！　俺は少子化対策実行委員長だから。ンムフフフフ！」とお得意のアントンギャグを散りばめながらも、「わかりました!!」と嘆願書を手にした右手を突き上げた。
永久電機の莫大な利益をもって、マット界復興に全力を傾けるのだろう。何度も言うように、電機が完成すればの話ですけど！
ひさしぶりの登場となった本誌108号では、「冷酷さがないのが俺の弱点!!」「俺は人を批判することができない性格」など、聞いた人間を卒倒させる発言をぶっ放し続けたアントン。06年はその魔性ぶりに翳りが見えたが、「悪さするなら元気なおちんちんで!!」という信条どおり、どうやら今年はとんでもないゲノムなサプライズをやってくれそうだ!!
うてうてアントンのおちんちん　なまりのへいたいみなごろし!!（谷川俊太郎イズム）。
【緊急情報】
というわけで、適当な原稿を書き殴っていたら、アントンが新団体『イノキ・ゲノム連盟』（略してIGF）を立ち上げることが発覚！　う〜ん。本当に元気に暴れ回られると大変なんだよなあ……とにかく、ゲノムは続くよ、どこまでも!!

SHOPPING

ロシアより、愛を込めて——
“殺し”の伝道師、アメリカ侵入!!

I編集長グッズが買えるのはココだけ！



I編集長“殺し”Tシャツ
ブルー ￥3,990（税込）S･M･L･XL





ハリトーノフ“死神”Tシャツ
ホワイト ￥4,200（税込）
S･M･L･XL



ハリトーノフ パラシュートパーカー
アッシュグレー／ネイビー ￥6,300（税込）
M･L･XL



ハリトーノフ ジャージ
ホワイト&レッド￥7,350（税込）
M･L･XL



ハリトーノフ スポーツタオル
￥3,150（税込）



ハリトーノフFACE Tシャツ
カーキ／ホワイト／レッド ￥3,990（税込）
S･M･L･XL



ハリトーノフSTAR Tシャツ
レッド ￥3,990（税込）
S･M･L･XL



ハリトーノフ パラシュートTシャツ
ホワイト／レッド ￥3,990（税込）
S･M･L･XL



kamiproマスクTシャツ
ホワイト×レッド ￥3,990（税込）
S･M･L･XL

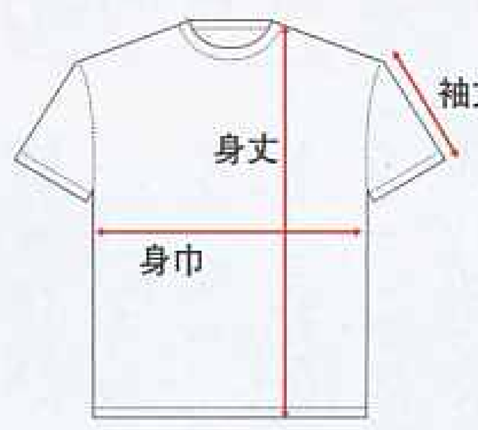


タテ 132cm
ヨコ68cm

100号記念特製
巨大バスタオル［★］
ブルー×オレンジ
特別定価 ￥3,150（税込）



［kamiproオリジナルTシャツ サイズ表］



（単位はcmです）

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24

※左ページの商品も同様のサイズです。

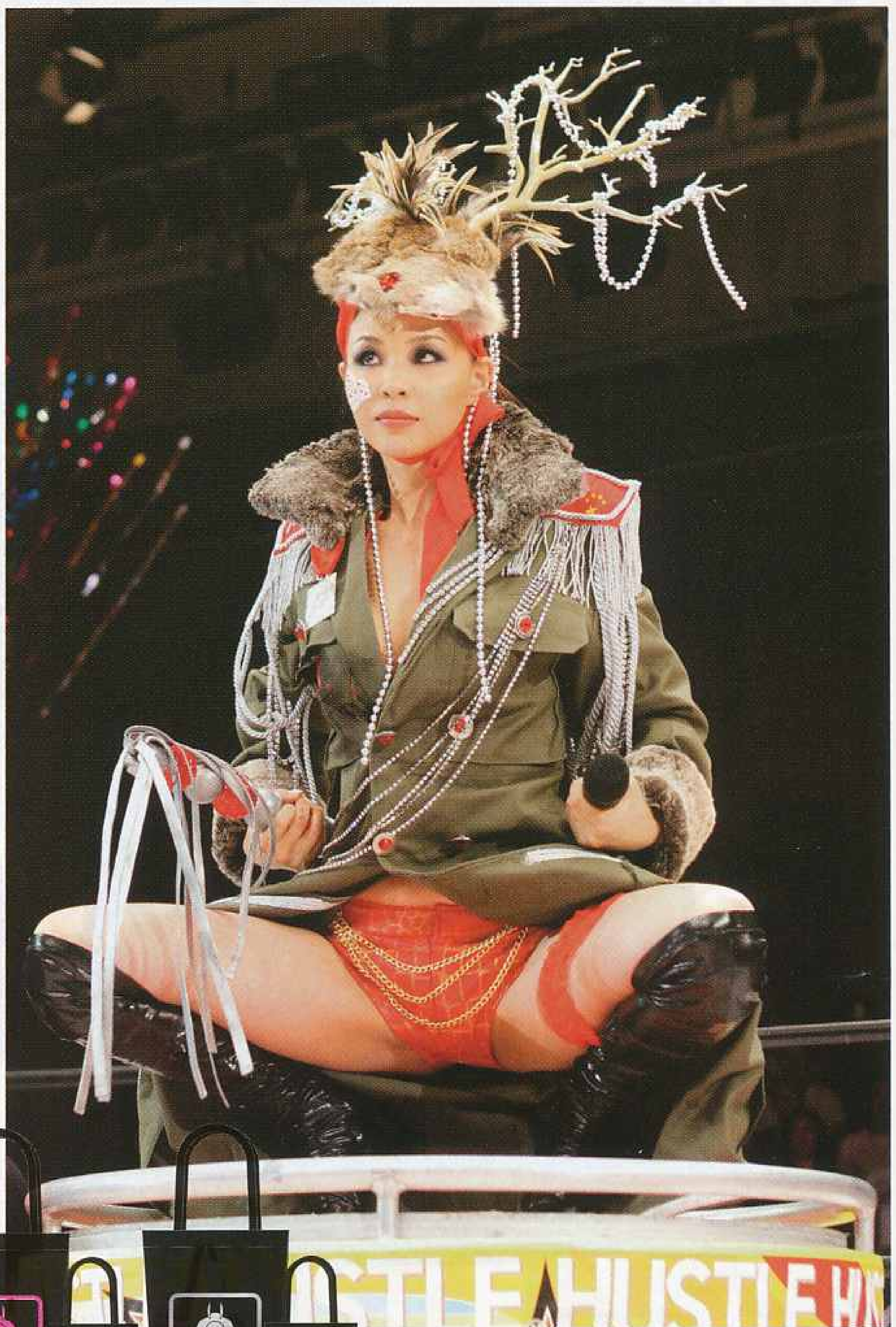
インリン様復活! されど通販の主役はニューリン様!

ハッスル & kamipro Collaboration Goods




ニューリン様“SIGN”パーカー
[Lady's M アッシュグレー]
¥6,300(税込)

ニューリン様“SIGN”パーカー
[M·L·XL ブラック]
¥6,300(税込)






ニューリン様“SIGN”Tシャツ
[Lady's M ブラック]
¥3,990(税込)

ニューリン様“SIGN”Tシャツ
[M·L·XL ブラック]
¥3,990(税込)




ニューリン様“BERO”Tシャツ
[Lady's M ブラック] ¥3,990(税込)
(身丈57cm、身巾38cm,袖丈13cm)

ニューリン様“BERO”Tシャツ
[M·L·XL ブラック] ¥3,990(税込)

ニューリン様“SIGN”
スウェット トートバッグ
[ブラック(プリント:ピンク)、ブラック(プリント:シルバー)]
¥2,100(税込)
※バックサイズ:24×11×35cm(持ち手のぞく)



『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

★全国どこでも送料一律500円です。
(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せください)

★代引き手数料は315円です。
(代引き金額によって異なります)

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00〜19:00
(株)ダブルクロス
TEL.03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承ください)。
販売元/(株)ダブルクロス

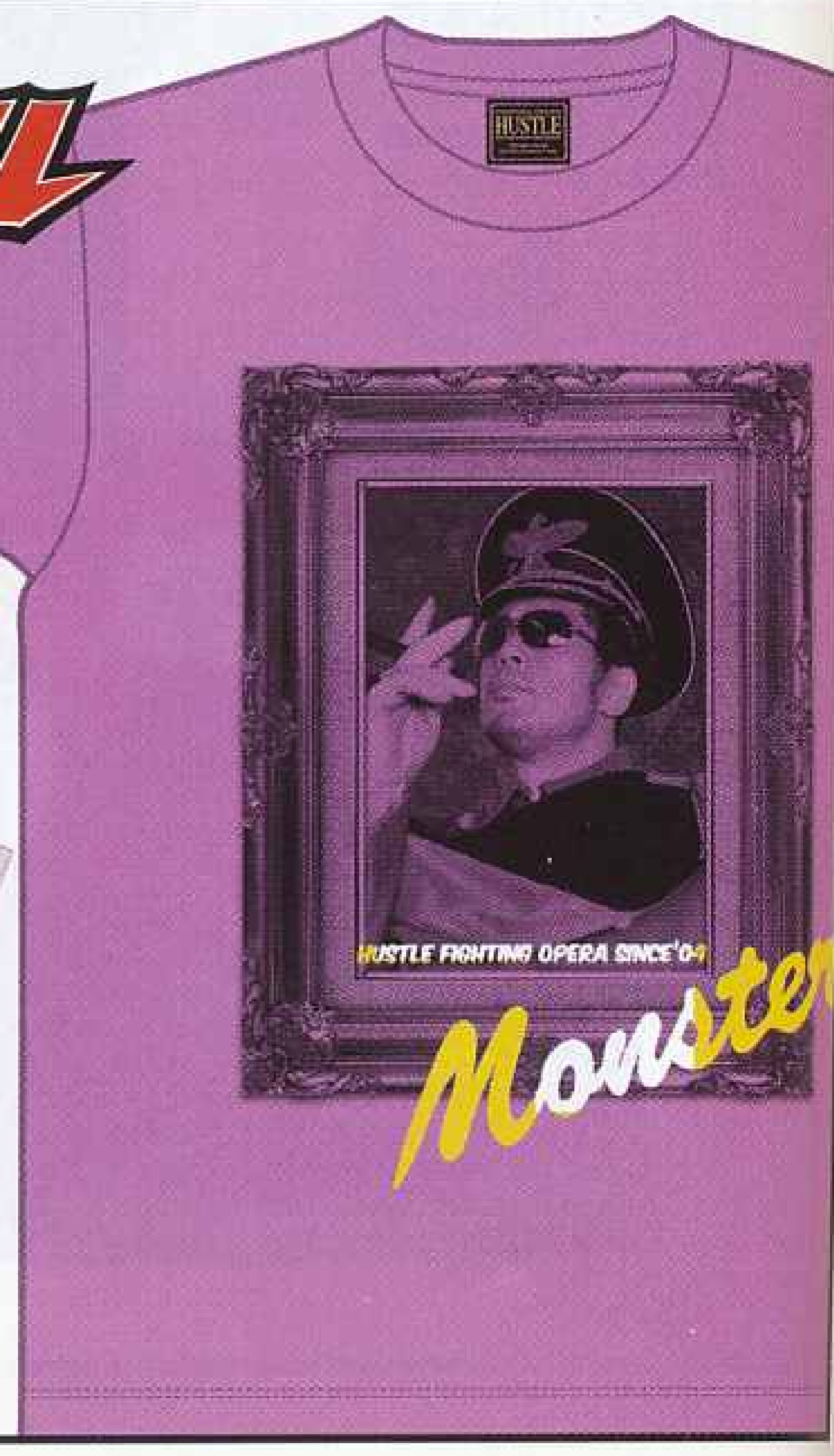
ハッスル Goods



HG PHOTO Tシャツ
[S·M·L·XL シルバーグレー]
¥3,990(税込)



MONSTER K PHOTO Tシャツ
[S·M·L·XL ライトイエロー]
¥3,990(税込)



高田総統 PHOTO Tシャツ
[S·M·L·XL ラベンダー]
¥3,990(税込)



GMW PHOTO Tシャツ
[S·M·L·XL ライトブルー]
¥3,990(税込)



司令長官&二等兵 PHOTO Tシャツ
[S·M·L·XL ライム]
¥3,990(税込)



ニューリン様 PHOTO Tシャツ
[S·M·L·XL ライトピンク]
¥3,990(税込)

※価格はすべて税込みです [★]の商品は在庫終了次第、販売終了となります

Special PRESENTS

興行も読プレも気分はチャンピオンカーニバル!

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（賞品は4月7日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦PRIDE、UFC、ボードッグ、K-1、生き残るのは?⑧理想の読者プレゼント賞品

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス「kamipro」編集部「鳥肌立った」係まで

※締切は2007年4月6日（金）当日消印有効

kamipro SPECIAL 応募券
ギャンブル大成功!

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

PRIDE.33 "THE SECOND COMING"

PRIDE http://www.prideofficial.com/



サイン入り

1名様



ダン・ヘンダーソン サイン入り WANDERLEI SILVA vs DAN HENDERSON Tee

『PRIDE.33』ラスベガス大会を記念して作られたアメリカからの逆輸入Tシャツに、新ミドル級王座に輝いたダンヘンのサインが入ってるぞ! 見えにくいけど、右肩の部分に注目!



サイン入り

1名様

ジョシュ・バーネット サイン入りPRIDE.33 "THE SECOND COMING" 大会パンフ

3人のチャンピオンが撃沈してしまうという大波乱が勃発した『PRIDE.33』ラスベガス大会のパンフを1名様に。背表紙には当大会で『PRIDE』初解説を務めたジョシュのサインが入ってます!

PRIDE SKULL MMA Tee

［ブラック／¥4,200（税込）］

こちらもアメリカからの逆輸入Tシャツ。『PRIDE』のロゴとともに「打・投・極」の文字。これって修斗の決まり文句だったような気がするが……。逆輸入だから細かいことは気にしない!



2名様



2名様

フィル・バローニ Tシャツ

［レッド／¥3,990（税込）］

出場していなかったにも関わらず、前回のラスベガス大会で"ウラ主役"となったフィル・バローニ。今回の『PRIDE.33』ラスベガス大会にも来場していたが、読者の方は発見できたろうか?



各1名様

PRIDE NEWストラップ

［ブラック、ホワイト／各¥1,050（税込）］

『PRIDE』グッズのストラップシリーズに『PRIDE』のロゴでデザインされた新商品が登場! ブラック、ホワイトいずれか希望のカラーを明記してどんどん応募してください〜。



1名様

HAOジョシュ・バーネット フィギュア ［¥3,885（税込）］

『PRIDE.33』ラスベガス大会の実況席で解説を務めたジョシュのフィギュア（ニューバージョン）。解説までこなしてしまうなんて、本当に器用すぎる。次は日本語での解説もお願いします!

商品協力／（株）ドリームステージエンターテインメント

HUSTLE

ハッスルオフィシャルHP http://www.hustlehustle.com/



2 名様

ニューリン様"SIGN"Tシャツ

［ブラック／¥3,990（税込）］

『kamipro』制作のニューリン様Tシャツを2名様にプレゼント。お母様であるインリン様が復活を遂げたいま、はたしてニューリン様はどうなってしまうんでしょう〜？



1 名様

ニューリン様"SIGN"スウェットトートバッグ

［ブラック／¥2,100（税込）］

こちらは、ニューリン様Tシャツと同じデザインのトートバッグを1名様に。「レジ袋お断り！」という地球にやさしいエコな読者は、ぜひこれを携帯しよう！



各 2 名様



HUSTLEロゴフェイスタオル

［ブラック、イエロー／各¥2,100（税込）］

RGがタイガー・ジェット・シンと対戦するという衝撃のカードが組まれた『ハッスル』3月大会。このタオルを肩にかけて、みんなでRGを応援しよう！　……しなくてもいいですが。

DEEP

DEEPオフィシャルHP http://www.deep2001.com/
HCK http://www.hck-japan.com/





1 名様

ART JUNKIE 桜井隆多「RBサイボーグ」Tシャツ

［ブラック／¥4,200（税込）］

DEEP6周年記念大会で長南亮とミドル級タイトルマッチを闘った桜井隆多。そのオリジナルTシャツを手がけるアートジャンキーさんから、大会当日、桜井自身も着ていたTシャツを1名様に！

★ART JUNKIEウェブショップ
http://shop.artjunkie.jp
★遊スタイル
http://./ez.artjunkie.jp
ART JUNKIEのオリジナルキャラがケータイ待受（しかもFlash時計）になって、au公式サイト「遊スタイル」に登場！　いますぐチェック!!



2 名様

HCK-JAPANパッチ

DEEPのオフィシャルパッチ等を手がけるアメリカの格闘技ブランド「HCK」から、新商品「HCK-JAPAN」パッチをプレゼント。柔術着などに縫いつけて、道衣をデザインしよう。

3 名様



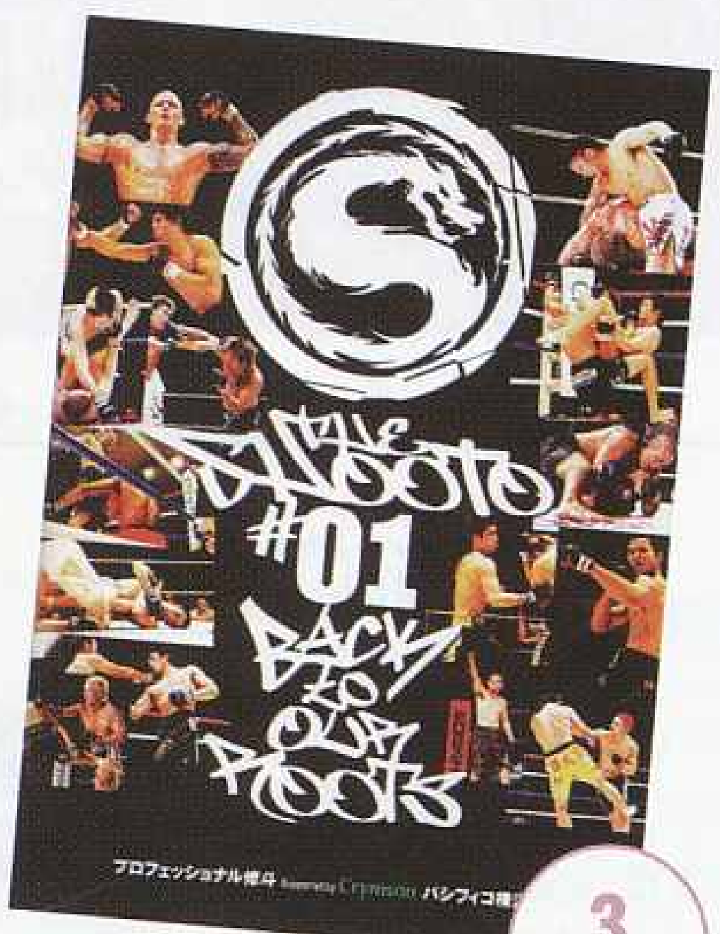
「長南爆闘族」ステッカー

昨年のタイトルマッチに続き、今年も見事DEEPミドル級タイトルマッチを制し、ベルト防衛に成功した長南亮。そのオリジナルステッカーを特別入手！　学生カバンに貼って、ツッパリなアイツを威嚇しよう。

SHOOT

修斗オフィシャルHP http://www.x-shooto.jp/





3 名様

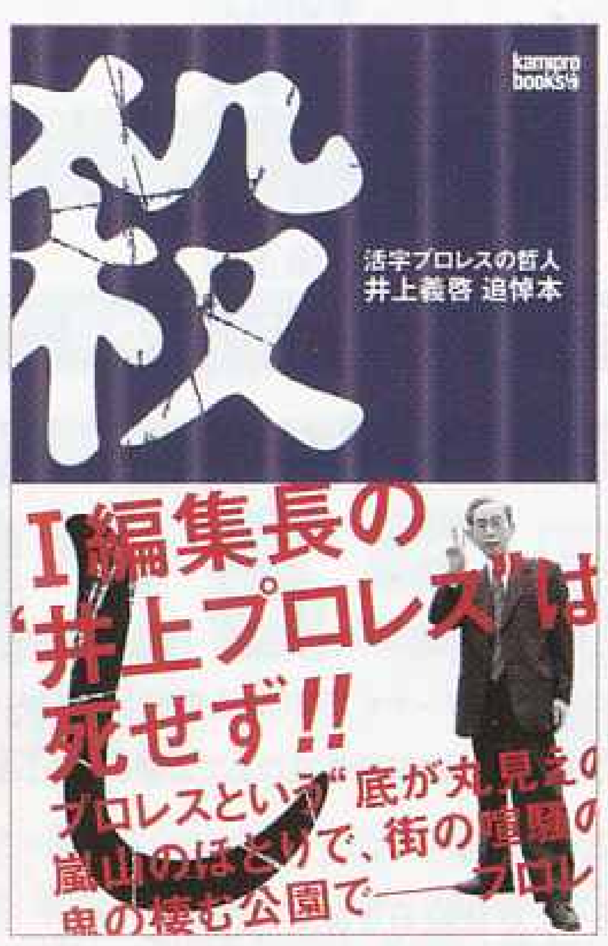
修斗 Supported by Crymson ～BACK TO OUR ROOTS～大会パンフ

『武士道』で大活躍中の青木真也が、2月17日修斗・横浜パシフィコ大会で、昨年に続き世界ミドル級を制覇！　またまた見たこともない奇怪な関節技で対戦相手＆観客を圧倒。これはもう、今年開催される『武士道』ライト級GPにも大期待ダー!!

KOROSHI

エンターブレイン http://www.enterbrain.co.jp/





3 名様

『殺し 活字プロレスの哲人 井上義啓追悼本』

［エンターブレイン／¥1,680（税込）］

マット界に膨大な財産を残してくださったI編集長の追悼本発売！　いまだどこにも掲載されていない"幻のインタビュー"もこの中に。当たらなかった人は絶対に買ったほうがいい。



WANDERLEI NYLON VEST



CHUTE BOXE NYLON VEST

各 1 名様



BTT NYLON VEST



HUNT NYLON VEST

PRIDEナイロンベスト ［¥16,800（税込）］

『PRIDE』ブランドのナイロンベストシリーズ、4商品を各1名様にプレゼント。今年はまったく寒くないですが、残りの冬をこのベストでしのいでください〜。



MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2007 SPRING
2007年3月21日 発行



「ミノワマン」第二話
～恐怖!! 忍び寄るアフリカの影!?の巻～

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
堀江ガンツ
松下ミワ
真下義之
パンク上杉
八木賢太郎（師匠介護のため非番）

電気部
さささぃ
松澤チョロ

企画制作部
坂井ノブ

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子

編集次長（カジノの御意見番）
松林 貴

デザインカントク
出田さん（TwoThree）

デザインキャプテン
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ユカダン
白木しらき
（以上、TwoThree）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
黒田史夫
平 専英
平工幸雄
松本 崇
丸山剛史
山口比佐夫
吉場正和

お勘定&衣料部
ニュー林様

神楽坂アサシン
入江ソクジュ（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“代理入稿”芳司

“EBOSグレードアップ!”な編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
大日本印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

kamipro Special 2007 SPRING

王者総崩れは大津波の前兆!? PRIDEは飲み込まれるのか?

2007年3月21日
発行人／浜村弘一　編集人／山口日昇、青柳晶行　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／大日本印刷株式会社

定価:本体705円＋税
雑誌61954-99　Ⓗ2008.4
Printed in Japan 大日本印刷

9784757734791
ISBN978-4-7577-3479-1
C9476 ¥705E
1929476007056

enterbrain